令和４（2022）年度

中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年間報告書

2023 年３月

中部環境パートナーシップオフィス
（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）

令和４（2022）年度 中部環境パートナーシップオフィス運営業務

年間報告書

目　　次

業務概要 ・・・

業務概要

（ア） 業務の目的

持続可能な社会を構築する上で、国民、民間団体等が行う環境保全活動並びにその促進のための環境保全の意欲の増進及び環境教育が重要であることに加え、これらの取組を効果的に進める上で協働取組が重要となる。

「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」（以下「環境教育等促進法」という。）第19条において、「国は、国民、民間団体等が行う環境保全等を効果的に推進するため、情報提供や助言、交流機会の提供等を行う拠点としての機能を担う体制の整備に努めること」とされており、同法第７条で定める国の方針（以下「促進法基本方針」という。）により、環境省においては、協働取組を構築・促進するための中核的な担い手として「環境パートナーシップオフィス（以下「EPO」という。）」を全国に設置し、事業を実施しているところである。

本業務は、中部地方EPOが環境教育等促進法の規定する国の役割を果たすため、また地方ESD活動支援センター（以下「地方 ESD センター」という。）が国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、全国のEPOと地球環境パートナーシッププラザ（以下「GEOC」という。）のネットワーク（以下「EPOネットワーク」という。）を活用するとともに、中部地方の事情を踏まえて各種事業等を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動、多種多様な環境施策への協力及びESD活動等を活性化させることを目的に実施した。

また、「第５次環境基本計画」（平成 30 年４月閣議決定）において提唱された、環境・経済・社会の統合的向上を図る「地域循環共生圏」の考え方及び「地域課題を解決し、地域の魅力と質を向上させる地方創生に資する脱炭素」をキーメッセージとして発信している「地域脱炭素ロードマップ」（令和３年６月国・地方脱炭素実現会議決定）の考えに基づき、各地域が自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合う取組を推進し、持続可能な地域づくりを通じて、環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むことを目的に、本業務を展開した。

（イ） 業務の内容

様々な主体による協働・連携の取組を通じた環境保全活動等を活性化するため、市民、NPO/NGO、行政、企業、金融機関等との連携を確保しながら、①環境教育等促進法の拠点としての推進、②環境教育・SDGs/ESD の推進、③地域循環共生圏の創造の推進について、各種業務を行った。また、これらの活動状況等について、Web 等を通じて広く発信した。

（ウ） 実施業務

（１）業務実施計画（案）の作成

・事業計画・業務実施計画の作成・公表

・定量的な達成目標設定（インプット・アウトプット）の設定

（２）運営協議会等の設置・開催

・「ESD/EPO 運営会議」の設置・開催（オンライン、2 回程度）

・委員委嘱手続、連絡調整、会場手配・設営、当日の進行、議事録作成、旅費及び謝金の支払い等の事務手続

（３）基本業務

①情報の収集・蓄積・発信に関する業務

ア．ホームページの更新及び維持管理（月２回程度）

イ．収集・整理・蓄積した情報の発信（月１回程度）

ウ．リーフレット等を活用した情報発信、リーフレットの必要部数の増刷（A4 フルカラー）

②相談対応・対話の場作り等

ア．照会・相談対応、対応状況・内容の記録作成（様式自由）

イ．対話の体制の構築（管内７県×年２回程度）

ウ．定例報告（業務日報、施設の運営・利用状況、相談対応票、EPO 中部が関わる審議会・委員会・検討会・会議等一覧（他の団体が主体のもの）等の翌月当初報告）

③施設の維持・管理

（４）協働取組の促進のための業務

①地元ネットワークを活用した協働取組の推進（フォーラム開催：1 回、3 時間、30 名程度、必要に応じオンライン）

②遠隔地(北陸・信越)の協働コーディネーターと連携した実践的取組(1 事例)の実施（北陸又は信越地域を対象、２回程度、各２時間程度、30 名程度、必要に応じオンライン）

③活動主体へのフィードバック（「活動見える化プログラム」の活用、2 事例）

④ローカル SDGs／地域循環共生圏のためのグループワーキング（1 回、3 時間程度、20 名程度、講師１名（大学教授級）、必要に応じオンライン）

（５）地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

①地域プラットフォームの環境整備支援等業務

・伴走支援（月１回以上の採択団体との連絡）、地域循環共生圏づくりに資する情報提供等

・年度当初に活動（新規採択）団体の事業目標及び年間計画などについてヒアリング、及びヒアリング結果と支援計画等の GEOC への提出

・活動団体採択にかかわる意見照会への対応、制度設計への助言

②中間共有会の開催（1 回程度、3 時間程度、管区内（ブロック）別、10 月～11 月開催）

③地域循環共生圏プラットフォームステークホルダーミーティング等業務

・各活動（採択）団体が行うステークホルダーミーティングの後方支援

④GEOC が主催する会議等への参加

・GEOC 主催キックオフミーティング（1 回、都内、2 日程度、6 月）

・作業部会（2 回程度、１回当たり 3 時間程度、都内）

・共有会（1 回、3 時間程度、オンライン）

・共生圏 PF 事業形成会議（1 回、3 時間程度、オンライン）

・成果共有会及びネットワーキングイベント（1 回、都内、2 日程度、3 月）

⑤事業化支援団体の活動の情報共有（事業化支援の進捗状況の把握、制度設計への助言）

⑥卒業団体のフォローアップ調査

・卒業団体のオンラインヒアリングの実施（1 件程度）と GEOC への報告

⑦森里川海生態系ネットワーク形成会合の開催

・自治体、企業、金融機関などを巻き込んだ情報交換会の実施（年2回、30名程度の会合）

⑧地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

ア．情報交換会やワークショップ等の開催のための支援及び開催運営業務（４回程度）

イ．GEOC によるヒアリング、情報提供への対応

⑨地域循環共生圏に通じる担い手（団体等）に対する地域循環共生圏の情報提供、関係性構築

（６）地方 ESD 活動支援センター業務

①中部 ESD センターの運営・推進（第６期「中部地域 ESD 推進計画」に基づいた施策展開）

②ESD 活動に関するネットワークの構築

ア．ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催（１回程度）

・フォーラム（地域 ESD 拠点や ESD 実践者等を交えた意見交換）の開催（１回程度）

・ポスターの制作、及び主たるステークホルダーへの送付

イ．SDGs 学生サミットの開催（オンライン併設、１回、半日程度、20 名程度、講師（大学教授級１名程度想定））

ウ．地域 ESD 拠点等の ESD 活動の支援

・地域 ESD 拠点等との間で情報共有やイベント協力等の連携、ESD 活動の支援

・地域 ESD 拠点の登録手続における全国センターへの情報提供等

③全国 ESD センター及び地方 ESD 活動支援センターとの連携

・地域 ESD 拠点への年次アンケートの実施支援、全国センターへの情報提供や資料作成・提供、会議出席等

・企画運営委員会（オンライン、２回程度、各半日）出席及び資料提供等

・全国・地方連絡会（オンライン、２回程度、各半日）出席及び資料提供等

・ESD 推進ネットワーク全国フォーラム（オンライン、１回、１日）出席及び資料提供等

④ジオパーク等の活用：「自然資産を活かした地域・人づくり ESD ダイアログ」の開催（１回、２時間程度、オンライン、講師（大学准教授級、１名想定））

⑤域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供

ア．活動計画の作成（テーマ設定、中核実践者・講師等の選定、６月末を目安に年間活動計画作成）

イ．交流者の参加募集

ウ．学び合いの実施

・「学び合いの場」（オンライン開催、２回）

・「SDGs 社会教育研究会 WG」（会場開催、３回）

エ．実践活動の実施（11 月末までに）

オ．報告：活動結果のまとめ作成

⑥「(仮)中部版 ESD ワークブック」（試行版）の作成

⑦SDGs へ向けた ESD 推進のための教育現場の実態把握と連携強化

ア．専門家への包括的ヒアリング（オンライン、2 時間程度、１回、大学教授級１名想定）

イ．教育部局、教育委員会、現場の教員等へのヒアリング（オンライン、2 時間、2 回程度）

⑧地域循環共生圏への協力、全国センターとの連携協力の推進等

・全国センター実施会議（企画運営員会 2 回、ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会 2 回、ESD 全国フォーラム 1 回を想定）への出席、情報・資料提供等の協力

・全国フォーラムへの協力・対応

（７）ESD/EPO の行事を通じた行動の変容の把握

①行動変容の把握：代表的な主催行事参加コアメンバーへの簡易的ヒアリング（電話、メール等）、今年度成果（行動の変容）の取りまとめ（６事例程度）

②地域循環共生圏及びローカル SDGs の実践状況等の評価

・地域 SDGs 評価メニュー、プログラム等の情報収集

・評価の試行的実践（2 事例程度）

（８）関係主体との連携及び協働に関する業務

①中部地方環境事務所との協働による円滑な運営の確保、密接な情報共有及び意見交換

ア．事務所担当官と業務の責任者による定期的な打合せ（月１回程度）、日々の業務についての月次報告（様式自由）の作成・提出

イ．外部評価委員会への出席（１回程度、半日）、企画作成支援、必要な資料の作成等

ウ．中部地方環境事務所との連携による白書を読む会の企画協力

・白書を読む会への企画協力（オンライン、１回、３時間程度、講師（大学教授級３名程度））

・開催にあたっての周知協力（EPO の HP で周知等）、当日の運営サポートなど

エ．全国ユース環境活動発表大会への参画

・全国ユース環境活動発表大会（中部大会、１回程度、半日）に参画

・事務所担当官の要望に応じて審査委員を選定・報告

オ．記者発表を希望する行事がある場合に必要な資料等の作成と事務所担当官への相談

②全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター（全国・地方）のネットワークの活用及び連携

ア．全国事業に関わる業務：全国 EPO 連絡会議（３回程度、都内２回、地方１回、ハイブリッド開催）への出席・協力

イ．地方 EPO ネットワークとの情報交換会：GEOC 主催・持続可能な地域づくりのための情報交換会（３回、都内、オンライン併用、1 回あたり２時間程度）

（９）外部資金を活用した事業

(10) 成果物の提出

・四半期報告書の作成・提出

・地域ニーズの把握：次年度行事のニーズ及び新規連携の可能性の取りまとめ（様式自由）

・年間報告書、及び概要版の作成・提出

（エ） 業務の実施概要（2023 年 3 月 20 日時点）

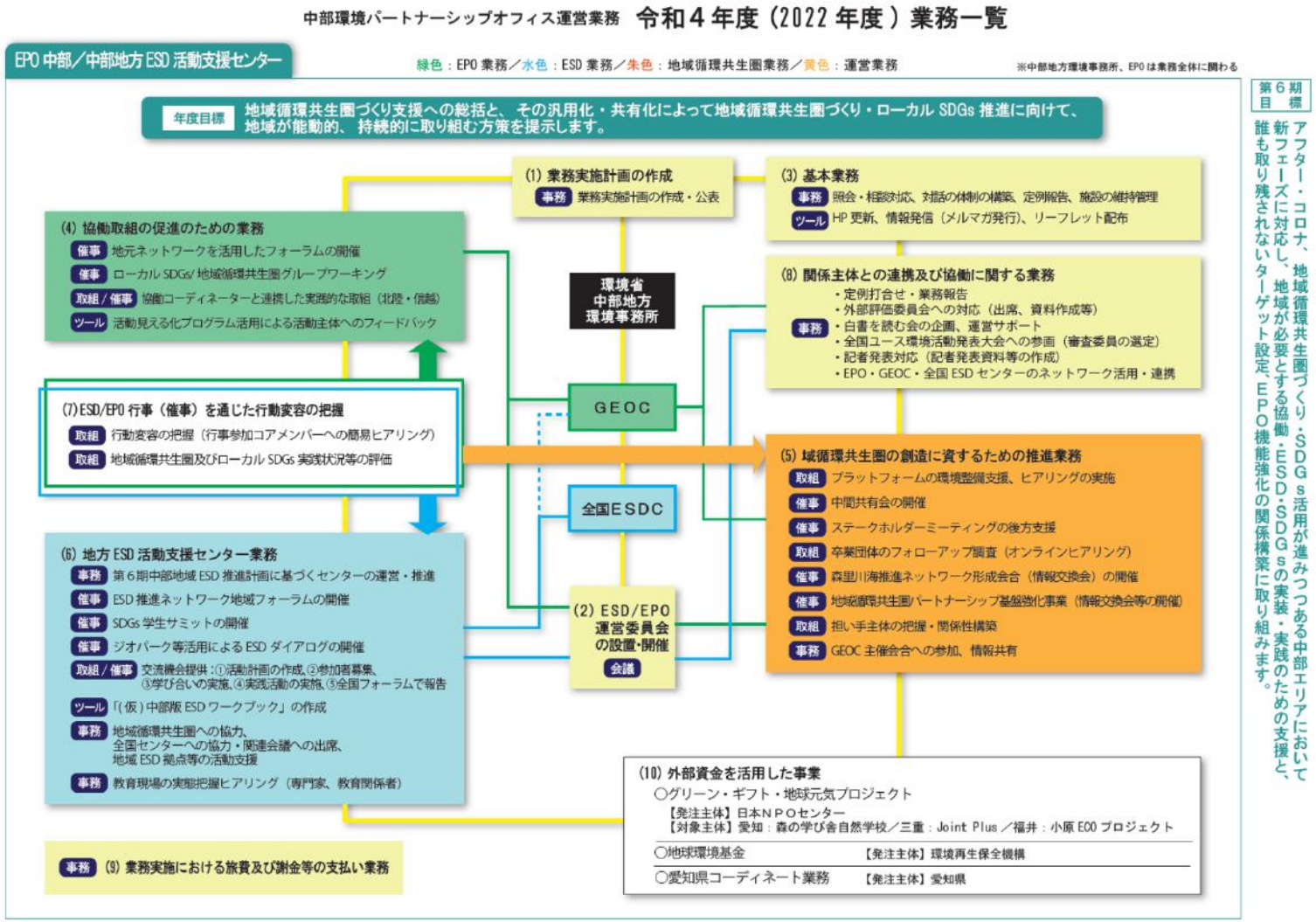
仕様書業務項目		業務内容	実施・開催等の進行状況		
1 業務実施計画の作成		業務実施計画の作成・公表	作成済み	→第1回運営委員会に諮問	ウェブサイト掲載
2 運営会議		ESD/EPO運営委員会の設置・開催【2回】	第1回：5/25実施 議事録公開	第2回：1/31実施 議事録公開	
3 基本業務	3-1	HP（EPO、ESD）の更新・維持管理	適宜実施	アクセス数（PV数）：EPO：30,437件／ESD：10,738件	
	3-2	収集・整理・蓄積した情報の発信 （メールマガジン発信）	毎月1回以上メルマガ発行		
	3-3	リーフレットの配布	4月に300部印刷	3月に300部増刷	イベント等で配布活用
	3-4	照会・相談対応、対話の体制の構築、施設の維持管理	適宜実施	相談対応：40件／電話・メールでの相談：200件／講師招聘：62件／業務打合せ：99件	
	3-5	定例報告	月次報告書の提出	来館利用件数：79件／来館者数：139人 事業実施日数：計262日	
4 協働取組の促進のための業務	4-1	地元ネットワークを活用したフォーラム開催【1回（3時間）】	11/23に地域循環共生圏フォーラムを長野県諏訪市で開催		
	4-2	協働コーディネーターとの連携による実践的な取組【北信越2回（各2時間）】	信州：山室氏と連携して勉強会①11/5開催	信州：山室氏と連携して勉強会②2/26開催	
	4-3	活動主体へのフィードバック（活動の見える化プログラムの活用）【2事例】	4-2長野県芋井地区：11/5セミナーで活用	6-4SDGs未来都市3自治体：2/4学生サミットで活用	
	4-4	ローカルSDGs/地域循環共生圏グループワーキング【1回（3時間）】	ローカルSDGs/地域循環共生圏セミナーを12/15開催		
5 地域循環共生圏の創造推進業務	5-1	プラットフォーム支援：新規団体（2団体）ヒアリング、月1回以上の連絡等	PF丹南に4/21ヒアリング実施	PF大町に4/19ヒアリング実施	
	5-2	PFステークホルダーミーティング開催の後方支援（2団体）	PF丹南：1/18にミーティング実施	PF大町：12月実施会合をSHミーティングに位置づけ	PF七尾：9/22にミーティング実施
	5-3	中間報告会【1回（3時間）】	11/18-19に長野県大町市で実施		
	5-4	環境省・GEOC主催会合への参加：キックオフM、作業部会【2回】、共有会、事業形成会議、成果共有会	作業部会①8/18、②1/13に出席	共有会：5/17、事業形成会議：12/13に出席	成果共有会：3/8-9に出席
	5-5	卒業団体のフォローアップ調査；ヒアリング【1件】	PF尾鷲を対象に12/23ヒアリングを実施	ヒアリング結果をGEOCへ提出	
	5-6	森里川海生態系ネットワーク形成会合（情報交換会）【2回】	①11/8情報交換会を開催	②1/25フォーラムを開催	
	5-7	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業；情報交換会【4回】、GEOCへの情報提供	①尾鷲会合：1/20開催、②丹南会合：2/7開催、③脱炭素セミナー（東海開催）：3/6開催、④脱炭素セミナー（信州開催）：3/14開催		
	5-8	担い手主体の把握・関係性構築	日本環境NPOネットワークとの情報交換を2/9に実施		

仕様書業務項目		業務内容		実施・開催等の進行状況		
6	中部地方ESD活動支援センター運営業務	6-1	センターの運営・推進	ESD推進計画（昨年度作成）を基に、適宜実施		
		6-2	地域ESD拠点等の活動支援	適宜実施		
		6-3	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回】	12/5に名古屋市内で地域ESD拠点登録団体の会合として実施		
		6-4	SDGs学生サミット【1回（半日程度）】	7大学、SDGs未来都市3自治体が登壇する会合を2/4開催		
		6-5	ジオパーク等の活用；ESDダイアログの開催	11/26-27に福井県勝山市で中部のジオパーク関係者が集う会合を開催		
		6-6-1	交流機会提供　①活動計画の作成、②交流者の参加募集、⑥全国フォーラム結果報告	①活動計画を作成して社会教育WGに諮問して確定	②チラシを作成して広報展開	⑤12/10全国フォーラムに参加し、実施結果資料を提示
		6-6-2	学び合いの実施；③学び合いの場【2回】、④SDGs社会教育WG【3回】、⑤実践活動	③8/25、9/1（全2回）の学びあい（オンラインセミナー）を開催	④6/21、9/26、12/20（全3回）の研究会を実施	⑤11/25に福井県大野市で実践セミナーを開催
		6-7	「（仮）中部版ESDワークブック」の作成	6-6-2④で協議・検討しつつ作成、完成		
		6-8	教育現場の実態把握と連携強化：①専門家【1名（2時間）】 ②教育関係者【2回（各2時間）】	①2/14愛教大・大鹿先生にヒアリング	②2/14緒川小学校にヒアリング	②2/19松本大学・田開先生にヒアリング
		6-9	地域循環共生圏への協力、全国センターとの連携協力の推進	適宜実施		
		6-10	全国ESDセンターとの連携；企画運営委員会【2回】、連絡会【2回】、全国フォーラム【1回】に出席・参加	運営会議：①6/23実施、②3/2に出席	連絡会：①6/15、②1/23に出席	全国フォーラム12/10に参加
7	行動変容の把握	7-1	行動変容の把握：行事参加者へのヒアリング（3月中旬までに）【6事例】	①諏訪フォーラム、②尾鷲会合、③学び合いプロジェクト、④実践セミナー、⑤ESDダイアログ、⑥長野市芋井地区の連携・協力主体を対象にヒアリングを実施		
		7-2	SDGs実践状況等の評価【試行2事例】	①PF丹南でSDGs指標物語のシート作成	②4-2芋井地区を対象にSDGs指標物語のシート作成	
8	関係主体との連携及び協働に関する業務	8-1	事務所担当官と業務の責任者とで定期的な打合せ、日々の業務を毎月報告	月1回以上の定例打合せを計12回実施		
		8-2	外部評価委員会への出席【1回】、資料作成対応	業務報告資料、自己評価シートを作成・記入	2/28外部評価委員会にオンライン出席して実施業務の説明、質疑対応等を実施	
		8-3	白書を読む会の企画協力、広報協力、運営サポート	9/13開催の白書を読む会において、なごや環境大学による企画・広報・運営に協力、当日は司会進行を実施		
		8-4	全国ユース中部大会に参画【1回】、審査委員の選定	審査委員に水上委員を推薦	中部大会：12/11出席	
		8-5	記者発表等報道対応	諏訪、実践セミナー、ESDダイアログで地元新聞社からの取材に対応（新聞記事として掲載）		
		8-6	GEOC主催の全国EPO連絡会議【3回】、情報交換会【3回】への参加・出席	連絡会議：①6/14、②10/11-12、③1/24に出席	情報交換会：①12/23、②3/16、③3/24に出席（予定）	
		8-7	地域ニーズの提出（2/15提出期限）	参加者アンケートの回収結果等を整理したものを中部地方環境事務所へ提出		
9	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務			適宜実施		
10	外部資金を活用した事業；①グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト、②地球環境基金、③愛知県環境学習コーディネート業務			①3団体のイベント支援	②6/14、8/4会議出席、基金説明会：10/24	③相談業務6件、コーディネート業務10件実施
仕様書		1	環境省情報セキュリティポリシーの遵守及び情報セキュリティ体制等の届出	4/1提出済み		
		2	情報セキュリティ対策の報告について	年間報告書の納品時に提出		
		3	オフセット印刷又はデジタル印刷の工程における環境配慮チェックリスト	年間報告書の納品時に提出		
		4	資材確認票	年間報告書の納品時に提出		

1 業務実施計画の作成

ア 作成した令和４年度業務実施計画

①業務概要



②業務スケジュール

仕様書業務項目		業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 業務実施計画の作成		業務実施計画の作成・公表	富田	作成	運営委員会への提示	修正→公開									
2 運営会議		ESD/EPO運営委員会の設置・開催【2回】	清本、原、富田、小松	資料作成、開催準備・調整	運営委員会1開催	開催結果とりまとめ→公開						資料作成、開催準備・調整	運営委員会2開催	開催結果とりまとめ→公開	
3 基本業務	3-1	HP(EPO、ESD)の更新・維持管理	富田、小松	月2回以上の更新を適宜実施											
	3-2	収集・整理・蓄積した情報の発信(メールマガジン発信)	小松	月1回以上の配信を適宜実施											
	3-3	リーフレットの配布	富田、小松	印刷	以後、適宜印刷のうえ、イベント等で配布									印刷	
	3-4	照会・相談対応、対話の体制の構築、施設の維持管理	清本、原、富田、小松	適宜実施し、記録及び報告											
	3-5	定例報告	富田、小松	毎月初めに報告資料を集計・作成、提出											
4 協働取組の促進のための業務	4-1	地元ネットワークを活用したフォーラム開催【1回(3時間)】	清本、原、富田、小松	各連携主体にヒアリング↓企画案等を作成	運営委員会に諮る			関係地域・団体(5-8担い手を想定)との調整、企画・準備			フォーラム開催			運営委員会に報告	
	4-2	協働コーディネーターとの連携による実践的な取組【北信越2回(各2時間)】				協働コーディネーターとの調整					フォーラム開催			フォーラム開催	
	4-3	活動主体へのフィードバック(活動の見える化プログラムの活用)【2事例】						ヒアリング		見える化チャート作成		フィードバック			
	4-4	ローカルSDGs/地域循環共生圏グループワーキング【1回(3時間)】		企画案作成						関係者との調整、準備		ワーキング開催			
5 地域循環共生圏の創造推進業務	5-1	プラットフォーム支援:新規団体(2団体)ヒアリング、月1回以上の連絡等	富田	各PFにヒアリング実施	とりまとめ報告	各団体のサポート計画(スケジュール・意向等)に応じて適宜支援							次年度展開の事務局打合せ		
	5-2	PFステークホルダーミーティング開催の後方支援(2団体)	清本、原、富田			実施方法等についてPFと調整			PF団体それぞれでSHミーティング開催						
	5-3	中間報告会【1回(3時間)】	清本、原、富田				実施日・場所・方法等について関係者と調整	企画案作成	準備	中間報告会の開催					
	5-4	環境省・GEOC主催会合への参加:キックオフM、作業部会【2回】、共有会、事業形成会議、成果共有会	清本、富田	適宜参加		キックオフM							運営委員会に報告		成果共有会
	5-5	卒業団体のフォローアップ調査;ヒアリング【1件】	清本、富田								依頼	ヒアリング実施	結果とりまとめ		
	5-6	森里川海生態系ネットワーク形成会合(情報交換会)【2回】	清本、富田	関係主体へのヒアリング	運営委員会に諮る			関係者との協議・調整	企画案作成	準備	第1回情報交換会の開催	準備	第2回情報交換会の開催		
	5-7	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業;情報交換会【4回】、GEOCへの情報提供	清本、富田			関係者との協議・調整／企画案作成			準備					①尾鷲会合開催 ②丹南会合開催	③東海セミナー開催 ④信州セミナー開催
	5-8	担い手主体の把握・関係性構築	富田									対象団体検討	対象団体との調整	情報交換実施	

全業務の実施結果のとりまとめ／年間報告書の提出

仕様書業務項目		業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6 中部地方ESD活動支援センター運営業務	6-1	センターの運営・推進	原、富田、小松	第6期中部地域ESD推進計画に基づき適宜実施											
	6-2	地域ESD拠点等の活動支援	原、小松	適宜対応											
	6-3	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回】	清本、原、小松	企画案作成	運営委員会に諮る			関係機関との調整・準備				フォーラム開催		運営委員会に報告	全業務の実施結果のとりまとめ／年間報告書の提出
	6-4	SDGs学生サミット【1回（半日程度）】	清本、原、小松	企画案作成		関係機関との調整・準備								学生サミット開催	
	6-5	ジオパーク等の活用；ESDダイアログの開催	清本、原、小松	企画案作成		ジオパーク関係者との調整・準備					ESDダイアログ開催				
	6-6-1	交流機会提供　①活動計画の作成、②交流者の参加募集、⑥全国フォーラム結果報告	原、小松	①活動計画の作成		センターとの共有	②参加募集					⑤全国フォーラム報告			
	6-6-2	学び合いの実施；③学び合いの場【2回】、④SDGs社会教育WG【3回】、⑤実践活動	原、富田、小松			関係者との調整	④WG 1	準備	③学び合い1 ③学び合い2	④WG 2	⑤実践活動	④WG 3			
	6-7	「（仮）中部版ESDワークブック」の作成	原	プロトタイプ版の改訂方法の検討				ワークブックの内容検討					原稿作成	ワークブック完成	
	6-8	教育現場の実態把握と連携強化：①専門家【1名（2時間）】 ②教育関係者【2回（各2時間）】	原										業務関係者の専門家・教育関係者等へのヒアリング実施	とりまとめ	
	6-9	地域循環共生圏への協力、全国センターとの連携協力の推進	原	適宜実施											
	6-10	全国ESDセンターとの連携；企画運営委員会【2回】、連絡会【2回】、全国フォーラム【1回】に出席・参加	原	適宜出席・参加											
7 行動変容の把握	7-1	行動変容の把握：行事参加者へのヒアリング（3月中旬までに）【6事例】	清本、原、富田								業務の連携・協力者6団体へのヒアリング、結果とりまとめ			運営委員会2に報告	
	7-2	SDGs実践状況等の評価【試行2事例】	原	計画案作成	運営会議1に諮る	SDGs等の実践状況等の評価方法整理					2事例で試行的に実践				
8 関係主体との連携及び協働に関する業務	8-1	事務所担当官と業務の責任者とで定期的な打合せ、日々の業務を毎月報告	清本、原、富田、小松	適宜実施（月1回以上の打合せ、月次報告）											
	8-2	外部評価委員会への出席【1回】、資料作成対応										資料作成		外部評価委員会出席	
	8-3	白書を読む会の企画協力、広報協力、運営サポート				名古屋市との調整、協力事項確認	名古屋市側のスケジュール等に応じて適宜実施		白書を読む会開催						
	8-4	全国ユース中部大会に参画【1回】、審査委員の選定	清本					審査委員の推薦				中部大会に参画			
	8-5	記者発表等報道対応	富田	適宜実施											
	8-6	GEOC主催の全国EPO連絡会議【3回】、情報交換会【3回】への参加・出席	清本、富田	適宜参加・出席等対応											
9		業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務	小松、小栗	適宜実施											
10		外部資金を活用した事業；①グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト、②地球環境基金、③愛知県環境学習コーディネート業務	清本、小栗、小松、服部	①日本NPOセンター、②環境再生保全機構、③愛知県環境学習プラザと連携して適宜実施											

③定量的な達成目標（インプット・アウトプット）の設定

仕様書業務項目		業務内容	担当	インプット（仕様書、計画書）			アウトプット（指標）			アウトカム		備考
				外部関係者とその役割	催事、情報発信	調査、研究、作成、支援	コンテンツ等、情報の発信、記録	設備・システム・知見など	参加者（数）、対象者（数）など	アウトカム指標（アウトプット評価に加え）	アウトカム（予想される成果）	
1	業務実施計画の作成	業務実施計画の作成・公表	富田	・外部有識者：必要に応じて助言		・令和4年度の業務実施計画の作成 ・アウトプット、アウトカム目標、指標の検討	・令和4年度業務実施計画書 ・令和4年度アウトプット・アウトカム目標一覧表			・担当官、運営委員会等関係者による当年度EPO中部ESDC計画としての内容の十分な認知 ・各指標による評価の実施と説明による、担当官、運営委員等の理解。	・令和4年度業務遂行計画として事業推進の内容が見える化される。 ・それぞれの業務についてアウトプット、アウトカムの評価が可能となる。	
2	運営会議	ESD/EPO運営委員会の設置・開催【2回】	清本、原、富田、小松	・外部有識者：運営委員として議論参加、助言	・ESD/EPO中部運営会議（2回オンライン開催）	・9名程度の運営委員（6～3級相当）で構成 ・年1回以上、委員の情報（役職、所属）に変更がないか確認 ・運営委員に業務参画を促すための進捗状況情報を適宜提供	・会議資料、議事録		・各回7名以上の参加	・業務に活用された運営委員による有用な意見（議事録） ・業務に運営委員の積極的な参画を得た知見の活用（業務記録）	・運営委員より有用な意見をいただくとともに業務に積極的な参画を得て効果的な活動を展開に寄与する。	
3	基本業務	3-1 HP（EPO、ESD）の更新・維持管理	富田、小松	・専門業者：相談（管理問い合わせ等）		・HPの更新	・HPのページ更新（月2回以上）		・ページビュー数（昨年度同水準以上）	・更新されたHPに対するご意見（運営会議委員ご意見など）	・HPによるEPO、ESDCの認知の拡大と好感度の向上	
		3-2 収集・整理・蓄積した情報の発信（メールマガジン発信）	小松			・メールマガジンの作成・発行 ・SNSによる情報発信	・メールマガジン（月1回以上） ・SNS記事		・情報発信頻度の維持、拡大	・情報発信頻度の維持、拡大 ・コンテンツに対するご意見（運営会議委員ご意見など）	・EPO、ESDCの認知の維持、拡大 ・好感度の向上、掲載情報利用の拡大	
		3-3 リーフレットの配布	富田、小松	・印刷：外注（必用に応じ）		・リーフレットの印刷・配布（印刷は必要に応じ）	・リーフレット（必用に応じて情報更新A4フルカラー必要部数）		・配布数（昨年度同水準以上）	・配布部数の増加、リーフレットに対するご意見（運営会議委員ご意見など）	・リーフレットによるEPO中部ESDCの認知の拡大と好感度の向上	
		3-4 照会・相談対応、対話の体制の構築、施設の維持管理	清本、原、富田、小松	・外部の様々な活動団体：活動等参加先		・相談・照会対応と助言、実施内容の記録 ・各種協議会や地域活動等への参加と情報収集、マッチング支援や助言	・照会・相談の記録簿 ・協議会、地域活動、支援等の参加記録 ・講師派遣の記録		・紹介・相談件数 ・資料収集数、参加記録件数 ・講師等派遣回数	・全体件数の増加、助言に対する実績 ・記録件数の増加 ・講師派遣件数の増加	・紹介・相談による環境保全活動等への貢献 ・関連する情報の集積、連携・協働体制の構築、ノウハウの蓄積の推	
		3-5 定例報告	富田、小松			・業務日報等の関連文書の作成と報告	・業務日報等の文書			・事務所担当官の状況把握と理解	・事務所担当官の状況把握と理解による全体業務の円滑な運営	
4	協働取組の促進のための業務	4-1 地元ネットワークを活用したフォーラム開催【1回（3時間）】		・協働コーディネーター、地域関係者との連携	・フォーラム（ハイブリッド、1回、3時間、30名程度）		・開催記録		・参加者30名程度	・参加者の意識（アンケート）、ご意見や感想（ヒヤリング、アンケート）	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加	
		4-2 協働コーディネーターとの連携による実践的な取組【北信越2回（各2時間）】	清本、原、富田、小松	・協働コーディネーター、地域関係者との連携	・実践的取組（必用に応じてオンライン、2回程度、各2時間程度、30名程度）		・開催記録		・参加者各30名程度 ・中間支援団体等との連携協働実績	・参加者の意識（アンケート）、ご意見や感想（ヒヤリング、アンケート）	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加	
		4-3 活動主体へのフィードバック（活動の見える化プログラムの活用）【2事例】		協働コーディネーター、地域関係者との連携		・活動内容のヒヤリングと活動見える化プログラム分析	・分析票（2事例） ・分析チャート（2事例）			・分析対象主体や関係者の感想、意見	・分析対象主体の取組構造とSDGs貢献の意義の認識の向上	
		4-4 ローカルSDGs/地域循環共生圏グループワーキング【1回（3時間）】		・NPO、基礎自治体、事業者等	・セミナー及びワーキング（オンライン、1回、3時間程度、講師1名（大学教授級））		・開催記録		・参加者20名程度、学識者1名参加	・参加者の意識（アンケート）、ご意見や感想（ヒヤリング、アンケート）	・参加した関係者の意識向上（自治体内部局横断意識含む）、認知の拡大、知見の増加	
5	地域循環共生圏の創造推進業務	5-1 プラットフォーム支援：新規団体（2団体）ヒアリング、月1回以上の連絡等	富田	・採択団体、登録団体、過年度採択団体、取組関係者、GEOC		・伴走支援（月1回以上の採択団体との電話やオンライン会議等による連絡、関係者との調整支援、会議運営にかかる助言、人材育成の支援、採択団体がマンダラ作成を通じて行う課題整理・協働取組の各過程の支援、事業発掘のプロセス支援などを実施）の提供 ・登録団体や過年度の採択団体への環境ローカルビジネスづくりの情報提供 ・新規採択団体の事業目標及び年間計画等ヒアリング、ヒアリング結果、全団体支援計画等のGEOCへの提出	・伴走支援の記録（各団体月1回以上） ・（新規採択）団体の事業目標及び年間計画等ヒアリング結果 ・全団体支援計画等（GEOC提出）	・地域循環共生圏取組みの伴走等支援についての知見	・環境整備のプロセスにかかる支援（2団体程度、各2回程度現地支援） ・各団体との連絡調整（月1回以上）	・各団体の構成員、担当官、専門家等の関係者のご意見や感想	・地域循環共生圏の取組に対する適切な伴走支援方法とその効果についての知見の蓄積	
		5-2 PFステークホルダーミーティング開催の後方支援（2団体）	清本、原、富田	・採択団体、登録団体、過年度採択団体、取組関係者、	・各活動（採択）団体が行う環境整備を推進するためのステークホルダーミーティングの後方支援	・開催結果を取りまとめとGEOCへの報告	・開催記録		・ステークホルダーミーティング開催実績	・参加者の意識、ご意見や感想（アンケート、ヒヤリング）	・地域循環共生圏の取組理解の深化、出口戦略への意識化	
		5-3 中間報告会【1回（3時間）】	清本、原、富田	・採択団体、登録団体、過年度採択団体、取組関係者	・中間共有会（1回程度、3時間程度）		・中間共有会開催記録	・各団体同士の情報共有	・関係団体の参加	・関係者のご意見	・採択団体同士の相互参照によるネットワーク形成	
		5-4 環境省・GEOC主催会合への参加：キックオフM、作業部会【2回】、共有会、事業形成会議、成果共有会	清本、富田	・採択団体、登録団体、過年度採択団体、取組関係者、本省、GEOC		・GEOCが主催する地域循環共生圏の支援に向けた、キックオフミーティング（1回、都内、2日程度、6月）、作業部会（2回程度、1回当たり3時間程度、都内。）、共有会（1回、3時間程度、オンラインを想定）、生圏PF事業形成会議（1回、3時間程度、オンラインを想定）、成果共有会及びネットワーキングイベント（1回、都内、2日程度、3月）参加 ・キックオフミーティング及び成果共有会にむけての活動（採択）団体の資料作成等支援し、当日の意見交換補佐		・参加による情報共有 ・資料作成等支援と意見交換補佐		・関係者のご意見	・全国地方EPOとの情報共有とその知見による伴走支援の促進・向上	
		5-5 卒業団体のフォローアップ調査：ヒアリング【1件】	清本、富田	・中部EPO管内卒業団体、GEOC		その後の取組の進捗の把握について、卒業団体のオンラインヒアリング（1件程度）	・GEOCへのヒヤリング報告書			・GEOC等関係者のご意見	・PF事業の進め方、効果、支援のあり方の共有	
		5-6 森里川海生態系ネットワーク形成会合（情報交換会）【2回】	清本、富田	・地域の自治体、企業、金融機関	・森川里海推進ネットワーク形成会合（情報交換会）の実施、2回程度、2時間程度、30名程度		・森川里海推進ネットワーク形成会合記録		・参加者30名程度（各回）	・参加者の意識、ご意見や感想（アンケート、ヒヤリング）	・森里川海運動の促進のための地域自然資源のワイズユース重要性の共有、ネットワークの形成	
		5-7 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業：情報交換会【4回】、GEOCへの情報提供	清本、富田	・企業及び地域金融や経済団体	・情報交換会の開催（4回程度、2時間程度）				・参加者20名程度（各回）	・参加者の意識、ご意見や感想（アンケート、ヒヤリング）	・地域循環共生圏づくりにおける経済・金融機関とのネットワークの形成	
		5-8 担い手主体の把握・関係性構築	富田	・5-1から5-7の関係者		・地域循環共生圏に通じる担い手（団体等）について、把握し地域循環共生圏に関する情報を提供するほか、関係性を構築する（2団体程度）			・地域循環共生圏に通じる担い手団体関係性構築（2団体程度）	・地域循環共生圏に通じる担い手団体の意見や感想	・担い手団体による地域循環共生圏の促進、意識の向上	

仕様書業務項目		業務内容	担当		インプット（仕様書、計画書）		アウトプット（指標）			アウトカム		備考
				外部関係者とその役割	催事、情報発信	調査、研究、作成、支援	コンテンツ等、情報の発信、記録	設備・システム・知見など	参加者（数）、対象者（数）など	アウトカム指標（アウトプット評価に加え）	アウトカム（予想される成果）	
6 中部地方ESD活動支援センター運営業務	6-1	センターの運営・推進	原、富田、小松	・ESD関係者		・相談対応、情報発信、各事業でのネットワーク構築			・3基本業務のアウトプットに含む	・3基本業務のアウトカムに含む	・ESD関係者とのネットワーク構築と知見の集積	
	6-2	地域ESD拠点等の活動支援	原、小松	・地域ESD拠点関係者		・地域ESD拠点情報交流、ESD拠点登録支援			・ESD拠点登録数	・ESD拠点関係者の意見や感想（ヒヤリング）	・中部地方のESDネットワークの拡充	
	6-3	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回】	清本、原、小松	・地域ESD拠点関係者	・ESD推進ネットワーク地域フォーラム開催（1回）		・地域フォーラム開催記録		・ESD拠点関係者（20人程度）	・ESD拠点関係者の意見や感想（アンケート等）	・地域におけるESD活動の課題やニーズ、普及・啓発の効果的な手法等について参加者同士の共有	
	6-4	SDGs学生サミット【1回（半日程度）】	清本、原、小松	・中部地方大学研究室、地方自治体等	・ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム中部学生サミット【1回（半日）／オンライン】	活動分析へのSDGsチェックリストの概念活用	・開催記録		・サミット参加30名程度	・参加者の意識等（アンケート）、ご意見や感想（ヒヤリング、アンケート）	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加	
	6-5	ジオパーク等の活用；ESDダイアログの開催	清本、原、小松	・ジオパーク等、環境省地域資源 ・専門家等のゲスト：講演、話題提供、講	・「自然資産を活かした地域・人づくりESDダイアログ」の開催【1回】半日程度		・ダイアログ開催記録		・参加者20名程度 ・専門家1名（大学准教授級）	・参加者の意識（アンケート）、ご意見や感想（ヒヤリング、アンケート）	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加	
	6-6-1	交流機会提供 ①活動計画の作成、②交流者の参加募集、⑥全国フォーラム結果報告	原、小松	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター、地域ESD拠点		・活動計画の作成 ・交流者の参加募集（全国センターのネットワークで調整） ・全国フォーラム結果報告（全国センターのネットワークで調整）	・活動計画書 ・活動報告書（全国フォーラム報告書）				・ESDネットワークにおける中部ESDC活動の情報共有と理解の促進	
	6-6-2	学び合いの実施；③学び合いの場【2回】、④SDGs社会教育WG【3回】、⑤実践活動	原、富田、小松	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター、地域ESD拠点	・学び合いの場【2回】オンライン ・SDGs社会教育WG【3回】 ・実践活動【1回】				・学び合いの場【2回（各1.5時間）】のべ20名 ・SDGs社会教育WG【3回（各2.5時間）】有識者と実務者計4人 ・実践活動【1回（2時間）】20名	・参加者の意識（アンケート）、ご意見や感想（ヒヤリング、アンケート）	・実績のある社会人ESDの情報共有による「ローカルSDGsのためのESDの社会実装」への貢献	
	6-7	「（仮）中部版ESDワークブック」の作成	原	・有識者によるWG	・SDGs社会教育WG：有識者によるWGディスカッション（6-6-2）	・ワークブック作成のための調査、情報収集 ・「現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック」（試行版）の作成	・「現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック」（試行版）コンテンツ	・関連する実例、知見		・ワークブックについての運営委員など関係者のご意見	・ワークブックの試行活用による社会ESDの促進	
	6-8	教育現場の実態把握と連携強化：①専門家【1名（2時間）】 ②教育関係者【2回（各2時間）】	原	・ SDGs、ESDに詳しい専門家 ・SDGs意思のある教育部局、教育委員会、現場の教員		・専門家への包括的ヒアリング（オンライン、2時間程度、1回、大学教授級1名想定） ・教育関係者へのヒアリング（オンライン、2時間程度、2回程度）	・ヒヤリング結果			・ヒヤリング対象の感想 ・運営委員等の外部評価	・有意義な知見の入手 ・ESD,SDGs専門領域との連携強化	
	6-9	地域循環共生圏への協力、全国センターとの連携協力の推進	原	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター		・ESDの考え方をベースに、「地域循環共生圏」の人づくりのための域資源を発掘し活用 ・活動状況調査等に対する情報・資料の提供等の協力・対応		関係する情報・資料			・ESD全国センター等ネットワークとの連携	
	6-10	全国ESDセンターとの連携；企画運営委員会【2回】、連絡会【2回】、全国フォーラム【1回】に出席・参加	原	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター		会議出席・参加による情報収集と整理 ・企画運営委員会（オンライン、2回程度、各半日） ・全国・地方連絡会（オンライン、2回程度、各半日） ・ESD推進ネットワーク全国フォーラム（オンライン、1回、1日）		・参加による記録等の情報共有		・中部ESD活動支援センター活動に反映させるべき知見の整理結果	・ESD全国センター等ネットワークや施策動向の把握	
7 行動変容の把握	7-1	行動変容の把握：行事参加者へのヒアリング（3月中旬までに）【6事例】	清本、原、富田	・4から6の関係者		・行動変容のためのコアメンバーに対する簡易的ヒアリング（電話、メール等）	・行動変容のためのコアメンバーに対する簡易的ヒアリング結果		・行動変容のためのコアメンバーに対する簡易的ヒアリング（6事例程	・ヒヤリング結果の分析と解釈	・地域循環共生圏構築行動など持続可能社会に貢献する行動変容	
	7-2	SDGs実践状況等の評価【試行2事例】	原	・関係する専門家等		・地域SDGs評価メニュー、プログラム等の情報収集と活用	・地域SDGs評価試行の事例（2事例）	・地域SDGs評価メニュー、プログラム等の活用実践		・地域SDGs評価メニュー、プログラム等の活用効果に関する専門家意	・地域SDGs評価メニュー、プログラム等の活用の知見が得られる	
8 関係主体との連携及び協働に関する業務	8-1	事務所担当官と業務の責任者とで定期的な打合せ、日々の業務を毎月報告			・定期的打合せ（月1回以上）	・月次報告書の作成	・月次報告書			・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営	
	8-2	外部評価委員会への出席【1回】、資料作成対応	清本、原、富田、小松			・中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応	・対応資料			・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営 ・EPO中部ESDCに対する適正な評	
	8-3	白書を読む会の企画協力、広報協力、運営サポート				・白書を読む会の企画運営サポート	・企画運営サポート記録			・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営	
	8-4	全国ユース中部大会に参画【1回】、審査委員の選定	清本			・全国ユース大会への参画、審査委員選定	・全国ユース大会参画、審査委員選定記録		・審査委員選定	・関係者の意見	・中部地方環境事務所との協働による円滑な運営	
	8-5	記者発表等報道対応	富田			・プレスリリース資料の作成、実施（必用に応じて）	・プレスリリース資料（必用に応じて）		・プレスリリース（必用に応じて）	・関係者の意見	・EPO中部の認知度の向上	
	8-6	GEOC主催の全国EPO連絡会議【3回】、情報交換会【3回】への参加・出席	清本、富田	・GEOC：全国EPO連絡会議開催	・GEOC主催の全国EPO連絡会議【3回】、情報交換会【3回】への参加・出席			・全国情勢の情報		・関係者の意見	・GEOC事業への協力	
9 業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務			小松、小栗		・適正な支払い		・支払い記録			・会計部署の承認	・適正支出の明確化	
10 外部資金を活用した事業；①グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト、②地球環境基金、③愛知県環境学習コーディネート業務			清本、小栗、小松、服部									

イ 業務実施計画の公表

- 作成した令和４年度業務実施計画については、ESD/EPO 運営委員会（第１回会議）に諮ったうえで、EPO 中部ウェブサイトに掲載、公開した。
- 中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトについても、EPO 中部ウェブサイトへの直リンク見出し記事を掲載した。

【EPO 中部ウェブサイト】

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

2 ESD/EPO 運営委員会の設置・開催

ア 委員について

- 運営委員については、令和３年度に選定した次表・９名の委員に、継続して令和４年度の委員としての委嘱確認を行った。

【委員名簿】

No.	分野等	地域	氏名	所属先	役職
1	学識者／ESD	東海	伊藤　恭彦	名古屋市立大学	副学長
2	学識者／学校教育	北陸	加藤　隆弘	金沢大学大学院教職実践研究科	准教授
3	学識者／地域整備計画	東海	加藤　義人	岐阜大学工学部	客員教授
4	協働コーディネーター	北陸	堺　勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）	常務理事／事務局長
5	企業／福祉	東海	杉浦　真理子	株式会社アクト	代表取締役
6	NPO／地域づくり	東海	田辺　友也	認定NPO法人まちづくりスポット	専務理事
7	自治体	東海	濵田　一多朗	尾鷲市政策調整課	課長補佐兼企画調整係長
8	企業／環境学習	北陸	水上　聡子	アルマス・バイオコスモス研究所	代表
9	学識者／自然生態系	信州	水谷　瑞希	信州大学教育学部 附属志賀自然教育研究施設	助教

イ 会議の実施

（ア） 第１回会議

①日時

- 2022 年５月 25 日（水）13：00～16：00

②開催方法

- オンライン会議（Webex ミーティング）

③出席者

- 運営委員：９名全員出席
- 中部地方環境事務所環境対策課：原課長補佐、滝藤主査
- 事務局：福井理事長、清本事務局長、原、富田、小松

④議事次第

１．ご挨拶　　環境省中部地方環境事務所
２．本委員会設置要領について
３．令和４（2022）年度の EPO 中部運営業務の実施計画について
４．EPO 業務について
　(1) EPO 業務事務局案の説明
　(2) 意見交換
５．ESD 業務について

（1）ESD 業務事務局案の説明
（2）意見交換
６．その他／第２回委員会の日程調整等
７．閉会

⑤会議資料

資料１：ESD/EPO 運営委員会設置要領
資料２：令和４（2022）年度業務実施計画
資料３：EPO 業務事務局説明資料
資料４：ESD 業務事務局説明資料
参考資料１：ESD 推進ネットワーク成果と課題及び今後の取り組みの方向性（提言）骨子案
参考資料２：第６期中部の ESD 推進計画（前年度作成）
参考資料３：2022 年度「森里川海生態圏ネットワーク形成会合」について

（イ） 第２回会議

①日時

- 2023 年１月 31 日（火）13：00～16：00

②開催方法

- オンライン（Webex ミーティング）

③出席者

- 運営委員：８名　※田辺友也委員は忌引きのためご欠席
- 中部地方環境事務所環境対策課：曽山課長、原課長補佐、滝藤主査
- 事務局：福井理事長、清本事務局長、原、富田、小松

④議事次第

１．ご挨拶　　環境省中部地方環境事務所
２．今年度実施した ESD 業務について
（1）事務局による ESD 業務の報告
（2）意見交換
３．今年度実施した EPO 業務について
（1）事務局による EPO 業務の報告
（2）意見交換
４．閉会

⑤会議資料

資料１：令和４年度仕様書上業務の実施状況表
資料２：今年度の ESD 業務の実施報告資料
資料３：今年度の EPO 業務の実施報告資料
参考資料：SDGs 学生サミットの開催案内チラシ

ウ 会議実施結果（議事概要）の公開

- 第 1 回及び第２回運営委員会の終了後に、会議の議事概要を作成し、各委員に確認した上で、EPO 中部ウェブサイトに公開した。（中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトにも EPO 中部ウェブサイトへの直リンク見出しを掲載した。）

【EPO 中部ウェブサイト】

ESD/EPO運営委員会

運営委員会の設置

EPO中部は、多様なステークホルダー及び有識者で構成される運営委員会を年2回開催し、ESD／EPO業務についての検討、協議、評価を行っています。
また、運営委員が提案する協働取組や、各地域で実施すべき協働取組を、EPO中部の機能を使って実施するスキームとなっています。

※第５期（2020年度）までは「EPO中部運営会議」「中部地方ESD活動支援センター企画運営会議」をそれぞれ設置していました。

2021年度（令和３年度）ESD／EPO運営委員（氏名五十音順、敬称略）

- 伊藤　恭彦（名古屋市立大学 副学長）【委員長】
- 加藤　隆弘（金沢大学大学院教職実践研究科 准教授）
- 加藤　義人（岐阜大学工学部 客員教授）
- 堺　　勇人（一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事／事務局長）
- 杉浦　真理子（株式会社アクト 代表取締役）
- 田辺　友也（認定NPO法人まちづくりスポット 専務理事）
- 濵田　一多朗（尾鷲市政策調整課 調整監(SEAモデル事業推進担当)）
- 水上　聡子（アルマス・バイオコスモス研究所 代表）
- 水谷　瑞希（信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設 助教）

規約

第６期 ESD/EPO運営委員会設置要領

第５期（2020年度／令和２年度）以前の規約

議事録

第６期

【2022（令和４）年度】
2022年度（令和４年度）　第２回ESD/EPO運営委員会議事録
2022年度（令和４年度）　第１回ESD/EPO運営委員会議事録

【2021（令和３）年度】
2021年度（令和３年度）　第２回ESD/EPO運営委員会議事録
2021年度（令和３年度）　第１回ESD/EPO運営委員会議事録

第５期（2020年度／令和２年度）以前に実施した会議の議事録

エ 運営委員との業務における連携（主催イベントへの登壇・参画等）

- 今年度開催した主催イベント・会合等において、下記の通り、運営委員の連携・協力を得て実施した。

項目	実施業務	関係委員
EPO 主催イベント	12 月 15 日開催 ローカル SDGs/地域循環共生圏セミナー	杉浦委員が参加
地域循環共生圏づくりへの支援	11 月 18 日開催 中部ブロック中間共有会	加藤義人委員、田辺委員が出席
	1 月 20 日開催 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業 おわせ SEA モデル説明交流会	濵田委員；おわせ SEA モデル協議会（尾鷲市政策調整課）と協力して企画・運営
ESD センター主催イベント	11 月 26 日開催 ジオパークを活用した ESD ダイアログ	水谷委員が登壇
	12 月５日開催 ESD 推進ネットワーク中部地域フォーラム	堺委員が地域ESD拠点登録団体として出席
	2 月４日開催 SDGs 学生サミット	伊藤委員長が登壇、堺委員と田辺委員がファシリテーター登壇
ESD学び合いプロジェクト	8 月 25 日開催・学び合いの場① 9 月 1 日開催・学び合いの場② 11 月 25 日開催・実践活動（実践セミナー）	堺委員、水上委員が登壇・運営、その他開催協力
	SDGs 社会教育ワーキング（全3回） 及び同ワーキングでの「ESD ワークブック」作成検討	堺委員、水上委員がワーキング委員として参画

3 基本業務

(1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務

ア ホームページの更新及び維持管理

(ア) 更新・維持管理状況

- EPO 中部では、環境保全、協働の推進、ESD、SDGs 等に関わる情報を収集・整理・蓄積し、行政機関の動き、公募・助成金情報、イベント情報等の発信を行っている。
- 収集した情報は、EPO 中部及び中部地方ESD活動支援センターの各ウェブサイトにおいて、下表の通り、記事の投稿・掲載・更新を行った。

【EPO 中部（http://www.epo-chubu.jp）更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ						
		EPO 中部のお知らせ	皆さんのお知らせ	スタッフのあれこれ	EPO 中部とは	EPO 中部がお手伝い	お役立ちツール	その他(メルマガ掲載等)
4 月	51	4	41	1	0	1	3	1
5 月	48	0	45	1	1	0	0	1
6 月	63	1	59	1	1	0	0	1
7 月	34	3	28	1	1	0	0	1
8 月	51	5	43	1	1	0	0	1
9 月	42	2	37	1	1	0	0	1
10 月	39	7	30	1	0	0	0	1
11 月	35	3	28	1	0	0	0	3
12 月	50	6	42	1	0	0	0	1
1 月	36	3	29	1	2	0	0	1
2 月	63	5	52	1	0	0	3	2
3 月	26	1	22	0	0	0	0	3
計	538	40	456	11	7	1	6	17

【中部地方 ESD 活動支援センター（http://chubu.esdcenter.jp）更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ						
		センター概要	事業報告	イベント＆ニュース	取材レポート	コンテンツ紹介	地域 ESD 拠点トピック	その他
4 月	23	0	0	17	0	5	1	0
5 月	26	0	0	21	0	3	2	0
6 月	26	1	0	22	0	1	2	0
7 月	9	1	0	7	0	0	0	1
8 月	24	0	2	18	0	3	1	0
9 月	11	0	1	8	0	0	2	0
10 月	6	0	0	5	0	0	1	0
11 月	21	0	0	19	0	0	2	0
12 月	23	0	1	19	0	0	2	1
1 月	13	0	0	11	0	1	1	0
2 月	25	1	2	20	0	1	1	0
3 月	9	0	0	9	0	0	0	0
計	216	3	6	176	0	14	15	2

※　いずれも「3 月」の数値は 3 月 20 日時点で集計を行った。

（イ） ウェブサイトのアクセス数（ページビュー数）

【EPO 中部ウェブサイト】

※　2020 年度に実施した EPO 中部ウェブサイトのリニューアルの際に、アクセス数の照会元を Google アナリティクスに移行した。（従来の照会元であるサーバー会社によるアクセスレポートが特殊なシステムでページビュー数を集計していたため、一般的なページビュー数を把握できる Google アナリティクス参照に変更した。）

照会元	Google アナリティクス		*参考）サーバー会社のアクセスレポート*					
	2022 年度	2021 年度	*2022 年度*	*2021 年度*	*2020 年度*	*2019 年度*	*2018 年度*	*2017 年度*
4 月	2,133	3,310	*59,189*	*24,015*	*66,930*	*59,319*	*19,311*	*32,869*
5 月	2,197	2,965	*75,304*	*16,148*	*56,664*	*30,280*	*18,382*	*37,951*
6 月	1,983	3,574	*79,962*	*21,314*	*61,297*	*29,150*	*20,060*	*27,827*
7 月	2,125	2,579	*78,408*	*29,566*	*52,720*	*34,314*	*18,763*	*19,752*
8 月	2,387	2,203	*49,173*	*25,428*	*43,742*	*38,479*	*17,688*	*25,807*
9 月	1,883	1,923	*68,449*	*24,902*	*43,419*	*72,087*	*14,795*	*34,714*
10 月	2,413	4,015	*92,734*	*34,750*	*42,768*	*75,127*	*16,176*	*24,051*
11 月	2,873	2,791	*64,309*	*48,487*	*38,630*	*102,551*	*16,289*	*18,034*
12 月	2,852	2,271	*97,461*	*45,615*	*35,352*	*182,209*	*31,808*	*23,287*
1 月	3,911	2,132	*100,899*	*65,535*	*23,878*	*107,374*	*39,694*	*31,568*
2 月	3,075	2,800	*97,007*	*65,552*	*14,677*	*61,384*	*21,378*	*35,860*
3 月	2,605	1,622	*66,811*	*74,440*	*21,593*	*67,883*	*44,972*	*23,308*
計	30,437	32,185	*929,706*	*475,752*	*501,670*	*860,157*	*279,316*	*335,028*

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

照会元	※Google アナリティクス					
	2022 年度	2021 年度	2020 年度	2019 年度	2018 年度	2017 年度
4 月	1,057	1,115	1,165	618	595	未開設
5 月	1,030	1,368	648	828	857	未開設
6 月	1,026	1,324	1,620	955	1,301	未開設
7 月	1,025	1,272	1,164	832	795	684
8 月	1,331	811	827	1,111	1,144	298
9 月	963	872	797	1,232	818	295
10 月	775	1,463	1,179	1,192	904	366
11 月	949	1,240	950	1,064	1,085	325
12 月	761	1,302	1,420	1,139	879	287
1 月	623	1,052	1,183	841	841	362
2 月	861	1,025	1,080	1,181	641	1,343
3 月	337	731	1,099	1,258	752	897
計	10,738	13,575	13,132	12,251	10,612	4,857

※　いずれも「3 月」の数値は 3 月 20 日時点のデータで集計を行った。

イ メールマガジンの作成及び発行

- 収集した公募・助成金情報、イベント情報等を整理し、毎月第 2 火曜日発行のメールマガジンに掲載し、次の通り、定期配信を行った。
- なお、発行済みメールマガジンのバックナンバーは、EPO 中部ウェブサイトに掲載しており、閲覧が可能である。(https://www.epo-chubu.jp/mail-magazine)

月	号	発行日	発行部数	記事数・計	掲載記事数				
					冒頭部	イベント関連	ツール・コンテンツ	助成金・表彰等	その他
4 月	154 号	4/12	740	24	0	7	4	7	6
5 月	155 号	5/10	741	26	0	13	4	8	1
6 月	156 号	6/14	740	28	0	13	5	10	0
7 月	157 号	7/12	739	30	1	14	1	13	1
8 月	158 号	8/9	739	24	2	8	1	9	4
9 月	159 号	9/13	737	29	1	11	3	13	1
10 月	160 号	10/11	735	25	2	12	1	10	0
11 月	161 号	11/8	735	24	5	8	1	10	0
12 月	162 号	12/13	739	24	3	10	0	10	1
1 月	163 号	1/10	742	21	3	11	1	4	2
2 月	164 号	2/14	745	20	3	9	2	6	0
3 月	165 号	3/14	746	15	1	5	3	5	1
計				290	21	121	26	105	17

※ 「冒頭部」の記事は、中部地方環境事務所及び EPO 中部の主催イベント等お知らせ記事となっている。

ウ リーフレットの配布

- 2022 年４月に EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターのリーフレットを 300 部印刷し、業務の打合せ時や、相談・照会、情報収集等のため EPO 中部施設を来訪した来館者へ配布を行った。(※リーフレットは前年・2021 年度の作成原稿を引き続き使用した。)
- 2023 年２月時点でリーフレットの在庫がほぼなくなったことから、300 部を増刷したうえで、引き続き、イベント開催時等において配布を行った。

(2) 相談対応・対話の場づくり等

- EPO 中部もしくは中部地方 ESD 活動支援センターへの相談に対し、面談打合せや資料・情報収集、マッチング作業、連絡・調整などの対応を行った。その照会・相談等の案件数は、次表の通りである。

※ 以降の「３月」の件数は、いずれも 3 月 20 日時点で集計を行った数値である。

【照会・相談・打合せ対応件数】

区分	ア 照会・相談対応						イ 対話の体制の構築		ア＋イ 対応件数総計
	①相談に対し支援対応等を行った案件の事例件数※1	照会・相談対応等の延べ件数（左記①案件事例への対応延べ件数も含む）	来館件数 延べ件数※2	②相談・照会、資料配架依頼等	会議利用	③メール・電話による相談（広報依頼等） 延べ件数※2	（ア）会議・セミナー等 地域活動への招聘	（イ）その他打合せや地域主体との意見交換等	
4月	3	26	11	7	4	15	1	4	31
5月	7	23	4	3	1	19	2	12	37
6月	7	27	8	8	0	19	4	6	37
7月	1	21	9	4	5	12	5	6	32
8月	2	11	6	3	3	5	8	5	24
9月	7	21	2	1	1	19	9	10	40
10月	1	17	6	3	3	11	7	6	30
11月	3	20	4	2	2	16	4	8	32
12月	2	24	8	2	6	16	8	11	43
1月	4	30	8	3	5	22	5	17	52
2月	1	19	6	4	2	13	6	11	36
3月	2	37	4	3	1	33	3	3	43
計	40	276	76	43	33	200	62	99	437

※1）事例件数：最初の連絡から対応終了までの（その間の連絡・打合せ等を含めた）案件ごとにカウントした数となっている。
※2）延べ件数：同じ案件・用件での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数となっている。

ア 照会・相談対応

①相談に対し（広報協力以外の）支援対応等を行った案件

- 相談に対し、EPO／ESD センターが何らかの支援対応等を行った案件数は下記の通りである。

【相談件数の合計、相談方法別件数】

	相談件数・計	相談方法			
		電話	メール	来所	その他
4 月	3	0	2	1	0
5 月	7	1	4	0	2
6 月	7	1	3	1	2
7 月	1	0	1	0	0
8 月	2	1	0	1	0
9 月	7	1	4	0	2
10 月	1	0	0	0	1
11 月	3	1	1	1	0
12 月	2	1	1	0	0
1 月	4	0	1	1	2
2 月	1	0	0	1	0
3 月	2	0	1	1	0
計	40	6	18	7	9

【相談主体別の相談件数】

	相談主体の分類							
	学校･教育機関	大学関係	自治体	その他行政機関	企業	NPO･NGO	その他事業主体	その他
4 月	0	0	1	0	2	0	0	0
5 月	0	1	1	0	1	2	2	0
6 月	0	3	2	0	1	0	0	1
7 月	0	0	0	0	0	0	1	0
8 月	0	0	0	0	0	0	2	0
9 月	1	1	2	1	0	0	2	0
10 月	0	0	1	0	0	0	0	0
11 月	2	1	0	0	0	0	0	0
12 月	0	0	1	0	0	1	0	0
1 月	0	0	2	0	0	0	2	0
2 月	0	0	0	0	1	0	0	0
3 月	0	0	1	0	0	0	1	0
計	3	6	11	1	5	3	10	1

【相談に対し EPO が行った支援内容の件数】

	EPO による支援内容分類							
	SDGs の概説･事例紹介等	講師等人材紹介	教材･ツールの紹介･提供等	環境省事業･EPO 業務の問合せ回答	その他情報の提供	ESD･授業等教育関係の個別対応	イベント･会合ほか事業の企画運営	その他
4 月	0	0	1	0	0	0	0	2
5 月	0	0	0	1	0	5	1	0
6 月	0	0	1	1	2	3	0	0
7 月	0	0	0	0	0	1	0	0
8 月	0	1	0	0	1	0	0	0
9 月	2	3	0	0	1	0	1	0
10 月	0	0	0	0	0	0	1	0
11 月	0	0	0	0	1	1	1	0
12 月	0	0	0	0	0	0	2	0
1 月	0	1	0	0	1	0	0	2
2 月	0	1	0	0	0	0	0	0
3 月	0	1	0	0	0	0	0	1
計	2	7	2	2	6	10	6	5

【具体の相談内容と EPO による対応内容】

No.	受付日	相談者	相談内容	対応内容	事後報告
1	4 月 18 日	企業	・依頼企業が主催する SDGs イベントに中部地方 ESD 活動支援センターも出展してほしいとの依頼があった。	・4/18 に電話で依頼があり、イベントの概要・出展要項等をメールで送付いただいた。 ・5/8 に来館して詳細について打合せを行い、中部地方環境事務所からの承諾を得たうえで出展に向けて進めていただくことになった。 ・5/12 に出展「申請書」を提出した。 ・8/24 イベント開催、ブース出展実施。	
2	4 月 27 日	自治体	・東海市ゼロカーボン宣言についての意見交換	・ゼロカーボンや実行計画区域施策編について意見交換。東海市では今年度から策定作業を実施とのこと。必要があれば EPO の名前を使うなど連携を提案。	
3	4 月 28 日	企業	・SDGs チェックリスト等について、PDF ファイル形式以外での提供は可能か。	・5/1 にエクセルファイル形式（記入箇所以外はロック）での提供が可能である旨メールで回答した。 ・5/10 に 3 種の SDGs チェックリストを入手希望である旨返信があり、メールによりエクセルファイル形式のチェックリスト（簡易版、基本段階版、事業所活用版）を提供した。	
4	5 月 9 日	NPO・NGO	・愛知県の高校生のインターン受け入れの依頼。	・5/9 に電話で依頼の連絡があり、詳細資料をメールでいただいた。 ・5/10 電話で内容確認を行い、受け入れ先リストに EPO を掲載いただくことになった。 ・5/23EPO に来館して詳細を打合せし、受け入れ方法について確認を行った。 ・6 月に受け入れ学生2名決定の連絡があり、7月に2名のプロフィール等資料の到着。 ・8/23 オリエンテーション、8/24 アサヒ飲料主催・ブース出展の運営手伝い、他ブースの取材・記事作成、8/25 学び合いの場①の聴講・記事作成、8/26 内勤（作成記事仕上げ）を実施。	
5	5 月 13 日	NPO・NGO	・8/10 開催の教員研修での WS 講師をお願いしたい。SDGs・ESD のワークショップを実施してほしい。	・派遣を了承。6 月上旬に名古屋市と一緒に来所打合せ日程を調整。 ・6/1 の 10 時より来所。時間配分やワークショップの方法について協議。	・参加者の体調不良等により開催中止
6	5 月 20 日	その他事業主体	・昨年度相談の講師派遣依頼、6/18 を 9/17 に変更してほしい。	・変更を了承。9/17 に派遣	
7	5 月 20 日	自治体	・例年同様ユネスコスクール支援会議に委員参加いただきたい	・6/14 開催会議への出席を了承	
8	5 月 24 日	大学関係	・松本大学で大学院生に SDGsについてインプットしてほしい	・対応を了承。6～7 月で日程を調整。 ・6/29 の 10-12 時に松本大学で実施	
9	5 月 24 日	その他事業主体	・オンラインで地球温暖化や SDGs の話をしてほしい。	・対応を了承。6 月 27～28 日で日程を調整。 ・6/28 の 15-16 時でオンライン登壇確定。演題案「地球温暖化の視点から SDGs 社会を考える」	
10	5 月 31 日	企業	・ESD 拠点登録の方法、メリットについて教えてほしい。	・全国センターの該当 Web ページをお知らせ。 ・登録により Web ページに掲載、ネットワークの一員であること、当センター企画中の交流会にお声がけするので、ぜひ登録を、とお伝え。	・その後、全国センターに登録申請あり。登録完了。
11	6 月 1 日	その他	・環境省管轄のペットのチップについてどこに問い合わせればよいか。	・取り扱っている獣医師会に問い合わせるよう回答	

No.	受付日	相談者	相談内容	対応内容	事後報告
12	6 月 8 日	企業	・浄化槽管理している会社だが、省エネ提案できるようにしたい。	・個別技術は省エネセンターなどで情報を探すよう回答。勉強するならエネルギー管理士などの専門家に個別に依頼するよう助言。	
13	6 月 9 日	自治体	・環境課として施策の展開を今後どうするか、ゼロカーボンや SDGs を踏まえて意見交換がしたい。	・6/14 の 10:00 に課長、係長が来所し、意見交換をする場を設定。 ・意見交換を実施。持続可能性の理念を基盤に、市役所のみならず、市民や事業者、外部の専門家などとの協働が重要であることなど認識共有。	
14	6 月 9 日	大学関係	・学生の SDGs研究発表会でコメントをいただけないか。	・候補日のうち 7/6 の 15:00～16:20 で対応可能と回答。 ・オンラインで対応	
15	6 月 13 日	大学関係	・飯田市で 7/30 に考えている SDGsイベントで話題提供等協力をいただけないか。	・対応を了承。また EPO中部として後援することで協力することとする。 ・10 月から月 2 回開催する勉強会に可能な範囲で参加することとした。	
16	6 月 28 日	大学関係	・日本ユネスコエコパーク総会に出席するにあたり、ESD 支援体制の一つとして ESD 推進ネットワークも紹介したい。関連資料の提供をいただけないか。	・公開資料の図等についてメールで送付	
17	6 月 30 日	自治体	・中小事業者向けの温暖化対策のきっかけ作りの講演をお願いできないか	・対応を了承。SDGs と絡めて脱炭素と省エネについて 7 月 28 日のセミナーで登壇する。	
18	7 月 1 日	その他事業主体	・9/29 開催推進員研修の WS サポートをお願いできないか	・対応を了承、WS サポートを行うこととする	
19	8 月 2 日	その他事業主体	・1 月に開催予定の行政職員と推進員対象の気候変動フォーラムについて、予定していた演者に依頼できず、代わりの登壇者について紹介してほしい。	・ゼロカーボンの取組をまちづくりとして行っている飯田市職員の話題提供を提案、マッチングを実施した。 ・フォーラムの後半にトークセッションを提案し、EPO よりコーディネーターを派遣することとした。 ・8/24 にフォーラム基調講演の登壇者を打合せ。	
20	8 月 15 日	その他事業主体	・自治体による脱炭素関連調査事業で、中部地方環境事務所、他県の協働コーディネーターとの情報交換を実施したいため、その取り次ぎを EPO に依頼したい。	・8/15 に電話にて連絡があり、8/19 にメールで中部地方環境事務所宛て、協働コーディネーター宛ての依頼文をいただく。 ・8/22 定例打合せで中部地方環境事務所に趣旨を説明し、脱炭素担当者への取り次ぎを依頼。 ・8/25EPO へ来館し、脱炭素、温暖化対策に関わる情報交換を実施。依頼文の修正について確認のうえ、同日に協働コーディネーターへ依頼文をメールで送信。（調査協力の可否についての連絡は、相談者へ直接返信することになっている。） ・10/26 事務所とのヒアリング日程調整を EPO が仲介。11/2 に事務所にてヒアリング実施予定との連絡あり。ヒアリング項目も参考までにと EPO へも送付。	
21	9 月 7 日	その他事業主体	・愛知県地球温暖化防止活動推進センターのセミナーに話題提供してほしい	・10/19 岡崎、11/4 西尾、11/9 みよしについて中小企業向け省エネセミナーで、SDGs について話題提供を了承	
22	9 月 8 日	自治体	・大府市で作成する企業向け啓発動画に出演してほしい	・対応を了承 ・内容を協議、10/20 収録了承	

No.	受付日	相談者	相談内容	対応内容	事後報告
23	9 月 9 日	自治体	・教員や出前授業実施事業者向けに企画中の協働授業づくり研修について、講師の人材を紹介いただけないか。 ・実施の際には PR に協力願えないか。	・9/9 に電話で企画趣旨等をヒアリング、ESDC スタッフは派遣可能と回答。 ・実施時の PR については対応を了承。	
24	9 月 10 日	大学関係	・環境教育学会で議論をした関係でオンライン「次世代 SDGs 研究会」で話題提供をしてほしい。	・9/24 開催の研究会にて SDGs チェックリストを題材に発表討論を行うこととした。	
25	9 月 13 日	学校・教育機関	・協議会の令和 4 年度の委員に委嘱したい。	・委嘱を了承	
26	9 月 20 日	その他事業主体	・愛知県私立高校より講師派遣依頼	・11/7 の学年授業についてエネルギーなど環境の授業実施を了解 ・10/18EPO 中部で打合せ	
27	9 月 29 日	その他行政機関	・錦 SDGsWEEKs2022 への企画参加の依頼	・9/29 昨年度に続いて今年度も錦 SDGsWEEKs に企画参加してほしいとの連絡を以前からいただいており、主催（まちづくり会社）からの連絡の有無、参加の最終確認などの連絡があった。 ・参加する旨をお伝えし、今年度も「スモールゼミ SDGs」と EPO 施設内の配架コーナーでの SDGs 資料入手のPRを行うことになり、宣材等を主催者へ送付した。 ・10/5 に広報チラシ完成の連絡が主催からあった。（WEBサイト等での広報は展開されていなかった。） ・10/13WEBサイトでの広報が開始されたことをうけて、EPOも「スモールゼミ」の参加者募集広報を展開した。 ・10/31 参加者3名で、スモールゼミを実施した。	・スモールゼミ参加者の一人が、後日、EPO 中部の Facebook をフォローしてくれた。
28	10 月 3 日	自治体	・愛知県地球温暖化防止活動推進センターの豊田市中小企業向け省エネワークショップ（12/19）の企画に助言がほしい	・企画について協力 ・当日ファシリテーターとして協力	
29	11 月 1 日	大学関係	・環境教育学会中部支部年次大会を 2 月に四日市市で開催するにあたり、シンポジウム企画のアドバイスがほしい	・四日市市に本拠を置く ESD 地域拠点を紹介 ・四日市公害と環境未来館を会場とするので博物館や動植物園等の環境学習の役割を考えるなどの方向性をアドバイス ・企画が進んだ時には EPO 中部の連携可能性について再度相談 ・当面の計画書を作成した旨連絡あり ・今後の連携については中部支部で検討の上必要に応じて相談したいとのこと	・2/26 開催の学会主催シンポジウムにて四日市市の地域 ESD 拠点の団体代表がコメンテーターで登壇
30	11 月 4 日	学校・教育機関	・北陸ユネスコスクール実践交流会のオンライン開催 12/3 で開会挨拶をお願いしたい。	・対応を了承。	
31	11 月 14 日	学校・教育機関	・次年度のカリキュラムで環境関係のコースを導入するのでアドバイスが欲しい	・ESD や SDGs の背景について説明。所内掲示資料等を紹介。 ・付近の河川を題材にということであれば、流域概念や生物、水利用や防災などへの展開も考えら	

No.	受付日	相談者	相談内容	対応内容	事後報告
				れることを助言 ・12/13 に 2 回目の意見交換を実施	
32	12 月 2 日	自治体	・2 月に開催予定の市町村環境教育の研修会について相談したい	・12/7 日午前に EPO に来所相談をセット ・来所打合せ、企画内容を検討、2 月 28 日の研修会の講演とワークショップについて講師を派遣することとする	
33	12 月 7 日	NPO・NGO	・2月に NPO ネットワークの会合で EPO 中部に来訪し、交流事業を実施したい。	・12/7 にメールで依頼があり、受け入れ可能と返信。 ・1/5 にメールにて 2/9 来館の連絡あり。 ・2/9NPO ネットワーク6名が来館し、EPO の紹介、地域循環共生圏・OECM についての説明を行ったほか、環境活動、中間支援に関する情報交換を行った。	
34	1 月 10 日	自治体	・5月開催の河川関連のシンポジウムでパネリスト登壇をお願いしたい。	・1/10 来館されて、5月末開催のシンポジウムでのパネリスト登壇を依頼され、了解した。まだテーマ設定等がこれからとのことで、詳細が決まりしだい（決まらなくても）連絡をいただけるとのこと。 ・1/16 に来館、シンポジウム登壇依頼と打合せ、パネルディスカッションのコーディネーター依頼を承諾	
35	1 月 12 日	その他事業主体	・2 月 23 日のイベントに地域 ESD 拠点ネクストステップの活動紹介をお願いできるか。	・同じ地域 ESD 拠点としての連携を進めるため電話連絡、主催者から参加依頼。	
36	1 月 19 日	その他事業主体	・地球温暖化活動推進センターの第 2 回中部ブロック会議 1/26 に EPO 中部の情報提供をしてほしい	・対応を了承、中部地方 ESD 活動支援センターの今年度の取組をベースに情報提供をオンラインで 15～20 分程度実施	
37	1 月 26 日	自治体	・来年度のプロポーザル選定委員を依頼したい	・1/30 に来所、内容の説明をいただく、選定委員派遣を了承。 ・評価は書類審査で行う旨承諾 ・事業提案の評価方法、評価基準について意見交換。	
38	2 月 7 日	企業	・会社の新規事業として「農業・食・環境」をテーマにした体験学習を展開したいが、ネットワークづくりや体験学習（授業）をしてもらえる人材（探し）など、対面で相談して情報をいただきたい。	・2/7 に電話があり、対面相談の日程調整を行った。 ・2/15 に来所し、今後オープン予定の環境教育施設について説明していただき、施設で実施する環境教育プログラムの企画・講師等で連携できる団体・人材の紹介について相談をうけた。自治体の環境教育プログラムの登録制度などを紹介したほか、ESD、ゼロカーボン、地域循環共生圏等についての情報提供も行った。	
39	3 月 16 日	その他事業主体	・あいち環境塾の中級コース R5 年度にて受講者向けに一コマ「地域循環共生圏」について講演をお願いしたい。	・今年度同様派遣を了承。 ・日程については別途調整する。	
40	3 月 17 日	自治体	・環境配慮行動促進事業についてプロポーザル委員をお願いしたい	・委員就任を了承。 ・事業内容とスケジュールについて確認。	

②来館による相談・照会、資料配架依頼等

月	件数	相談・問合せ内容
4 月	7 件	・市民団体に EPO 紹介 ・環境教育関連セミナーの広報依頼 ・セミナーチラシ配架依頼及び情報収集 ・一般の方から寄付金/過払金に関する相談 ・GEOC との情報交換 ・自治体との諮問委員依頼と情報交換 ・情報収集
5 月	3 件	・企業から SDGs 関連イベントに係る相談 ・高校生インターン受入れに係る相談 ・資源循環に関する情報交換
6 月	8 件	・藤前干潟教員向けプログラム講演依頼内容打合せ ・自治体と SDGs とゼロカーボンについての意見交換 ・環境学習コーディネート事業について打合せ ・NPO との情報交換 ・関係機関との情報交換 ・情報収集（3 件）
7 月	4 件	・環境イベントチラシ配架依頼 ・情報収集 ・JCCCA との情報交換 ・環境省の備品確認
8 月	3 件	・インターン（高校生受入）（2 件） ・協働コーディネーターとの情報交換
9 月	1 件	・設計業者による施設確認
10 月	3 件	・錦 2 丁目 SDGs WEEKs（資料収集） ・全国温暖化防止活動推進センターの方がご挨拶 ・錦 2 丁目 SDGs WEEKs（スモールゼミ）
11 月	2 件	・情報収集（2 件）
12 月	2 件	・自治体と環境教育研修会についての相談 ・脱炭素についての情報収集
1 月	3 件	・自治体から水環境関連のシンポジウムへのパネリスト登壇に関する相談（2 件） ・自治体から SDGs まちづくり推進事業の企画提案に対する評価委員の依頼について
2 月	4 件	・会計検査（施設視察） ・協働コーディネーター及び NPO ネットワーク団体との情報交換 ・広報協力依頼（チラシのお届け） ・農業体験施設で実施する環境教育プログラム・講師についての照会
3 月	3 件	・情報収集（2 件） ・自治体から環境配慮行動促進事業の企画提案に対する評価委員の依頼
計	**43 件**	

③メール・電話による相談、問合せ、広報依頼等

月	件数	相談・問合せ内容
4 月	15 件	・新規 PF 採択団体からの問合せ電話 ・自治体から環境イベント実行委員会開催についての電話 ・企業から環境学習推進事業の広報 PR について相談のメール ・企業から助成金事業の情報掲出依頼のメール ・企業から助成金事業のメルマガ掲載依頼のメール ・企業から広報 PR 原稿について問合せのメール ・企業から SDGs イベントへの出展の依頼の電話 ・自治体から生物多様性に関する制度の広報依頼の電話 ・企業から環境保全助成金の募集について広報依頼の電話 ・自治体から温暖化対策協議会の委員に係る相談のメール ・一般社団から SDGs 関連資料について問合せの電話 ・NPO 法人から環境ボランティア募集について広報依頼のメール ・県環境学習講師募集の広報協力依頼のメール ・財団から支援事業について広報協力依頼の電話 ・企業から SDGs チェックリストについて問合せのメール

月	件数	相談・問合せ内容
5月	19件	・NPO法人から高校生のインターンシップ受入について相談の電話（2件） ・自治体から環境課題を解決する学生の募集について広報依頼のメール ・自治体からユネスコスクール支援会合に関する依頼についての電話 ・金融機関から環境関係の助成金について広報依頼のメール ・企業からSDGsイベント出展の資料メール ・自治体からユネスコスクール支援会合の日程調整の電話 ・NPOからオンライン講座等の広報依頼の電話 ・NPO法人から高校生のインターンシップ受入の相談日程調整についてのメール ・NPO法人から教員向け研修の講師依頼についてのメール ・産業廃棄物の法令順守・行政指導に関する問合せの電話 ・NPO法人から（別の）高校のインターンシップ受け入れの可否についての電話連絡 ・企業からSDGs資料の閲覧・入手の可否についての確認の電話 ・企業から生物多様性関連事業について広報依頼のメール ・企業から生物多様性関連事業について画像提供と原稿確認のメール ・ESD関連の刊行物について問合せの電話 ・一般社団法人からツール（マニュアル・報告書）公開について広報依頼のメール ・公益社団法人からオンラインイベントについてメルマガ掲載依頼のメール ・企業からESD拠点登録について質問の電話
6月	19件	・一般の方からペットのマイクロチップに関する問合せの電話 ・2014年度発行ESD冊子についての問合せ ・大学関係者からweb掲載記事について加筆修正依頼のメール ・一般社団法人から脱炭素シンポジウムについて周知依頼のメール ・自治体から協議会委員の推薦依頼についてのメール ・公益財団法人から里地モニタリング調査の広報協力についてのメール ・NPO法人から高校のインターンシップ受入に関する実施要項の内容確認についてのメール ・NPO法人から助成金の応募について広報依頼のメール ・環境関係団体から顕彰事業、研究者募集等の事業についてメルマガ掲載依頼のメール ・公益財団法人からメールマガジン掲載号について要望のメール ・大学からSDGs未来都市の分析結果報告会への協力依頼メール ・運営委員から自治体によるSDGsイベントへ協力の可否についての問合せ電話 ・環境関係団体からシンポジウムの広報協力について依頼のメール ・公益財団法人からweb掲載チラシ差替依頼のメール ・自治体からメルマガ配信先変更についてのメール ・自治体からイベント広報協力依頼の電話 ・経済団体からSDGs取組に関わる相談について問合せの電話 ・金融機関から企業のSDGs相談受付についての問合せの電話 ・NPOからボランティア募集の広報協力依頼のメール
7月	12件	・自治体から地球温暖化防止対策にかかる協議会開催についてのメール ・NPO法人から高校生インターンシップ受入に関する資料についてのメール ・インターンシップの高校生から挨拶等の電話 ・自治体から地球温暖化対策実行計画協議会に関するメール（2件） ・企業からフォーラム展示会（出展）に関するメール ・一般社団法人から省エネ関連イベントについて広報依頼のメール ・企業からフォーラム登壇依頼の電話 ・企業からフォーラムのブース出展に関する資料提供等のメール ・企業からフォーラムのブース出展に関する確認の電話 ・企業から太陽光発電設備のカーポート設置の補助金について問合せの電話 ・企業からフォーラムの入場登録等に関する電話
8月	5件	・協働コーディネーターから自治体の脱炭素関連事業への協力依頼の電話 ・主催イベント申込方法について問合せの電話 ・協働コーディネーターから自治体の脱炭素関連事業への協力依頼のメール ・協働コーディネーターから来館について問合せの電話 ・主催イベントの資料について問合せの電話
9月	19件	・公益財団法人から助成金募集の広報依頼のメール ・ほかの地方EPOからの問合せ電話 ・公益財団法人から事業広報依頼のメール ・公益財団法人から情報提供のメール ・自治体から環境イベントの報告等についてのメール ・中学校から公開動画に関する問合せのメール ・自治体からOECMについて問合せの電話（2件）

月	件数	相談・問合せ内容
		・公益社団法人から人材育成事業募集の広報先にかかる相談の電話 ・国交省の補助金についての問合せ電話 ・地域協働による教育関係の講師照会の問合せメール ・NPO から気候マーチ開催についてご案内のメール ・NPO 法人から助成金関連セミナーについて広報協力依頼のメール ・行政機関から自然保護関係職員募集について広報協力依頼のメール ・行政機関からエシカル関係者紹介の依頼メール ・自治体から OECM について問合せ ・自治体から SDGs イベントの企画協力についての依頼の電話・メール ・主催イベント申込確認・取消の電話 ・NPO 法人からボランティア募集について広報協力依頼のメール
10 月	11 件	・主催イベント申込について取消連絡のメール ・公益財団法人から自然保護に関する助成金募集について情報提供のメール ・主催イベント出席者変更に関するメール ・公益社団法人から助成金事業の広報協力依頼のメール ・公益社団法人から web 掲載内容修正依頼のメール ・公益財団法人から催事広報協力依頼のメール ・社会福祉法人から助成事業について広報協力依頼のメール ・自治体から白書を読む会のブログ記事、録画動画の公開に向けた内容確認の依頼メール ・自治体から SDGs イベントの集客相談の電話 ・協働コーディネーターから環境省への脱炭素ヒアリングの日程調整の依頼電話・メール ・企業から脱炭素×協働をテーマにしたイベントでの普及啓発ツールの入手について相談の電話
11 月	16 件	・協働コーディネーターから中部事務所ヒアリング項目についてメール報告 ・関東 ESD センターから学生サミットの登壇学生募集についての問合せ電話 ・11/8OECM 情報交換会の出席者からの電話問合せ（2 件） ・NPO 法人から中学生の職場訪問プログラムについて相談のメール ・自治体から共催イベントの動画、ブログ記事アップのお知らせメール ・一般の方から太陽光パネル（メリット・デメリット）について問合せの電話 ・自治体から環境関連イベントについて web 掲載依頼の電話とメール ・自治体から生物多様性登録制度の広報協力と登録依頼 ・一般の方からごみ分別について問合せの電話 ・公益財団法人から訪問希望について問合せの電話とメール ・企業から SDGs 関連行事について告知協力依頼の電話とメール ・主催イベント申込について問合せの電話（2 件） ・企業から SDGs 関連行事について掲示資料送付のメール ・自治体から環境関連研修について広報協力依頼のメール
12 月	16 件	・地域 ESD 拠点団体から主催フォーラムについての問合せ電話 ・公益財団法人から里地調査関連催事について広報協力依頼のメール ・企業から環境保護助成金について広報協力依頼のメール ・自治体から環境学習の研修会講師について問合せの電話 ・大学から主催イベントエントリーについて問合せの電話とメール ・協働コーディネーターから環境団体との交流会について依頼メール ・大学から主催イベントエントリーについてメール ・自治体から主催セミナーについての問合せ電話 ・大学生から SDGs 学生サミット事前打合せについてメール（2 件） ・主催イベント申込者から問合せの電話 ・公益財団法人から助成金事業について広報協力依頼のメール ・イベント協力者（ジオパーク協議会）からオンライン配信の方法で問合せ電話 ・独立行政法人から催事広報協力依頼のメール ・任意団体から表彰事業（環境省国民運動に登録）について広報協力依頼のメール ・NPO から募集事業の締切延長について広報協力依頼のメール
1 月	22 件	・協働コーディネーターから脱炭素ミーティング参加依頼のメール ・協働コーディネーターから交流会のご案内メール ・地球温暖化防止活動推進員から SDGs チェックリストの無償配布及びデータ提供について問合せのメール ・自治体から施設利用について問合せの電話 ・企業から主催催事について問合せの電話 ・自治体から催事のパネリスト登壇にかかる説明の訪問日程について相談のメール ・NPO から主催講座についてメルマガ掲載依頼のメール

月	件数	相談・問合せ内容
		・一般財団法人からオンライン会議の催事について案内及び周知依頼のメール ・主催イベント申込について問合せの電話 ・主催イベント申込者から参加方法等に関する問合せのメール(6 件) ・主催イベントの録画公開に関する問合せのメール ・主催イベントの後日公開に関する問合せのメールと電話（2 件） ・自治体から SDGs 関連の相談の電話 ・自治体から SDGs 関連事業の評価に関する相談のメール ・企業から主催イベントの閲覧資料に関する問合せのメール ・企業から主催イベント録画の事後配信に関する問合せの電話
2 月	13 件	・主催イベントについて共催機関からの問合せ電話 ・PF 事業令和５年度公募に対する問合せ電話 ・自治体から川の流域連携シンポジウムの企画相談に関するメール ・企業から主催イベント録画公開について問合せの電話とメール（2 件） ・公益財団法人から主催イベントの広報協力依頼の電話 ・ESD 関連団体から施設の英語表記に関する照会のメール ・企業から環境関連の体験学習について相談・来館希望の電話 ・新聞社から OECM についての問合せの電話 ・PF 団体から提出物についての問合せ電話（2 件） ・自治体から後援名義使用の催事に関する案内のメール ・自治体からシンポジウムコーディネーター依頼に関するメール
3 月	33 件	・一般の方から ESD センターに関する質問の電話 ・金融機関から主催セミナー資料について問合せのメール ・金融機関から主催セミナーについて問合せの電話・メール(3 件) ・企業から主催セミナーについて問合せのメール（3 件） ・NPO から助成事業について広報依頼のメール ・一般の方から工事の騒音・ダスト発生の場合の対応についての問合せの電話 ・行政から主催セミナーについて問合せの電話 ・企業から主催セミナー申込について問合せのメール（2 件） ・セミナー視聴に関する問合せのメール及び電話（17 件） ・企業から主催フォーラムについて広報協力依頼の電話 ・EPO 東北から、EPO 中部来訪の日程調整の電話 ・EPO 九州から、愛知県内の企業からの SDGs・同時解決等の概説依頼についての連絡（電話・メール）
計	**200 件**	

イ 対話の体制の構築

（ア） 会議・セミナー等地域活動への招聘

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターが自治体・団体等から招聘された会議等は次表の通りである。
- 会議出席のほか、講師としての登壇など、関係主体の依頼に対し適宜対応した。
- これらの会議等への出席を通じて、地域での協働体制の構築及びノウハウの蓄積を行った。なお、開催地域については事務所担当官に報告し、調整を行った。

	県区分	開催日	依頼主体等	依頼事業の名称	依頼／対応内容	方法	謝金
1	愛知	4 月 14 日	名古屋市環境局環境企画部環境企画課	「環境デーなごや」実行委員会	委員	対面	あり
2	愛知	5 月 13 日	名古屋市環境局環境企画課施策推進係	SDGs まちづくり推進事業支援業務委託プレゼンテーション	事業プロポーザル評価委員	対面	あり
3	愛知	5 月 19 日	名古屋市環境局環境企画課施策推進係	木材の利用促進事業プレゼンテーション	事業プロポーザル評価委員	オンライン	あり
4	愛知	6 月 14 日	愛知県教育委員会社会教育課	愛知県ユネスコスクール支援会議	委員	対面	あり
5	その他	6 月 23 日	ESD 活動支援センター（全国センター）	第 1 回運営委員会	委員	オンライン	なし
6	愛知	6 月 28 日	愛知県環境測定分析協会	環境月間講演会	講師	オンライン	あり
7	長野	6 月 29 日	松本大学田開研究室	外部講師授業	講師	対面	あり
8	その他	7 月 6 日	専修大学岩尾研究室	SDGs研究学生発表会	コメンテーター	オンライン	あり
9	愛知	7 月 21 日	東海市ゼロカーボン戦略室	東海市地球温暖化対策実行計画協議会	委員	対面	あり
10	中部	7 月 27 日	地球温暖化防止活動推進センター	地球温暖化防止活動推進センター中部ブロック会議・研修会	EPO 中部説明登壇	オンライン	なし
11	愛知	7 月 28 日	岡崎市、岡崎商工会議所	脱炭素経営セミナー	講演	対面	あり
12	長野	7 月 30 日	松本大学田開研究室	ローカル SDGs 指標を用いた学習会プレイベント	話題提供者	対面	なし
13	愛知	8 月 8 日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	事業者支援調整連絡会（豊田市省エネ）	会議メンバー	対面	あり
14	長野	8 月 20 日	信州 ESD コンソーシアム	令和 4 年度総会	メンバー	オンライン	なし
15	愛知	8 月 23 日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	豊田省エネプレセミナー	話題提供者	対面	あり
16	愛知	8 月 24 日	アサヒ飲料中部北陸支社	SDGs 将来世代創造フォーラム	出展	その他	なし
17	愛知	8 月 24 日	アサヒ飲料中部北陸支社	SDGs 将来世代創造フォーラム	学生取組、弁論大会の講評	対面	なし
18	その他	8 月 27 日	日本環境教育学会	日本環境教育学会　第 33 回年次大会　公開シンポジウム	シンポジウム参加	対面	なし
19	その他	8 月 28 日	日本環境教育学会	日本環境教育学会　第 33 回年次大会　研究発表、研究集会	口頭発表、研究集会参加	対面	なし
20	愛知	8 月 29 日	大府市環境課	中小企業向け省エネセミナー	講師	対面	あり
21	その他	9 月 7 日	全国温暖化防止活動推進センター	JCCCA オンラインセミナー	セミナー参加	オンライン	なし
22	愛知	9 月 12 日	大府市環境課	中小企業向け省エネセミナー	講師	対面	あり
23	愛知	9 月 17 日	名古屋産業科学研究所	あいち環境塾中級講座	講師	対面	あり
24	中部	9 月 22 日	温暖化防止活動推進センター中部ブロック	脱炭素経営セミナー・事業者の脱炭素経営入門	セミナー参加	オンライン	なし
25	その他	9 月 24 日	日本環境共生学会	公開シンポジウム「都市と気候変動」	シンポジウム参加	オンライン	なし
26	その他	9 月 25 日	日本環境共生学会	日本環境共生学会 2022 年度学術大会	口頭発表、発表会参加	対面	あり
27	その他	9 月 24 日	次世代 SDGs 研究会事務局	次世代 SDGs 研究会	話題提供者	オンライン	なし
28	石川	9 月 27 日	北陸 ESD 推進コンソーシアム	令和 4 年度第1回北陸ESD推進連絡協議会	委員	オンライン	なし
29	愛知	9 月 29 日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	愛知県地球温暖化防止活動推進員研修	ワークショップサポート	対面	あり
30	愛知	10 月 7 日	あいち SDGsEXPO 実行委員会	あいち SDGsEXPO	展示会参加	対面	なし
31	長野	10 月 7 日	松本大学田開研究室	ローカル SDGs 地域づくり学習会第 1 回	話題提供者	対面	なし
32	愛知	10 月 11 日	東海市ゼロカーボン戦略室	東海市地球温暖化対策実行計画協議会	委員	対面	あり

	県区分	開催日	依頼主体等	依頼事業の名称	依頼／対応内容	方法	謝金
33	愛知	10 月 19 日	岡崎市、岡崎商工会議所	岡崎市中小企業省エネセミナー	話題提供者	対面	あり
34	愛知	10 月 20 日	大府市環境課	中小企業向け省エネ啓発動画収録	話題提供者	対面	あり
35	長野	10 月 21 日	松本大学田開研究室	ローカル SDGs 地域づくり学習会第 2 回	勉強会参加	対面	なし
36	その他	10 月 27 日	北海道 ESD 活動支援センター	気候変動教育勉強会第8回	セミナー参加	オンライン	なし
37	愛知	11 月 2 日	西尾市環境保全課	中小企業のための省エネ実践セミナー	話題提供者	対面	あり
38	長野	11 月 4 日	松本大学田開研究室	ローカル SDGs 地域づくり学習会第 3 回	勉強会参加	対面	なし
39	愛知	11 月 7 日	学校法人愛知江南学園誠信高校	環境問題について授業	講師	対面	あり
40	愛知	11 月 9 日	みよし市ゼロカーボン推進室	企業・事業所のための省エネ実践セミナー	話題提供者	対面	あり
41	長野	12 月 2 日	松本大学田開研究室	ローカル SDGs 地域づくり学習会第 5 回	勉強会参加	対面	なし
42	愛知	12 月 2 日	名古屋市立極楽小学校トワイライトスクール	子ども省エネ教室	講師	対面	あり
43	石川	12 月 3 日	北陸 ESD 推進コンソーシアム	北陸ユネスコスクール実践交流会	開会挨拶	オンライン	なし
44	愛知	12 月 13 日	愛知県教育委員会社会教育課	愛知県ユネスコスクール支援会議第 2 回	委員	対面	あり
45	愛知	12 月 13 日	中部圏 SDGs 広域プラットフォーム	第 3 回 SDGs フェスティバル in 名古屋丸の内	セミナー参加、展示会視察交流	対面	なし
46	長野	12 月 16 日	松本大学田開研究室	ローカル SDGs 地域づくり学習会第 6 回	勉強会参加	対面	なし
47	長野	12 月 17 日	中部大学国際 GIS センター	エコハウス金山デッキ見学会（茅野市所在）	視察会参加	対面	なし
48	愛知	12 月 19 日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	豊田市脱炭素スクールオープン講座：エネルギー高騰対策を考える省エネ実践手法体感講座	話題提供、ワークショップファシリテーター	対面	あり
49	長野	1 月 6 日	松本大学田開研究室	ローカル SDGs 地域づくり学習会第 7 回	勉強会参加	対面	なし
50	愛知	1 月 19 日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	気候危機対策交流フォーラム「未来に向けた地域づくりを考える」	トークセッションコーディネーター	対面	あり
51	長野	1 月 20 日	松本大学田開研究室	ローカル SDGs 地域づくり学習会第 8 回	勉強会参加	オンライン	なし
52	中部	1 月 26 日	全国地球温暖化防止活動推進センター	地球温暖化活動推進センター第 2 回中部ブロック会議	話題提供者	オンライン	なし
53	長野	1 月 27 日	松本大学田開研究室	ローカル SDGs 地域づくり学習会第 8 回	勉強会参加	対面	なし
54	愛知	2 月 10 日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	愛知県地球温暖化防止調整会議	会議メンバー	対面	なし
55	愛知	2 月 15 日	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	事業者支援調整連絡会（豊田市省エネ）	会議メンバー	対面	あり
56	愛知	2 月 23 日	「いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト」推進委員会	いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト～ 地域対話フォーラム 2023 in Aichi ～	フォーラム参加	対面	なし
57	三重	2 月 26 日	日本環境教育学会中部支部	公開シンポジウム	シンポジウム参加	対面	なし
58	三重	2 月 26 日	日本環境教育学会中部支部	実践研究発表会	実践研究発表	対面	なし
59	愛知	2 月 28 日	愛知県環境局環境政策部環境活動推進課環境学習グループ	環境学習の普及・定着に向けた市町村職員研修会	講師、ワークショップファシリテーター	対面	あり
60	愛知	3 月 3 日	半田市市民経済部環境課	中小企業向け省エネセミナー：演題「SDGs 時代の脱炭素経営」	講師	対面	あり
61	愛知	3 月 4 日	半田市市民経済部環境課	エコライフセミナー「気候危機とライフスタイルを考える!」	講師	対面	あり
62	愛知	3 月 10 日	半田市市民経済部環境課	中小企業向け省エネセミナー：演題「SDGs 時代の脱炭素経営」	講師	対面	あり

（イ） そのほか打合せや地域主体との意見交換会等の実施

- セミナー・フォーラム等の主催行事を実施する際には、関係自治体や関係団体等を訪問し、意見交換・情報交換、及び相談対応等を行った。

	県区分	実施日	打合せ主体（担当組織・部署）	方法	実施内容
1	石川	4 月 20 日	PF 七尾（ななお SDGs スイッチ）	面談	PF 事業の打合せ
2	その他	4 月 22 日	GEOC	面談	新スタッフの挨拶、業務の情報交換
3	中部	4 月 27 日	中部地方環境事務所　自然統括（企画官）	面談	森里川海ネットワーク形成会合の打合せ
4	愛知	4 月 28 日	なごや環境大学、中部地方環境事務所	面談	環境白書を読む会の打合せ
5	愛知	5 月 6 日	アサヒ飲料(株)	面談	展示会イベントの意見交換
6	その他	5 月 9 日	総合地球環境学研究所　木原先生	オンライン	学び合いの場①の登壇依頼と企画意見交換
7	中部	5 月 10 日	ESD/EPO 運営委員・伊藤先生	オンライン	ESD/EPO 運営委員会第1回会議の事前打合せ
8	福井	5 月 12 日	PF 丹南（ローカル SD クリエーション）	面談	PF 事業の打合せ、評価指標の打合せ
9	福井	5 月 18 日	勝山ジオパーク	面談	ESD ダイアログ打合せ
10	福井	5 月 18 日	大野市	面談	学び合いの場②打合せ

	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
11	福井	5 月 18 日	坂井市	面談	学び合いの場②打合せ
12	愛知	5 月 23 日	アスクネット	面談	インターン受け入れ打合せ
13	長野	5 月 26 日	諏訪広域脱炭素イノベーション協議会	面談	地域循環共生圏フォーラム等についての打合せ
14	長野	5 月 27 日	PF 大町(荒山林業)	面談	PF 事業の打合せ
15	愛知	5 月 30 日	愛知県自然環境課、中部地方環境事務所	面談	森里川海業務の打合せ
16	中部	5 月 30 日	中部地方環境事務所資源循環課	面談	資源循環の取組の情報交換
17	愛知	6 月 1 日	藤前干潟を守る会、名古屋市環境企画課	面談	講演ワークショップ打合せ
18	石川	6 月 1 日	PF 七尾(ななお SDGs スイッチ)	面談	連絡会議に出席
19	福井	6 月 9 日	勝山市	オンライン	ESD ダイアログ打合せ
20	福井	6 月 18 日	PF 丹南(ローカル SD クリエーション)	面談	PF 団体主催エコツアー検証イベントに参加
21	福井	6 月 22 日	勝山市	面談	ESD ダイアログ打合せ
22	愛知	6 月 30 日	岡崎市、岡崎商工会議所	面談	講演依頼打合せ
23	長野	7 月 12 日	長野県 NPO センター	面談	協働取組実践活動業務打合せ
24	長野	7 月 13 日	諏訪広域脱炭素イノベーション協議会	面談	地域循環共生圏フォーラムについての打合せ
25	長野	7 月 19 日	諏訪広域脱炭素イノベーション協議会	オンライン	地域循環共生圏フォーラムについての打合せ
26	長野	7 月 20 日	PF 大町(荒山林業)	面談	PF 事業の打合せ
27	福井	7 月 28 日	PF 丹南(ローカル SD クリエーション)	面談	PF 事業の打合せ
28	長野	7 月 31 日	飯田市ゼロカーボン推進室他	面談	地域自治と SDGsについて意見交換
29	長野	8 月 5 日	諏訪広域脱炭素イノベーション協議会	オンライン	地域循環共生圏フォーラムについての打合せ
30	中部	8 月 18 日	東京大学/江守先生、他	オンライン	学び合い①の打合せ
31	中部	8 月 22 日	名古屋大学/杉山先生、他	オンライン	学び合い②の打合せ
32	中部	8 月 30 日	中部地方環境事務所　自然統括(企画官)	面談	森里川海ネットワーク形成会合の打合せ
33	石川	8 月 31 日	PF 七尾(ななお SDGs スイッチ)	面談	PF 事業の打合せ
34	愛知	9 月 2 日	なごや環境大学、中部地方環境事務所	オンライン	環境白書を読む会の打合せ
35	長野	9 月 5 日	長野 NPOセンター	オンライン	芋井地区見える化 P 分析打合せ
36	長野	9 月 7 日	PF 大町(荒山林業)、長野県北アルプス地域振興局林務課	面談	PF 事業中間共有会(エクスカーション等)についての打合せ
37	福井	9 月 12 日	元・福井県自然環境課長、PF 丹南(ローカル SD クリエーション)	面談	丹南エリアの若手活動主体についての情報交換
38	三重	9 月 21 日	尾鷲市(おわせ SEA モデル協議会)	面談	PS 基盤強化:尾鷲会合の企画打合せ
39	石川	9 月 22 日	PF 七尾(ななお SDGs スイッチ)	面談	PF 事業 SH ミーティング
40	福井	9 月 27 日	大野市くらし環境部環境水循環課	面談	学び合いプロジェクト実践セミナー打合せ
41	福井	9 月 27 日	勝山市商工文化課エコジオパーク推進係	面談	ダイアログ打合せ
42	福井	9 月 27 日	PF 丹南(ローカル SD クリエーション)	面談	PF 事業の打合せ
43	中部	9 月 29 日	中部地方環境事務所　自然統括(企画官)	面談	森里川海ネットワーク形成会合の打合せ
44	愛知	10 月 3 日	豊田市環境政策課	面談	脱炭素ワークショップ企画打合せ
45	長野	10 月 4 日	PF 小布施(スマートテロワール協会)	面談	PS 基盤強化:小布施会合の企画打合せ
46	愛知	10 月 18 日	誠信高校	面談	環境講座の打合せ
47	中部	10 月 20 日	中部地方環境事務所	オンライン	脱炭素セミナー開催企画の打合せ
48	三重	10 月 21 日	尾鷲市(おわせ SEA モデル協議会)	面談	PS 基盤強化イベント打合せ
49	福井	10 月 27 日	PF 丹南(ローカル SD クリエーション)	面談	PF 事業の打合せ
50	中部	11 月 7 日	中部地方環境事務所　自然統括(企画官)	オンライン	11/8OECM 情報交換会の事前打合せ
51	中部	11 月 11 日	ESD ダイアログ登壇者、関係者	オンライン	11/26-27ESD ダイアログの事前打合せ
52	中部	11 月 14 日	ESD ダイアログ登壇者、関係者	オンライン	11/26-27ESD ダイアログの事前打合せ
53	中部	11 月 14 日	実践セミナーWS 関係者	オンライン	実践セミナーWS 打合せ
54	愛知	11 月 14 日	日進高校	面談	高校カリキュラム意見交換
55	中部	11 月 15 日	中部地方環境事務所　自然統括(企画官)	オンライン	1/25OECM フォーラムの打合せ
56	中部	11 月 16 日	中部地方環境事務所	オンライン	脱炭素セミナー開催企画の打合せ
57	長野	11 月 19 日	諏訪市文化センター	面談	11/23 諏訪フォーラムの会場との打合せ
58	愛知	12 月 7 日	愛知県環境局環境政策部自然環境課	面談	自治体職員研修会相談対応
59	中部	12 月 12 日	中部地方環境事務所　自然統括(企画官)	オンライン	OECM フォーラムの打合せ
60	福井	12 月 12 日	PF 丹南(ローカル SD クリエーション)	面談	PF 事業、PS 基盤強化会合の打合せ
61	石川	12 月 12 日	PF 七尾(ななお SDGs スイッチ)	面談	PF 事業の打合せ
62	愛知	12 月 13 日	日進高校	面談	高校カリキュラム意見交換
63	中部	12 月 21 日	中部地方環境事務所	面談	脱炭素セミナー(東海)の打合せ
64	三重	12 月 23 日	おわせ SEA モデル協議会(尾鷲市、中部電力、尾鷲商工会議所)	面談	PS 基盤強化:尾鷲会合打合せ
65	三重	12 月 26 日	いなべ市企画部政策課	面談	SDGs 学生サミット登壇依頼打合せ
66	福井	12 月 26 日	さばえ SDGs 推進センター	面談	SDGs 学生サミット登壇依頼打合せ
67	長野	12 月 27 日	大町市企画財政課	面談	SDGs 学生サミット登壇依頼打合せ
68	長野	12 月 27 日	PF 大町(荒山林業)	面談	年末挨拶、スケジュール確認、意見交換
69	中部	1 月 4 日	中部地方環境事務所	面談	脱炭素セミナー(東海)の打合せ
70	中部	1 月 10 日	信州大学学生発表グループ	オンライン	学生サミット学生発表グループ事前会合:信州大学
71	中部	1 月 10 日	富山大学学生発表グループ	オンライン	学生サミット学生発表グループ事前会合:富山大学
72	中部	1 月 10 日	静岡大学学生発表グループ	オンライン	学生サミット学生発表グループ事前会合:静岡大学
73	中部	1 月 10 日	岐阜大学学生発表グループ	オンライン	学生サミット学生発表グループ事前会合:岐阜大学

	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
74	愛知	1 月 10 日	名古屋市上下水道局経営企画課	面談	計画中の次年度シンポジウムについて意見交換
75	その他	1 月 11 日	地方 ESD 活動支援センター有志	オンライン	学び合い P 可視化お試しプロット MTG
76	中部	1 月 12 日	ESD/EPO 運営委員　伊藤先生	オンライン	ESD/EPO 運営委員会第2回会議の事前打合せ
77	中部	1 月 12 日	中部地方環境事務所　自然統括(企画官)	オンライン	OECM フォーラムの打合せ
78	愛知	1 月 16 日	名古屋市上下水道局経営企画課	面談	計画中の次年度シンポジウムについて意見交換
79	中部	1 月 16 日	金沢星陵大学学生発表グループ	オンライン	学生サミット事前会合:金沢星陵大学
80	中部	1 月 17 日	愛知教育大学学生発表グループ	オンライン	学生サミット事前会合:愛知教育大学
81	中部	1 月 17 日	松本大学学生発表グループ	オンライン	学生サミット学生発表グループ事前会合:松本大学
82	福井	1 月 18 日	日本政策金融公庫武生支店	面談	PS 基盤強化:丹南会合の登壇依頼と打合せ
83	福井	1 月 18 日	PF 丹南(ローカル SD クリエーション)	面談	PF 事業 SH ミーティング
84	中部	1 月 30 日	学生サミットディスカッションファシリテーター	オンライン	学生サミットディスカッション打合せ
85	愛知	1 月 30 日	名古屋市環境企画課	面談	プロポーザル委員派遣と評価方法打合せ
86	長野	2 月 6 日	PF 大町(荒山林業)	オンライン	PF 事業の打合せ
87	石川	2 月 8 日	ななお SDGs スイッチ	オンライン	PF 事業の打合せ
88	福井	2 月 8 日	PF 丹南(ローカル SD クリエーション)	オンライン	PF 事業の打合せ
89	中部	2 月 9 日	日本環境 NPO ネットワーク東海・北信越ブロック	面談	情報交換・ヒアリング
90	愛知	2 月 13 日	愛知県東浦町立緒川小学校	その他	学校参観、取材と意見交換
91	愛知	2 月 14 日	愛知県東浦町立緒川小学校	面談	教職員ヒアリング
92	愛知	2 月 14 日	愛知教育大学	面談	ESD 専門家ヒアリング
93	長野	2 月 19 日	松本大学	面談	教職員ヒアリング
94	富山	2 月 24 日	PEC 富山	その他	行動変容ヒアリング
95	福井	2 月 24 日	アルマス・バイオコスモス研究所	オンライン	行動変容ヒアリング
96	中部	2 月 24 日	中部地方環境事務所	面談	脱炭素セミナー(東海)の打合せ
97	中部	3 月 1 日	脱炭素セミナー(東海)のファシリテーター　杉山先生(名古屋大学特任准教授)	オンライン	脱炭素セミナー(東海)の打合せ
98	中部	3 月 7 日	脱炭素セミナー(信州)のファシリテーター　中島先生(信州大学特任教授)	オンライン	脱炭素セミナー(信州)の打合せ
99	愛知	3 月 17 日	名古屋市環境局環境企画課	面談	環境配慮行動促進事業の企画提案に対する評価委員の依頼

ウ 定例報告

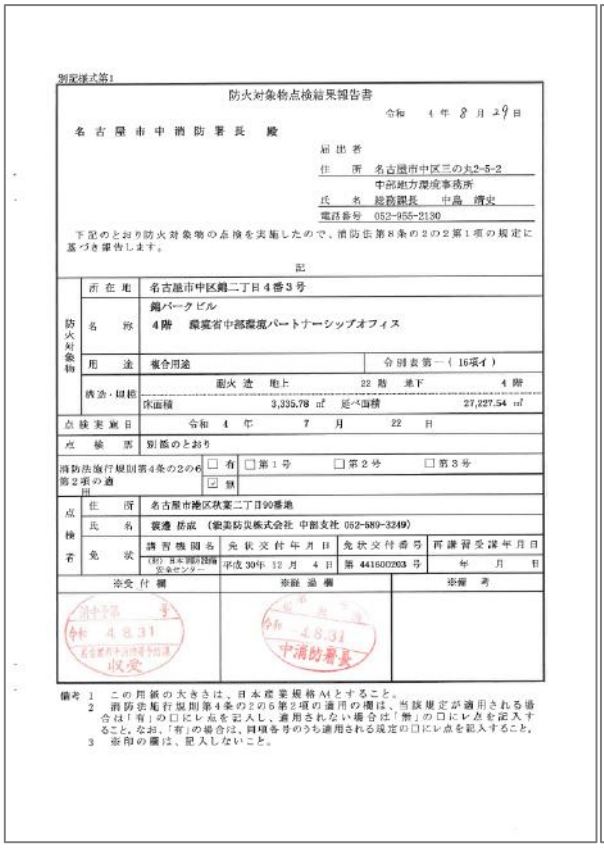
- 前項の対話の構築等に関わる審議会・委員会・検討会・会議等（他の団体が主体のもの）への EPO 中部による出席状況や相談対応状況のほか、EPO 施設の運営・利用状況等については、毎月、中部地方環境事務所へ提出、報告を行った。

(3) 施設の維持・管理

ア オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理

- 防火・防災管理については、法規定に則り、2018 年度に常勤スタッフが「防火・防災管理者」講習を受講した上で消防計画書等を作成の上、管轄消防署への届出を行った。
- 防火・防災に関わる身のまわりのチェックを、定期的に（週２回程度）実施しているほか、関係書類等を「防火管理台帳」で保管し、各種届出等関係書類は適宜、中部地方環境事務所へも提示・確認を行っている。
- ビル内全テナントを対象にした防火・防災検査が 7 月 22 日に実施され、ビル管理会社を通して、中部地方環境事務所による記名済みの検査結果書類を 8 月 29 日付で消防署へ提出し、受理された。
- いずれの関係書類等も「防火管理台帳」による保管を行っており、また、各種届出等関係書類は、中部地方環境事務所へも提示・確認を行っている。

【防火・防災管理点検結果報告書】



別記様式第1

防火対象物点検結果報告書

令和 4年 8月 29日

名古屋市中消防署長 殿

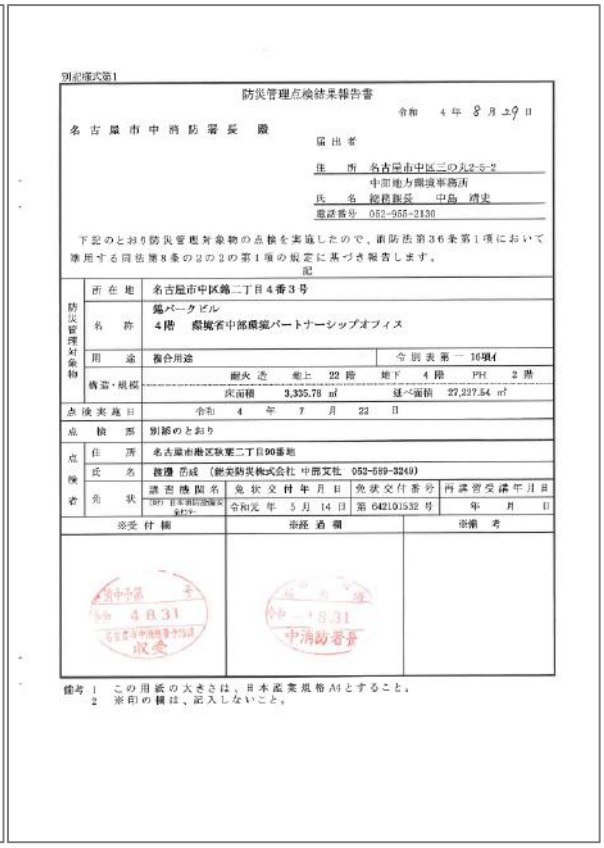
届出者
住所 名古屋市中区三の丸2-5-2
中部地方環境事務所
氏名 総務課長 中島 清史
電話番号 052-955-2130

下記のとおり防火対象物の点検を実施したので、消防法第8条の2の2第1項の規定に基づき報告します。

記

防火対象物	所在地	名古屋市中区錦二丁目4番3号
	名称	錦パークビル 4階 環境省中部環境パートナーシップオフィス
	用途	複合用途　令別表第一（16項イ）
	構造・規模	耐火造 地上 22 階 地下 4 階 床面積 3,335.78 ㎡ 延べ面積 27,227.54 ㎡
点検実施日		令和 4 年 7 月 22 日
点検部		別紙のとおり
消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用		□ 有 □第1号 □第2号 □第3号 ☑ 無
点検者	住所	名古屋市港区秋葉二丁目90番地
	氏名	渡邊 浩成（能美防災株式会社 中部支社 052-589-3249）
	免状	講習機関名：(財)日本消防設備安全センター　免状交付年月日：平成30年 12 月 4 日　免状交付番号：第 441600203 号　再講習受講年月日：年 月 日
※受付欄		※経過欄	※備考

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用の欄は、当該規定が適用される場合は「有」の□にレ点を記入し、適用されない場合は「無」の□にレ点を記入すること。なお、「有」の場合は、同項各号のうち適用される規定の□にレ点を記入すること。
3 ※印の欄は、記入しないこと。



別記様式第1

防災管理点検結果報告書

令和 4年 8月 29日

名古屋市中消防署長 殿

届出者
住所 名古屋市中区三の丸2-5-2
中部地方環境事務所
氏名 総務課長 中島 清史
電話番号 052-955-2130

下記のとおり防災管理対象物の点検を実施したので、消防法第36条第1項において準用する同法第8条の2の2の第1項の規定に基づき報告します。

記

防災管理対象物	所在地	名古屋市中区錦二丁目4番3号
	名称	錦パークビル 4階 環境省中部環境パートナーシップオフィス
	用途	複合用途　令別表第一 16項イ
	構造・規模	耐火造 地上 22 階 地下 4 階 PH 2 階 床面積 3,335.78 ㎡ 延べ面積 27,227.54 ㎡
点検実施日		令和 4 年 7 月 22 日
点検部		別紙のとおり
点検者	住所	名古屋市港区秋葉二丁目90番地
	氏名	渡邊 浩成（能美防災株式会社 中部支社 052-589-3249）
	免状	講習機関名：(財)日本消防設備安全センター　免状交付年月日：令和元 年 5 月 14 日　免状交付番号：第 642101532 号　再講習受講年月日：年 月 日
※受付欄		※経過欄	※備考

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 ※印の欄は、記入しないこと。

イ 施設・設備の維持管理

- EPO 中部施設の今年度の開館状況、来館件数とメール・電話による問合せ件数等は、次の通りであった。

【施設の運用状況・使用状況等】

	業務実施日数・計（日）	開館日数・計（日）	来館者数・計（人）		来館件数・計		メール・電話による問合せ件数（件）		スタッフ体制・計	
				日平均（人/日）		日平均（人/日）		日平均（件/日）		日平均（人/日）
4月	21	21	17	0.8	11	0.5	15	0.8	64	3.0
5月	22	19	4	0.2	4	0.2	19	1.0	68	3.1
6月	23	22	12	0.5	8	0.4	19	0.9	73	3.2
7月	23	20	15	0.8	10	0.5	12	0.6	69	3.0
8月	21	18	9	0.5	6	0.3	5	0.3	59	2.8
9月	25	20	4	0.2	2	0.1	19	1.0	65	2.6
10月	20	20	11	0.6	6	0.3	11	0.6	63	3.2
11月	26	20	5	0.3	4	0.2	16	0.8	82	3.2
12月	21	18	17	0.9	8	0.4	16	0.9	61	2.9
1月	22	20	22	1.1	8	0.4	22	1.2	72	3.3
2月	23	20	18	0.9	8	0.4	13	0.7	66	2.9
3月	15	13	5	0.4	4	0.3	33	2.5	48	3.2
計	262	231	139	0.6	79	0.3	200	0.9	790	3.4

※「3月」は3月20日時点で集計を行った数値。

【（参考）前年度・2021 年度の実績】

	業務実施日数・計（日）	開館日数・計（日）	来館者数・計（人）		来館件数・計		メール・電話による問合せ件数（件）		スタッフ体制・計	
				日平均（人/日）		日平均（人/日）		日平均（件/日）		日平均（人/日）
4 月	21	21	15	0.7	6	0.3	11	0.5	65	3.1
5 月	18	18	7	0.4	5	0.3	10	0.6	66	3.7
6 月	24	22	10	0.5	6	0.3	13	0.6	76	3.2
7 月	23	21	10	0.5	7	0.3	8	0.4	77	3.3
8 月	19	17	9	0.5	5	0.3	14	0.8	54	2.8
9 月	22	20	4	0.2	3	0.2	14	0.7	69	3.1
10 月	23	21	15	0.7	8	0.4	8	0.4	71	3.1
11 月	23	20	28	1.4	25	1.3	12	0.6	68	3.0
12 月	23	18	14	0.8	8	0.4	11	0.6	69	3.0
1 月	21	19	14	0.7	10	0.5	23	1.2	62	3.0
2 月	21	18	14	0.8	6	0.3	16	0.9	79	3.8
3 月	22	22	14	0.6	9	0.4	13	0.6	70	3.2
計	260	237	154	0.6	98	0.4	153	0.6	826	3.5

ウ オフィスの運営

- オフィスの運営及び業務実施に必要な機材・消耗品等を揃え、その使用料の支払、EPO 中部及び中部地方 ESD センターの HP・メールアドレス・固定 IP の維持管理費用の支払等、維持管理に必要な事務を適宜実施した。

4 協働取組の促進のための業務

(1) 地元ネットワークを活用した協働取組の推進（地域循環共生圏フォーラムの開催）

①イベント名

地域循環共生圏フォーラム in SUWA
「諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョン」

②日時

- 2022 年 11 月 23 日（水）13：00～17：00

③開催方法・会場

- 開催方法：ハイブリッド
  - オンライン：YouTube ライブ配信
  - 開催会場：諏訪市文化センター（長野県諏訪市）

④主催等

- 主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
- 共催：一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会
- 後援：長野県、茅野市、諏訪市、岡谷市、下諏訪町、富士見町、原村、八十二銀行、諏訪信用金庫、諏訪商工会議所

⑤参加者

- 58 名
  - 会場 37（登壇者・事務局・関係者含む）
  - YouTube 視聴 21（ユニーク視聴者数）

⑥プログラム

第一部
○ごあいさつ
○講演「森里海の旅-いのちと水の巡り」
京都大学名誉教授 田中 克 氏
○講演「未来の子供たちにすてきなバトンを手渡したい！-沖永良部島から」
地球村研究室代表、東北大学名誉教授、SuMPO 理事長 石田 秀輝 氏
○取組発表
一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会 代表理事 元木 誠 氏
株式会社八十二銀行 企画部サステナビリティ統括室長 中林 武 氏
東急リゾーツ＆ステイ株式会社 徳田 圭太 氏
○まとめ：長野県環境部次長　真関 隆 氏
第二部
○ワークショップ「諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみ ビジョンを考える」
ファシリテーター：EPO 中部
○講評・まとめ

⑦開催案内チラシ

開催日時:
2022年11月23日(水・祝)13:00～17:00

会場:
諏訪市文化センター・第2集会室
(長野県諏訪市湖岸通り5-12-18)
Googleマップ:https://goo.gl/maps/XCkwwxLLoeXVsHP6

オンライン視聴:
第1部のみYouTube配信あり
※会場参加、オンライン視聴ともに要・事前申込となっています。

参加申込フォーム
https://forms.gle/dbWJjQQhPGTSiwBj7
WEB epo-chubu.jp
https://www.epo-chubu.jp
@EPOchubu

Eメールで参加申込の場合
宛先:info@epo-chubu.jp
①氏名(ふりがな)、②連絡先(メールアドレスと電話番号)、③ご所属先、④参加方法(会場参加、または、オンライン視聴のどちらか)を記載して、「件名:1123フォーラム」で11月16日(水)までに送信願います。

地域循環共生圏 参加無料 フォーラムin諏訪

地域循環共生圏フォーラム in SUWA

諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョン

第1部 13:00～開会／オンライン配信あり

【ごあいさつ】環境省中部地方環境事務所環境対策課

【講演】「森里海」の旅ーいのちと水の巡り
講師: 田中 克 氏 (京都大学名誉教授)

【講演】未来の子供たちにすてきなバトンを手渡したい!ー沖永良部島から—
講師: 石田 秀輝 氏 (地球村研究室代表、東北大学名誉教授、SuMPO理事長)

【地域の取組発表①】一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会 代表理事　元木 誠 氏

【地域の取組発表②】株式会社八十二銀行 企画部サステナビリティ統括室長　中林 武 氏

【地域の取組発表③】東急リゾーツ＆ステイ株式会社 資産企画統括部　徳田 圭太 氏

【第1部のまとめ】長野県環境部次長　真関 隆 氏

第2部 15:05～開始／会場参加のみ

【ワークショップ】諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョンを考える
ファシリテーター: 中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)

【講評】田中 克 氏 (京都大学名誉教授)
石田 秀輝 氏 (地球村研究室代表、東北大学名誉教授、SuMPO理事長)

【まとめ／今後に向けて】
元木 誠 氏 (一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会代表理事)

主催:環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)
共催:一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会
後援:長野県、茅野市、諏訪市、岡谷市、下諏訪町、富士見町、原村、八十二銀行、諏訪信用金庫、諏訪商工会議所

【お願い】新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力願います。会場参加は原則、長野県内の在住者・通勤者、及び活動団体の方のみとさせていただきます。また、事前の参加申込と、ご来場時のマスク着用が必須となります。開催日当日、発熱のある方や体調の悪い方は来場をお控えください(その場合の不参加のご連絡は不要です)。

(2) 協働コーディネーターと連携した実践的取組

（※連携した長野県 NPO センターの実施報告書を掲載。）

- 長野県は平成 30 年６月から「SDGs 未来都市」として、SDGs の達成に向けた主な取組をまとめた計画を策定、実行している。学びと自治の力による「自立・分散型社会の形成」を掲げ、ステークホルダーが主体的に学び、協働しながら地域の課題解決に取り組み、多様な地域の個性を活かす自立・分散型社会をめざしている。
- これまでに、全国に先駆けて SDGs 推進企業登録制度や信州環境カレッジを立ち上げるなど SDGs に向けアクションする主体の育成等に取り組んできている。今後は一層、その主体がパートナーシップを組んで、具体的な地域づくりのプロジェクトを県下各地で促進していく必要がある。
- 上記の長野県における背景を踏まえて、EPO 中部と協働コーディネーター・山室秀俊氏（特定非営利活動法人長野県 NPO センター）との共催により、以下の事業を長野市芋井小学校及び芋井地区住民自治協議会（いもいリビングらぼ）との協働で実施した。

ア 信州地域ＳＤＧｓ講座　「災害に強い地域づくり」

（ア） 開催日時

- 2022 年 11 月５日（土）10：00～15：00 開催

（イ） 目的

- 長野市芋井地区は中山間地域に位置し、少子高齢化や地域人口の減少、生活スタイルの多様化など環境は大きく変化する中で、自治会活動、市民活動等のあり方を見直し、住民自身も「未来を変える力」が求められている。
- 同地区では、「いもいリビングらぼ」をベースに、住民だけでなく地区内で事業活動を行う団体や大学生など幅広い参加者を募り、多様な視点で持続可能な地域の実現を体験的に学び、「実験」する場を提供し、地域コミュニティレベルでの“地域循環共生圏”の構築を目指している。
- 今回の講座は、近年頻発する災害に対して平時からしっかり備えるために開催した。

（ウ） 午前の部(10:00～12:00)：「たのしいぼうさい」in 芋井小学校(芋井小学校との協働事業)

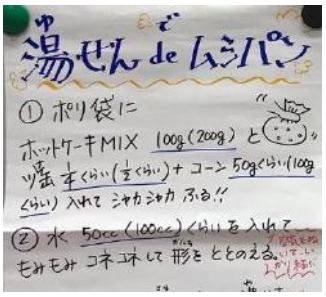
参加者　親子８組(大人８人＋11 人)ほか大人６人

楽しく防災について学び、災害への意識を向ける体験企画を実施した。

①【ぼうさい工作】ペットボトルランタンづくり(講師・長野市災害ボランティア委員会)

- 停電時に家にあるもの(ペットボトル)で簡単に灯りをとることができるツール。ペットボトルと、100 円均一ショップで買える小型の懐中電灯を使い、子どもたちが自由にシールなどでデコレーションして作成。ペットボトルそのものと中に入れた水の反射で、懐中電灯だけよりも周囲が明るくなる。

②【備蓄ッキング】蒸しパンとじゃがりこポテトサラダづくり（講師・長野市災害ボランティア委員会）



- 普段から賞味期限の長い乾物や缶詰などをローリングストックとして使いまわすことが災害時の備えになることから、それらの食材をうまく使って料理をするレシピを紹介。実際に作ってみるワークショップを実施。１家族１つずつ鍋とカ

セットコンロを持参してもらって、ホットケーキミックスとツナ缶、コーン缶を使って湯せんでつくる蒸しパンと、そのお湯を再利用してじゃがりこ(じゃがいものスナック菓子)をポテトサラダに。

③【カードゲーム「なまずの学校」】(講師・長野県ＮＰＯセンター)

- NPO法人プラス・アーツが監修した防災啓発ゲーム「なまずの学校」は、地震などの災害で発生する様々なトラブルを紙芝居形式で出題（全18問）し、トラブルを解決するのにもっともふさわしいと思う「なまずカード(アイテムカード)」を出してもらい得点を競うゲーム。今回は家族ごとにチームを組んでもらい、点数を競ってもらいました。子どもたちなりの視点での回答に大人も新たな発見があり、親子や学校などでの実施が効果的。

④所感

- 親子で参加してもらったことで、帰宅後も家族で防災について話し合うきっかけとしてもらいたい。また、普段の生活の中に防災のエッセンスを取り入れることで、災害時に落ち着いて行動できたり、普段と変わらず楽しく過ごせる工夫をすることで、必要以上に気持ちが落ち込まずに対応できる。
- 会場が小学校という、災害時にも地域のかなめとなる場であったこともよかったと思う。また、持続可能な地域に学校は欠かせない存在であると改めて確認できた。

（エ） 午後の部(13:00～15:00)信州ローカルＳＤＧｓ勉強会「災害に強い地域づくり」

参加者 16 人

長野市内他地区の先進事例から学ぶとともに、災害に備えて普段から自分たちが主体的に取り組んでいくことについて、意見交換を行った。

①事例提供「被災経験からの防災キャンプ」

豊野地区住民自治協議会女性部会（発表者：藤澤　けさ子　様）

- 長野市豊野地区では、2019 年台風 19 号災害で被災した１年後から、女性部会が中心となって防災イベントにアウトドアの技術やツールを活かしたイベントを開催。住民だけでなく、地域内外のさまざまなボランティア団体や学校などと協働して様々なプログラムを提供。住民が多数参加し防災意識を高めている。

②事例提供「子どもたち自身が身を守れるように」

真島だんごむしカフェ（発表者：亘　みどり　様）

- 長野市真島地区は千曲川と犀川に隣接する地区で、洪水被害の危険度が高い地区。2018 年まで慶應義塾大学の大木聖子教授が「命を守るための防災教育」を地区内の真島小学校で実施。その後保護者たちでこの学びを継続させようと「真島だんごむしカフェ」が立ち上がった。避難所となる体育館での防災カフェの開催など積極的に活動。現在は地区内のイベントなどで、防災啓発の取組を行っている。

③事例提供「オフグリッドを生活に取り入れる」

いもいリビングらぼ

- いもいリビングらぼでは、メンバーで将来どんな地域にしたいか考えたところ、再生可能エネルギー活用やオフグリッドなどの取組をしたいとの意見が多く出た。そこで、各家庭でも始められる簡易なソーラーパネルと蓄電池を用いたオフグリッドの小さな実験を実施している。このような取組も災害に伴う停電時に役立つこととして、地域への普及を図っている。

④意見交換

- ワークショップ形式でグループディスカッションを行った。

【テーマ１】自分そして地域の防災に対する意識はどこまで進んでいますか？

【テーマ２】今後、自分そして地域として、防災に関して、どのようなアクションをおこしますか？

- それぞれの活動について質疑と意見交換。特に豊野地区からは被災経験を踏まえて、被災した際の避難所での困りごとや混乱ぶり、またそれに対する被災者自らの取組などの情報提供があった。芋井地区は、急傾斜などに集落が点在し、土砂災害の危険度が高い地域である。過去数年かけてドローンを使った防災マップ作りを実施し、集落ごとに避難行動を具体的に考えるなど住民に対する意識の向上を働きかけてきた。一方で高齢化に伴い共助の機能も低下していることから、改めて自主防災の見直しが迫られている。

⑤所感

- 今後次世代へその意識を継承していくには、さまざまな活動をする他地区との情報交換やタイアップが必要となる。
- 今回の取組をきっかけに、地域の中で「持続可能な地域づくり」を防災という視点で進めていくことの必要性を強く感じた。
- 防災は全国のすべての地域に共通する課題なので、この事業をモデルとして、他地区への普及を積極的に進めていきたい。

イ 信州ローカルＳＤＧｓ勉強会　「学校×地域　を考えよう!!」

（ア） 開催日時等

- 2023 年２月 26 日（日）13：30～15：30（オンライン）
- いもいリビングらぼとの協働事業
- 場所：アソビーバナガノパーク（飯綱高原）
- 参加者 15 人

（イ） 目的

- 長野市芋井地区には二つの小学校がある。長野市立芋井小学校と私立グリーンヒルズ小中学校。さらに、飯綱高原地域の子どもたちは、市街地にある城山小学校に通っている。地域の子どもを地域で育てることがなかなか難しい状況下、芋井小学校は児童数の減少により昨年度から複式学級になっている。
- いもいリビングらぼでは、地区内外のメンバーが集まって地域の将来、課題などについて議論しながら、小さな実験を進めている。その中で、地域の子育て支援や教育分野に関心が高く、地域全体にも影響が大きい小学校の存続を危ぶむ声もあったことから、今回学校と地域をテーマに意見交換を企画した。

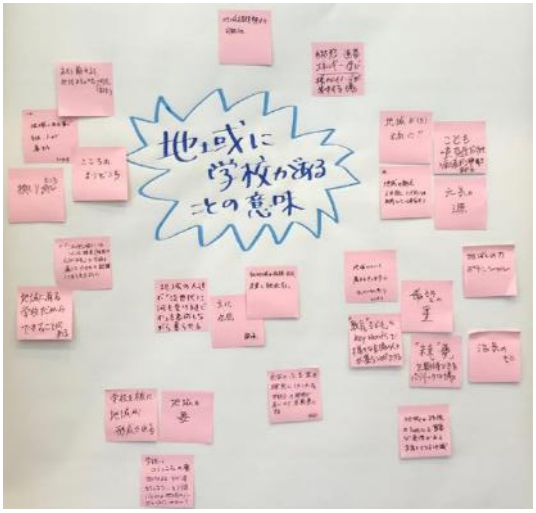
（ウ） 事例提供

①芋井小学校　伊藤昭典先生

- 複式学級については、マイナスイメージが先行しているが、実はメリットも多く、子どもたちが主体的に学ぶことができ、先生方が一人一人の子どもたちに丁寧に接していることが話された。地域住民との関わりも大切にしており、芋井甚句、そば作り、お茶のみサロンへの参加など生活に根差した地域活動を知る機会を作っている。
- また、地区外の鬼無里小学校や加茂小学校との合同授業など一定の人数で交流ができる取組もされており、特に加茂小学校は中学進学で同じ西部中学校に通うようになることから、子どもたちにとっては卒業後の安心感を得られるように工夫されている。

②グリーンヒルズ小中学校　尾形望先生

- 私立の幼小中一貫教育を進めるグリーンヒルズ小中学校(いいづな学園)からは、芋井地区の飯綱高原にあり、豊かな自然を学びの資源として子どもたちが生き生きと学ぶ姿を紹介。現在小学校 25 人、中学校 7 人が学ぶ。子どもたちが主体的に自然と関わり、自ら問いを立て学んでいる。
- また、今年度からは国際バカロレア校に指定されている。その目標とする「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成」を目指し、地域社会や国におけるグローバル化に対応する人材育成を軸に、「探求する人」「知識のある人」「考える人」「コミュニケーションができる人」「信念を持つ人」「心を開く人」「思いやりのある人」「挑戦する人」「バランスのとれた人」「振り返りができる人」の 10 の学習者像を掲げている。
- グリーンヒルズ小学校も複式学級を基本とし、授業は子どもの主体性が重視され、机に座って学ぶだけでなく、地域へ出て自然の中で学んでいる。野にある雑草を抜いてきて、観察、料理まで自分でやってみるなど五感をフル活用して自ら学ぶ姿は新鮮だった。



（エ） 意見交換

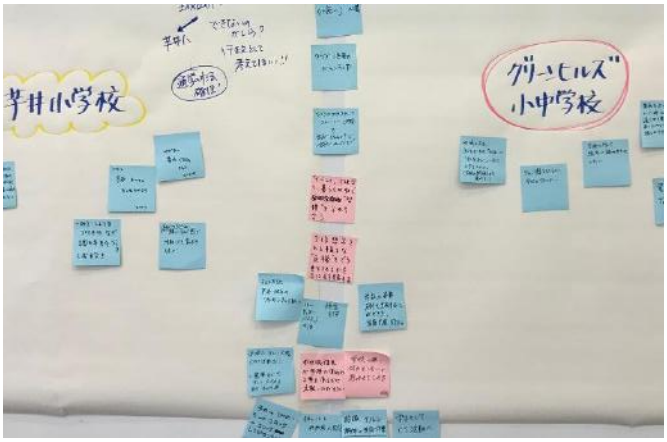
- 学校からの事例提供を受け、参加者全員で意見交換をした。どちらの先生からも「ぜひ、地域と関わりたい」「地域のみなさんに学校を開いているので、いつでも来てもらいたい」とのラブコールもあった。

■テーマ１：「学校が地域にあることの意味は？」

- 「未来」「希望」「地域をつなぐ」「地域の要」などのキーワードから、地域にとって学校は子どもたちが学ぶ場だけではない住民をつなぐ役割があると考えられていることがわかる。住民からは、「今、城山小学校に通っている児童の一部だけでも芋井小学校に通ってもらうことはできないのか？行政との議論の必要性がある」と発信があり、そのためにも地域と学校がともに取り組む活動の積み重ねが大切、今後につなげたいという共通認識ができた。

■　テーマ２「地域として、住民として学校のためにできること」

- それぞれが個人的にもっているみそ仕込みや浴衣の着付けなどのスキルを提供できるというものから、「芋井のじゃがいもを使ったレシピを考えてもらいたい」「職業体験の場を提供できる」「まずは声をかけるところから始めたい」など学校との関わりを進めていきたいというのが参加者に共通していたことから、今後も実験的な取組を進めていく。



（オ） 所感

- 地域にとって学校は子どもたちだけのためのものではなく、住民をつなぐひとつの資源となっている。また、学校にとっても地域とつながることで子どもたちの学びは深まり、子どもたちを見守る人が増える。
- 今後他の地域でも過疎化や高齢化によって児童数が減少、また公共施設マネジメントの側面からも学校は標的となっていることもあり、存続が難しくなる。しかし、学校がなくなることは移住促進や地域活性化に大きな影を落とす。
- 今、住民自身がその大切さを考え、学校とともに子どもたちの育ちを作っていくことが求められていると感じた。

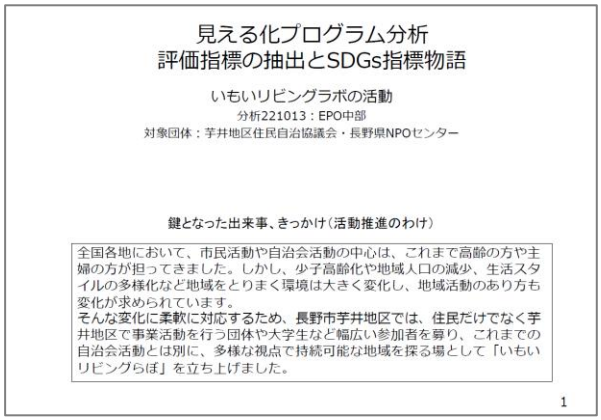
(3) 活動主体へのフィードバック（活動見える化プログラムの活用）

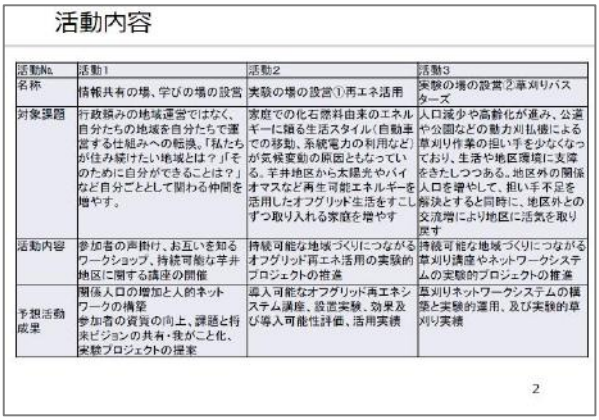
- 地域の活動における地域循環共生圏・SDGs への貢献を可視化する「活動見える化プログラム」の作成、及び活用を行った。
- 仕様書上では２事例での活用を行う予定となっていたが、後述の「６(2)イ　SDGs 学生サミット」の主催イベントで活動見える化プログラムを活用することになり、イベントに登壇いただく SDGs 未来都市３自治体（福井県鯖江市、三重県いなべ市、長野県大町市）を対象にした活動見える化チャートを作成し、計４事例で活用した。

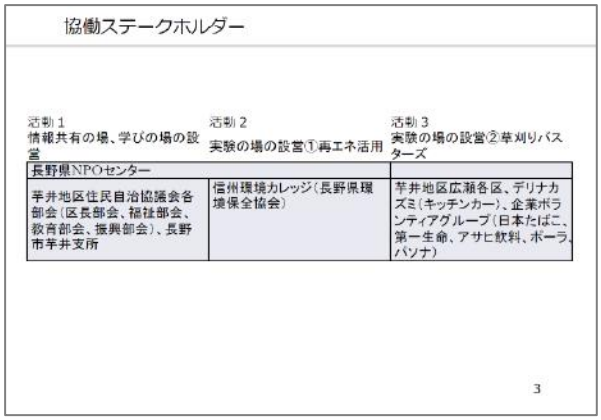
ア いもいリビングらぼの取組（長野県長野市芋井地区集落）

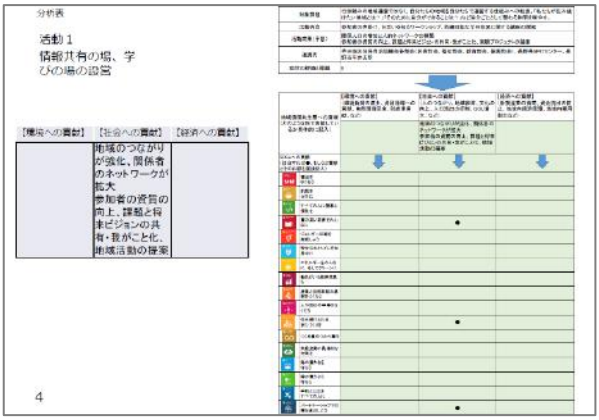
- 芋井地区住民自治協議会及び長野県 NPO センターへのヒアリングを行い、「いもいリビングらぼ」（長野県長野市芋井地区集落）の取組を対象に、活動見える化プログラムのチャート図を作成し、２月 26 日に開催した長野県 NPO センターとの共催勉強会で紹介・活用を行った。

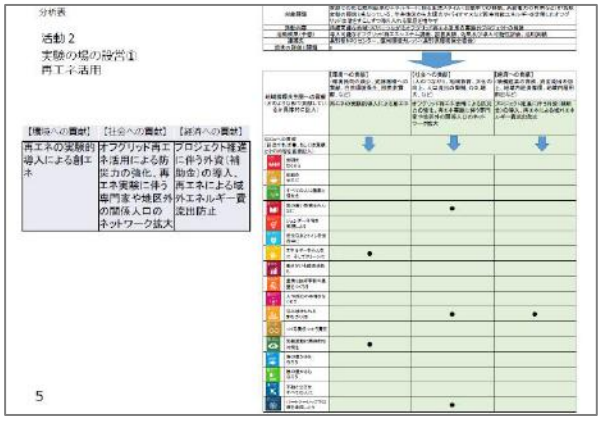
①分析表

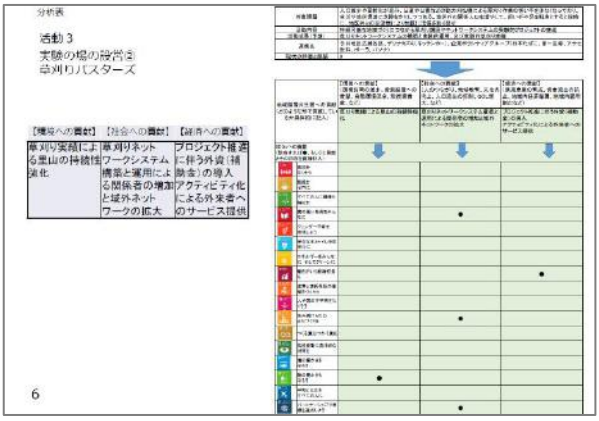




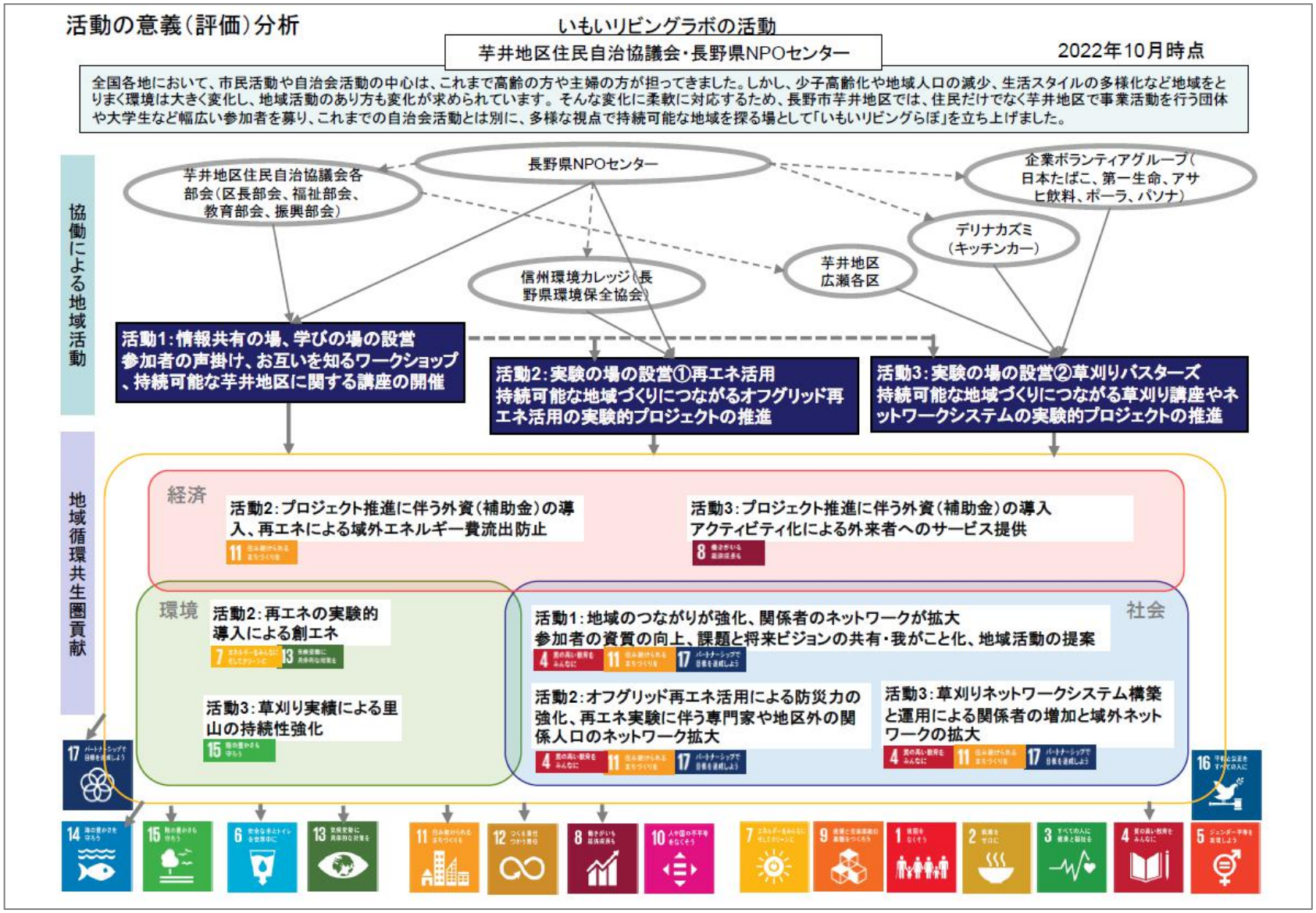








②活動見える化チャート

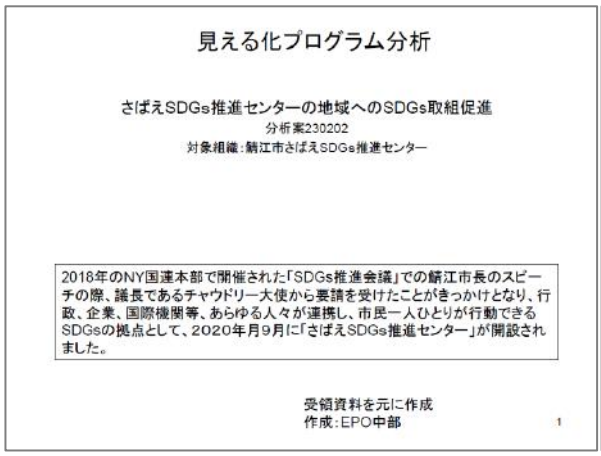


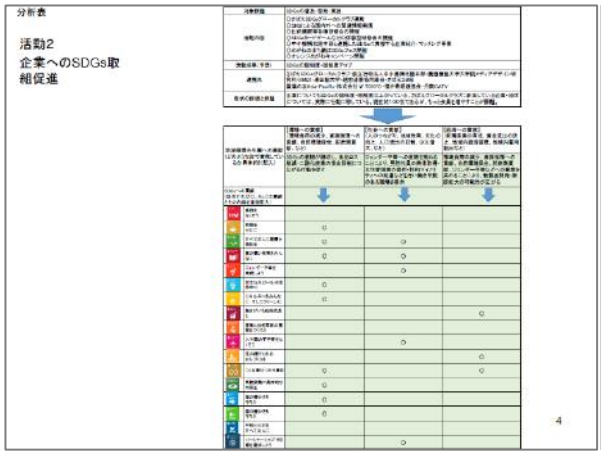
イ SDGs 未来都市３自治体（鯖江市、いなべ市、大町市）

- ２月４日開催・SDGs 学生サミットで SDGs 未来都市の取組事例を発表する福井県鯖江市、三重県いなべ市、長野県大町市の３自治体を対象に、活動見える化プログラムのチャート図を作成し、SDGs 学生サミットでチャート図を活用して３自治体の取組の概説を行った。

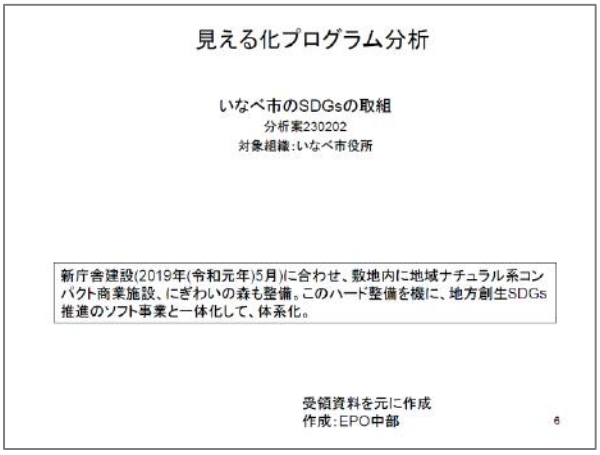
（ア） 分析表

①福井県鯖江市：さばえ SDGs 推進センター



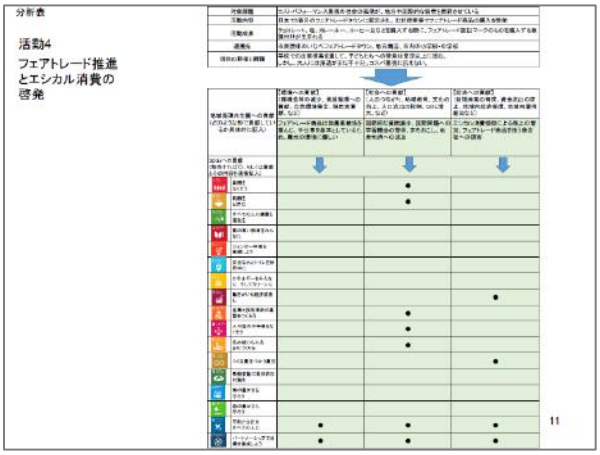


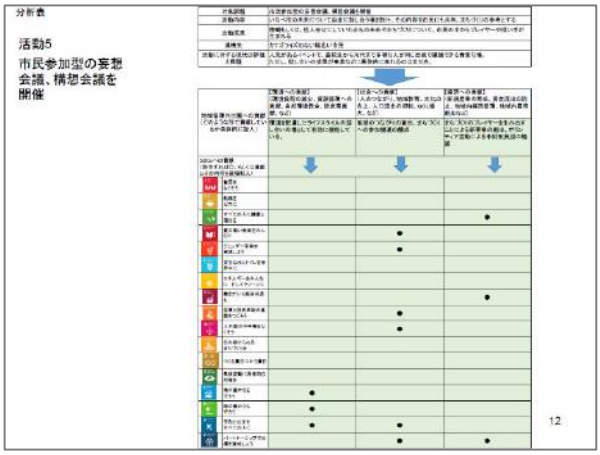
②三重県いなべ市



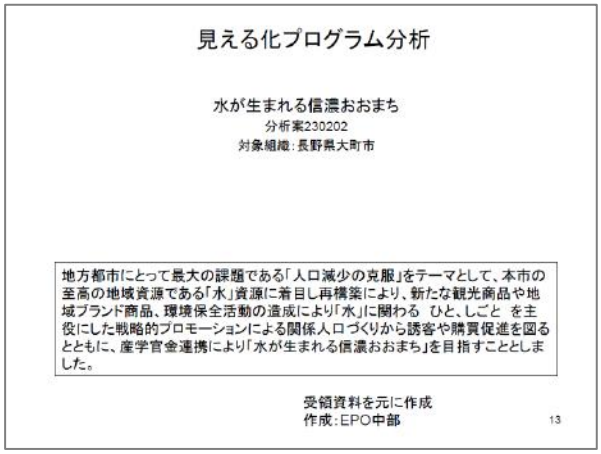
分析表
活動2
モバイルヒッチ・プロジェクト
9

分析表
活動3
地域資源有効活用による商品開発
10


分析表
活動4
フェアトレード推進とエシカル消費の啓発
11


分析表
活動5
市民参加型の妄想会議、構想会議を開催
12

③長野県大町市


見える化プログラム分析
水が生まれる信濃おおまち
分析案230202
対象組織：長野県大町市
地方都市にとって最大の課題である「人口減少の克服」をテーマとして、本市の至高の地域資源である「水」資源に着目し再構築により、新たな観光商品や地域ブランド商品、環境保全活動の造成により「水」に関わる ひと、しごと を主役にした戦略的プロモーションによる関係人口づくりから誘客や購買促進を図るとともに、産学官金連携により「水が生まれる信濃おおまち」を目指すこととしました。
受領資料を元に作成
作成：EPO中部
13

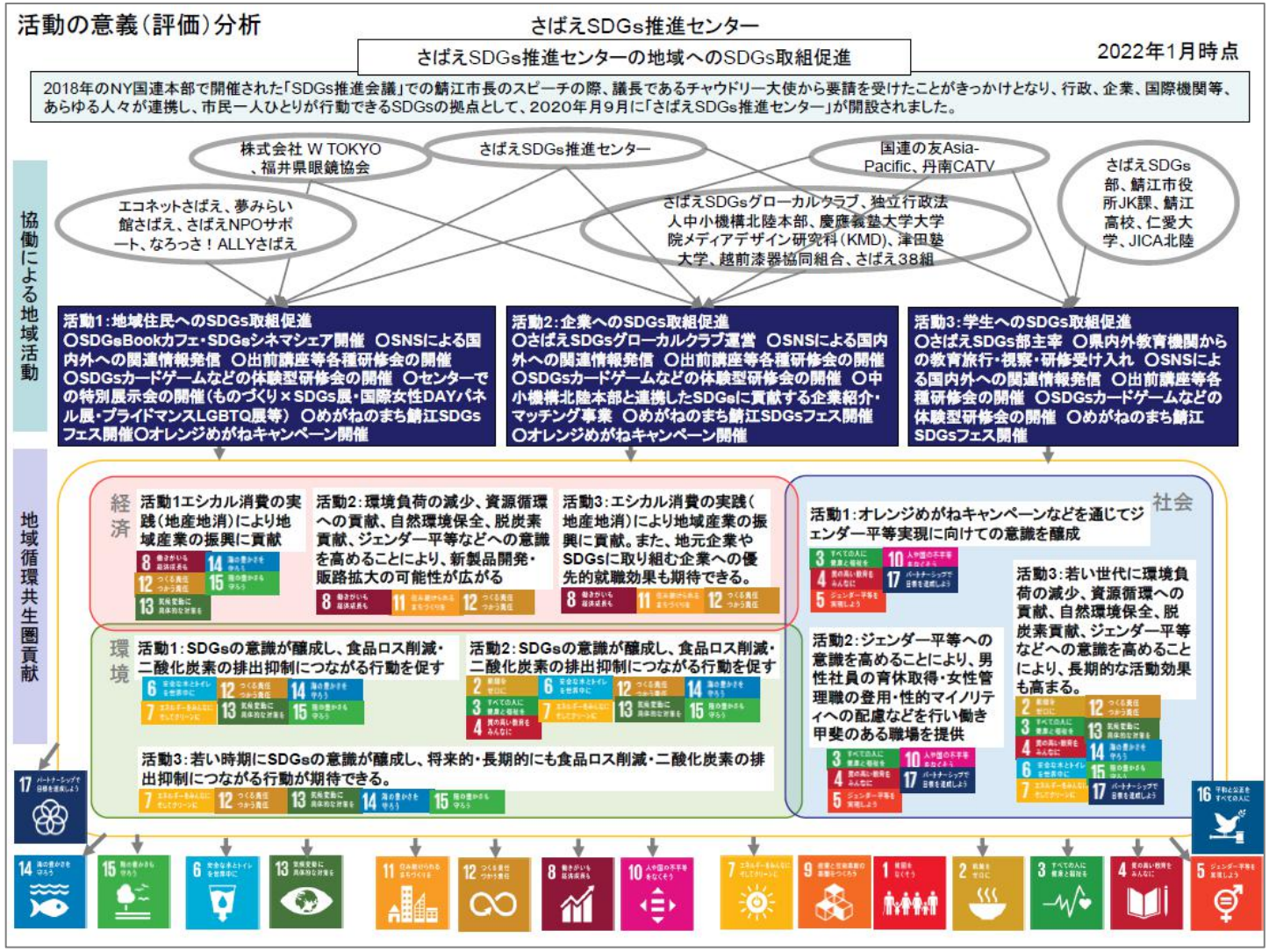
分析表
活動1
エネルギー
15

分析表
活動2
サステナブルツーリズム
16

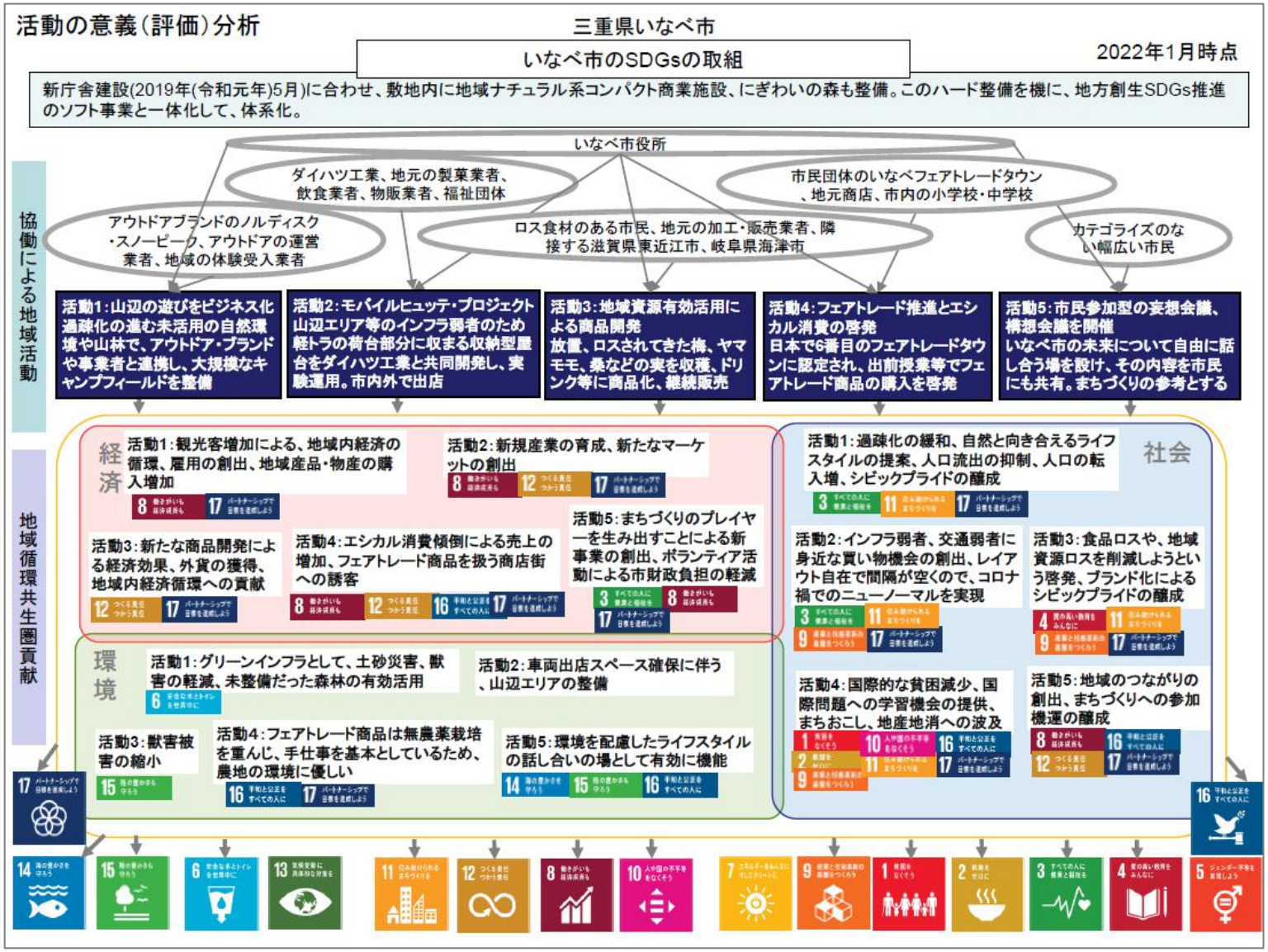
分析表
活動3
地域ブランド振興
17

（イ） 活動見える化チャート

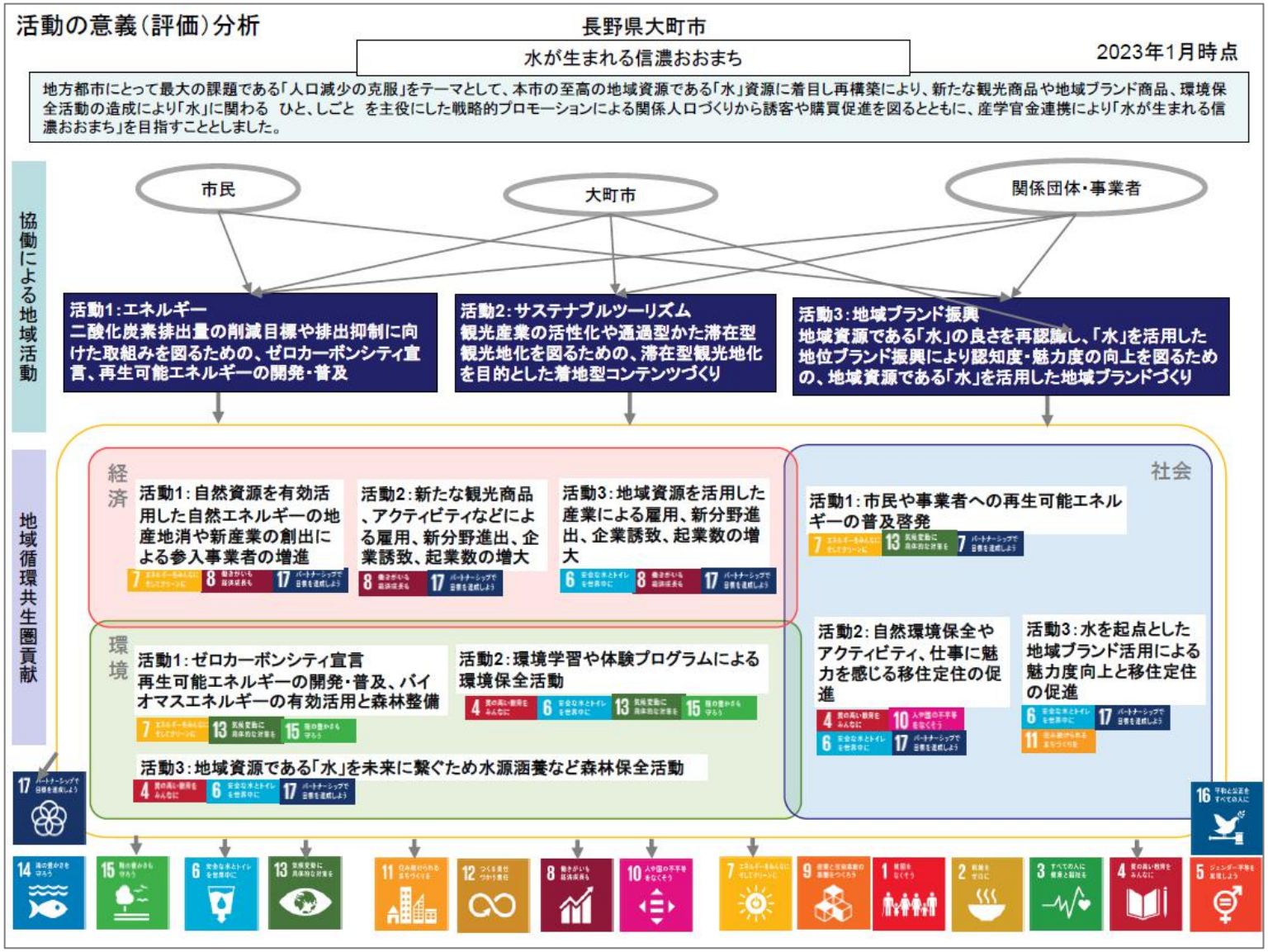
①福井県鯖江市：さばえ SDGs 推進センター



②三重県いなべ市


活動の意義（評価）分析
三重県いなべ市
いなべ市のSDGsの取組
2022年1月時点
新庁舎建設(2019年(令和元年)5月)に合わせ、敷地内に地域ナチュラル系コンパクト商業施設、にぎわいの森も整備。このハード整備を機に、地方創生SDGs推進のソフト事業と一体化して、体系化。
協働による地域活動
いなべ市役所
ダイハツ工業、地元の製菓業者、飲食業者、物販業者、福祉団体
市民団体のいなべフェアトレードタウン、地元商店、市内の小学校・中学校
アウトドアブランドのノルディスク・スノーピーク、アウトドアの運営業者、地域の体験受入業者
ロス食材のある市民、地元の加工・販売業者、隣接する滋賀県東近江市、岐阜県海津市
カテゴライズのない幅広い市民
活動1：山辺の遊びをビジネス化
過疎化の進む未活用の自然環境や山林で、アウトドア・ブランドや事業者と連携し、大規模なキャンプフィールドを整備
活動2：モバイルヒュッテ・プロジェクト
山辺エリア等のインフラ弱者のため軽トラの荷台部分に収まる収納型屋台をダイハツ工業と共同開発し、実験運用。市内外で出店
活動3：地域資源有効活用による商品開発
放置、ロスされてきた梅、ヤマモモ、桑などの実を収穫、ドリンク等に商品化、継続販売
活動4：フェアトレード推進とエシカル消費の啓発
日本で6番目のフェアトレードタウンに認定され、出前授業等でフェアトレード商品の購入を啓発
活動5：市民参加型の妄想会議、構想会議を開催
いなべ市の未来について自由に話し合う場を設け、その内容を市民にも共有。まちづくりの参考とする
地域循環共生圏貢献
経済
活動1：観光客増加による、地域内経済の循環、雇用の創出、地域産品・物産の購入増加
活動2：新規産業の育成、新たなマーケットの創出
活動3：新たな商品開発による経済効果、外貨の獲得、地域内経済循環への貢献
活動4：エシカル消費傾倒による売上の増加、フェアトレード商品を扱う商店街への誘客
活動5：まちづくりのプレイヤーを生み出すことによる新事業の創出、ボランティア活動による市財政負担の軽減
環境
活動1：グリーンインフラとして、土砂災害、獣害の軽減、未整備だった森林の有効活用
活動2：車両出店スペース確保に伴う、山辺エリアの整備
活動3：獣害被害の縮小
活動4：フェアトレード商品は無農薬栽培を重んじ、手仕事を基本としているため、農地の環境に優しい
活動5：環境を配慮したライフスタイルの話し合いの場として有効に機能
社会
活動1：過疎化の緩和、自然と向き合えるライフスタイルの提案、人口流出の抑制、人口の転入増、シビックプライドの醸成
活動2：インフラ弱者、交通弱者に身近な買い物機会の創出、レイアウト自在で間隔が空くので、コロナ禍でのニューノーマルを実現
活動3：食品ロスや、地域資源ロスを削減しようという啓発、ブランド化によるシビックプライドの醸成
活動4：国際的な貧困減少、国際問題への学習機会の提供、まちおこし、地産地消への波及
活動5：地域のつながりの創出、まちづくりへの参加機運の醸成

③長野県大町市


活動の意義（評価）分析
長野県大町市
水が生まれる信濃おおまち
2023年1月時点
地方都市にとって最大の課題である「人口減少の克服」をテーマとして、本市の至高の地域資源である「水」資源に着目し再構築により、新たな観光商品や地域ブランド商品、環境保全活動の造成により「水」に関わる ひと、しごと を主役にした戦略的プロモーションによる関係人口づくりから誘客や購買促進を図るとともに、産学官金連携により「水が生まれる信濃おおまち」を目指すこととしました。
協働による地域活動
市民
大町市
関係団体・事業者
活動1：エネルギー
二酸化炭素排出量の削減目標や排出抑制に向けた取組みを図るための、ゼロカーボンシティ宣言、再生可能エネルギーの開発・普及
活動2：サステナブルツーリズム
観光産業の活性化や通過型かた滞在型観光地化を図るための、滞在型観光地化を目的とした着地型コンテンツづくり
活動3：地域ブランド振興
地域資源である「水」の良さを再認識し、「水」を活用した地位ブランド振興により認知度・魅力度の向上を図るための、地域資源である「水」を活用した地域ブランドづくり
地域循環共生圏貢献
経済
活動1：自然資源を有効活用した自然エネルギーの地産地消や新産業の創出による参入事業者の増進
活動2：新たな観光商品、アクティビティなどによる雇用、新分野進出、企業誘致、起業数の増大
活動3：地域資源を活用した産業による雇用、新分野進出、企業誘致、起業数の増大
環境
活動1：ゼロカーボンシティ宣言
再生可能エネルギーの開発・普及、バイオマスエネルギーの有効活用と森林整備
活動2：環境学習や体験プログラムによる環境保全活動
活動3：地域資源である「水」を未来に繋ぐため水源涵養など森林保全活動
社会
活動1：市民や事業者への再生可能エネルギーの普及啓発
活動2：自然環境保全やアクティビティ、仕事に魅力を感じる移住定住の促進
活動3：水を起点とした地域ブランド活用による魅力度向上と移住定住の促進

(4) ローカル SDGs/地域循環共生圏のためのグループワーキング

①イベント名

ローカル SDGs/地域循環共生圏セミナー

「SDGs17 ゴールの紐づけの先へ　あなた・地域・社会の変容に向けて」

②日時

- 2022 年 12 月 15 日（木）13：30～16：30

③開催方法・会場

- 開催方法：オンライン（zoom）

④主催等

- 主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

⑤参加者

- 17 名（接続数／登壇者・事務局含む）

⑥プログラム

○　ごあいさつ/環境省からのお知らせ　環境省中部地方環境事務所環境対策課
EPO 中部とは/本セミナーの趣旨

○　基調講演「ソーシャル・プロジェクトを成功に導く発想と技法
～SDGs の本質に対応し「国連・ESD の 10 年」の経験を活かす」
東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授 佐藤 真久 氏

○　話題提供「SDGs の我がごと化と SDGs の指標について考えてみる」
中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）ESD 責任者 原 理史

○　ワークショップ
「SDGs チェックリスト」を活用したローカル SDGs の我がごと化ワーキング

※　基調講演の中で部局／分野等の横断・連携についてお話しいただくよう講師に依頼。

⑦開催案内チラシ

環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）主催

ローカルSDGs/地域循環共生圏セミナー＠中部

SDGs17ゴールの紐づけの先へ あなた・地域・社会の変容に向けて

開催日時:2022年12月15日（木）13:30～16:30

zoom開催／参加費無料

参加申込フォーム

https://forms.gle/b8gk3k4zAD9XTP8dA ➡➡

開催日の前日、申込登録したメールへzoomの参加URLをお送りします。

▶メールで参加申込の場合

宛先：info@epo-chubu.jp

「①氏名（ふりがな）」「②連絡先（メールアドレスか電話番号）」「③ご所属先」を記載のうえ、「件名:1215セミナー」で12月9日までに送信願います。

ONLINE SEMINAR & WORKSHOP

1. はじめに

ご挨拶／環境省からのお知らせ

環境省中部地方環境事務所環境対策課

EPO中部とは／本セミナーの趣旨

EPO中部

2. 基調講演

ソーシャル・プロジェクトを成功に導く発想と技法

～SDGsの本質に対応し、「国連・ESDの10年」の経験を活かす

東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授　佐藤 真久 氏

3. 話題提供

SDGsの我がごと化とSDGsの指標について考えてみる

中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) ESD責任者　原 理史

4. ワークショップ

「SDGsチェックリスト※」を活用したローカルSDGsの我がごと化ワーキング

※「SDGチェックリスト」について

・「SDGチェックリスト」は、事業や活動をSDGs17ゴールに関連づけて気付きを得られる、チェックリスト型のシートで、中部地方ESD活動支援センター（EPO中部）が独自に作成したツールです。
・本セミナー参加の際にはぜひ「SDGsチェックリスト」をお手元にご準備ください。
・なお、「SDGsチェックリスト」は、参加申込フォーム等に記載のURLから入手（ＤＬ）できます。
・EPO中部ウェブサイトでも公開しており、右のQRコードかURLから参照いただけます。

https://chubu.esdcenter.jp/2020/04/10/2474.html

5 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

(1) 地域プラットフォームの環境整備支援等業務

ア プラットフォーム団体への伴走支援等

- 環境整備のプロセスに関わる伴走支援（月１回以上の採択団体との接触）として、次の通り、各団体と打合せをはじめ、各種支援などを行った。

	ななお SDGs スイッチ【継続】 PF 七尾	ローカル SD クリエーション【新規】 PF 丹南	荒山林業【新規】 PF 大町
4月	■4/20 打合せを実施（面談） ● 今年度のスケジュール等について確認・共有。	■4/21 打合せ・ヒアリングを実施（面談） ● PF 事業で目指すこと、今年度の取組などを確認・共有。	■4/19 打合せ・ヒアリングを実施（面談） ● PF 事業で目指すこと、今年度の取組などを確認・共有。
5月	● 採択団体名を「のと共栄信用金庫」から新設コンソ「ななお SDGs スイッチ」に変更する相談連絡に対し、手続等を確認、連絡。（電話・メール等） ● 電話・メールで 6/1 開催連絡会議の出欠について連絡・確認等。	■打合せを実施（面談） ● 今年度のスケジュールの確認とSHミーティングの開催時期・方法について確認。	■5/13 打合せを実施（電話） ● キックオフ発表資料の作成方法等について協議。 ■5/27 打合せを実施（面談） ● キックオフ発表資料で今後の展開等について協議・確認。
6月	■ 6/7-8 キックオフミーティング ■6/1 第1回ななお SDGs 連絡会議の実施 ● EPO も出席し、9 月中旬開催の第2回連絡会議にて SHM 開催を協議。 ● 連絡会議の様子を EPO の SNS に投稿。 ● 6/15 にキックオフで連絡を取りたい他団体からの依頼について連絡。及び現状の取組と、金融庁・環境省との打合せ、提示資料について共有。	● 6/7 竹魚礁づくりイベントについての連絡調整。 ■6/18 竹魚礁づくりイベント ● EPO も参加・取材。 ● イベント 6/18 の様子の記事を EPO の SNS に投稿。 ● 6/21 打合せ延期の連絡。	■6/16 に PF 中間共有会の日程について連絡・確認 ● PF 中間共有会の大町市開催の可能性についても協議。 ● 6 月中旬に、市長と若者の意見交換会に参加予定との報告あり。
7月	● 12 月に名古屋への来訪、イベント登壇に伴う EPO 立ち寄りの連絡あり。 ● 日本青年会議所主催「第 6 回価値デザインコンテスト～質的価値社会創出プロジェクト～」の SDGs 受賞のお祝いと広報連絡.。	● 7/7 予算計画書確認の連絡。 ■7/28 打合せ（面談） ● 6/18 イベント結果と協力団体の反応、次回 9 月イベントについて確認。 ● SHM の開催方法・タイミング等について協議。 ● 活動主体の拡がり：活動者との情報交換について確認。	■7/20 打合せを実施（面談） ● SHへの声掛け状況、SHM について確認。 ● PF 中間共有会の大町開催について協議。 ■7/28 電話打合せ ● 「森と湖」をテーマにしたSH会合実施の報告。 ● メーリス登録について相談あり。
8月	※未来像づくり WS がコロナで中止（オンライン座学のみに）。 ⇒状況確認、SHMへの影響確認の電話連絡。問題なしとの回答。 ■8/31 打合せ（面談） ● 現状の取組状況の確認と、SHM の実施方法等について協議。	● 活動主体に関わる情報交換の場の設営について連絡調整（活動者との情報交換）。	● 中間共有会 11/18 の運営に関して電話・メールで連絡調整。 ● 事業費についての PF 側の問合せあり。 ■PF 小布施との連携・協力で勉強会等を実施 ● 勉強会参加者との SHM の企画についてメール相談あり。 ⇒9/7 実施の打診があったが、EPO 側に別件予定があり実施できず。
9月	● 「能登 SDGs 市民大学」2期、「集まれ、いきもの調査隊！ノトの里山里海を調査せよ！」の開催についての案内メール・電話。 ⇒WEB、SNS で広報協力。 ■9/22 第2回ななお SDGs 連絡会議にてSHMを併催。 ● EPO は SDGs 未来都市の概略説明と、岐阜市の事例動画を上映。	■9/12 活動者との情報交換 ● 丹南エリア周辺の地域づくり活動主体の情報をヒアリング。 ● 9/19 竹魚礁の観察シュノーケリングイベントの告知メールあり。 ⇒WEB、SNS で広報協力。 ■9/27 打合せ（面談） ● エコツアー実施状況、開催予定の確認。 ● 中間共有会、SHM、PS 基盤強化会合へのSH参集の進め方について確認。	■9/7 中間共有会について打合せ ● エクスカーション行程について協議。 ● 9/14 にエクスカーション行程の確定案のメール連絡あり。

	ななお SDGs スイッチ【継続】 PF 七尾	ローカル SD クリエーション【新規】 PF 丹南	荒山林業【新規】 PF 大町
10月	● 未来ビジョン候補の投票プロジェクトを EPO の SNS 等で広報協力。	■10/27 打合せ ● SHへの呼びかけ状況について確認、SHミーティングの企画等について協議。	■10/4 PF 小布施と別業務打合せ ⇒大学の空家活用の研究フィールドが大町市となるとのこと。
11月	● 中間共有会の取組発表資料の提出についての電話、メールで連絡。	• 中間共有会の取組発表資料の提出についての電話、メールで連絡。	■中間共有会の実施に向けたメール・電話連絡で遣り取り ● 自治体出席についての相談に対し、中間共有会当日、市へ中部事務所と EPO が訪問する調整。 ● 当日、オンライン登壇の連絡あり。 • 中間共有会の開催後、エクスカーション実施協力について御礼メールを送信。
12月	■11/18-19 中間共有会		
	● 12/13 東京海上主催・SDGs フェスティバル in 名古屋丸の内に登壇・ブース出展。 ⇒EPO 聴講、ブース訪問。 ■12/12 に EPO 立ち寄り／打合せ • PF 丹南の PS 基盤強化会合で商工会議所等への呼びかけで協力依頼。 ● 12/26SDGs 表彰受賞のお知らせをいただく。	■12/12EPO にて打合せ実施 ● SH ミーティングについて協議。 ⇒1/18 開催で企画決定。 ● EPO 主催 PS 基盤強化会合について協議。 ⇒2/7 に PS 基盤強化の丹南会合を企画。会場（SHの農家レストラン）と電話打合せ。	● 本省主催「ローカル SDGs 構築セミナー」への参加呼びかけをメール。 ● 成果報告会への参加について確認。 ● 12/21 電話があり、事業化支援についての全国事務局からの連絡対応等について確認。 ● 12/23 団体から活動紹介用資料が届く。 ⇒大町市企画財政課との別件業務打合せ（12/27）で PF 事業と PF 大町の取組を紹介。 ■12/27 市との打合せ後、団体側とも打合せを実施（取組状況の確認等）
1月	● 2/7 実施 PS 基盤強化：丹南会合への協力についてメール打合せを行い、丹南エリアに関わりのあるSHへの開催概要送付を依頼。 ● 今後の展開についてオンライン打合せの日程調整の連絡。 ● 1/25 にJC主催【AWARDS JAPAN 2022】グランプリ受賞のメール連絡。	● SHミーティングの開催案内をメール確認。PF 事業メーリスでも送付するよう依頼。 ● 2/7 実施 PS 基盤強化：丹南会合の開催概要を活動団体と登壇SHに送付。 ■1/18SHミーティング実施 ⇒EPO は出席と開催支援。 ● 翌日 1/19 にSHミーティングの御礼と抽出意見の活用法についてメール連絡。	● 今後の展開についてオンライン打合せの日程調整をメール連絡。
2月	■2/8 オンライン打合せ • 今後の展開、事業化支援応募を確認。 • 主な事業のタネ、事業運営組織体制についてヒアリング。 • 2/17 内閣府の地方創生 SDGs 金融表彰の受賞について SNS 投稿記事をシェア、お祝いメール等を遣り取り。	■2/8 オンライン打合せ ● 今後の展開について確認。 ● 活動者からの紹介SHと白山さんち協働による山カフェを試行予定、沖縄への視察予定などヒアリング。 ● 2/20 電話で最終提出物についての確認の電話あり。 ⇒事業化支援希望調書の不明な点について回答。	● 別業務の 2/4 開催 SDGs 学生サミットでの大町市発表について問合せの電話。 ■2/6 オンライン打合せ ● ディレクターほか新規SH計3名も交え、次年度イベント計画等についてヒアリング。 ● 2/22 電話・メールで成果共有会の提出資料について問合せ。 ⇒不明点について回答。事業のタネシートを確認して追加の記入を提案。
3月	■ 3/8-9 成果報告会		

イ 新規採択団体を対象にしたヒアリング

①実施概要

● 今年度の中部エリアの新規採択２団体を対象に、事業着手時ヒアリングを実施した。

活動団体名	実施日／場所	ヒアリング項目
ローカルSDクリエーション（PF丹南） 【新規】（福井県丹南地区）	2022年4月21日／しらやまいこい館（福井県越前市）	Q.1：本事業を通じて、形成するプラットフォームのイメージとは？ Q.2：地域循環共生圏を実現した地域の姿・イメージとは？ Q.3：今年度の取り掛かり、何をどこまでやるか？ Q.4：事業を進める上での資源や強みとは？ Q.5：事業を進める上での課題とその解決のための方策などは？ Q.6：事業を進めるにあたっての協力者・ステークホルダーは？
荒山林業（PF大町） 【新規】（長野県大町市）	2022年4月19日／荒山林業（長野県大町市）	

②調査対象（ヒアリング出席者・同席者）

ローカルSDクリエーション （PF丹南）	合同会社 SD ローカルクリエーション社長　三田村佳政氏 水辺と生き物を守る農家と市民の会会長　長谷川氏 さかのくち活性化協議会　野村氏
荒山林業 （PF大町）	荒山林業　荒山あゆみ氏、荒山雄大氏 株式会社山川草木　香山由人氏 北アルプス地域振興局林務課　池上路浩氏

③ヒアリング結果（ヒアリングシートの作成）

- ヒアリング実施後、所定のヒアリングシート（GEOC 提示のフォーマット）に聴取内容を整理、記入し、中部地方環境事務所と共有のうえ、GEOC に提出した。

ウ 採択団体の支援計画の作成・提出

- ヒアリングシートの作成にあわせて、各プラットフォーム団体（継続団体も含む）の支援計画シート「環境整備フォローシート」（いずれも GEOC 提示のフォーマット）を作成し、中部地方環境事務所と共有のうえ、GEOC に提出した。

【作成した支援計画シート（環境整備フォローシート）の一部】PF 七尾

R4 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏プラットフォーム構築事業 環境整備活動団体

環境整備支援：年間計画

担当EPO	EPO中部
記入者	富田夏子
記入日	4月26日

団体概要	のと共栄信用金庫による「市民と共に歩む七尾版ローカルSDGs プロジェクト」

●活動団体のイベントスケジュール　　予定を灰色で記入してください。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5 1月	2月	3月
全体行事			キックオフ									成果共有会
1）中間共有会												
2）打合せ：毎月１回程度予定	打合せ		ななおSDGsスイッチ連絡会で顔合せ									
3）ＳＨミーティング			時期・企画協議予定									
4）												

意見交換会、WSなどの予定列を適宜追加してください。

【作成した支援計画シート（環境整備フォローシート）の一部】PF 丹南

R4 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏プラットフォーム構築事業 環境整備活動団体

環境整備支援：年間計画

担当EPO	EPO中部
記入者	富田夏子
記入日	5/13修正

団体概要	福井県越前市を中心とする丹南エリアにおいて、採択団体「合同会社SDクリエーション」が中心となって、里山整備副産物を利用した海洋資源保全に関するコンソーシアムの構築、生き物ほんぽファンクラブの連携構築に取り組む。

●活動団体のイベントスケジュール　　予定を灰色で記入してください。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5 1月	2月	3月
全体行事			キックオフ			中間報告会						成果共有会
1）イベントとその収益性の検証			エコツーイベント①	エコツーイベント②	及び検証			検証結果の共有				
2）SHミーティング		↓2次ジュール確認	↓イベント後打合せ					SHミーティング（農閑期）				
3）事務局打合せ	ヒアリング		打合せ	打合せ								
4）EPO主催勉強会			→SHMTGの内容・時期を鑑みて企画検討									

意見交換会、WSなどの予定列を適宜追加してください。

【作成した支援計画シート（環境整備フォローシート）の一部】PF 大町

R4 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏プラットフォーム構築事業 環境整備活動団体

環境整備支援：年間計画

担当EPO	EPO中部
記入者	富田夏子
記入日	4月26日

団体概要	団体名「荒山林業」（※団体名は「仮」としておきたいとのこと。） 長野県大町市の林業家を中心としたＰＦで、林業及び林業の現場となっている里山を活用した地域活性化とその経済圏づくりを目指している。

●活動団体のイベントスケジュール　　予定を灰色で記入してください。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5 1月	2月	3月
全体行事			キックオフ									成果共有会
1）中間共有会												
2）打合せ：毎月１回程度予定	ヒアリング		打合せ：スケジュール／取組の方向性等の確認									
3）ＳＨミーティング			時期・企画協議予定									
4）EPO主催勉強会			→SHMTGの内容・時期を鑑みて企画検討									

意見交換会、WSなどの予定列を適宜追加してください。

(2) 中間共有会の開催

①日時

- 中間共有会：2022 年 11 月 18 日（金）13：30～16：30
- エクスカーション（PF 大町の活動現場視察）：2022 年 11 月 19 日（土）8：20～14：30

②会場等

- 中間共有会の会場：長野県大町合同庁舎 5 階講堂
- エクスカーションの視察地：荒山林業地、木崎湖 POWWOW キャンプ場、工房ぐるり

③出席者

出席者(所属先)	1日目共有会	2日目視察	備考
ななおSDGsスイッチ	参加	－	PF七尾
合同会社ローカルSDクリエーション	参加	参加	PF丹南
荒山林業	Zoom参加	－	PF大町
荒山林業	Zoom参加	－	〃
荒山林業	参加	参加	〃
荒山林業	参加	－	〃
大町市農林水産課森林振興係	参加	－	〃
長野県北アルプス地域振興局	参加	参加	〃
長野県北アルプス地域振興局	参加	－	〃
長野県北アルプス地域振興局	参加	－	〃
長野県北アルプス地域振興局	参加	－	〃
信州大学キャリア教育・サポートセンター	参加	参加	卒業団体PF小布施
一般財団法人CSOネットワーク	参加	参加	アドバイザリー委員
岐阜大学客員教授　加藤義人氏	参加	－	ESD/EPO(中部)運営委員
NPOまちづくりスポット専務理事　田辺友也氏	参加	－	ESD/EPO(中部)運営委員
環境省大臣官房地域政策課	参加	－	
環境省大臣官房地域政策課	参加	参加	
環境省中部地方環境事務所	参加	参加	
三菱UFJリサーチ＆コンサルティング(株)	参加	－	
三菱UFJリサーチ＆コンサルティング(株)	参加	参加	
地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)	参加	参加	
EPO中部	参加	参加	
EPO中部	参加	参加	
EPO中部	参加	参加	
参加者数・計	24人	12人	

④プログラム

1．あいさつ
2．活動団体の取組発表
　【PF 七尾】ななお SDGs スイッチ
　【PF 丹南】合同会社ローカル SD クリエーション
　【PF 大町】荒山林業
3．先輩団体による取組紹介と活動団体へのエール
　【PF 小布施】スマート・テロワール協会　勝亦 達夫 氏（信州大学キャリア教育サポートセンター講師）
4．休憩・交流　フリータイム
5．ディスカッション
6．本日の講評・感想
　一般財団法人 CSO ネットワーク事務局長 長谷川 雅子 氏
　岐阜大学工学部客員教授 加藤 義人 氏
　NPO 法人まちづくりスポット専務理事 田辺 友也 氏
7．事務局からの連絡
8．閉会

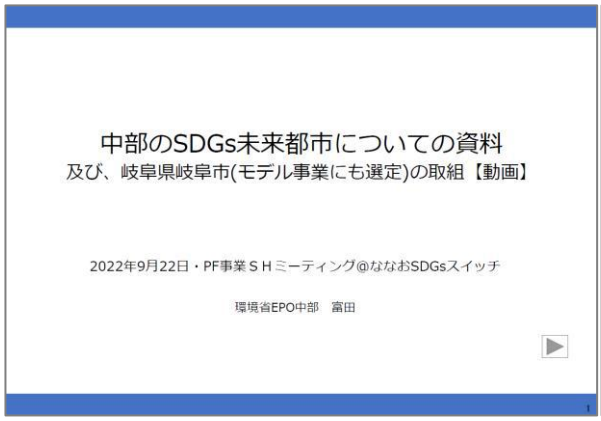
⑤11 月 19 日実施・PF 大町（荒山林業）のガイドによる視察の様子

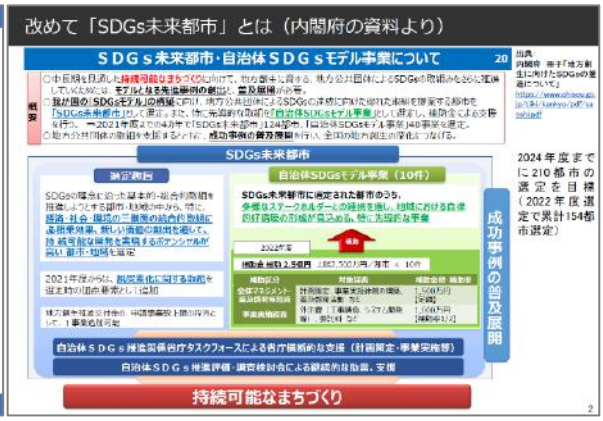
(3) 活動団体主催ステークホルダーミーティングの実施支援

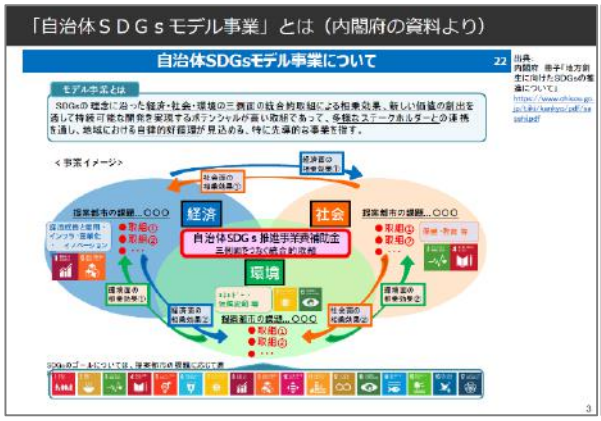
- 中部の３採択団体のうち、PF 七尾（ななお SDGs スイッチ）のステークホルダーミーティングが９月 22 日に実施され、七尾側の要望に基づき、EPO 中部は SDGs 未来都市についての簡易な説明と、岐阜市（SDGs 未来都市及びモデル事業に選定）による 2021 年度主催催事での取組発表動画を上映した。
- PF 大町は 12 月に合宿形式で行った地域資源抽出ワーキングの会合を開催し、これをステークホルダーミーティングとして位置づけた。
- PF 丹南はステークホルダーミーティングを１月 18 日に実施し、EPO 中部はワーキング用のツール、シート等の準備支援を行った。

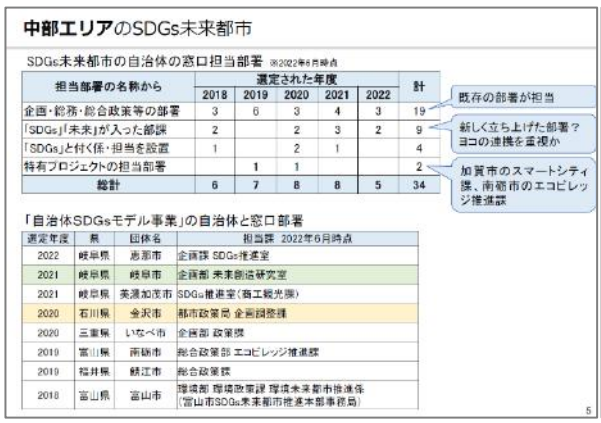
活動団体名	実施日／場所･方法	EPOが実施した支援等
ななおSDGsスイッチ（PF七尾）	2022年9月22日／七尾商工会議所及びオンライン	● SDGs未来都市についての簡易な説明（資料作成･配布） ● 岐阜市（SDGs未来都市及びモデル事業に選定）による2021年度主催催事での取組発表動画の上映
荒山林業（PF大町）	2022年12月／白馬にて合宿形式で実施	（地域視察を行いつつ、地域資源の抽出ワーキングを実施） ※ 実施後に団体側が本会合をステークホルダーミーティングに位置づけた。
ローカルSDクリエーション（PF丹南）	2023年1月18日／赤坂みらい塾	● ディスカッション用の模造紙、カラーペン、付箋等のワークショップツールの準備 ● オブザーバー参加、ファシリテーション補助

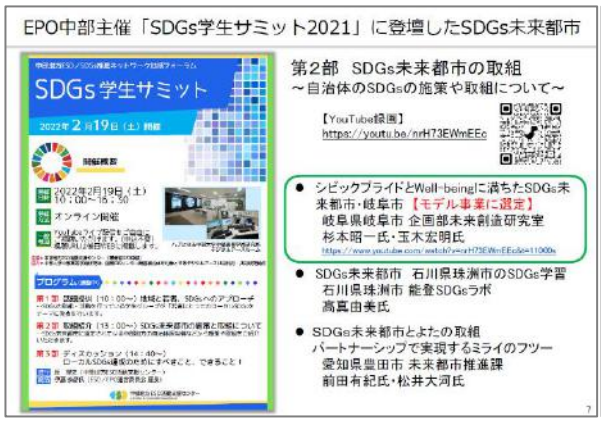
【PF 七尾のミーティング参加者に配布した EPO 資料】

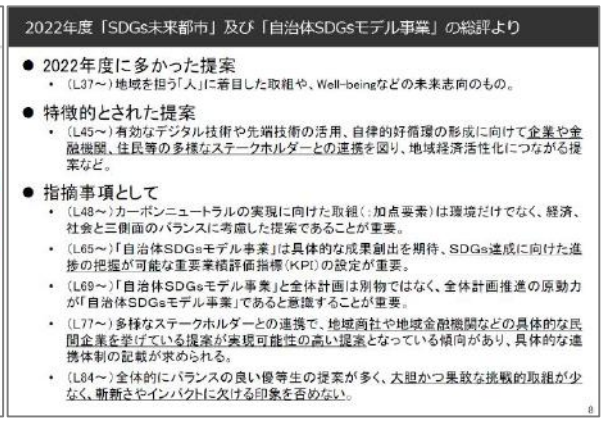












(4) 環境省・GEOC が主催する関連会議等への参加

- 環境省、GEOC が主催する地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業関連の会議・会合等について、下記の会合等に出席した。
- キックオフミーティング及び成果報告会では活動団体による資料準備での作成内容の解説、作成後の確認等の支援を実施したほか、当日の意見交換／ポスターセッションでは、ファシリテーターとしてディスカッションの進行等を行った
-

区分	開催日	会場/開催方法	実施内容等
キックオフミーティング	6 月 7 日～8 日	オンライン	• 今年度選定団体（継続団体）の発表 • 話を聞きに行く！タイム（ブレイクアウトルーム） など
作業部会	第1回 8 月 18 日	会場：GEOC	• 【導入】本日の目的、事業化支援チームによる指標検討と KPI ツリー の共有 • 【事前準備の共有】地域プラットフォームに起きた最も大きな変化とその要因と思われる出来事について • グループワーク
	第2回 1月 13 日	会場：東京	• 【意見交換①】環境整備の過程で得られた知見を共有する • 【意見交換②】本事業における「事業化支援」を分解する
共有会	5月 17 日	オンライン	• 事業概要と R4 年度年間予定の共有 • 新規ヒアリング結果等の共有 • キックオフ企画の共有・依頼 • 意見交換
PF 事業形成会議	12 月 13 日	オンライン	• 【議題 1】中間共有会の振り返り • 【議題 2】R5 年度事業内容について • 【議題 3】R4 年度末の予定について
成果共有会及びネットワーキングイベント	3 月 8 日～9 日	会場：東京	• 成果発表（継続・新規各団体ごとに実施） • ポスターセッション（継続・新規各団体ごとに実施） • ネットワーキング（情報交換会）

区分	開催日	会場/開催方法	実施内容等
PF 事業 アドバイザリー 委員会	第1回 8 月 23 日	オンライン ※傍聴	• 【議題 1】今年度の事業計画について • 【議題 2】動的な地域プラットフォームの姿とその支援のあり方とは • 意見交換
PF のあり方に 関する検討 ワーキング	第1回 9 月 22 日	オンライン ※傍聴	• 論点1：全国 PF のメインターゲットは、地域コーディネーターに絞ってよいか • 論点2：全国 PF の KPI の設定の考え方は妥当か • 論点3：全国 PF の認知度をどう上げるか
	第2回 2 月 10 日	オンライン ※傍聴	• 議題 1：次年度に向けた全国プラットフォームの改善について • 議題 2：全国プラットフォームが行う広報について
プラットフォーム構築に向けた有識者会議	第1回 12 月1日	オンライン ※傍聴	• 現状の共生圏についての考え方の共有 • 事業の進捗状況について • 次年度の採択団体（新規）の選定の流れについて

(5) 事業化支援団体の活動の情報共有

- 今年度の中部エリアでは、事業化支援に採択された団体は「なし」となっているが、上記の関連会議に参加・傍聴し、事業化支援団体の活動内容、及び全国事務局等による支援内容・方法等についての情報収集を行った。

(6) 卒業団体のフォローアップ調査

- 中部エリアの卒業団体の一つである「おわせ SEA モデル協議会」を対象にしたフォローアップ調査を 12 月 23 日に実施し、その内容を取りまとめたヒアリング結果シートを作成し、全国事務局へ提出した。

【提出したヒアリング結果シート】

【実施日時】2022 年 12 月 23 日　【形態】対面	【記入者】EPO 中部・富田
【参加者】おわせ SEA モデル協議会　濵田氏（尾鷲市政策調整課）	
【団体の状況】 ● 中部電力(株)尾鷲三田火力発電所（2018 年廃止）の跡地 63 万４千㎡の活用を目指し、事業展開を進める「おわせ SEA モデル」において、グランピング施設（2023 年 GW 開業予定）等を展開する企業の進出が決定。 ● 現在、発電所跡地の企業誘致エリアでは、製材工場の立地計画も進められており、将来的にはバイオマス関連施設の開業なども見込まれるなど、同エリアを中心にして、尾鷲市における脱炭素社会の実現が大きく前進するものと期待されている。また、尾鷲市は、2030 年度までにカーボンニュートラルを実現する全国のモデルとなる「脱炭素先行地域」への申請（第 3 回募集）も予定している。	
【ヒアリング要旨】 **【取組当時のことについて】** ■地域の将来像、地域資源の捉え方、地域課題の捉え方に対する考え方の変化について ● 共生圏 PF 事業開始前である 2018 年に協議会を発足し、その年度にグランドデザインを策定し事業構想としての「夢」を描いていただけであり、それを実現するためには、単に中部電力尾鷲三田火力発電所跡地という広大な敷地があるということだけ、また、地主であり、事業パートナーである中部電力という巨大企業がいるだけでは、何も進まないことが分かった。 ● こうした、大規模なプロジェクト推進や企業誘致は初めての経験であったことから、広大な敷地に加え、本市の地域資源や周辺市町の地域資源を上手く組み合わせていくことで事業が成り立ち、そして、地域課題の解決に結びついていくこと、また、多くの企業と意見交換をすることで、企業側も事業のタネを探しており、いかに上手くマッチングし、それぞれの役割分担の中で、本市での事業展開に繋げていけるようにするかが重要であることを理解するきっかけになった。 ■成果物 4 点ツールの作成プロセスを振り返って印象に残っていることやその活用等について ● 先ずは、「環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくり　構想策定の手引き」が非常に分かりやすかったため、成果物４点を作成するだけでなく、振り返りで読み直すことで各プロジェクトの推進、特にステークホルダー、地域資源・課題、目標等の「見える化」や考え方の整理などに非常に役立つものであった。 ● 地域版マンダラでは、地域課題、地域資源、取組、成果を紐づけることで体系的に「ありたい未来」を実現させるためのキーワードを整理することができた。	

- ステークホルダーリストでは、単に個々の事業における企業との繋がりだけではなく、「おわせＳＥＡモデル構想」を実現させるために非常に多くのステークホルダーにより成り立っていることが明らかとなることで、事業者間連携などについても考えるきっかけとなった。
- 目標シートや事業のタネシートでは、各プロジェクト（Ｓ・Ｅ・Ａ）で作成したが、今振り返ればもっと個々の事業毎に対象事業、課題等を明確にした上で作り込みを行えば、事業実現により繋がったものと省みている。
- 成果物の更新については、こうしたフォローアップ調査をきっかけとして取り組んでいきたい。

■環境省・事業事務局からのサポートについて

- 随時の進捗管理と支援はもちろんのこと、2019 年に有識者を招いて実施した「尾鷲分科会」、2020 年の「ＳＨミーティング」などの開催により、漠然としていた「おわせＳＥＡモデル構想」実現に向けたプロセスについてしっかり議論し、スタートアップとしてのプラットフォームづくりに大きく寄与する支援が得られた。その意味でも本事業は尾鷲市にとって大変意義のある事業である。
- 今後は、先ずはスタートアップとしてのプラットフォームづくり、特に地域循環共生圏づくりという点では、「持続可能性」が特に重要であり、持続可能な組織づくり、目標までのストーリーづくり、そして、絶えず活動を見直し、ブラッシュアップしていけるようなサポートを期待したい。
- 個々の団体が地域活動を継続していくことは非常に難しいことであり、行政として継続して取組を注視し、その場面、場面での活動共有や支援をしていくことで、目指すべき絵姿が達成出来るのではないかと考えている。地域は刻々と変化していくものであり、長い目で地域の推移を見守っていくフォローアップを期待したい。

【現在の状況について】

■事業終了後のプラットフォームの運営状況について

- 2 週間に 1 回、事務局定例会（市・中部電力・尾鷲商工会議所・三重県・三重大学）を開催するとともに、年 1 回以上の総会（予算・事業計画・決算）と必要に応じて臨時総会を開催。
- 協議会会員間の個別案件毎の打合せは随時実施。

■計画・予定していた取組等で実施できなくなった活動について

- 個々の事業・取組については検討過程で実施できなくなったものもあるが、「おわせＳＥＡモデル構想」は「Ｓ（市民サービスと集客交流人口の向上）」、「Ｅ（エネルギー）」、「Ａ（アクア・アグリ）」の相互連携により、「集客交流人口の拡大」と産業の振興による「雇用の創出」を図ることで、人々が集い活気あふれる「ふるさと尾鷲」を目指す構想であり、構想実現に向けて柔軟に対応していることから、実施予定事項の変化を特に問題と捉えていない。

■新たに創出した事業等について

- 「おわせＳＥＡモデル構想」実現に向けて、新規事業に取り組む企業誘致を積極的に進めているところである。

【今後の展開について】

■これから PF 事業に取り組む自治体/団体へのアドバイス等として

- 当然、事業規模が大きくなれば反対意見も出てくることから、粘り強く事業実現に取り組むことが重要となる。そのためには、先ずは公共であれば首長の理解とリーダーシップが必要不可欠となる。その上で、議会、市民、事業者など理解者を増やしてこそ事業実現に繋がり、更にはサスティナブルな社会が達成することが出来ると考えている。
- 地域循環共生圏と一言で言うことは簡単であるが、一朝一夕には成し得ないため、地道に取組を進めていただく必要がある。また、地域間連携は継続して事業を推進していく上で地域相互の励みにもつながっており、地域間連携についても深めていってほしい。

■今後進めたいテーマや環境省・事業事務局に対する要望等について

- 前回（2020 年度）のＳＨミーティングに続き、今回、EPO 中部がＰＳ基盤強化会合を「おわせＳＥＡモデル」を対象に開催していただくことに非常に感謝している。
- 現在、「おわせＳＥＡモデル」事業では、紀伊半島の貯木量と重要港湾である尾鷲港の利活用にも目を向け、発電所跡地への大型製材工場誘致に向けた動きが活発化している。森林資源の循環利用を図るためにはその仕組みづくり、基盤づくりも重要であり、そうした取組も強化していかなければならないと考えている。

(7) 森里川海生態系ネットワーク形成会合の開催

ア OECM に関わる情報交換会

①日時

- 2022 年 11 月 8 日（火）13：30～16：30

②開催方法・会場

- 開催方法：オンライン（zoom）

③出席者

- 計 55 名
  - 中部 7 県及び静岡県の自治体の担当部署から 39 名
  - 環境省・事務局等関係機関 16 名

④プログラム

1．ご挨拶
2．環境省による OECM 概説と質疑応答
3．中部の各県による OECM 等に関連する取組紹介
　①富山県、②石川県、③福井県、④長野県、⑤愛知県、⑥三重県
4．1 月 25 日開催フォーラムのご案内
5．情報交換
6．閉会

イ OECM フォーラム

①イベント名

生物多様性主流化フォーラム in 中部
「OECM を通じた企業の生物多様性保全活動」

②日時

- 2023 年 1 月 25 日（水）13：30～16：30

③開催方法

- 開催方法：オンライン（zoom、YouTube ライブ配信）

④主催

- 中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

⑤参加者

- 268 名
  - zoom 参加 62（登壇者・事務局含む）
  - YouTube 視聴 206（ライブ配信ユニーク視聴者数））

⑥プログラム

■ 開会　ごあいさつ　環境省中部地方環境事務所

■ 企業による生物多様性保全

「OECM と自然共生サイト（仮称）について」
　環境省自然環境局自然環境計画課

「世界目標と企業の生物多様性保全」
　国連大学サステイナビリティ高等研究所シニアプログラムコーディネーター 渡辺 綱男 氏

■ 自然共生サイト（仮称）試行認定の経験共有

「森の維持管理と自然共生サイトへの取組」
　ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社
　人事総務部門 総務・ファシリティ部 谷岡 修 氏

「希少生物が生息・生育するシャトー・メルシャンの椀子ヴィンヤード（長野県上田市）」
　キリンホールディングス株式会社 CSV 戦略部 小此木 陽子 氏

「柞の森（石川県珠洲市）における茶道用木炭生産を通じた里山の保全」
　株式会社ノトハハソ 代表取締役 大野 長一郎 氏

■ OECM に向けた多様な主体の連携

「自然共生を目指した企業連携」
　環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）自然共生分科会事務局
　東邦ガス株式会社 CSR 環境部部長付　北本 都美 氏

「市民・専門家と連携した調査・保全活動」
　なごや生物多様性保全活動協議会 会長 長谷川 泰洋 氏

■ 質疑応答と登壇者によるトークセッション

■ 閉会

⑦開催案内

生物多様性主流化フォーラム in 中部

OECMを通じた 企業の生物多様性保全活動

2023年1月25日（水）13:30～16:30

オンライン開催

参加無料

2022年12月に開催された生物多様性条約の締約国会議において、
「2030年までに陸と海の30%以上を保全する」という世界目標（30 by 30目標）が決定されました。
この30 by 30目標の達成に向けた重要な手段がOECM（オーイーシーエム）です。
OECMとは、法律などにより保護地域に指定されてない場所で、企業やNGO等の取組により生物多様性保全に貢献している場所（企業緑地、里地里山、都市緑地など）を指します。
環境省では、OECMの推進に向けて、企業等の取組により生物多様性の保全が図られている場所を認定する仕組み（自然共生サイト（仮称））の構築を進めています。
このフォーラムでは、今後、中部地域でOECMを増やしていく方策を検討するため、OECMに取り組む意義やメリットなどについて深堀します。

プログラムは裏面をご覧ください

申込方法

- 参加申込フォーム　https://forms.gle/W5W5YCL7jJ7MZuB46
  開催日の前日、申込登録したメールへZOOMの参加URLをお送りします。
- メールで申込の場合　宛先：info@epo-chubu.jp
  ①氏名（ふりがな）、②連絡先（メールアドレスか電話番号）、③ご所属先を記載のうえ、件名「0125フォーラム」で1月20日までに送信願います。
- 定員100名

30 by 30及びOECMにご関心のある方は、どなたでもお気軽にご参加いただけます。
特に、生物多様性保全の取組を展開している、またはご関心のある企業、活動団体、自治体のみなさまのご参加をお待ちしております。

参考　環境省ウェブサイト「生物多様性のための30by30アライアンス」
https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance

主　催：環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）

プログラム

1. 開　会

ご挨拶：環境省中部地方環境事務所

2. 企業による生物多様性保全

❶「OECM と自然共生サイト（仮称）について」　環境省自然環境局自然環境計画課

❷「世界目標と企業の生物多様性保全」
渡辺 綱男 氏（国連大学サステイナビリティ高等研究所シニアプログラムコーディネーター）

3. 自然共生サイト（仮称）試行認定の経験共有

❶「森の維持管理と自然共生サイトへの取組」
谷岡　修 氏（ソニーグローバルマニュファクチャリング＆オペレーションズ株式会社人事総務部門
総務・ファシリティ部）

❷「希少生物が生息・生育するシャトー・メルシャンの椀子（まりこ）ヴィンヤード（長野県上田市）」
小此木 陽子 氏（キリンホールディングス株式会社 CSV 戦略部）

❸「柞（ははそ）の森（石川県珠洲市）における茶道用木炭生産を通じた里山の保全」
大野 長一郎 氏（株式会社ノトハハソ代表取締役）

4. OECM に向けた多様な主体の連携

❶「自然共生を目指した企業連携」
北本 都美 氏（環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）自然共生分科会事務局
東邦ガス株式会社 CSR 環境部部長付）

❷「市民・専門家と連携した調査・保全活動」
長谷川 泰洋 氏（なごや生物多様性保全活動協議会会長）

5. 質疑応答と登壇者によるトークセッション

6. 閉　会

(8) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

ア 尾鷲会合

①イベント名

- 令和４年度おわせ SEA モデル説明交流会
  「企業・金融機関等とのパートナーシップによる尾鷲市ローカル SDGs 実現に向けて」

②日時

- 2023 年 1 月 20 日（金）13：30～16：30

③会場

- 尾鷲市立中央公民館　3 階・講堂（三重県尾鷲市中村町 10-41）

④主催等

- 主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

⑤参加者

- 128 名（登壇者・事務局含む、企業・機関数：63 社）

⑥プログラム

○　ごあいさつ
　尾鷲市長 加藤 千速
　環境省地域政策課地域循環共生圏推進室
　室長 佐々木 真二郎

○　おわせ SEA プロジェクトについて
　尾鷲市政策調整課 調整監 濵田 一多朗

○　協力機関からの応援メッセージ
　財務省 東海財務局 津財務事務所
　国土交通省 中部地方整備局 四日市港湾事務所

○　プロジェクト・セッション
　①　尾鷲音色の森キャンプ場（仮）について
　　（株）インフィニティ 52 代表取締役 浜野 五十二 氏
　②　親子 3 世代が憩う総合公園整備について
　　尾鷲市生涯学習課長 平山 始 氏
　③　環境にやさしいし陸上養殖について
　　尾鷲商工会議所 プロジェクト室長 山本 浩之 氏
　④　尾鷲市における製材工場立地の可能性について
　　速水林業 代表 速水 亨 氏
　⑤　質疑応答

○　フリートークタイム

○　閉会

⑦開催案内

01

令和４年度　おわせSEAモデル説明交流会

企業・金融機関等とのパートナーシップによる尾鷲市ローカルＳＤＧｓ実現に向けて

開催案内

開催概要

02

おわせSEAモデル説明交流会

開催日時

2023年1月20日(金) 13:30～16:30

会場

尾鷲市立中央公民館３階・講堂

住所 ...三重県尾鷲市中村町10-41

Googleマップ ... https://goo.gl/maps/3K2aMbs8SMNFQM6S

主な参加者

おわせSEAプロジェクトに関心のある／関心を持ってほしい企業・金融機関等　等

主催

環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）

おわせSEAモデル説明交流会

03

開催の趣旨

- おわせSEAモデル協議会と企業・金融機関等との新たなパートナーシップで進める尾鷲市の未来像（ローカルSDGs）実現に向けて、新たなパートナーシップの構築と新たなプロジェクト創発のきっかけづくりを目指しています。
- 今回の説明交流会では、現在進行中の各プロジェクトを前提として、「S（サービス・集客交流人口の向上）」につながる、例えば、アスレチック、スポーツ、宿泊、飲食・物販関連事業者、「E（エネルギー）」とその排熱活用等につながる陸上養殖、植物工場関連事業者、そして、SDGs/ESG投資に関心のある金融機関等の参加を強く募っています。
- また、尾鷲市では、2022年3月1日に「尾鷲市ゼロカーボンシティ宣言」を行い、現在、「脱炭素先行地域」への申請（第３回募集）準備を進めています。本会合ではこれらの関連動向とともに、環境省の地域循環共生圏づくり事業2019-2020年度に採択された「おわせSEAモデル」プロジェクトの最新情報をご紹介します。

プログラム 1/2

04

1. ごあいさつ
   - 尾鷲市長　加藤 千速
   - 環境省地域政策課
     地域循環共生圏推進室長　佐々木 真二郎
2. おわせSEAプロジェクトについて（15分）
   - 尾鷲市政策調整課 調整監　濵田 一多朗
3. 協力機関からの応援メッセージ（10分）
   - 財務省 東海財務局
     津財務事務所長　斎藤 誉　氏
   - 国土交通省 中部地方整備局
     四日市港湾事務所長　日置 幸司　氏

おわせSEAモデル説明交流会

プログラム 2/2

05

4. プロジェクト・セッション（各プロジェクト5分）
   - ○ セッションの進め方　説明：EPO中部
   - ① 尾鷲音色の森キャンプ場(仮)について
     - 株インフィニティ52代表取締役　浜野 五十二　氏
   - ② 親子３世代が憩う総合公園整備について
     - 尾鷲市生涯学習課長　平山 始　氏
   - ③ 環境にやさしい陸上養殖について
     - 尾鷲商工会議所プロジェクト室長　山本 浩之　氏
   - ④ 尾鷲市における製材工場立地の可能性について
     - 速水林業 代表　速水 亨　氏
   - ○ 質疑応答（60分）　進行：EPO中部
5. フリートークタイム（プロジェクト担当者との情報交換）
6. 閉会（16：30予定）

おわせSEAモデル説明交流会

参加申込フォーム

https://forms.gle/ZyRrGstytA7vXen6A

06

問合せ・連絡先

環境省中部環境パートナーシップオフィス
（EPO中部）
TEL：052-218-8605 ／ E-mail：info@epo-chubu.jp
https://www.epo-chubu.jp/

おわせＳＥＡモデル協議会・事務局
尾鷲市政策調整課
TEL：0597-23-8134 ／ E-mail：sechosei@city.owase.lg.jp
https://www.owase-seamodel.jp

おわせSEAモデル説明交流会

イ 丹南会合

①会議名

- 里山里海ワイズユース×地域ビジネス　情報交換会

②日時

- 2023 年 2 月 7 日（火）13：30～16：00

③会場

- 会場：農家レストラン・白山さんち（越前市上杉本町 11-7）

④出席者

- 計 11 名

ななお SDGs スイッチ【PF 七尾】
合同会社ローカル SD クリエーション【PF 丹南】
日本政策金融公庫武生支店
農家レストラン・白山さんち
越前市エコビレッジ交流センター
武生商工会議所 中小企業相談所
東京海上日動火災保険株式会社
環境省中部地方環境事務所
環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部） 3名

⑤プログラム

○ はじめに（基盤強化業務の趣旨）／地域循環共生圏について
　環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐　原 慎一郎

○ 環境省ＰＦ事業取組紹介：産官学金コンソーシアム「ななおSDGs スイッチ」による創業支援等の取組
　ななおSDGs スイッチ 入口 翔 氏（七尾商工会議所SDGs プロジェクト推進室室長 兼 のと共栄信用金庫ふるさと創生部次長）

○ 環境省ＰＦ事業取組紹介：丹南における里山整備副産物を利用した海洋資源保全
　合同会社ローカル SD クリエーション代表 三田村 佳政 氏

○ 地域ビジネス創出を目指した取組紹介：日本政策金融公庫のソーシャルビジネス支援
　日本政策金融公庫武生支店融資課長 年岡 孝浩 氏

○　地域の取組紹介：地域資源を活用した農家レストランやエコツアー
　　農家レストラン・白山さんち　森 和恵 氏
○　意見交換・情報交換ディスカッション
○　閉会

ウ 地域脱炭素セミナー（東海開催）

①イベント名

- 東海地域における地域脱炭素の実現に向けた金融機関向けセミナー

②日時

- 2023 年 3 月 6 日（月）14：00～16：00

③開催方法

- 開催方法：オンライン（webex、YouTube ライブ配信）

④主催

- 主催：財務省東海財務局、経済産業省中部経済産業局、環境省中部地方環境事務所
　　中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

⑤参加者

- 116 名
  - webex 参加 61（登壇者・事務局含む）
  - YouTube 視聴 55（ライブ配信ユニーク視聴者数）

⑥プログラム

○　ごあいさつ：財務省東海財務局
○　第 1 部：情報提供
　　「カーボンニュートラルの推進に向けて」経済産業省中部経済産業局
　　「脱炭素社会実現による地域づくり」環境省中部地方環境事務所

○　第２部：パネルディスカッション

「脱炭素経営とこれからの地域づくりに向けて」

ファシリテーター：名古屋大学大学院環境学研究科 特任准教授 杉山 範子 氏

パネリスト：

十六銀行 執行役員 ソリューション営業部長 角 知篤 氏

株式会社マルワ 取締役 鳥原 由美 氏

協発工業株式会社 代表取締役 柿本 浩 氏

加山興業株式会社 経営企画室 室長 田畠 真一 氏

株式会社艶金 代表取締役社長 墨 勇志 氏

⑦開催案内チラシ

地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

東海地域における地域脱炭素の実現に向けた

金融機関向けセミナー

オンライン開催・参加無料

2023年3月6日(月) 14:00 ▶ 16:00

東海地域には、製造業を中心に多くの中小企業が集積しています。
この地域での社会変革と合わせた脱炭素社会構築に向けては、大企業がけん引する製造業をはじめ、多くの産業分野での脱炭素化を同時に進めることが重要です。
当セミナーでは、地域で事業者との接点の多い地域金融機関を対象として、具体的な取組事例や情報の共有、意見交換等を行います。

プログラム

ご挨拶　財務省東海財務局

第１部　情報提供

「カーボンニュートラルの推進に向けて」経済産業省中部経済産業局

「脱炭素社会実現による地域づくり」環境省中部地方環境事務所

第２部　パネルディスカッション

「脱炭素経営とこれからの地域づくりに向けて」

ファシリテーター　名古屋大学大学院環境学研究科 特任准教授　杉山 範子 氏

パネリスト　十六銀行 執行役員 ソリューション営業部長　角 知篤 氏

株式会社マルワ 取締役　鳥原 由美 氏

協発工業株式会社 代表取締役　柿本 浩 氏

加山興業株式会社 代表取締役　加山 順一郎 氏

株式会社艶金 代表取締役社長　墨 勇志 氏

Webex／YouTubeライブ配信　申込時にどちらかを選択してください。

● 参加申込フォーム　https://forms.gle/BYuKUKLoL23k6ybJ8

参加 URL または視聴 URL は、３月２日（木）までにお送りいたします。

EPO 中部ウェブサイト（https://www.epo-chubu.jp）からも申込できます。

EPO 中部　検索

● メールで参加申込の場合　info@epo-chubu.jp

① 氏名（ふりがな）、② 連絡先（メールアドレス・電話番号）、③ ご所属先、④ 参加方法（Webex／YouTube のどちらか）を記載し、件名を「0306 セミナー」として、2月28日（火）までに送信してください。

主 催：財務省東海財務局・経済産業省中部経済産業局・環境省中部地方環境事務所・中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)

エ 地域脱炭素セミナー（信州開催）

①イベント名

- 信州における地域脱炭素の実現に向けた金融機関・事業者向けセミナー

②日時

- 2023 年 3 月 14 日（火）14：00～16：00

③開催方法

- 開催方法：オンライン（webex、YouTube ライブ配信）

④主催

- 主催：経済産業省関東経済産業局、環境省中部地方環境事務所、
  財務省関東財務局長野財務事務所、中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

⑤参加者

- 84 名
  - webex 参加 22（登壇者・事務局含む）
  - YouTube 視聴 62（ライブ配信ユニーク視聴者数）

⑥プログラム

○ ごあいさつ 財務省関東財務局 長野財務事務所

○ 第 1 部：情報提供

「カーボンニュートラルと地域企業の対応」経済産業省関東経済産業局

「地域における脱炭素実現の取組」環境省中部地方環境事務所

○ パネルディスカッション「脱炭素経営について」

ファシリテーター：信州大学経法学部 特任教授 中島 恵理 氏

パネリスト：

八十二銀行

サントリープロダクツ株式会社 天然水北アルプス信濃の森工場

株式会社山崎屋木工製作所

株式会社長野エネルギー開発

⑦開催案内チラシ

地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

信州における 地域脱炭素 の実現に向けた

金融機関・事業者向けセミナー

オンライン開催・参加無料

2023年3月14日(火) 14:00 ▶ 16:00

長野県には多くの資源ポテンシャルがあり、この地域での社会変革と合わせた脱炭素社会構築に向けては、地域資源の持続的な活用と合わせた脱炭素化の取組を進めることが重要です。
当セミナーでは、地域で事業者との接点の多い地域金融機関をはじめ、地域内の資源を活用した事業を展開している事業者を対象とし、具体的な取組事例や情報の共有、意見交換等を行います。

プログラム

ご挨拶 財務省関東財務局 長野財務事務所

第1部 情報提供
「カーボンニュートラルと地域企業の対応」 経済産業省関東経済産業局
「地域における脱炭素実現の取組」 環境省中部地方環境事務所

第2部 パネルディスカッション
「脱炭素経営について」
ファシリテーター ： 信州大学経法学部 特任教授 **中島 恵理** 氏
パネリスト ： 八十二銀行
サントリープロダクツ株式会社 天然水北アルプス信濃の森工場
株式会社山崎屋木工製作所
株式会社長野エネルギー開発

Webex／YouTubeライブ配信 申込時にどちらかを選択してください。

● **参加申込フォーム** https://forms.gle/sE1WF2vGg6gd8Smi7
参加 URL または視聴 URL は、3月10日（金）までにお送りいたします。
EPO 中部ウェブサイト（https://www.epo-chubu.jp）からも申込できます。
EPO 中部 検索

● **メールで参加申込の場合** info@epo-chubu.jp
① 氏名（ふりがな）、② 連絡先（メールアドレス・電話番号）、③ ご所属先、④ 参加方法（Webex／YouTube のどちらか）を記載し、件名を「**0314 セミナー**」として、**3月7日（火）まで**に送信してください。

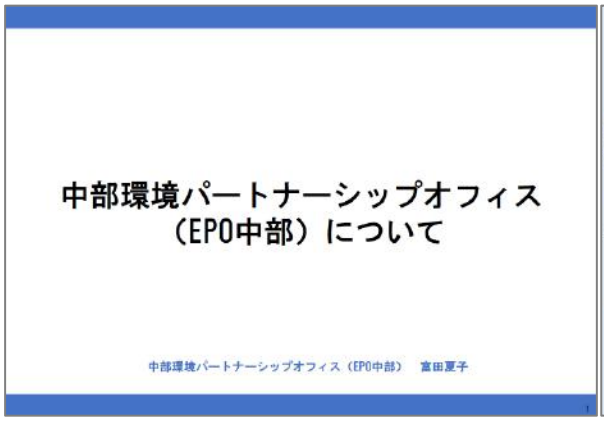
主 催：経済産業省関東経済産業局・環境省中部地方環境事務所・財務省関東財務局長野財務事務所・中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)

(9) 地域循環共生圏に通じる担い手（団体等）の把握

- 地域での地域循環共生圏に通じる担い手（団体等）に対し、地域循環共生圏づくり（PF 事業とその事例）に関する情報提供等を行った。

対象団体	**一般社団法人日本環境 NPO ネットワーク（Jens-Net）**
実施日・方法	2023 年 2 月 9 日に、Jens-Net５名と EPO で情報交換を実施
実施内容	(1) 自己紹介（それぞれの活動紹介） (2) Jens-Net の設立背景、活動内容等の説明 (3) EPO 中部の説明 (4) 地域循環共生圏（PF 事業）、OECM の概説 (5) 情報交換 ■ 活動者ネットワーク、中間支援組織の必要性について ▪ 活動者同士の情報交換等ができるため、コロナ禍でも益々その役割が重要となった。 ■ 活動上の課題について ▪ 個別の団体同様、コロナ禍を経てネットワーク組織の維持が難しくなっている。活動資金、マンパワー等の不足は否めない。 ■ 地域活動に必要とされている支援とは ▪ 環境、地域づくりは短期的な成果は得られにくいため、長期的な視点での支援が必要である。 ▪ 単年度予算で動く行政からの長期的な支援の獲得は難しいため、企業等からの支援が重要となる。 ▪ CSR や SDGs 貢献等で「何かしたい」と考えている企業も多いため、活動者とそうした企業をマッチングする場があってほしい。

【EPO 中部／地域循環共生圏の説明資料】

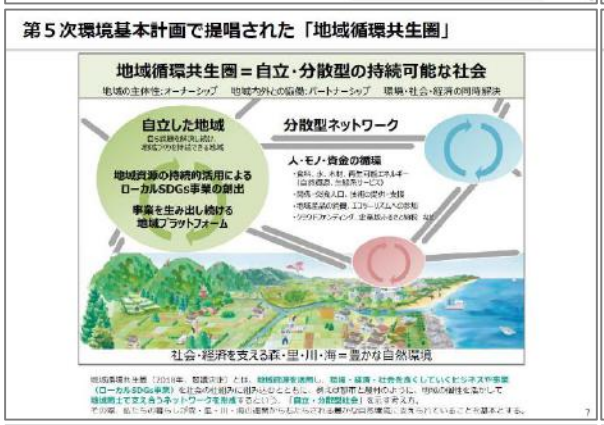


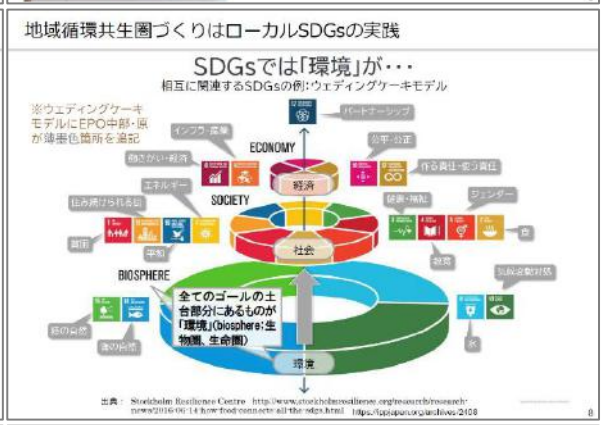
こんな時はEPO中部へ
情報が知りたい、情報を収集したい
相談・照会したい、紹介してほしい
ちょっとした会議や打合せにも
広報したい、PRしてほしい
3

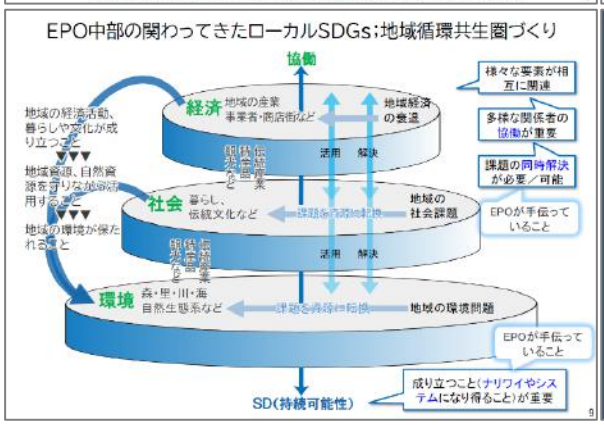
EPO中部の“お役立ちツール”
いずれもEPO中部ウェブサイトで公開。DLできます。https://www.epo-chubu.jp
4

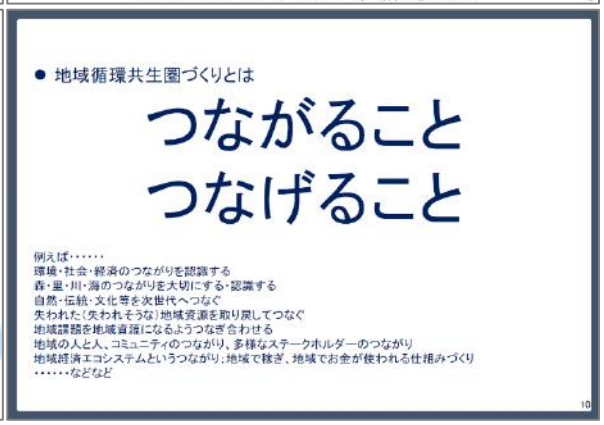
←
SDGsチェックリスト
ダウンロードして自由に活用いただけます。
基本段階版・簡易版・事業所活用版あり
→
ワークショップ用シート
（通称：U字シート）
グループワーキングなどで活用いただけます。
5

2022年11月23日開催・地域循環共生圏フォーラム in SUWA
長野県諏訪市で開催した地域循環共生圏フォーラムinSUWA「諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョン」にて、地域の未来像づくり共有ワークショップを実施。
環境省ＥＰＯ中部
「地域循環共生圏」目指す
諏訪でフォーラム
長野日報2022年11月24日記事
6


第５次環境基本計画で提唱された「地域循環共生圏」
地域循環共生圏＝自立・分散型の持続可能な社会
自立した地域
分散型ネットワーク
地域資源の持続的活用による
ローカルSDGs事業の創出
事業を生み出し続ける
地域プラットフォーム
人・モノ・資金の循環
社会・経済を支える森・里・川・海＝豊かな自然環境
7


地域循環共生圏づくりはローカルSDGsの実践
SDGsでは「環境」が・・・
相互に関連するSDGsの例：ウェディングケーキモデル
※ウェディングケーキモデルにEPO中部・県が連番色箇所を追記
ECONOMY
SOCIETY
BIOSPHERE
経済
社会
環境
全てのゴールの土台部分にあるものが「環境」(biosphere：生物圏、生命圏)
8


EPO中部の関わってきたローカルSDGs；地域循環共生圏づくり
協働
様々な要素が相互に関連
多様な関係者の協働が重要
課題の同時解決が必要／可能
EPOが手伝っていること
経済
社会
環境
地域の経済活動、暮らしや変化が成り立つこと
地域資源、自然資源を守りながら活用すること
地域の環境が保たれること
SD（持続可能性）
成り立つこと（ナリワイやシステムになり得ること）が重要
9


● 地域循環共生圏づくりとは
つながること
つなげること
例えば・・・・・・
環境・社会・経済のつながりを認識する
森・里・川・海のつながりを大切にする・認識する
自然・伝統・文化等を次世代へつなぐ
失われた（失われそうな）地域資源を取り戻してつなぐ
地域課題を地域資源になるようつなぎ合わせる
地域の人と人、コミュニティのつながり、多様なステークホルダーのつながり
地域経済エコシステムというつながり；地域で稼ぎ、地域でお金が使われる仕組みづくり
・・・・・・などなど
10

6 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務

(1) 中部地方 ESD 活動支援センターの運営・推進

- 令和３年度に策定した中部地域の「第６期 ESD 推進計画」をもとに、中部地方 ESD 活動支援センターの業務内容等を検討し、ESD/EPO 運営委員会（第１回会議）に諮問のうえ、関係する委員からの開催地域、連携機関、協働方法等の助言を踏まえて業務実施計画に反映した 。

【参考：令和３年度に策定した中部地域の「第６期 ESD 推進計画」】

第６期ESD推進計画の策定

第2期ESD国内実施計画を受け策定

①持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議（2021年4月）：我が国における「持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）」に関する実施計画（第２期ＥＳＤ国内実施計画）（案）
②一般社団法人環境創造研究センター（2021年3月）：第6期EPO中部運営企画提案内容（令和３年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務企画書）
③中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議（2020年2月）：＜参考資料２＞中部地方ESD活動支援センターの活動方針についての検討（事務局整理案）

中部地方ESD活動支援センター　第6期ESD推進計画（章立てと策定方針案）

・計画の位置づけ
第2期ESD国内実施計画に基づき中部ESDC第6期ESD推進活動方針を示す。
・課題認識
地方センターに期待される4機能に対する課題抽出を行う。
・重点
資料②で提案した第6期の重点を示す。
・推進のための戦略
資料②で示した計画提案と今年度の仕様書を踏まえ第6期の戦略を整理する。

1

(2) ESD 活動に関するネットワークの構築

ア ESD/SDGs 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

①日時

- 2022 年 12 月 5 日（月）13：00～15：30

②会場

- 開催方法：ハイブリッド
  - 会場：ウインクあいち 906 会議室　（名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38）
  - オンライン：zoom

③主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター

④出席者

- 26 名（会場参加 13 名、オンライン参加 13 名）

⑤プログラム

○　挨拶　環境省中部地方環境事務所

○　参加者自己紹介

○　基調講演

「ESD の今日的意義 これからの社会を担う人づくり」

愛知教育大学 教授 大鹿 聖公 氏

○　現状報告

「環境省 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センターの取組」

中部地方 ESD 活動支援センター責任者 原 理史

○　参加者意見交換

「地域 ESD の現状と課題」

コーディネーター：中部 ESD 拠点協議会事務局長 中部大学国際 ESD・SDGs センター准教授
古澤 礼太 氏

⑥ポスターの制作

- フォーラムのポスター／チラシを制作し、開催案内とともに、中部エリアの地域 ESD 拠点へ郵送及びメールで送付した。

【制作したポスター／チラシ】

イ SDGs 学生サミットの開催

①イベント名

- SDGs 学生サミット

②日時

- 2023 年 2 月 4 日（土）13：00～17：00

③開催方法

- 開催方法：オンライン（zoom、YouTube 配信）

④主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター
- 協力：中部大学中部高等学術研究所、国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

⑤参加者

- 116 名
  - zoom76（登壇者・事務局含む）
  - YouTube 視聴 40（ユニーク視聴者数）

⑥プログラム

○ 挨拶

環境省中部地方環境事務所

名古屋市立大学 副学長 教授 伊藤 恭彦

○ 《第１部》団体発表 若者にとっての SDGs ～学習活動等の取組紹介や展望

中部地方に所在する大学等 の学生グループ 7 団体

○ 《第２部》話題提供：地域の SDGs 取組～自治体の SDGs の取組について

（SDGs 未来都市３自治体）福井県鯖江市、三重県いなべ市、長野県大町市

○ 《参考 インプット 》「見える化プログラム」分析と「地域 SDGs データセット」

○ 《第３部》ディスカッション：ローカル SDGs のために。すべきこと、できること！

ファシリテーター：EPO 中部・ 中部地方 ESD 活動支援センター

⑦開催案内チラシ

中部地方ESD／SDGs推進ネットワーク地域フォーラム

SDGs学生サミット

2023年 2月4日（土）開催

13：00～17：00・オンライン

プログラム 予定

第１部　団体発表
若者にとってのSDGs
～学習活動等の取組紹介や展望～

中部地方に所在する
大学等の学生・ユースグループが
SDGsの取組・活動について発表を行います。

第２部　話題提供
地域のSDGsの取組
～自治体のSDGsの取組について～

中部地方のSDGs未来都市に選定されている
基礎自治体の担当者などから
施策や取組をご紹介いただきます。

第３部　ディスカッション
ローカルSDGs達成のためにすべきこと、できること！

進行　原　理史（中部地方ESD活動支援センター）
総括　伊藤 恭彦氏（名古屋市立大学副学長、ESD／EPO運営委員会 座長）

一般参加 申込不要

●YouTubeライブ配信をご視聴いただけます。
●視聴URLはWebページに掲載いたします。
Webページ▶

ハブとなる中部大学中部高等学術研究所
デジタルアースルーム▶

主催▶中部地方ESD活動支援センター（環境省EPO中部）
協力▶中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

中部地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

ウ 地域 ESD 拠点等の ESD 活動の支援

- 拠点登録済み団体が主催するイベント等について、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト等で下記の通り、広報協力を行った。

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに掲載した登録団体への広報協力記事】

地域ESD拠点トピック

2023.02.03 地域ESD拠点トピック
いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト「地域対話フォーラム2023 in Aichi」を開催
開催日時：2023年2月23日（木・祝）10：00～17：00

2023.01.13 地域ESD拠点トピック
SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト 第11回ワークショップを開催
開催日時：2023年1月28日（土）8：00～16：30
申込締切：2023年1月26日（木）

2022.12.23 イベント＆ニュース 地域ESD拠点トピック
認定「体験の機会の場」加山興業で「連携した環境教育の実現に向けて」をテーマに研修を開催
開催日時：2023年1月20日（金）10：00～16：30
開催場所：加山興業株式会社 豊川本社（愛知県豊川市）※中部地域のESD拠点団体

2022.12.12 地域ESD拠点トピック
SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト 第10回ワークショップ『岐阜県神戸町の山王まつりから考える大麻の過去と未来』を開催
開催日時：2022年12月17日（土）10：00～15：30
申込締切：12月14日（水）※定員に達し次第、受付を終了

2022.11.14 地域ESD拠点トピック
「SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」美濃和紙と里山のまちづくりワークショップを開催
開催日時：2022年11月20日（日）10：00～15：00
申込締切：2022年11月16日（水）※定員に達し次第、受付終了

2022.11.04 地域ESD拠点トピック
「SDGs推進フォーラム in 飛騨高山」が開催されました

2022.10.26 地域ESD拠点トピック
錦2丁目SDGs WEEKs《七番SDGsセミナー》を開催
▼錦2丁目SDGs WEEKs開催期間▼
2022年10月21日（金）～11月6日（日）

2022.09.30 地域ESD拠点トピック
SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト 第8回ワークショップ「鯨船祭りから考える生物文化多様性」を開催
開催日時：2022年10月15日（土）10：30～15：30
申込締切：2022年10月8日（土）

2022.09.13 地域ESD拠点トピック
「SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」第7回ワークショップ「蟹江須成祭の葭（ヨシ）から考える川文化と自然環境」を開催
開催日時：2022年10月1日（土）10：00～15：30
申込締切：2022年9月26日（月）※定員に達し次第、受付終了

2022.08.19 地域ESD拠点トピック
「SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」第6回ワークショップ「知多半島・豊浜鯛まつりから考える森里川海」を開催
開催日時：2022年9月11日（日）9：30～15：00
申込締切：2022年9月3日（土）

2022.07.10 中部の拠点登録団体
中部エリアの「地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）」について
中部ブロックでは19団体が地域ESD拠点に登録されています。
2022年12月、新たに「ななおSDGsスイッチ」さんが登録団体になりました。

2022.06.16 地域ESD拠点トピック
中部サステナ政策塾（第7期、2022年度）塾生を募集
《応募条件》
・年齢が39歳以下であること
・全講座のうち7割以上参加できること（オンライン補講あり）

2022.06.14 地域ESD拠点トピック
SDGsの達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト 第5回ワークショップ「亀崎潮干祭りから考える三河湾のあさり」を開催
開催日時：2022年7月2日（土）10：00～15：00
申込締切：2022年6月29日（水）※定員に達し次第、受付終了

2022.05.19 地域ESD拠点トピック
SDGsシンポジウム 中部の「国連人間環境会議から50年」を開催
開催日時：2022年6月5日（日）13：30～17：00
開催場所：名古屋市公会堂 第7集会室（名古屋市昭和区）

2022.05.09 地域ESD拠点トピック
SDGsまちづくりプロジェクトin錦二丁目REPORT（2020-2021）を作成しました！
なごや環境大学と錦二丁目まちづくり団体、企業、大学等の多様な主体と、地域の課題解決とSDGs達成に向けた取組を進めてきた2年間の歩みを紹介しています。

2022.04.21 地域ESD拠点トピック
企業向けSDGsオンラインセミナー「消費者とともに歩く企業」を開催
開催日程：5/27、6/24、7/29、8/26、9/30［各日14:00-15:00］
申込期限：開催日の3日前

(3) 全国センター及び地方センターとの連携

ア 全国 ESD センターとの連携

①ESD 拠点の登録審査に伴う情報提供

- 地域 ESD 拠点の申請・登録にあたり、全国 ESD センターからの照会対応等があった際には、適宜、情報提供を実施した。
- 今期までに中部エリアでは、新たな地域 ESD 拠点登録の申請が２件あり、2022 年 12 月末時点で計 20 団体が地域 ESD 拠点に登録されている。

【2022 年度に新規登録された中部エリアの地域 ESD 拠点】

団体名	県	申請日	登録日
加山興業株式会社	愛知県	2022 年 6 月 13 日	2022 年 6 月 21 日
ななお SDGs スイッチ	石川県	2022 年 12 月 14 日	2022 年 12 月 27 日

②年次アンケートの実施支援

- 2022 年４月に、全国センターが地域 ESD 拠点を対象に年次アンケートを実施するにあたり、適宜、中部エリアの地域 ESD 拠点団体に対し、協力依頼等を行った。

③全国センター主催会議等への出席、資料提供等

- 全国 ESD センターから招聘された全ての会議等に出席し、資料提供などを行った。

区分	回/開催日	実施内容
企画運営委員会	第 1 回 6 月 23 日	(1) ESD 活動支援センター2021 年度事業報告について (2) ESD 活動支援センター2022 年度事業について
	第 2 回 3 月 2 日	1. ESD 活動支援センターの本年度主要事業について(報告) 2. 気候変動を切り口とした ESD の今後の進め方について ※マトリクスの検討 3. 2023 年度 ESD 活動支援センター活動計画案について
全国・地方連絡会	第 1 回 6 月 15 日	【議題1】ESD をめぐる最近の動向、地域脱炭素に向けた人材育成について 【議題2】共有:全国センターの事業について 【議題3】共有:各センターの事業予定について 【議題4】全国センター事業:拠点関係、情報関係 【議題5】気候変動教育に関する共有・議論
	第 2 回 1 月 23 日	(1)開会 (2)2023 年度環境省・文部科学省の施策の方向性について (3)気候変動教育コンセプトペーパー最終案について (4)次年度以降のセンター・ネットワークの活動について (5)2022 年度「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」報告(地方センター)と全国フォーラム報告(全国センター) (6)各センターの活動を記載したマトリクスの共有・議論 (7)事務連絡
全国フォーラム	12 月 10 日	• ポスターセッション＆ネットワーキングタイム • 開会挨拶(文部科学省、環境省) • 基調報告:文部科学省 • 基調報告:環境省 • セッション1:「気候変動を切り口とした ESD の推進」 • セッション 2:「気候変動や脱炭素をテーマにした地域事例紹介」 • 全体総括:「気候変動時代の ESD をどう進め、広げるか」

区分	回/開催日	実施内容
ESD 全国団体意見交換会	9 月 12 日 （ハイブリッド）	趣旨説明・ESD ネットワークの動き（ESD 活動支援センター） 【第一部】参加団体による活動紹介（各団体 3 分×約 20 団体） 【第二部】気候変動教育の展開に向けて • 趣旨・コミュニケーションペーパー素案説明 • 脱炭素を始めとする「経済社会のリデザイン」と人材育成(環境省) • 気候変動教育に関する取組報告・情報提供 • 意見交換 • 環境省・文部科学省よりコメント

④後援申請対応

- 中部地方 ESD 活動支援センターの後援名義使用について、下記の事務局から全国センターに申請があり、全国センターからの照会対応を行った。

申請主体	承認日	申請行事		
		名称	開催日	場所／方法
公益財団法人こども教育支援財団 ＊	5 月 18 日	第 14 回環境教育ポスターコンクール	2022 年 8 月 23 日～2023 年 3 月 31 日	国内公共施設等
公益財団法人日本極地研究振興会 ＊	7 月 13 日	南極・北極 SDGs 探究学習コンテスト	2022 年 9 月 1 日～2023 年 3 月 31 日	オンライン
名古屋市環境局環境企画課	7 月 27 日	SDGs まちづくり推進事業	2022 年 9 月 22 日～2023 年 3 月 31 日	オンライン及び各地域等
第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会実行委員会	10 月 5 日	第 12 回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会	2022 年 10 月 21 日～10 月 23 日	オンライン及び地域施設等
北陸 ESD 推進コンソーシアム	11 月 11 日	2022 年度北陸 ESD 推進コンソーシアム成果報告会	2023 年 2 月 11 日	オンライン
北陸 ESD 推進コンソーシアム	11 月 11 日	2022 年度石川県 SDGs・ESD 児童生徒学習活動交流会	2023 年 1 月 21 日	オンライン
北陸 ESD 推進コンソーシアム	11 月 11 日	2022 年度北陸ユネスコスクール実践交流会	2022 年 12 月 3 日	オンライン
東北地方 ESD 活動支援センター ＊	12 月 20 日	東北 ESD/SDGs フォーラム 2022 みちのく SDGs～スポーツ・音楽・伝統工芸から SDGs を紐解く～	2023 年 1 月 21 日	オンライン
公益財団法人五井平和財団	12 月 27 日	令和 4 年度ローカル SDGs キャンパス・ミーティング	2023 年 3 月 4 日～3 月 18 日	地域施設等
信州 ESD コンソーシアム	12 月 27 日	令和 4 年度信州 ESD/SDGs 成果発表＆交流会～ユネスコエコパークと共に学ぼう～	2023 年 2 月 3 日～2 月 4 日	オンライン
公益財団法人五井平和財団	12 月 27 日	令和 4 年度ローカル SDGs キャンパス・ミーティング	2023 年 3 月 4 日～3 月 18 日	地域施設等

＊：全ての地方センターに後援申請があった催事

(4) ジオパーク等の活用（ESD ダイアログの開催）

①イベント名

- 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク ESD ダイアログ 2022　～自然資産を教材とした SDGs 教育とは～

②日時

- 1 日目：ESD ダイアログ
  2022 年 11 月 26 日（土）13：30～16：40
- 2 日目：エクスカーション
  2022 年 11 月 27 日（日）8：30～14：30

③開催方法・会場

- 1 日目 ESD ダイアログの開催方法：ハイブリッド
  - 会場：勝山市教育会館（福井県勝山市）
  - オンライン：zoom
- 2 日目エクスカーションの視察地：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク内

④主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター
- 後援：勝山市、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会、勝山市教育委員会

⑤参加者

- 1 日目：ESD ダイアログ参加　53 名
  - 会場 42（登壇者・事務局・関係者含む）
  - YouTube 視聴 11（ライブ配信時のユニーク視聴者数）
- 2 日目：エクスカーション参加　16 名

⑥ESD ダイアログのプログラム

〇ごあいさつ　恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 会長 水上 実喜夫 氏
　　環境省 中部地方環境事務所
〇はじめに　環境省 白山自然保護官事務所 染谷 祐太郎氏
〇第１部・基調報告
　恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 町 澄秋 氏
　白山手取川ジオパーク推進協議会 普照　豊 氏
〇第２部・事例報告
　勝山市立平泉寺小学校、勝山市立村岡（むろこ）小学校
〇パネルディスカッション「自然資産を教材とした SDGs 教育を考える」
《パネリスト》
　白山手取川ジオパーク推進協議会
　南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会
　一般社団法人立山黒部ジオパーク協会
　恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会
　勝山市教育委員会
《コメンテーター》水谷 瑞希 氏（信州大学教育学部助教）
《コーディネーター》原 理史（中部地方 ESD 活動支援センター）

⑦開催案内チラシ

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク ESDダイアログ2022

～自然資産を教材としたSDGs教育とは～

悠久の地球を体感できるジオパーク。生物と文化の多様性を育む大地を、持続可能性を支える自然の基（もとい）として捉え、ESD教材としての活用を考えるダイアログを開催します。
様々なESD学習活動に携わる皆様はもちろん、自然やSDGsにご興味のある方、参加をお待ちしています。

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク
DINOSAUR VALLEY FUKUI KATSUYAMA GEOPARK

残雪の白山と九頭竜川

恐竜化石発掘現場

大矢谷白山神社の巨大岩塊(冬)

写真提供：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会

日程 2022年11月26日（土）～27日（日）
場所 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク

1日目 ESDダイアログ
★YouTubeライブ配信、後日公開予定あり

日時：11月26日（土） 13：30～16：40
会場：勝山市教育会館 1階 ホール
（福井県勝山市元町1丁目5番6号）

2日目 エクスカーション

日時：11月27日（日） 8：30～14：30
場所：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク
【出発】勝山ニューホテル
【解散】勝山駅経由・勝山市役所
★２日目の行程（バスで移動）は裏面を参照ください。

プログラム（１日目）

挨拶 水上 実喜夫（恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 会長）
挨拶 環境省 中部地方環境事務所
はじめに 染谷 祐太郎（環境省 白山自然保護官事務所）

第１部 基調報告
○ 町 澄秋（恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会）
○ 日比野 剛（白山手取川ジオパーク推進協議会）

第２部 事例報告
○ 勝山市立平泉寺小学校　○ 勝山市立村岡（むろこ）小学校

第３部 自然資産を教材としたSDGs教育を考える
パネルディスカッション
《パネリスト》ジオパーク関係者、勝山市教育委員会 予定
《コメンテーター》水谷 瑞希（信州大学教育学部助教）
《コーディネーター》原 理史（中部地方ESD活動支援センター）

申込締切 11月15日（火）必着

参加費
★参加は無料です。
★宿泊の手配が可能です（宿泊費は自己負担）。
★事務局が手配する宿泊施設については裏面を参照ください。

申込方法
★参加申込フォームからお申し込みください。
申込フォーム▶

問合せ（事務局）
中部地方ESD活動支援センター
（環境省 EPO中部）
TEL：052-218-8605
EPO中部HP▶
⚠電話による申込は受け付けておりません。

主催：中部地方ESD活動支援センター（環境省EPO中部）
後援：勝山市、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会、勝山市教育委員会

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークESDダイアログ2022
～自然資産を教材としたSDGs教育とは～

1日目 ESDダイアログ

★YouTubeライブ配信、後日公開予定あり

日時：11月26日(土) 13：30～16：40
会場：勝山市教育会館 1階 ホール

プログラム

挨拶 水上 実喜夫(恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 会長)

挨拶 環境省 中部地方環境事務所

はじめに 「自然資産とは～自然公園・エコパーク・ジオパーク」
染谷 祐太郎(環境省 白山自然保護官事務所)

第１部 基調報告

報告 「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークとESD」
町 澄秋(恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会)

報告 「第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会分科会(教育WG) の成果」
日比野 剛(白山手取川ジオパーク推進協議会)

第２部 事例報告

報告 「勝山市立平泉寺小学校のESD活動」

報告 「勝山市立村岡(むろこ)小学校のESD活動」

第３部 自然資産を教材としたSDGs教育を考える

パネルディスカッション

《パネリスト》**予定**
○白山手取川ジオパーク推進協議会
○南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク協議会
○一般社団法人立山黒部ジオパーク協会
○恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会
○勝山市教育委員会
《コメンテーター》水谷 瑞希(信州大学教育学部助教)
《コーディネーター》原 理史(中部地方ESD活動支援センター)

2日目 エクスカーション

日時：11月27日(日) 8：30～14：30
場所：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク ジオサイト

行 程 ★バスで移動(自家用車の利用)も可。

勝山ニューホテル【出発】

- **平泉寺白山神社**
  平泉寺小学校による未来の語り部の舞台(見学)
- **大矢谷白山神社**
  巨大岩塊(見学)
- **ミルク工房奥越前**
  散在する巨岩を観察
- **まちなかプチジオツアー**
  勝山城址、七里壁、大清水などまちなかを散策
- **旬菜食祭 お食事処 花月楼【昼食】**
- **福井県立恐竜博物館**

えちぜん鉄道《勝山駅》経由

勝山市役所【解散】

１日目の会場：勝山市教育会館

〒911-0804 福井県勝山市元町1丁目5番6号
https://www.city.katsuyama.fukui.jp/soshiki/53/127.html
○えちぜん鉄道「勝山駅」から徒歩約16分（車で約4分）
○勝山市コミュニティバス（ぐるりん中部方面）
「勝山駅前」乗車 →「サンプラザ前」下車、徒歩約3分

事務局が手配する宿泊施設：勝山ニューホテル

〒911-0811 福井県勝山市片瀬町2-114
https://www.rio-hotels.co.jp/katsuyama/
○えちぜん鉄道「勝山駅」から車で約10分
一泊朝食付一人部屋：12,000円（税込み）
※キャンセル料：3日前～前日30%、当日100%

●宿泊申込者・２日目参加者の方へは、開催日１週間前に開催案内を送付します。届かない場合は、恐れ入りますが事務局まで連絡をお願いいたします。
●参加申込をした後で宿泊キャンセル、不参加となった場合には、必ず事務局へ連絡してください。
●宿泊費は、当日、宿泊施設へ各自での支払いとなります。

※本催事についての問合せは 主催事務局 へお願いいたします。

(5) 域内外の多様な主体の連携促進、交流機会の提供

ア 年間活動計画の作成

- 中部エリアの「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」企画にあたり、SDGs 社会教育研究会ワーキング、学び合いの場（全２回）、実践活動（全１回）の「活動計画」を作成した。

【作成した活動計画】

多様な主体の連携促進、交流機会提供
計画案　220621

テーマ：地域づくりのための気候変動社会教育

環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター

1

学び合いプロジェクト・地域づくりのための気候変動社会教育（案）

区分		エリア	設営	開催時期	テーマ・内容案	登壇者／関係者等の想定
多様な主体の連携促進、交流機会提供	学び合いの場①	―	オンライン	8/25	◆ ローカルSDGsに向けた脱炭素地域づくり人づくり（オープン）	● 気候危機の科学とリスク・求められる市民の姿：江守 正多先生（国立環境研究所） ● 市民目線の脱炭素まちづくり：木原浩貴先生（立命館大学講師）
	学び合いの場②	―	オンライン	9/1	◆ 気候危機を乗り切る強靭な地域づくり人づくり（オープン）	● 地球温暖化対策まちづくりにおける市民の役割：杉山範子先生（名古屋大学大学院環境学研究科） ● ゼロカーボンビジョンづくりの話題提供：福井県大野市脱炭素ビジョン策定協議会、坂井市まちづくり担当課
	実践活動	福井県大野市	ハイブリッド	11/21or25	◆ 気候変動対策によるSDGs地域づくりワークショップ（地域対象）	● ゼロカーボン宣言やSDGs地域づくりの基礎自治体、在住市民 ● 先行地域の担当者、学識者
	SDGs社会教育研究ワーキング	会場：EPO中部ほか	リアル	①8/21 ②9/26？ ③12月頃	◆ 学び合いWP検討、評価 ◆ ワークブック試行版内容検討 ◆ クローズ開催	● 中部大・古澤先生、PECとやま・堺氏、アルマス・バイオコスモス研究所・水上氏※2021年度メンバーと同じ ● 3回目ゲストアドバイザー　佐藤真久先生（東京都市大）を検討

2

SDGs社会教育研究会イベントとワーキンググループ

テーマ：地域づくりのための気候変動社会教育

全国ESDフォーラム分科会活動（公開、中部地方及びその他の地域から参加者募集）

- 「学びあいの場」の開催（2回、オンライン）
  勉強会、意見交換会となる学びあいの場を設営、開催（話題提供とディスカッション）
  話題提供者は気候変動教育における内外の専門家、実践家、事例紹介等を想定
- 実践活動（1回、リアル）
  気候変動教育を地域づくりに活かすSDGs社会教育実践セミナーの開催。
  水上委員の連携活動実績を活かした福井県内におけるワークショップの実施を想定。
- 全国ESDフォーラムへの参加（1回、現場での開催想定/全国センター主催）

SDGs社会教育研究ワーキング（非公開、専門家コアメンバー・WGによる）

- 研究ワーキングの開催（３回、リアル）
  第1回研究ワーキング：気候変動教育をテーマとした全体計画とワークブック改善の方向性
  第2回研究ワーキング：学び合いの場実施の振り返り、実践活動の計画
  第3回研究ワーキング：全国フォーラム振り返り、ワークブックへの反映

SDGs社会教育研究会WG、敬称略
専門家コアメンバー
- 古澤礼太　中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授　中部ESD拠点協議会事務局長
- 水上聖子　EPO中部運営委員　アルマス・バイオコスモス研究所代表
- 堺 勇人　EPO中部運営委員　一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長
- 原 理史　中部地方ESD活動支援センター　中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員（非常勤）

オブザーバー　原 慎一郎　環境省中部地方環境事務所　担当官
ゲスト（3回目のみ）　佐藤真久　東京都市大学教授（案）
事務局　清本三郎　中部地方環境パートナーシップオフィス　統括

3

SDGs社会教育研究会　全体スケジュール

～5月頃	6-10月頃	11月頃	12月頃	1月～3月頃
準備	学びあいの場の開催と研究会	社会ESD実践活動	全国ESDフォーラム（12月）	ワークブック試行版のとりまとめ
・ワーキングブック関連知見の収集と分析 ・学びあいの場プロジェクトの実施計画	「学びあいの場」への関係機関・地域に参加を呼びかけ **第1回研究ワーキング（6/21）全体計画とワークブック改善の方向性** **学びあいの場①の開催（8/25）** **学びあいの場②の開催（9/1）** **第2回研究ワーキング（9/26？）学び合いの場実施の振り返り、実践活動の計画**	・**SDGs社会教育実践セミナーの開催（/）**	・全国フォーラムへの参加、発表（12月） ・第3回研究ワーキング（/）全国フォーラム振り返り、ワークブックへの反映	・ワークブック内容のとりまとめ ・試行版の公開

テーマ：地域づくりのための気候変動社会教育（案）

4

SDGs社会教育「学びあいの場」開催イメージ（2回）

- オンライン開催：全国センター、各地方センターと連携広報
- 対象：全国の地域ESD拠点、ESD関係者、企業SDGs担当者、温暖化防止センター、温暖化防止活動推進員　等
- プログラム（計120分）
  基調講演（40～50分程度）
  話題提供（30～40分程度）
  パネルディスカッション・フロアディスカッション（30分程度）
  とりまとめと総括

学びあいの場①8月25日16:00～18:00
- 基調講演
  【仮】気候危機の科学とリスク・求められる市民の姿：江守 正多先生（国立環境研究所 上級主席研究員）
- 話題提供
  【仮】市民目線の脱炭素まちづくり：木原浩貴先生（総合地球環境学研究所 客員准教授）

学びあいの場②9月1日16:00～18:00
- 基調講演
  【仮】地球温暖化対策まちづくりにおける市民の役割：杉山範子先生（名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 特任准教授）
- 【仮】ゼロカーボンまちづくりの話題提供
  ・福井県大野市脱炭素ビジョン策定協議会
  ・福井県坂井市まちづくり担当課

5

SDGs社会教育研究会実践活動企画

実践活動（1回、リアルもしくはハイブリッド）
気候変動教育を地域づくりに活かすSDGs社会教育実践セミナーの開催。
水上委員の連携活動実績を活かした福井県内におけるワークショップの実施を想定。

- 背景と場所
  福井県大野市の大野市脱炭素ビジョン策定協議会の成果を踏まえ人づくりをテーマに脱炭素ワークショップを開催する。
- しつらえ
  期日：10月～11月ごろの平日
  場所：福井県大野市の公共施設
- テーマ：脱炭素のまちづくりひとづくり
- 目標　脱炭素を基盤としたSDGs社会を担う生徒、ユース、市民などへの伝え方を考える
- 対象者　公民館職員、学校教職員、一般市民など

規模感　参加30人程度

6

中部版ESDワークブック試行版の作成

現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック
企業研修／生涯学習／地域づくりSDGs社会教育・学び合いヒント

プロトタイプ編集版

目次
はじめに
1．ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ
2．「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか
3．実践方法を考える～中部地方の実例から①
4．実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②
5．実践効果をどう考えるか

プロトタイプ試行版の方向性（案）

修正追加
5．具体的に実施してみる～中部地方の実例から③
（1）海岸ごみからSDGsを考える
（2）気候変動教育をまちづくりに活かす
6．実践効果をどう考えるか
具体的な測定方法

7

イ 交流者の参加募集

- 学び合いの場①、学び合いの場②、実践セミナーの参加者募集を行うにあたり、開催案内チラシを作成して、地域ESD拠点への案内、ウェブサイト・SNS等での広報展開を行った。

【作成した開催案内チラシ】

地域づくりのための気候変動社会教育

学び合いの場①②＆実践セミナー

プログラム（予定）

ESD for 2030 学び合いプロジェクト
SDGs社会教育

学び合いの場①

申込締切 8月22日（月）

気候危機に立ち向かう地域や市民のありかたを考える

2022年8月25日（木）
16：00～18：00
オンライン開催（zoom）

気候危機問題のエキスパート、江守先生のご登壇がかないました。木原先生の市民視点と合わせて楽しみです！

●基調講演
「気候危機の科学とリスク・社会を変えるには」
江守正多　東京大学未来ビジョン研究センター 教授
国立環境研究所 上級主席研究員

●話題提供
「脱炭素社会を見えるものに～市民目線のまちづくり～」
木原浩貴　総合地球環境学研究所 客員准教授

●質疑＆ディスカッション＆総括
進行 原　理史　中部地方ESD活動支援センター

学び合いの場②

申込締切 8月29日（月）

気候危機問題からSDGs地域づくり・人づくりを考える

2022年9月1日（木）
16：00～18：00
オンライン開催（zoom）

杉山先生は気象予報士でもあり、話の分かりやすさは定評が。地域の事例とともに議論を深めていきましょう！

●基調講演
「気候危機に立ち向かい持続可能なまちづくりを目指す」
杉山範子　名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 特任准教授

●話題提供
「市民ワークショップによる「脱炭素」と「地域課題」の同時解決の図られた将来ビジョンづくり」
田中九一郎　大野市くらし環境部環境・水循環課 課長
「まちづくりワークショップ・まちづくりカレッジによる気候変動へのアプローチ」
北川直規　坂井市総合政策部まちづくり推進課 課長

●質疑＆ディスカッション＆総括
進行 原　理史　中部地方ESD活動支援センター

実践セミナー

申込締切 11月21日（月）

★ワークショップは現地参加者のみとします。
★オンライン中継の視聴を希望される方も申込が必要です。

脱炭素のまちづくり 人づくりワークショップ

2022年11月25日（金）
13：30～16：00
現地＆オンライン中継

●ワークショップ
「ローカルSDGsのための福井県版気候変動教育プログラム体験」 仮題

開催場所 結とびあ[多田記念大野有終会館]（福井県大野市）
ファシリテーター 水上聡子 アルマス・バイオコスモス研究所 代表
総括 佐藤真久 東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授

ウ SDGs 社会教育研究ワーキングの開催

（ア） 第１回ワーキング

①日時

- 2022 年６月 21 日（火）13：30～16：30

②会場

- 富山県民会館 608 号室（富山県富山市）

③出席者

- ６名

古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺　勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま(PEC とやま)事務局長
原　理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員（非常勤）
原 慎一郎	オブザーバー 環境省中部地方環境事務所環境対策課長補佐
清本 三郎	中部地方環境パートナーシップオフィス 統括

④協議項目

１．昨年度の振り返り

２．今年度活動の計画

(1) 公開イベントの計画

・オンラインセミナー学び合いの場①、②の開催計画

・実践活動（セミナー）開催計画

(2) ワークブックバージョンアップの企画

（イ） 第２回ワーキング

①日時

- 2022 年９月 26 日（月）13：30～16：30

②会場

- ホテルエコノ福井駅前会議室
  （福井県福井市）

③出席者

- ７名（委員３名、中部地方環境事務所１名、事務局３名）

古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PEC とやま）事務局長
原 理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員（非常勤）
原 慎一郎	オブザーバー 環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 EPO 中部統括
富田 夏子	事務局

④協議項目

1. 学び合いの場①、②の振り返り
2. 実践活動（セミナー）の開催計画
3. ワークブックバージョンアップの議論

（ウ） 第３回ワーキング

①日時

- 2022 年 12 月 20 日（火）13：30～16：30

②会場

- EPO 中部（中部環境パートナーシップオフィス）

③出席者

- 7 名（委員 3 名、ゲストアドバイザー1 名、中部地方環境事務所 1 名、事務局 2 名）

古澤 礼太	中部大学国際 ESD/SDGs センター准教授、中部 ESD 拠点協議会事務局長
水上 聡子	EPO 中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人	EPO 中部運営委員、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PEC とやま）事務局長
原 理史	中部地方 ESD 活動支援センター、中部大学国際 ESD/SDGs センター研究員（非常勤）
佐藤 真久	東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授
原 慎一郎	オブザーバー 環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
清本 三郎	事務局 EPO 中部統括

④協議項目

○ 実践活動（セミナー）振り返り
○ ESD 推進ネットワークの状況
○ ワークブックバージョンアップの議論

エ 学び合いの実施

（ア） 学び合いの場①の開催

①イベント名

- 地域づくりのための気候変動社会教育
  ～学び合いの場①：気候危機に立ち向かう地域や市民のありかたを考える

②日時

- 2022 年 8 月 25 日（木）16：00～18：00

③開催方法・会場

- 開催方法：オンライン（zoom）

④主催等

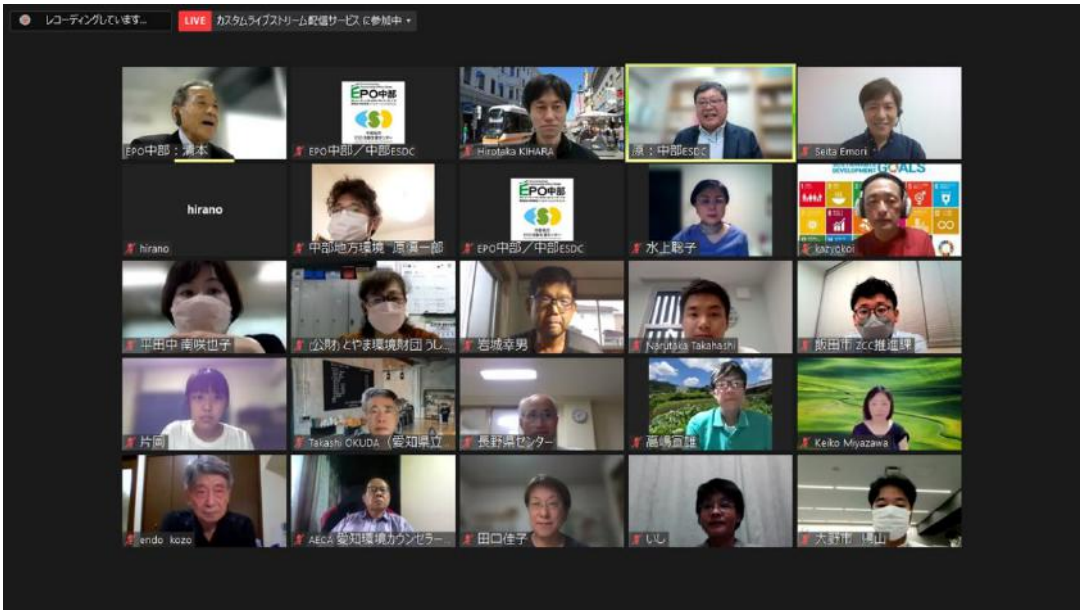
- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター

⑤出席者

- 60 名（接続数／登壇者・事務局含む）

⑥協議項目

○ごあいさつ
○基調講演「気候危機の科学とリスク・社会を変えるには」
　東京大学未来ビジョン研究センター 教授、国立環境研究所 上級主席研究員 江守 正多 氏
○話題提供「脱炭素社会を見えるものに～市民目線のまちづくり～」
　総合地球環境学研究所 客員准教授　木原 浩貴 氏
○質疑&ディスカッション&総括
　進行：中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史



（イ） 学び合いの場②の開催

①イベント名

- 地域づくりのための気候変動社会教育
  ～学び合いの場②：気候危機問題から SDGs 地域づくり・人づくりを考える

②日時

- 2022 年 9 月 1 日（木）16：00～18：00

③開催方法・会場

- 開催方法：オンライン（zoom）

④主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター

⑤参加者

- 61 名（接続数／登壇者・事務局含む）

⑥プログラム

〇ごあいさつ
〇基調講演「気候危機に立ち向かい持続可能なまちづくりを目指す」
　名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 特任准教授 杉山 範子 氏
〇話題提供「市民ワークショップによる「脱炭素」と「地域課題」の同時解決の図られた将来ビジョンづくり」
　大野市くらし環境部環境・水循環課 課長 田中 九一郎 氏
〇話題提供「まちづくりワークショップ・まちづくりカレッジによる気候変動へのアプローチ」
　坂井市総合政策部まちづくり推進課 課長 北川 直規 氏
〇質疑&ディスカッション&総括
　進行：中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史

オ 実践活動の開催

①イベント名

- 地域づくりのための気候変動社会教育
  実践セミナー 脱炭素のまちづくり・人づくりワークショップ

②日時

- 2022 年 11 月 25 日（金）13：30～16：00

③開催方法・会場

- 開催方法：ハイブリッド
  - 会場：結とぴあ［多田記念大野有終会館］（福井県大野市）
  - オンライン：zoom

④主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター

⑤参加者

- 計 51 名
  - 会場参加：30 人（登壇者・事務局・関係者含む）
  - オンライン中継視聴：21 件（zoom 接続数）

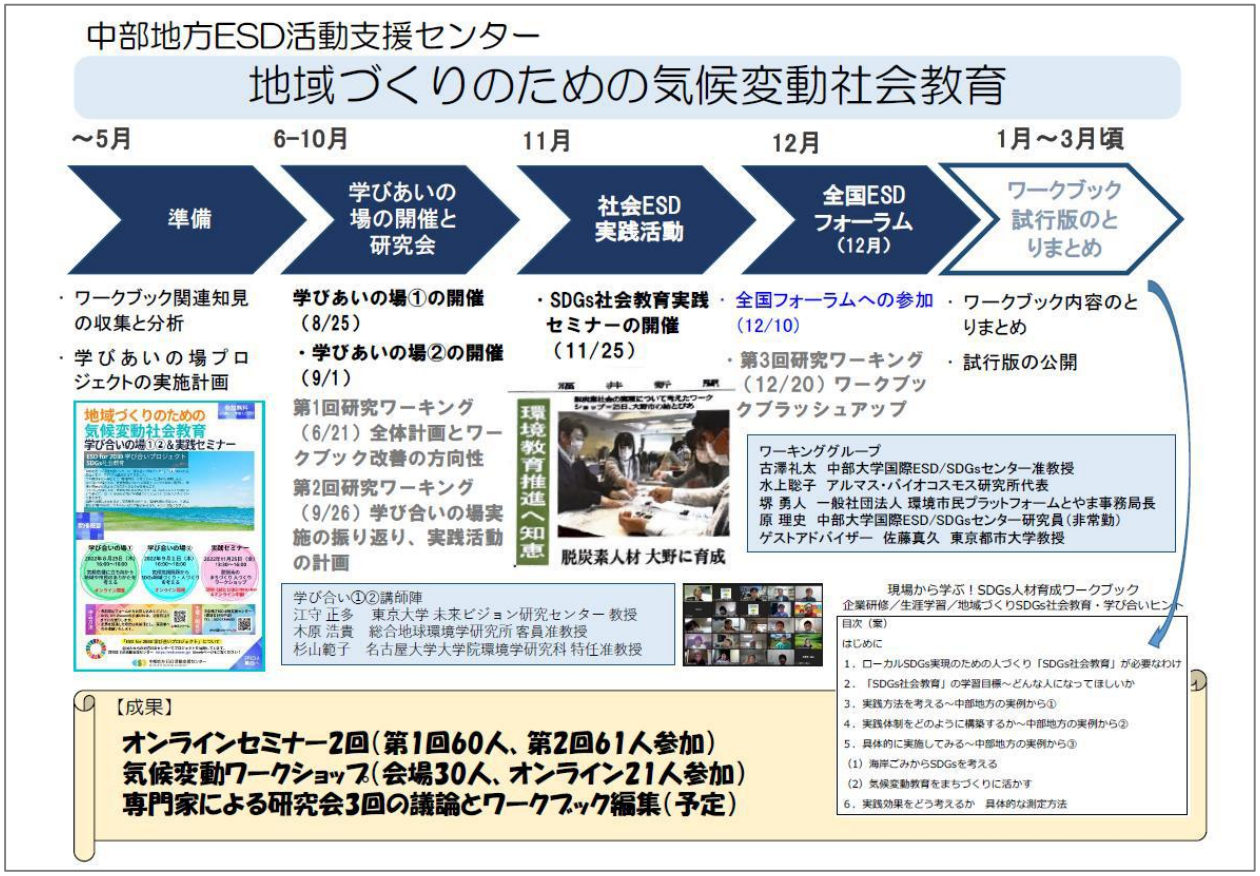
⑥プログラム

〇ごあいさつ、趣旨説明
〇ワークショップ体験①
　福井県版気候変動ミステリーワークショップ
〇ワークショップ体験②
　課題解決ワークショップ　-ジグソー法を用いて-
　ファシリテーター：アルマス・バイオコスモス研究所 代表　水上聡子氏
〇講評・総括：東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授 佐藤 真久 氏
〇ふりかえり

カ 報告（全国フォーラムでの活動結果報告）

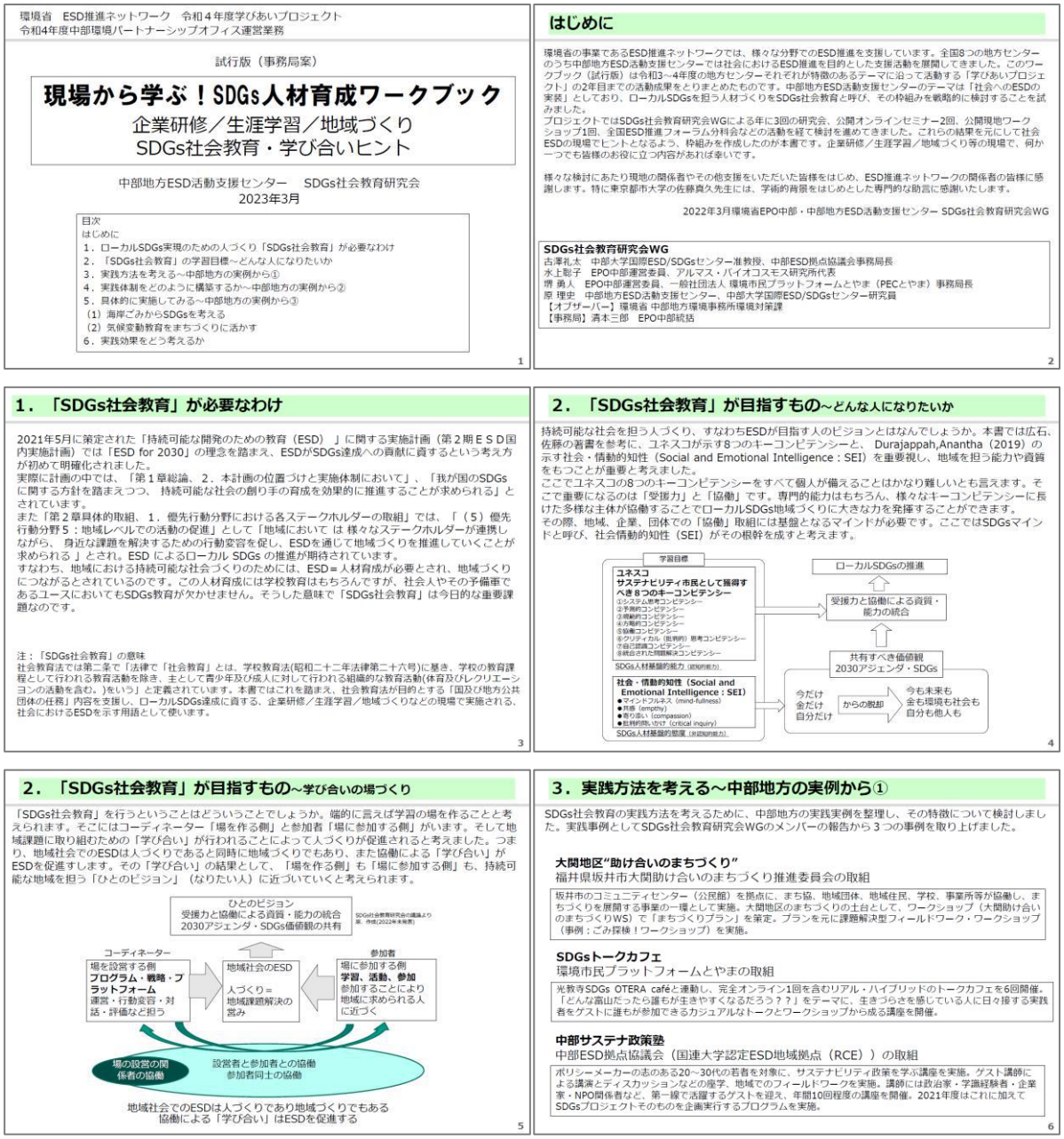
- 12 月 10 日開催・ESD 活動支援センター（全国センター）主催「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2022」に参加し、中部の「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」（「学び合いの場①②」「実践セミナー」）の実施結果について報告・発表を行った。

【作成した全国フォーラム発表資料】



(6) 「(仮) 中部版 ESD ワークブック」(試行版) の作成

- 中部地方ローカル SDGs を担う人材育成に役立つ ESD 情報ツールパッケージとして、「(仮) 中部版 ESD ワークブック」(試行版) を、昨年度作成したワークブック (プロトタイプ版) の改訂原稿をもとに作成した。
- ワークブックの内容・構成等については、「SDGs 社会教育研究会WG」で検討・協議のうえ作成した。



環境省　ESD推進ネットワーク　令和４年度学びあいプロジェクト
令和4年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務

試行版（事務局案）

現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック
企業研修／生涯学習／地域づくり
SDGs社会教育・学び合いヒント

中部地方ESD活動支援センター　SDGs社会教育研究会
2023年3月

目次
はじめに
1．ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ
2．「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になりたいか
3．実践方法を考える～中部地方の実例から①
4．実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②
5．具体的に実施してみる～中部地方の実例から③
（1）海岸ごみからSDGsを考える
（2）気候変動教育をまちづくりに活かす
6．実践効果をどう考えるか

1

はじめに

環境省の事業であるESD推進ネットワークでは、様々な分野でのESD推進を支援しています。全国8つの地方センターのうち中部地方ESD活動支援センターでは社会におけるESD推進を目的とした支援活動を展開してきました。このワークブック（試行版）は令和3～4年度の地方センターそれぞれが特徴のあるテーマに沿って活動する「学びあいプロジェクト」の2年目までの活動成果をとりまとめたものです。中部地方ESD活動支援センターのテーマは「社会へのESDの実装」としており、ローカルSDGsを担う人材づくりをSDGs社会教育と呼び、その枠組みを戦略的に検討することを試みました。
プロジェクトではSDGs社会教育研究会WGによる年に3回の研究会、公開オンラインセミナー2回、公開現地ワークショップ1回、全国ESD推進フォーラム分科会などの活動を経て検討を進めてきました。これらの結果を元にして社会ESDの現場でヒントとなるよう、枠組みを作成したのが本書です。企業研修／生涯学習／地域づくり等の現場で、何か一つでも皆様のお役に立つ内容があれば幸いです。

様々な検討にあたり現地の関係者やその他支援をいただいた皆様をはじめ、ESD推進ネットワークの関係者の皆様に感謝します。特に東京都市大学の佐藤真久先生には、学術的背景をはじめとした専門的な助言に感謝いたします。

2022年3月環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会WG

SDGs社会教育研究会WG
古澤礼太　中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上聡子　EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人　EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長
原 理史　中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員
【オブザーバー】環境省 中部地方環境事務所環境対策課
【事務局】清本三郎　EPO中部統括

2

1．「SDGs社会教育」が必要なわけ

2021年5月に策定された「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関する実施計画（第２期ＥＳＤ国内実施計画）では「ESD for 2030」の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方が初めて明確化されました。
実際に計画の中では、「第１章総論、２．本計画の位置づけと実施体制において」、「我が国のSDGsに関する方針を踏まえつつ、持続可能な社会の創り手の育成を効果的に推進することが求められる」とされています。
また「第２章具体的取組、１．優先行動分野における各ステークホルダーの取組」では、「（５）優先行動分野５：地域レベルでの活動の促進」として「地域において は 様々なステークホルダーが連携しながら、身近な課題を解決するための行動変容を促し、ESDを通じて地域づくりを推進していくことが求められる」とされ。ESD によるローカル SDGs の推進が期待されています。
すなわち、地域における持続可能な社会づくりのためには、ESD＝人材育成が必要とされ、地域づくりにつながるとされているのです。この人材育成には学校教育はもちろんですが、社会人やその予備軍であるユースにおいてもSDGs教育が欠かせません。そうした意味で「SDGs社会教育」は今日的な重要課題なのです。

注：「SDGs社会教育」の意味
社会教育法では第二条で「法律で「社会教育」とは、学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号)に基き、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)をいう」と定義されています。本書ではこれを踏まえ、社会教育法が目的とする「国及び地方公共団体の任務」内容を支援し、ローカルSDGs達成に資する、企業研修／生涯学習／地域づくりなどの現場で実施される、社会におけるESDを示す用語として使います。

3

2．「SDGs社会教育」が目指すもの～どんな人になりたいか

持続可能な社会を担う人づくり、すなわちESDが目指す人のビジョンとはなんでしょうか。本書では広石、佐藤の著書を参考に、ユネスコが示す8つのキーコンピテンシーと、 Durajappah,Anantha（2019）の示す社会・情動的知性（Social and Emotional Intelligence：SEI）を重要視し、地域を担う能力や資質をもつことが重要と考えました。
ここでユネスコの8つのキーコンピテンシーをすべて個人が備えることはかなり難しいとも言えます。そこで重要になるのは「受援力」と「協働」です。専門的能力はもちろん、様々なキーコンピテンシーに長けた多様な主体が協働することでローカルSDGs地域づくりに大きな力を発揮することができます。
その際、地域、企業、団体での「協働」取組には基盤となるマインドが必要です。ここではSDGsマインドと呼び、社会情動的知性（SEI）がその根幹を成すと考えます。

4

2．「SDGs社会教育」が目指すもの～学び合いの場づくり

「SDGs社会教育」を行うということはどういうことでしょうか。端的に言えば学習の場を作ることと考えられます。そこにはコーディネーター「場を作る側」と参加者「場に参加する側」がいます。そして地域課題に取り組むための「学び合い」が行われることによって人づくりが促進されると考えました。つまり、地域社会でのESDは人づくりであると同時に地域づくりでもあり、また協働による「学び合い」がESDを促進します。その「学び合い」の結果として、「場を作る側」も「場に参加する側」も、持続可能な地域を担う「ひとのビジョン」（なりたい人）に近づいていくと考えられます。

5

3．実践方法を考える～中部地方の実例から①

SDGs社会教育の実践方法を考えるために、中部地方の実践実例を整理し、その特徴について検討しました。実践事例としてSDGs社会教育研究会WGのメンバーの報告から３つの事例を取り上げました。

大関地区"助け合いのまちづくり"
福井県坂井市大関助け合いのまちづくり推進委員会の取組

坂井市のコミュニティセンター（公民館）を拠点に、まち協、地域団体、地域住民、学校、事業所等が協働し、まちづくりを展開する事業の一環として実施。大関地区のまちづくりの土台として、ワークショップ（大関助け合いのまちづくりWS）で「まちづくりプラン」を策定。プランを元に課題解決型フィールドワーク・ワークショップ（事例：ごみ探検！ワークショップ）を実施。

SDGsトークカフェ
環境市民プラットフォームとやまの取組

光教寺SDGs OTERA caféと連動し、完全オンライン1回を含むリアル・ハイブリッドのトークカフェを6回開催。「どんな富山だったら誰もが生きやすくなるだろう？？」をテーマに、生きづらさを感じている人に日々接する実践者をゲストに誰もが参加できるカジュアルなトークとワークショップから成る講座を開催。

中部サステナ政策塾
中部ESD拠点協議会（国連大学認定ESD地域拠点（RCE））の取組

ポリシーメーカーの志のある20～30代の若者を対象に、サステナビリティ政策を学ぶ講座を実施。ゲスト講師による講演とディスカッションなどの座学、地域でのフィールドワークを実施。講師には政治家・学識経験者・企業家・NPO関係者など、第一線で活躍するゲストを迎え、年間10回程度の講座を開催。2021年度はこれに加えてSDGsプロジェクトそのものを企画実行するプログラムを実施。

6

3．実践方法を考える～中部地方の実例から①：事例の概要

活動名	大岡地区"助け合いのまちづくり"	SDGsトークカフェ	中部サステナ政策塾
関係者	水上聡子（企画助言、講師、ファシリ、運営協力）	堺義人（主催、企画・運営、コーディネーター、ファシリテーター）	古澤礼太（主催、企画・運営、コーディネーター、ファシリテーター）
フィールド／活動拠点	福井県坂井市大関地区／大関コミュニティセンター、	富山県／光教寺（南砺市）	伊勢湾流域／中部大学、名古屋市内公共施設会議室等
主催者	坂井市、大関まちづくり協議会、等	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）	国連大学認定「中部ESD拠点協議会」（RCE中部）（幹事機関：中部大学）
対象年度	2018年度～	2021年度	2016年度～
ESD概要	坂井市のコミュニティセンター（公民館）を拠点に、まち協、地域団体、地域住民、学校、事業所等が協働し、まちづくりを展開する事業の一環として実施。大関地区のまちづくりの土台として、ワークショップ（大関助け合いのまちづくりWS）で「まちづくりプラン」を策定。プランを元に課題解決型フィールドワーク・ワークショップ（事例：ごみ探検！ワークショップ）を実施。	光教寺SDGs OTERA cafeと連動し、完全オンライン1回を含むリアル・ハイブリッドのトークカフェを6回開催。「どんな富山だったら誰もが生きやすくなるだろう？？」をテーマに、生きづらさを感じている人に日々接する実践者をゲストに誰もが参加できるカジュアルなトークとワークショップから成る講座を開催。	ポリシーメーカーの若のある20～30代の若者を対象に、サステナビリティ政策を学ぶ講座を実施。ゲスト講師による講演とディスカッションなどの座学、地域でのフィールドワークを実施。講師には政治家・学識経験者・企業家・NPO関係者など、第一線で活躍するゲストを迎え、年間10回程度の講座を開催。2021年度はこれに加えてSDGsプロジェクトそのものを企画実行するプログラムを実施。
ESDプログラム内容（事例）	事例：ごみ探検！ワークショップ（2020年度開催）の内容 ①説明後ウォーキングしながらゴミの写真を撮ってゴミを拾う ②模造紙にゴミの種類を書き出す ③グループ発表 ④大関の未来に向けてディスカッション	プログラム 第1回：不登校／引きこもりでも生きやすい富山って？？ 第2回：生きものも生きやすい富山って？？ 第3回：一人親家庭でも生きやすい富山って？？ 第4回：障害者でも生きやすい富山って？？ 第5回：外国人でも生きやすい富山って？？ 第6回：性的マイノリティでも生きやすい富山って？？	事例：2021年度プログラム 第1回：講座・WS/SDGsの構造とSDGsプロジェクトの意義 第2～4回：SDGsプロジェクト立上げ、SDGsターゲット検討、プロジェクトWS 第5回：中間イベント・発表 第6回：フィールドワーク豊川流域 第7～8回：講座・WS/ローカルSDGsネットワークの発展、SDGsプロジェクトの可視化と連携 第9回：相互評価 第10回：SDGsフォーラム2022 参加

7

3．実践方法を考える～中部地方の実例から①：事例分析の結果

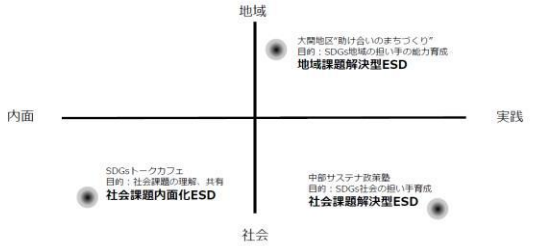
活動名	大岡地区"助け合いのまちづくり"	SDGsトークカフェ	中部サステナ政策塾
参加者の属性（募集対象）	地域住民（地域限定）、各種団体（行政、住民組織、市民団体他）	地域住民など、関心のある市民（現地、オンライン参加）、テーマに沿った当事者（現地参加）	ユース世代（39歳以下）、意欲のある個人、企業や行政からの派遣
目的	SDGs地域の担い手の能力育成	社会課題の理解、共有	SDGs社会の担い手育成
目標	まちづくりプラン策定、及びその実現のための意欲向上と、行動変容のための、できること見つけ	課題の見える化、自分事化	広い意味でのSDGs社会のポリシーメーカーを育成、及び仕組みづくり
プログラムの特徴	フィールドワークと室内ワークショップの組み合わせ	気楽な対話形式とグラフィックファシリテーターによる絵的な即時フィードバック	講演、ワークショップ、現場視察の組み合わせ。具体的なSDGsプロジェクトの企画立案と実践
場所の特徴	対象地域の現場、公民館（コミュニティセンター）	SDGs取組に理解あるお寺、オンライン	会議室、オンライン、プロジェクト現場
狙いとしたSDGs人材の資質	ユネスコ８つのキーコンピテンシーの内、特に、④方略的コンピテンシー、⑤協働コンピテンシー、⑦自己認識コンピテンシー	社会・情動的知性の内、特に、●マインドフルネス（mind-fullness）、●共感（empthy）、●寄り添い（compassion）	ユネスコ８つのキーコンピテンシーの内、特に、①システム思考コンピテンシー、④方略的コンピテンシー、⑤協働コンピテンシー、⑥クリティカル（批判的）思考コンピテンシー、⑧統合された問題解決コンピテンシー
ESD分類	地域課題解決型ESD	社会課題内面化ESD	社会課題解決型ESD

8

3．実践方法を考える～中部地方の実例から①

ねらいや目的によって事業やプログラムの実践デザインを考えることが重要！

報告された3つの事例を、その目的や学習目標、プログラムの特徴などについて分析した結果、ESDの目的によって、プログラムや手法に特徴があることがわかりました。すなわち、SDGs社会教育実践のねらいや目的によってプログラムや手法について適切なデザインをすることが必要と考えられます。また、実践のためのデザインを行う場合、普及啓発事業デザインを参考にコンテンツ、アプローチ、コミュニケーション場、フォローアップの4つの側面から検討すると考えやすくなります。

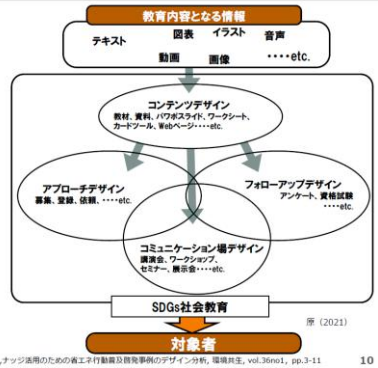


9

3．実践方法を考える～中部地方の実例から①：SDGs社会教育・実践デザインの考え方の例

SDGs社会教育の現場を実践デザインとして考えた時の一つの例です。普及啓発事業デザインを参考にしています。4つの側面からデザインを考えます。括弧内はデザインを考える時に主となる担当者です。

コンテンツデザイン
（講師、ファシリ）
テーマに沿ったSDGs情報のかたまり、教材、ツール
アプローチデザイン
（主催者）
募集、応募、告知、登録など、受講者を集める手法や仕掛け
コミュニケーション場デザイン
（講師、ファシリ）
ESD実践現場の設営と運営
フォローアップデザイン
（主催者）
アンケートなど効果の確認・定着のための事後の働きかけ等



原（2021）

参考：原理史・永上聡子・清丰三郎・福井弘道（2020）,ナッジ活用のための省エネ行動普及啓発事例のデザイン分析, 環境共生, vol.36no1, pp.3-11

10

4．実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②

SDGs社会教育を実施する仕掛け側はどんな人が考えられるでしょう。またどんなニーズで実施することが考えられるでしょう。例えば、SDGsに取組みたい企業の経営者は従業員に対して、ローカルSDGsを目指す自治体の担当者は行政職員や市民に対して、自治会の会長はその地区の住民に対して、大学は学生に対して、実施したいと考えるでしょう。ニーズを最も感じている主体それぞれが主催者になってSDGs社会教育を実践することになります。

実践体制を構築するためには様々な人的、物的資源を組み合わせることが必要です。目的にあった実践方法を選択するとともに、それに適した資源を適切に組みわわせなければなりません。ある手法に対して、場所や形態？人材？をどうするか考えなくてはなりません。

場所・形態？
- 講座・教室（自治体）
- 自宅学習
- 講座・教室（民間）
- サークル
- 職場の教育・研修

・・・・・・・

人材？
社会教育における専門職員
- ○社会教育主事
- ○公民館主事
- ○司書
- ○学芸員
- ○社会教育指導員

・・・・・・

手法？
- 講義・講演
- ワークショップ
- 見学・視察
- 体験
- フォーラム・発表視聴
- プレゼンテーション
- 議論・討論
- 試験・レポート・論文執筆

・・・・・・・

参考：ぼたっとひろしま 広島県立生涯学習センター資料
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/upload/attachment/123069.pdf

すると様々な制約条件が出てきます。人材や資金はその最たるものです。どうすれば克服できるのでしょうか。ここでは「こと」、「ひと」、「もの」、そしてそれを調達する「金」を資源（＝制約条件）と考え、実例でどのようなものを調達したのかを示しました。

こと：情報ネットワーク、プラットフォーム、イベント連携・・
ひと：専門家、指導者（講師、ファシリ）、運営者、企画者・・
もの：会場、音響設備、実験道具・・・・・・・
金　：寄付、会費、補助、クラウドファンディング・・・・

11

4．実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②

実践体制実現のポイントは？「協働」と「資金」をいかにつくるかが重要！

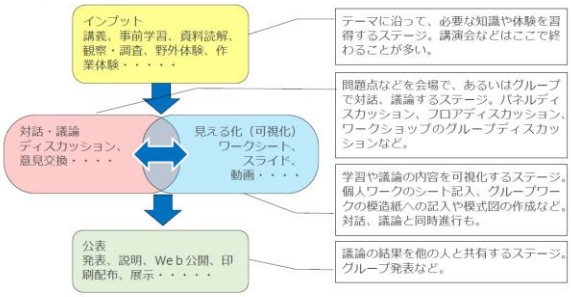
報告された3つの事例を、実践体制実現のポイントという観点から「こと」、「ひと」、「もの」、「金」をキーワードとして分析しました。
その結果、「ひと」は人脈やネットワークが、「もの」はそれに付随した特徴ある開催場所やツールが、そして「こと」はイベント相乗効果や情報発信、あるいは「ひと」ネットワーク活用のためのコツであることが見えてきます。これらはすべて「協働」のノウハウであるとも言えます。
一方、そのコストを賄う方法が欠かせません。公的な予算や助成をいかに活用するかが大切です。
そのためには十分な説明を権限者に行う必要があります。また企業の依頼も考えられ、SDGs取組ニーズを満たすためのコミュニケーションもこれから必要となるでしょう。

活動名		大岡地区"助け合いのまちづくり"	SDGsトークカフェ	中部サステナ政策塾
実施主体の分類		地元有志とまちづくり協議会の協働による推進委員会	SDGs活動の中間支援団体	ESD活動団体
実現のポイント	こと	声をかける、オープンでフラットな関係性	デザイナーによる各種デザイン（クラフィック）、メディアへのプレスリリース	他のイベントに乗っかる（相乗効果）
	ひと	まちづくり協議会や各種団体のネットワークなど【既存の団体】	デザイナーなど専門家の人脈とネットワーク【救援力】	高等教育機関との連携、人脈ネットワーク【大学人材の活用】
	もの	地域で使われているコミュニティセンター	お寺、仏場の前で（本心が出やすい）	大学キャンパス、オンライン機材
	金	基礎自治体予算から支出される、まちづくり協議会の予算	助成金、行政からのSDGs事業受託、企業会員（SDGs取組ニーズ）	助成金（申請書をうまく書く）、アイデアが重要、自治体首長の関心

12

5．具体的に実施してみる～中部地方の実例から③

当センターが2021～2022年度に開催した「実践セミナー」を題材に、どのように具体的なデザインを行うかを整理しました。整理はコミュニケーション場のデザインを対象として以下のモデルに当てはめることで行いました。



221220研究会資料より、原（未発表）

13

5．具体的に実施してみる（1）海岸ごみからSDGsを考える

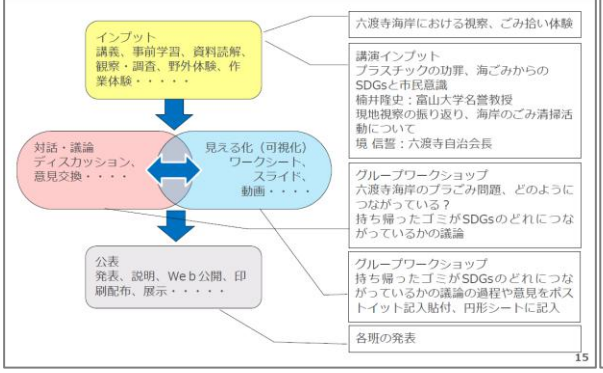
2021年度SDGs社会教育～実践セミナー
海岸プラごみ清掃から流域のローカルSDGsの担い手づくりへ

2021年10月30日（土）11：00～16：30
現地視察とセミナーWS、オンラインハイブリッド開催
<午前：現地視察> １１：00～六渡寺海岸（富山県射水市）にて視察体験（オンライン中継）
- 集合：１０：４５
- 活動：徒歩で六渡寺海岸へ、視察、ごみ拾い体験
  昼食休憩

<午後：ワークショップ> 13：30～　オンライン併用
- はじめに　本セミナーの内容について説明（10分）
- インプット
  プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと市民意識（30分）椿井隆史；富山大学名誉教授
  現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について（30分）境 信篤；六渡寺自治会長
  休憩（10分）
- グループワークショップ（40分）
  六渡寺海岸のプラごみ問題、どのようにつながっている？
  ワークショップ結果発表と討論（30分）コーディネーター　原 理史　中部地方ESDC
- 総括コメント
  実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民（20分）佐藤真久東京都市大教授

六渡寺海岸のごみ
https://www.pref.toyama.jp/1706/kurashi/kankyoushizen/kankyou/mizuhozen/2mamorou/group/23.html

学習会のコミュニケーション場デザイン整理：現地視察とセミナーWS（2021年度）



15

5．具体的に実施してみる（2）気候変動教育をまちづくりに活かす

2022年度SDGs社会教育～実践セミナー
気候変動教育を地域づくりに活かすSDGs社会教育実践セミナー

- 開催目的
  地域づくりの担い手や次世代育成のための、気候危機対策のまちづくりワークショップをローカルSDGsの取組の一環として実践する。
- 開催概要
  タイトル　：ローカルSDGsのための福井県版気候変動教育プログラム体験
  ファシリテーター 水上聡子　アルマス・バイオコスモス研究所 代表
  総括　　佐藤真久　東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授
  開催場所：福井県大野市　結とびあ（多田記念大野有終会館）
  開催方法：現地開催、オンライン中継
  開催日時：2022年11月25日（金）13:30～16:30

	実施内容	現地ワークショップ
13:30	挨拶 趣旨説明 福井県版気候変動教育の経緯	●環境省中部地方環境事務所 ●大野市長 説明：水上
13:40	気候変動ワークショップ体験 ①「ミステリー」（55分）	水上：ファシリ、原及び堺：アシスタント ・ミステリーワークショップ ・2班程度事例発表
14:35	休憩（10分）	
14:45	気候変動ワークショップ体験 ②「ジグソー」（55分）	水上：ファシリ、2班について原及び堺が伴走ファシリ ・ジグソーワークショップ ・2班事例の報告
15:40	講評と総括（10分）	原：室内役 講評と総括：佐藤先生
15:50	ふりかえりシート記入	・全参加者　意識アンケートに回答、回収
15:55	終了挨拶、解散～	・終了挨拶　福井先生

16

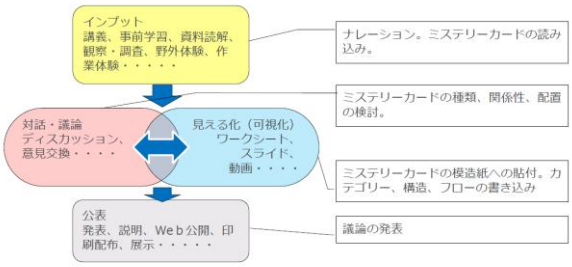
2022年度SDGs社会教育～実践セミナー

○ミステリーワークショップ

「ミステリーカード」（２４枚１組）を、グループで議論しながら論理的に関連付けて並べます。
このグループワークを通じて、気候変動によりどんな現象が発生しているかを把握し、気候変動には様々な事柄が複雑に絡み合っていることを学びます。

17

学習会のコミュニケーション場デザイン整理：ミステリーワークショップ



18

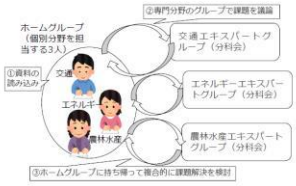
2022年度SDGs社会教育～実践セミナー

○課題解決ワークショップ（ジグソー法）

基礎知識を学習後、グループに分かれ、エネルギー事情など３分野の「統計データ集」から現状を分析し、批評します。それを基に地域の将来の理想像を考え、この理想像を実現するために必要な課題解決策をジグソー法により導き出します。

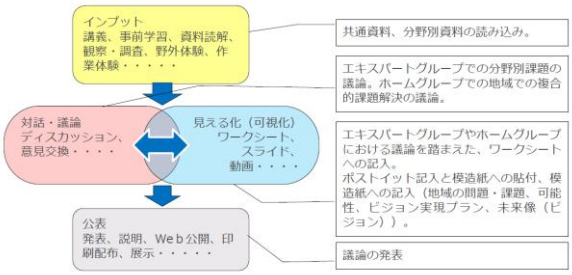
3人一組のホームグループを複数作ります。グループを構成する3人は、それぞれ専門分野（例えば「交通」、「エネルギー」、「農林水産」）を担当します。

①事前に事務局で用意した気候変動や地域に関わる資料「統計データ集」の読み込みます。資料は専門分野と共通資料の2種類を使います。
②エキスパートグループ（分科会）に分かれます。他のホームグループの同じ専門分野について気候変動問題から見たまちづくりの課題を議論します。
③ホームグループに持ち帰って気候変動に田弘するまちづくりについて複合的に課題解決に向けた検討を行います。



19

学習会のコミュニケーション場デザイン整理：課題解決ワークショップ（ジグソー法）



20

6. 実践効果をどう考えるか

SDGs社会教育の実践がどのような効果をもたらしたのか。それを把握することは事業の改善のためにも、対象者へのさらなる働きかけのためにも重要です。前述した学習目標に対する資質の向上についてさらなるとも自己評価のアンケート調査することが望まれます。また行動変容への動機づけが行われたかも大切な効果です。そこでユネスコ８つのキーコンピテンシー、社会・情動的知性（SEI）に加え、内発的動機づけの三つの欲求が刺激されたかどうかを組み合わせたアンケート項目を試作しました。当センターの「学びあいプロジェクト実践セミナー」（2021年度）で試用した結果を以下に示しますので参考にしてください。

アンケート項目の例（そう思う～あまり思わない、段階選択肢形式）

海ごみ問題の解決には・・・・	コンピテンシー	社会情動的知性	内発的動機づけ
1）様々な要素が関わり合っていることを知ることが大切。	システム思考		有能性
2）起こり得る様々な未来の姿を予測して取り組むことが大切。	予測		自律性
3）自分はどのように行動したらよいか判断できることが大切。	規範的		自律性
4）戦略的・計画的な方策を練ることが大切。	戦略的		有能性
5）他者の立場や意見を尊重し、協力して進めることが大切。	協働的	寄り添い・共感	関係性
6）別の考え方や方法がないか問いかけてみることが大切。	批判的思考	批判的問いかけ	自律性
7）自分は何ができるか、「役割」を考えることが大切。	自己認識		有能性
8）関連する様々な課題を整理し、統合的な方法を考えることが大切。	統合的問題解決		有能性
9）考える時に、自分の感覚や気持ちを意識することが大切。		マインドフルネス	自律性

SDGs社会教育効果測定の項目例（原、古澤、水上、原、2023年2月、ローカルSDGs のための ESD の社会実装～気候変動教育を通した地域づくり,日本環境教育学会中部支部第３回 中部支部 大会発表スライドより）

21

6．実践効果をどう考えるか
例）実践セミナーにおけるアンケートの試用とその結果

試用対象：実践セミナー「海岸プラごみ清掃から流域のローカルSDGsの担い手づくりへ」2021年度

2021年10月30日（土）11：00～16：30
現地視察とセミナーWS
オンラインハイブリッド開催

<午前：現地視察> 11：00～六渡寺海岸（富山県射水市）にて視察体験（オンライン中継）
- 集合：１０：４５
- 活動：徒歩で六渡寺海岸へ、視察、ごみ拾い体験

昼食休憩

<午後：ワークショップ> 13：30～
- はじめに　本セミナーの内容について説明
- インプット
  プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと市民意識　楠井隆史：富山大学名誉教授
  現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について　境 信誓：六渡寺自治会長
  休憩（10分）
- グループワークショップ
  六渡寺海岸のプラごみ問題、どのようにつながっている？
  ワークショップ結果発表と討論
  コーディネーター　原 理史　中部地方ESDC
- 総括コメント
  実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民　佐藤真久：東京都市大教授

海岸ゴミを題材としたSDGsワークショップの開催後のアンケート結果を分析した例です。キーコンピテンシーでは「システム思考」、「規範的」、「協働的」、「自己認識」について学習効果があったと考えられます。また内発的動機づけは「有能性」、「自律性」、「関係性」の3つの欲求すべてが刺激されたとが考えられます。一方、社会情動的知性については「寄り添い、共感」という、協働の下地となる基盤的態度が醸成されたと考えらえます。

22

(7) 教育現場の実態把握と連携強化

- 教育現場の専門家との連携を強化し、効果的にESD業務を展開するため、SDGsの取組、ESD実践の推進状況等について、専門家１名、教育現場の関係者２名を対象にしたヒアリングを実施した。

ア 専門家への包括ヒアリング

ヒアリング対象	**愛知教育大学 理科教育講座教授 大鹿聖公**
実施日	令和5年2月14日11：00～13：00
実施場所	愛知教育大学大鹿研究室

ヒアリング結果

〇ESD・SDGsの取組

- これまで理科教育の研究者という点から自然環境のフィールドで活動してきた。その過程で河川財団や公園財団などと接触連携してきた。
- 理科が嫌いな子どもも理科を理解してほしいとの思いで活動してきたが、河川はわかりやすくその背景の生態系ひいては社会環境など、環境教育のフィールドとして重視してきた。理科教育は地域での活動がやはり効果的だと考えてきた。
- 2010年のCOP10から愛知教育大学で活動を行っており、その流れでESDにずっと関わってきた。
- 現在は研究室でSDGs・ESDの活動を行う他、令和4年度ユネスコ活動費補助金（SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業）を活用した「SDGs達成のための教育「ESD」を実践し「持続可能な社会の創り手」を育むESD for 2030 TOKAIプロジェクト」を推進している。ここではESD推進のために東海地方の3つの大学のほか3県の小中高の学校、自治体、企業、社団法人などの民間団体などとともにネットワーク構築を進めている。
- 愛知教育大学として全学的にもESDを取り組む必要があるという議論を現在している。教員養成課程として必修履修化などの話題が出ている。

〇ESD・SDGsの取組の課題

- ESDを知らないことにつきる。その原因として言葉がきらい、理解できない、納得できるキーワードがないということが挙げられる。
- 新しい学習指導要領で盛り込まれたとはいっても教師のところまで落ちていない。
- 一方では企業はSDGsに関心があるにもかかわらずESDを伝える手段がない。
- ESDはある意味SDGs教育といっていいが､SDGsの暗記ではない。そこにESDのわかりにくさがある。
- SDGsは一つの目標で、到達する手段としてESDが不可欠という概念を、「山の頂上ゴール（SDGs）、登る方法（服装・道程）プロセス（ESD）、つまりSDGsという目標に向かってそこに到る方法を学ぶことがESD」という説明をしている。この時「身近な」というアプローチが非常に重要だと感じている。
- 愛知教育大学の学生がSDGsにチャレンジするという意欲が薄いのをなんとかしたい。
- ただし学校教育現場では教員の余裕が全くないので、ESDのような新しい概念の定着は相当難しい。そうした意味では社会教育は重要となるし、SDGs未来都市には期待したいところではある。

〇ESD・SDGsの取組の今後の支援や期待

- 例えば教員研修で「ESDってなに」研修を行うことは考えられるが、おそらく教員は忙しくて参加しないだろう。
- 各自治体の教育長、教育委員会の委員の方がある意味で「ESD研修」の意義があるかもしれない。地域づくりにESDは不可欠と認識してもらえば、教育現場に意見できる立場なので。

イ 教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象にしたヒアリング

ヒアリング対象	**松本大学大学院 総合経営研究科／総合経営学部 観光ホスピタリティ学科** **専任講師　田開 寛太郎**
実施日	令和 5 年 2 月 19 日 15：00～17：00
実施場所	EPO 中部
ヒアリング結果	

〇大学における ESD・SDGs の取組

- 大学を卒業してからは、キープ協会インターンや富山県立大学のコーディネーターなど、体験的な学びに関わってきた。
- 2018 年度から松本大学のすべての学年で生活、自然、産業に関係する科目など、例えばエコツアーを取り上げるといった持続可能性の問題について触れてきていたが、SDGs を意識して取り入れてきたのは最近のことである。
- 現在では例えば観光ホスピタリティ学科の授業で、観光産業での SDGs 教育旅行などに取り入れる工夫をしている。
- また大学のカリキュラム編成でも SDGs に対応した科目の位置づけ直しが進んでいる。

〇社会教育としての ESD・SDGs の取組

- 縁があって飯田市の遠山地区での ESD を通じたまちづくりに個人としてかかわっている。
- 飯田市では教育を活用したまちづくりを推進しており、地域の公民館、公共施設、学校等が連携し立教大学 ESD 研究所をはじめとする市外の大学との連携で様々なひとづくり事業を行っている。これらの事業は飯田大学連携会議「学輪 IIDA」として運営されている。
- こうした活動には松本大学の田開研究室の学生も参加しており、地域に入り込む形で大学教育での ESD が実践されている。

〇ESD・SDGs の取組の課題

- 地域と連携した全世代対象の ESD では、例えばコミュニティスクールにおける社会人教育カリキュラムのような系統的なカリキュラムを作るのが難しい。
- 具体的、実践的なカリキュラムを組み立てるためには、企画の段階で地域の人に入ってもらうことが必要となるが、（決めた役割を頼めば引き受けてくれるが）積極的に関わろうという地域住民はやはり少ない。
- またこれらを通じた SDGs 地域づくりは、持続性を確保するための経済合理性が重要となるが、地元の人々は観光や経済活動との融合については、お金が動くことに用心深くなる。

〇ESD・SDGs の取組の今後の支援や期待

- 立教大学の遠山地区での社会教育分野の ESD 支援は地域づくりについて大きな貢献をしている。例えば飯田市、飯田信金、長野県地域振興局では、地域づくりについて SDGs をキイにして推進するための環境文化都市づくりプラットフォーム事業「うごくる」を来年度から立ち上げると聞いている。こうした ESD 的な社会教育支援が広がるとよい。
- 学生活動への支援があるといい。学生自身がやりたいことが地域に入り込んで活動できるような支援体制があるといいのではないか。

ヒアリング対象	**愛知県東浦町立緒川小学校** **（全校的にESDに取り組んでいるユネスコスクール認定の小学校）**
実施日	令和5年2月13日10：30～15：30学校参観にて取組を取材、意見交換会に参加 令和5年2月14日08：30～10：00鬼頭校長先生に補足ヒアリング
実施場所	両日とも愛知県東浦町立緒川小学校

ヒアリング結果

〇ESD・SDGsの取組とその成果

◇これまでの取組

- 緒川小学校では、昭和53年に校舎をオープンスクール形式に改修したことをきっかけに、ノーチャイム制や2時限を統合し95分を一単位とした1日3ブロック制を導入し、独自の学びの環境作りを推進してきた。
- 現在の基本的な教育課程は、総合学習「生きる」を通じた協働的な学びを推進する「集団学習」、子ども自身が学習目標と進捗をチェックする「週間プログラム（週プロ）学習」を中核とする個別最適な学びを推進する「個別学習」を両輪とし、自主的児童会「独立国活動」や自主的課外クラブ活動「オープンタイム」などの「創造の活動」を加えて構成されている。
- 平成23年愛知県の小学校で初めてユネスコスクールに登録し、ESDカレンダーの活用や2017年からのSDGs学習など、以降のESDとしての学校教育活動を積極的に推進している。

◇ESDとしての教育の展開

- 課内授業で学期ごと 1 単元採用を目標に実施されている「週間プログラム」（以下「週プロ」）は極めて特徴的な授業となっている。その基本的な考えは、子ども自身がその単元の学習計画と運営を自分の裁量で行うというものである。教員はそのために学校のオープン構造を活かした各種教材の空間配置、基本的な段階的進路を示すプリント（基本情報を保証するとともに、到達学習深度は複数用意されている）など工夫を凝らした学習環境を整備している。学習活動を実見したが、子どもたちは自分のプリントを選び、オープンスペースの教材を探しに行きプリントに必要事項を記入していく。書いた結果は教員にチェックしてもらい、不備があれば助言をもらって再度調べ直す、という過程をとる。算数などはまとめて教員が基本的な方法について補足的に教えるという場も設定していた。
- 通常の座学形式は「教える」入力の作業と進行管理を教員が行うが、すべての子どもの理解の速度や深度を教える側が完全に把握することは困難である。一方、週プロでは学習者本人が「学ぶ」作業と進行管理を行い教員は補助的に確認する形となっており、学習者が納得する形で学びをすすめることができる。いわば通常の座学を「インプットマネジメント型」とすれば、週プロは「アウトプットセルフチェック型」と呼ぶことができる。このような学習者自身が進行管理を含め自主的に「学ぶ」手法は動機づけの自己決定理論で仮定される 3 つの欲求のうち、「自立性」と「有能性」を強力に刺激することになり、子どもたちの積極的な活動に表れている。これらは教員の目線ではなく、子どもの目線で教育課程を構築する考えを徹底させた結果と考えられる。
- 緒川小学校では文科省の示す学習目標を踏まえ ESD で育てたい３つの力として「かかわる力」、「問い続ける力」、「行動に移す力」をあげているが、週プロを始め様々な学習活動はすべてここを目標としている。すなわちすべての学習活動がESDとなっているということもできる。

（本項は聞取り担当者の観察と意見交換による考察）

◇学習活動の成果

- 週プロは授業を準備するのは非常に労力がかかるが、子どもたちには大好評だという。教員が「この単元は週プロでやろうか」と提案すると子どもたちが大歓声を上げるそうで、いかに学習活動への動機づけ効果が高いかを示している。
- いわゆる「学力」という点では当校は中位とのことであるが、卒業生は中学や高校で各種活動のリーダーに立候補することが多いという。自立性や行動力を養う教育効果が表れていると考えられる。
- 卒業生の地元定着率が高く、子どもを当校に通わせたいという希望が多いという。当校の出身者が地域と様々な連携をもちつつ学習活動が展開されていることもあり、また小学校の教育方針に賛同している査証とも考えられる。

〇ESD・SDGs の取組の課題

- 学校で ESD を展開するためには、行政（教育委員会）、校長の考え方次第と思われる。東浦町教育委員会の場合は当校に対して後押しがあったとのこと。ただ、他の学校に十分に横出し展開しているとは言えないようである。
- 学習指導要領に記載はあるが、抽象的で現場の教師が実践するきっかけとはなりえていない。教科書に記載があれば教師は教えるが、例えば「SDGs を 17 個覚えよう」といった極めて表層的なものになってしまい、本来の ESD とは言えない。
- ESD を実践するにはスタッフ、ロマン、カリキュラムが重要で、当校ではこれを教職員に徹底しているとのこと。
- 教員は忙しすぎて自由参加の ESD 研修では人は集まらないとのこと。新人研修の一部に取り入れるなど工夫が必要。

〇ESD/SDGs の取組の今後の支援や期待

- 当校でも大学生や地域の方に来てもらっているが、環境ボランティアの出張授業などの支援があればありがたい。
- SDGs は 2030 年までなので、それ以降の社会を示す目標が必要。子どもサミットなどで現場から目標を作る活動などがあってもよいのではないか。

(8) 地域循環共生圏への協力、全国センターとの連携協力

- ESD 業務を実施するにあたっては、「地域循環共生圏」を実現する人づくりの促進にも資することを考慮しつつ取り組んだ。
- 全国センターの実施する会議に出席すると共に、必要な情報提供、資料作成等に協力し、ESD 推進ネットワークの活動状況調査等にも協力・対応した。
- ６(3)ア①に示したとおり、全国センターの実施する会議に出席すると共に、必要な情報提供、資料作成等に協力した。また、ESD 推進ネットワークの活動状況調査等にも協力・対応した。
- また、第２回 ESD 活動支援運営企画委員会で「気候変動教育の進捗の可視化プロット様式」の事例として、中部地方 ESD 活動支援センターの学び合いプロジェクトの事例を紹介した。

7 ESD/EPO の行事を通じた行動の変容の把握

(1) 代表的な行事後の行動変容の把握

- EPO・ESD 業務における代表的な行事後に、開催にあたり連携・協力した団体、登壇者等に簡易ヒアリングを計６件実施し、業務の成果（関係者や参加者等の行動変容、地域側の反応等）についてとりまとめた。

<table>
<tr><td rowspan="5">1</td><td colspan="2">行事名</td><td>2022 年 11 月 23 日開催・地域循環共生圏フォーラム inSUWA
「諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョン」</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ヒアリング</td><td>対象</td><td>（登壇者・共催者）一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会　元木氏</td></tr>
<tr><td>方法</td><td>2022 年 12 月 1 日・電話とメールでヒアリングを実施</td></tr>
<tr><td>内容・結果</td><td>● 参加された皆様からは、とても良かったとご感想をいただいている。
● オンライン視聴の方々からも大変有意義でしたとご連絡をいただいた。
● 「地域の取組紹介」に登壇した八十二銀行様には、オンライン視聴されていた飯山市役所から連絡があり、お話しされた内容についての問合せをうけたとのことで、即反響があったことに大変驚かれていた。
● 実は開催前までは、参加をお願いした方などにワークショップには参加したくないなどの反応をいただいていたが、開催後、その方たちからも「ワークショップが面白かった」「ワークショップに参加して良かった」などの好意的なご意見をいただいた。
● 今回、このような機会を諏訪地域でつくり出せたことに感謝している。参加された皆様の意識に変化が起き、行動に移せるような流れがつくれたのではと考えている。今回のフォーラムを機に諏訪地域として具体的な成果がつくれるよう微力ながら尽力していきたい。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">2</td><td colspan="2">行事名</td><td>2023 年 1 月 20 日開催・令和４年度 おわせ SEA モデル説明交流会
企業・金融機関等とのパートナーシップによる尾鷲市ローカル SDGs 実現に向けて</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ヒアリング</td><td>対象</td><td>おわせ SEA モデル協議会　事務局（尾鷲市政策調整課内）　濵田氏</td></tr>
<tr><td>方法</td><td>2023 年 1 月 31 日・ESD/EPO 運営委員会（オンライン会議）におけるコメント</td></tr>
<tr><td>内容・結果</td><td>● 今回、説明交流会を尾鷲市で開催する機会をいただいたことに感謝したい。２年前の PF 事業による意見交換会の参加者は約 80 名であったが、今回は更に増加し 128 名が参加した。
● 財務省、国交省のほか、県と市の全ての関係部署からの参加があり、非常に有意義な会合となった。
● 説明交流会では、おわせ SEA モデルによる発電所の跡地活用のみではなく、港湾活用、ゼロカーボンシティに関わる市の取組も紹介した。説明交流会の場ですぐに新しいプロジェクトが生まれるわけではないが、地域の企業と企業が交流することで、新しい企業間のつながりが生まれ、後に市の地域活性化へとつながる事業が今回の交流会を一つのきっかけにして創出されていけばと期待をしている。</td></tr>
</table>

3	行事名		2022 年 11 月５日開催・信州ローカル SDGs 勉強会「災害に強い地域づくり」
	ヒアリング	対象	（共催者・進行役）長野県 NPO センター　事務局　阿部氏
		方法	2023 年 2 月 26 日・対面でのヒアリング
		内容・結果	● 当日参加された親子からは、とても楽しく防災のことを学べ、良かったとの意見を頂いている。特に、「防災」と「食」のことを繋げた勉強会であったため、とても関心をもって参加できたとのことであった。 ● 特別な食材ではなく、普段から家にある材料を使い、子供でもできる防災食を親子で作る体験をしたことは、「平時と有事を繋げることになったと思う」との感想もあった。 ● 災害の対策については、普段から「平時の生活」の中に組み込んでおくことが大事なことで、災害に備え継続的に地域の住民自治組織で「災害に強い地域づくり」の為の取組を実施することは、持続可能な地域づくりにとって大切なことであることを改めて実感する良い機会となった。
4	行事名		2022 年９月１日・８月 25 日開催・地域づくりのための気候変動社会教育～学び合いの場①②、2022 年 11 月 25 日開催・気候変動社会教育実践セミナー
	ヒアリング	対象	アルマス・バイオコスモス研究所代表　水上氏（学び合いの場①②に参加、②の自治体登壇者コーディネート、実践セミナーのワークショップを企画コーディネート）
		方法	2023 年 2 月 24 日・オンライン zoom にてヒアリングを実施
		内容・結果	● 学び合い②に登壇、実践セミナーのホストとなった福井県大野市環境・水循環課では、このイベントを通じて得た知見をもとに気候変動教育ワークショップを学校教育、社会教育に展開することを企図している。 ● 学び合い②に登壇及び参加、実践セミナーのワークショップに参加した福井県坂井市まちづくり推進課の職員は高評価であり、坂井市内で開催運営している「まちづくりカレッジ」へ SDGs 的拡張応用したいとの意向を持っている。気候変動教育を地域力を高めることにつなげ、まちづくりへ活用する今後の展開が期待される。 ● これら一連の気候変動教育の実績を背景に、水上氏が参加している福井県環境基本計画の策定会議において計画内容に「気候変動教育」が盛り込まれた。 ● 一連のセミナーとワークショッププログラム内容は日本環境教育学会３月研究集会で報告の予定。
5	行事名		2022 年 11 月 25 日開催・気候変動社会教育実践セミナー
	ヒアリング	対象	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PEC とやま）事務局長堺氏（当日のワークショップサポートの一人として助言及びファシリテーターを担当）
		方法	2023 年 2 月 24 日・電話にてヒアリングを実施
		内容・結果	● これまで日ごろの活動で特に「気候変動」を意識していなかったが、ワークショップに関わって、その重要性を再認識した。 ● 世間でも脱炭素が標榜されているように「気候変動教育」のニーズ自体があり、今後フォーカスしていくことが重要という気づきがあった。 ● ワークショップが「俯瞰的」、「合理性」を重視したものであり、システム思考教育に有効なことがよくわかった。一般の参加者も図を作りながら「なるほどね」と発話するなど、知らず知らずのうちに芋づる式に「つながり」の気づきがあったと思われる。

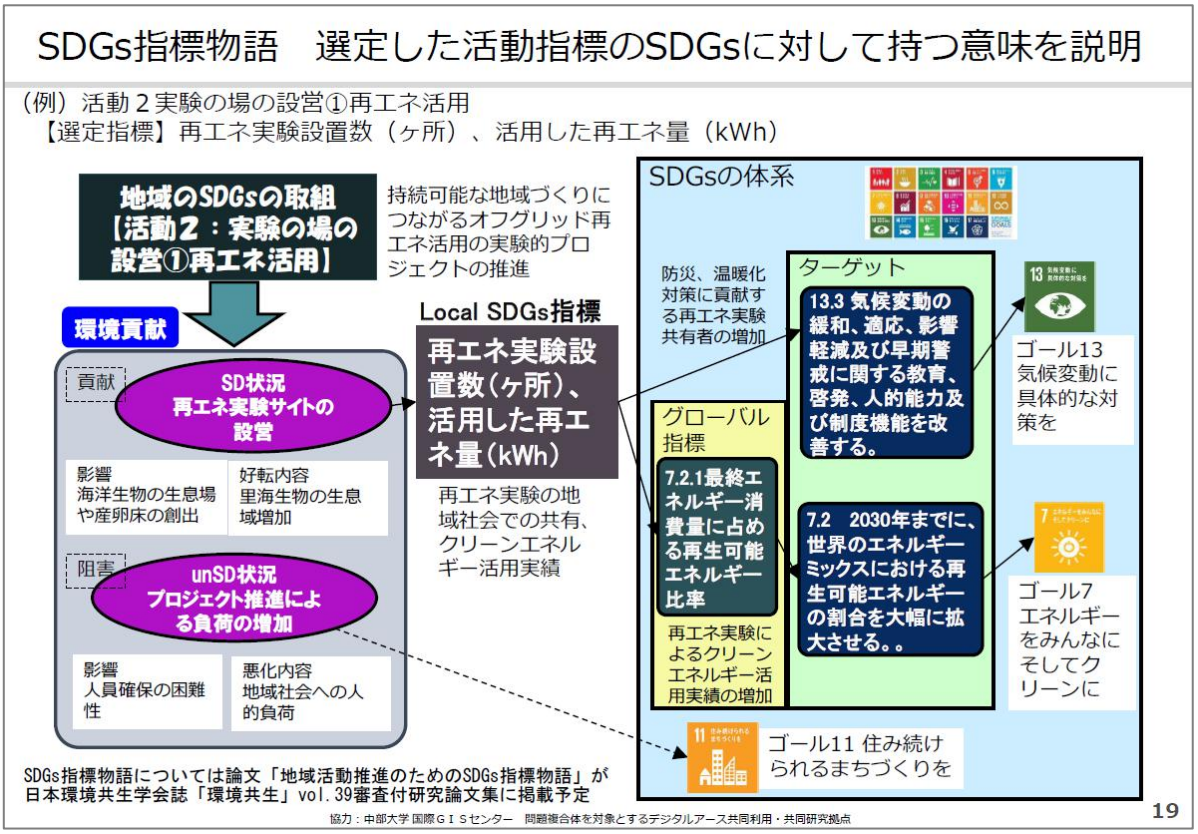
			● 表層的、マニュアル的、メニュー的な行動に陥るのではなく、こうしたシステム思考による理解と行動が SDGs、気候変動には不可欠だと感じた。 ● 富山ユネスコ協会が「気候変動教育」に興味を示しており、何らかの形で連携した取組を推進したいと考えている。
6	行事名		2022 年 11 月 26 日開催・自然資産を活かした地域・人づくり ESD ダイアログ
	ヒアリング	対象	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会【勝山市商工文化課エコ・ジオパーク推進係】町氏（ホスト協力の自治体、協議会）
		方法	2023 年 2 月 24 日・電話にてヒアリングを実施
		内容・結果	● 日ごろ他のジオパークとの連携を取っているとは言っても密なものではなく、このイベントを通じて交流できたことは大きかった。違う主催者の枠組みでの交流イベントの価値は高い。 ● 日ごろのジオパークでの学習会が ESD であることを再認識した。よいきっかけになった。 ● ホストとしての企画運営協力段階で、登壇した子どもたちの学校との連絡機会が多かったことは今後の連携推進に多くのメリットをもたらすと考えられる。 ● 参加した学校は日ごろの取組を市内でこそ発表しているが、外部の参加者やオンラインで不特定の視聴者に発信する当事者になったことについて、大変よい経験になったとのこと。取組発信の方法について新しい視界が開けた感触であった。 ● 勝山市長（推進協議会会長）が途中オンラインで視聴した際、（音声が途切れたもののつながっていたところは）市の会議などのオンラインよりも大変聞きやすいとの感想を得、市主催オンライン会議設営の改善指示が出たとのこと。

(2) 地域循環共生圏及びローカル SDGs 実践状況等の評価

ア 「SDGs 指標物語」について

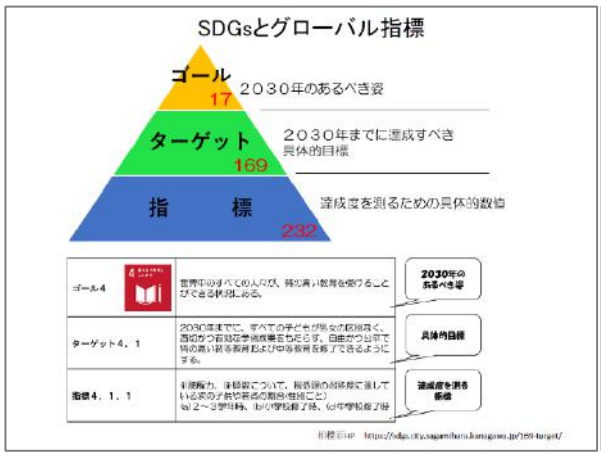
- ローカル SDGs 実践状況等の評価指標ツールの作成業務として、昨年度から EPO 中部では「SDGs 指標物語」の構築に取り組んでいる。

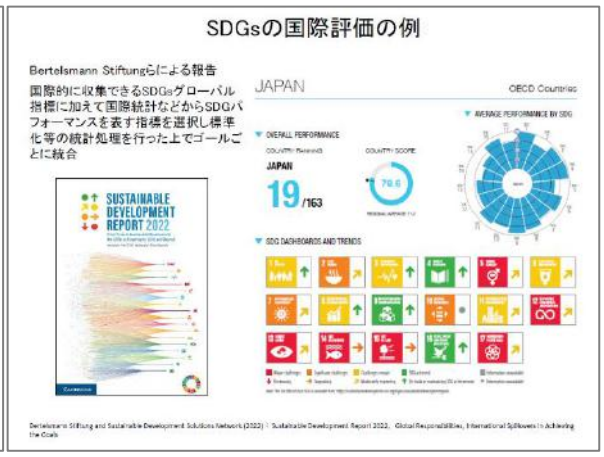
【「SDGs 指標物語」の概説（2021 年度業務で整理）】

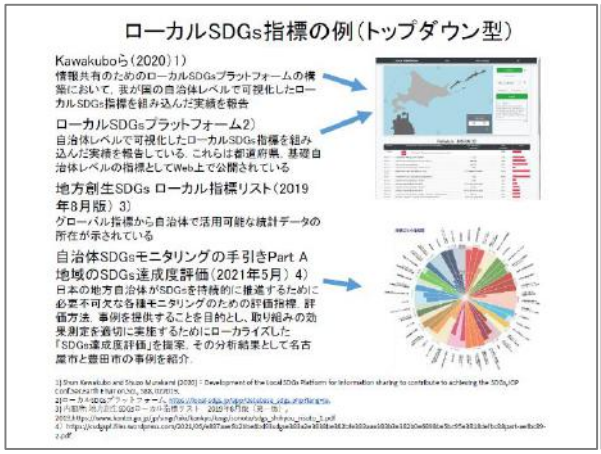


イ 地域 SDGs 評価メニュー、プログラム等の情報収集

- ローカル SDGs 実践状況等の評価に用いる「SDGs 指標物語」構築にあたり、既存の評価メニュー、プログラム等の事例・情報を下記の通り収集した。



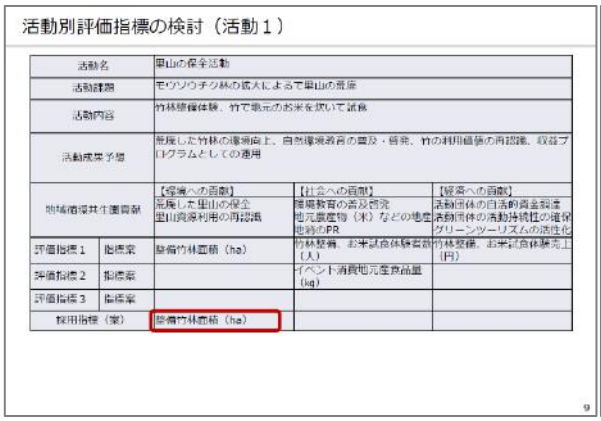




ウ 試行的な実践事例（２事例）

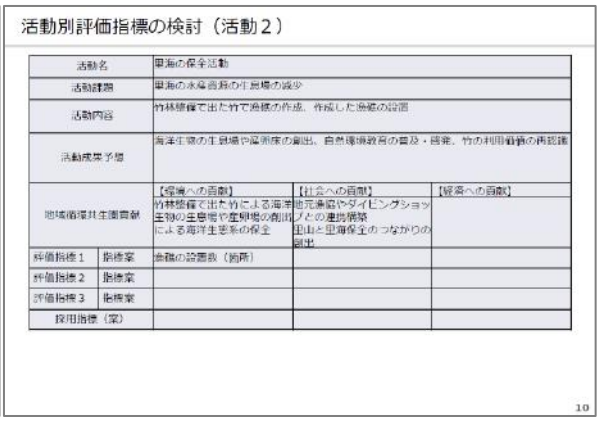
- ローカル SDGs の実践状況の評価を行うためには、地域活動の定量的評価が必要であり、その対象は継続的に結果を把握できる活動を行っている団体をが適していると考えられる。
- 本業務では、前項「(1)代表的な行事後の行動変容の把握」のヒアリング実施者の中から２事例を対象に、地域循環共生圏及びローカル SDGs 実践状況等の評価（「SDGs 指標物語」シート作成）を試行的に行う予定となっていたが、「SDGs 指標物語」構築における評価方法を模索する必要があることから、今年度業務の中で関係した団体の中から、実際に具体の活動・プロジェクトに取り組んでいる、もしくは計画している２団体を対象に、指標選定の試みを実施した。

（ア） 合同会社ローカル SD クリエーション（PF 丹南）による里山保全活動


活動別評価指標の検討（活動１）

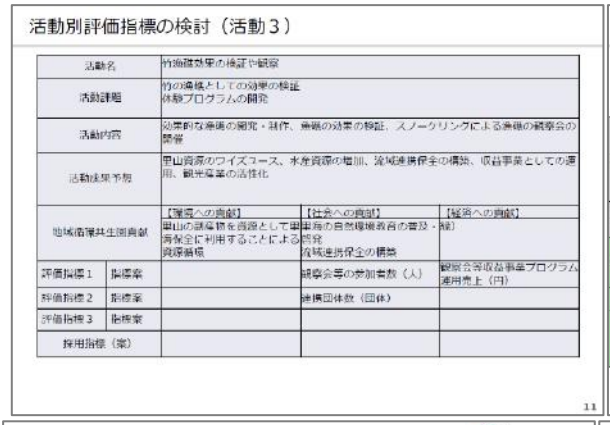
活動名		里山の保全活動		
活動課題		モウソウチク林の拡大によって里山の荒廃		
活動内容		竹林整備体験、竹で風呂のお米を炊いて試食		
活動成果予想		荒廃した竹林の環境向上、自然環境教育の普及・啓発、竹の利用価値の再認識、収益プログラムとしての運用		
地域循環共生圏貢献		【環境への貢献】 荒廃した里山の保全 里山資源利用の再認識	【社会への貢献】 環境教育の普及啓発 地元農産物（米）などの地産地消のPR	【経済への貢献】 活動団体の自活的資金調達 活動団体の活動持続性の確保 グリーンツーリズムの活性化
評価指標１	指標案	整備竹林面積（ha）	竹林整備、お米試食体験参加者（人）	竹林整備、お米試食体験売上（円）
評価指標２	指標案		イベント消費地元産食品量（kg）	
評価指標３	指標案			
採用指標（案）		整備竹林面積（ha）		

9


活動別評価指標の検討（活動２）

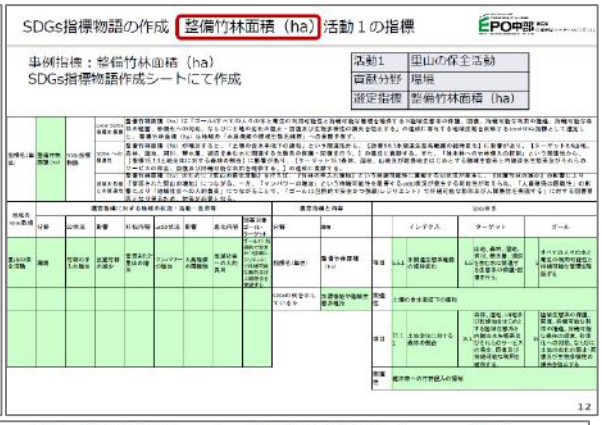
活動名		里海の保全活動		
活動課題		里海の水産資源の生息場の減少		
活動内容		竹林整備で出た竹で漁礁の作成、作成した漁礁の設置		
活動成果予想		海洋生物の生息場や産卵床の創出、自然環境教育の普及・啓発、竹の利用価値の再認識		
地域循環共生圏貢献		【環境への貢献】 竹林整備で出た竹による海洋生物の生息場や産卵場の創出による海洋生態系の保全	【社会への貢献】 地元漁協やダイビングショップとの連携構築 里山と里海保全のつながりの創出	【経済への貢献】
評価指標１	指標案	漁礁の設置数（箇所）		
評価指標２	指標案			
評価指標３	指標案			
採用指標（案）				

10


活動別評価指標の検討（活動３）

活動名		竹漁礁効果の検証や観察		
活動課題		竹の漁礁としての効果の検証 体験プログラムの開発		
活動内容		効果的な漁礁の開発・試作、漁礁の効果の検証、スノーケリングによる漁礁の観察会の開催		
活動成果予想		里山資源のワイズユース、水産資源の増加、流域連携保全の構築、収益事業としての運用、観光産業の活性化		
地域循環共生圏貢献		【環境への貢献】 里山の竹林資源を資源として里海の海洋生態系に利用することによる資源循環	【社会への貢献】 里海の自然環境教育の普及・啓発 流域連携保全の構築	【経済への貢献】
評価指標１	指標案		観察会等の参加者数（人）	観察会等収益事業プログラム運用売上（円）
評価指標２	指標案		連携団体数（団体）	
評価指標３	指標案			
採用指標（案）				

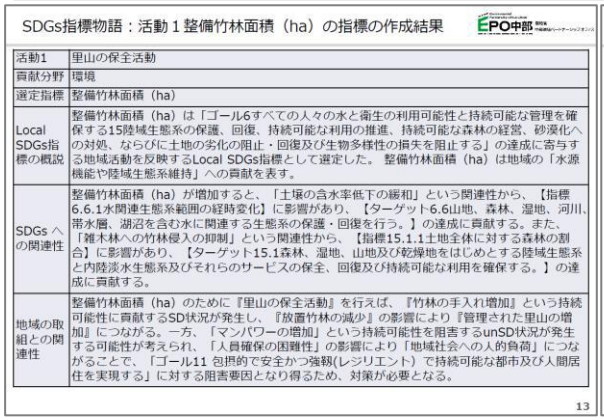
11


SDGs指標物語の作成 整備竹林面積（ha）活動１の指標

事例指標：整備竹林面積（ha）
SDGs指標物語作成シートにて作成

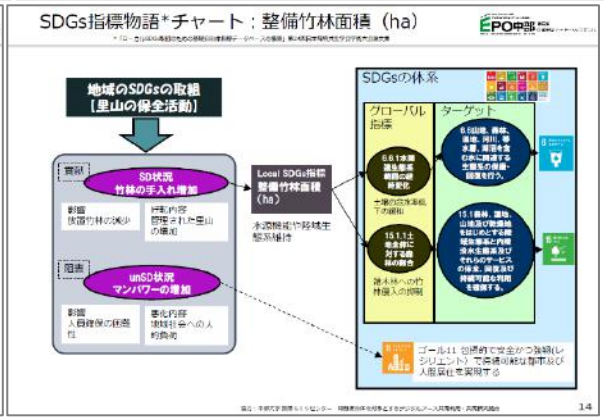
活動1	里山の保全活動
貢献分野	環境
選定指標	整備竹林面積（ha）

12

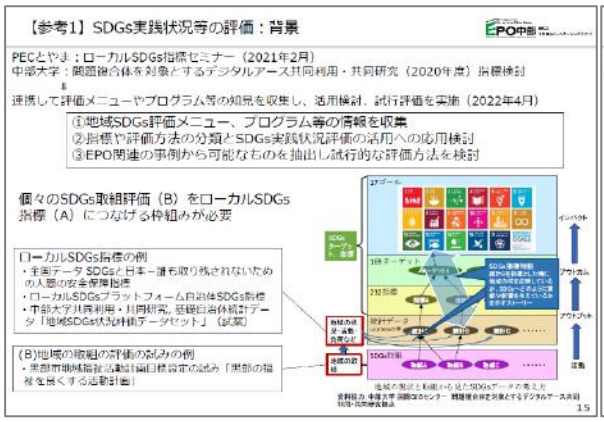

SDGs指標物語：活動１整備竹林面積（ha）の指標の作成結果

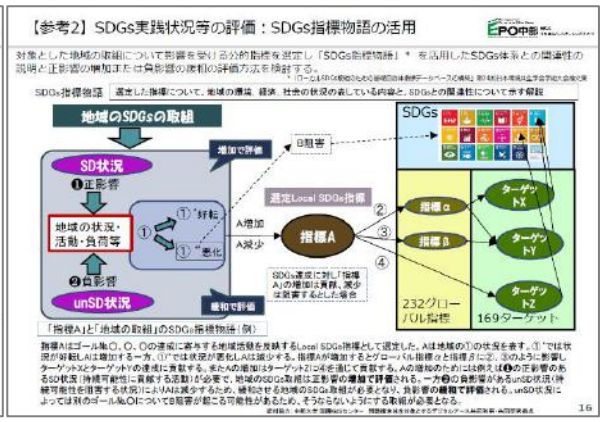
活動1	里山の保全活動
貢献分野	環境
選定指標	整備竹林面積（ha）
Local SDGs指標の概説	整備竹林面積（ha）は「ゴール6すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する15陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。整備竹林面積（ha）は地域の「水源機能や陸域生態系維持」への貢献を表す。
SDGs への関連性	整備竹林面積（ha）が増加すると、「土壌の含水率低下の緩和」という関連性から、【指標6.6.1水関連生態系範囲の経時変化】に影響があり、【ターゲット6.6山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。】の達成に貢献する。また、「雑木林への竹林侵入の抑制」という関連性から、【指標15.1.1土地全体に対する森林の割合】に影響があり、【ターゲット15.1森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	整備竹林面積（ha）のために『里山の保全活動』を行えば、『竹林の手入れ増加』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『放置竹林の減少』の影響により『管理された里山の増加』につながる。一方、「マンパワーの増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 包摂的で安全かつ強靭(レジリエント) で持続可能な都市及び人間居住を実現する」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

13

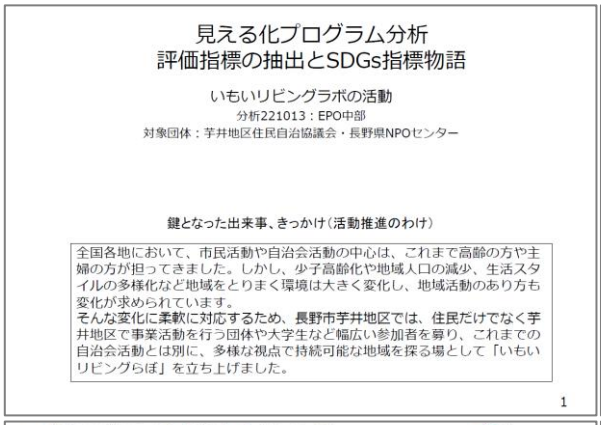


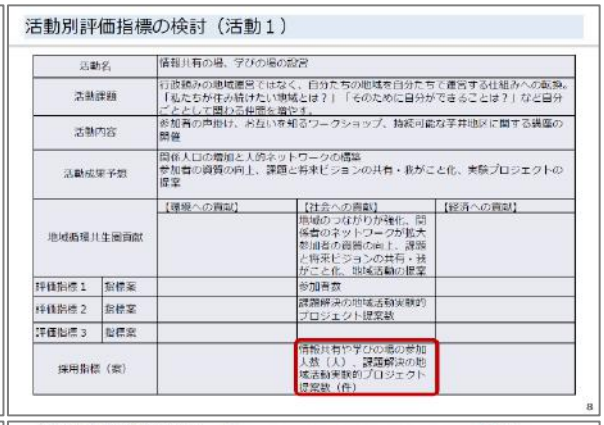
14

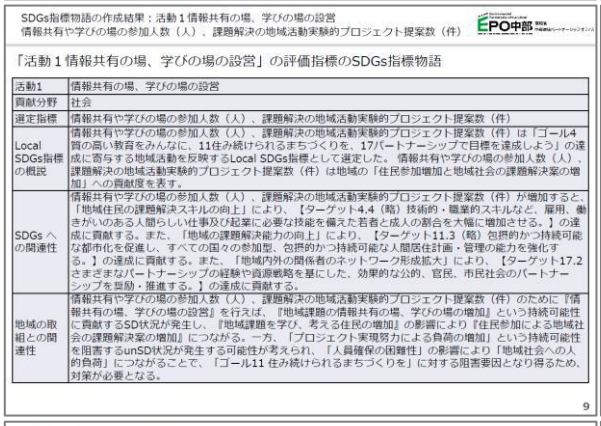


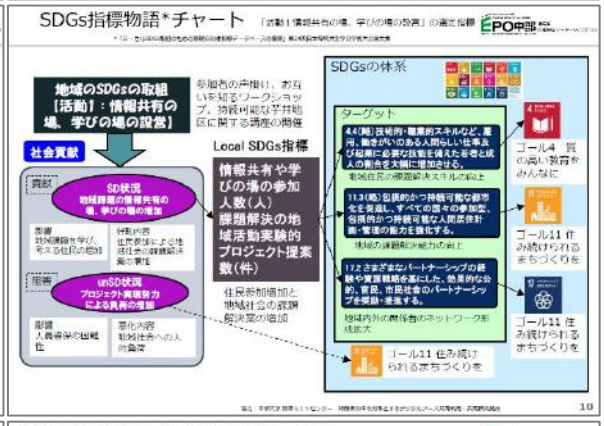


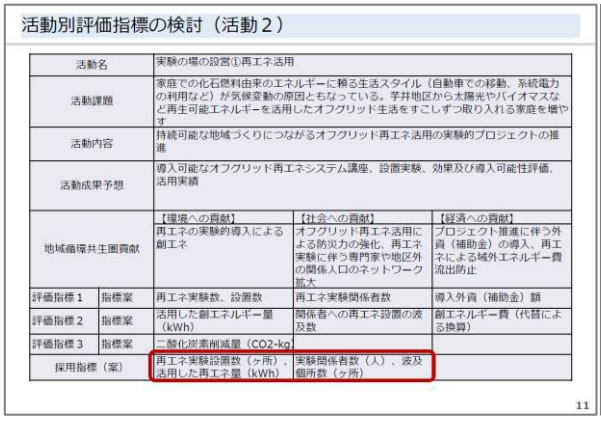
（イ） 芋井地区住民自治協議会による「いもいリビングらぼ」の取組

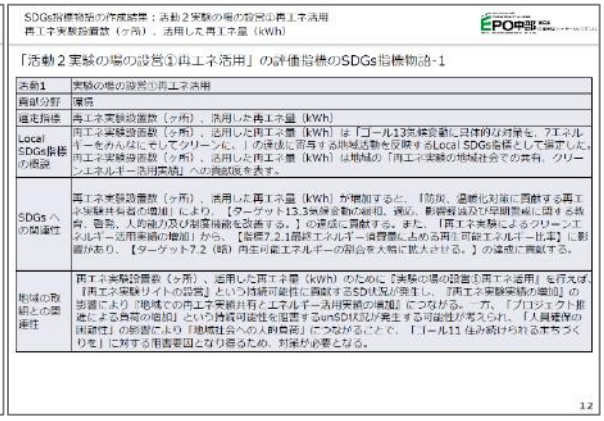


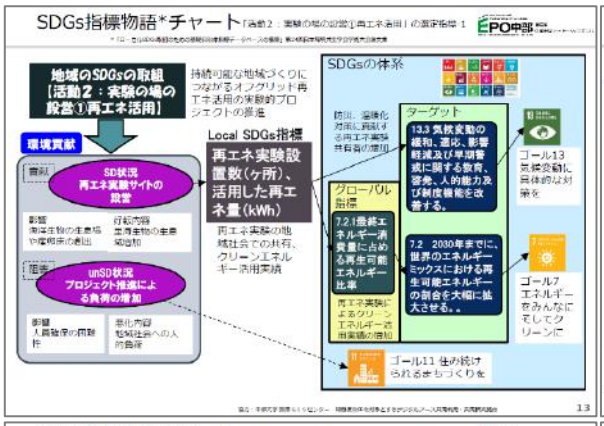










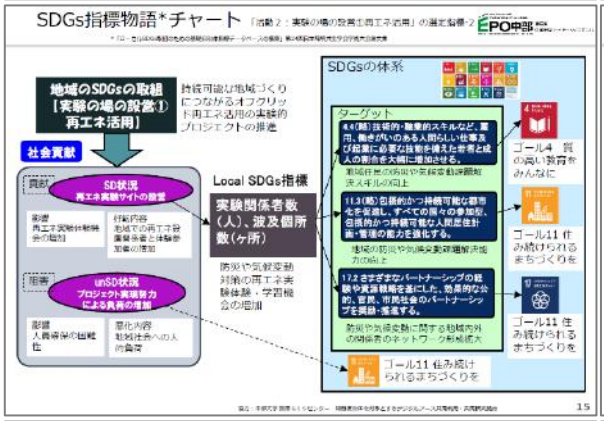


SDGs指標物語の作成結果：活動２実験の場の設営①再エネ活用
実験関係者数（人）、波及個所数（ケ所）

「活動２実験の場の設営①再エネ活用」の評価指標のSDGs指標物語-2

活動1	実験の場の設営①再エネ活用
貢献分野	社会
選定指標	実験関係者数（人）、波及個所数（ケ所）
Local SDGs指標の概説	実験関係者数（人）、波及個所数（ケ所）は「ゴール4質の高い教育をみんなに、11住み続けられるまちづくりを、17パートナーシップで目標を達成しよう」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。 実験関係者数（人）、波及個所数（ケ所）は地域の「防災や気候変動対策の再エネ実験体験・学習機会の増加」への貢献度を表す。
SDGs への関連性	実験関係者数（人）、波及個所数（ケ所）が増加すると、「地域住民の防災や気候変動課題解決スキルの向上」から、【指標】に影響があり、【ターゲット4.4（前略）技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。】の達成に貢献する。また、「地域の防災や気候変動課題解決能力の向上」から、【指標】に影響があり、【ターゲット11.3（前略）包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。】の達成に貢献する。また、「防災や気候変動に関する地域内外の関係者のネットワーク形成拡大」から、【指標】に影響があり、【ターゲット17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	実験関係者数（人）、波及個所数（ケ所）のために『実験の場の設営①再エネ活用』を行えば、『再エネ実験サイトの設営』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『再エネ実験体験機会の増加』の影響により『地域での再エネ設置関係者と体験参加者の増加』につながる。一方、「プロジェクト実現努力による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

14



活動別評価指標の検討（活動3）

活動名		実験の場の設営②草刈りバスターズ		
活動課題		人口減少や高齢化が進み、公選や公園などの動力刈払機による草刈り作業の担い手を少なくなっており、生活や地区環境に支障をきたしつつある。地区外の関係人口を増やして、担い手不足を解決とすると同時に、地区外との交流増により地区に活気を取り戻す		
活動内容		持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワークシステムの実験的プロジェクトの推進		
活動成果予想		草刈りネットワークシステムの構築と実験的運用、及び実験的草刈り実績		
地域循環共生圏貢献		【環境への貢献】	【社会への貢献】	【経済への貢献】
		草刈り実績による里山の持続性強化	草刈りネットワークシステム構築と運用による関係者の増加と域外ネットワークの拡大	プロジェクト推進に伴う外資（補助金）の導入 アクティビティ化による外来者へのサービス提供
評価指標１	指標案	実験プロジェクト推進による草刈り面積	草刈りバスターズ受講者数	導入外資（補助金）額
評価指標２	指標案		草刈イベント参加者数	アクティビティ化による関連サービス提供売上
評価指標３	指標案			
採用指標（案）		実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）

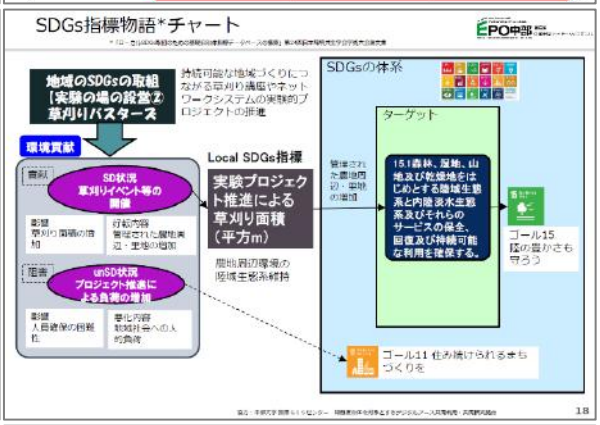
16

SDGs指標物語の作成結果：活動３実験の場の設営②草刈りバスターズ
実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）

「活動３実験の場の設営②草刈りバスターズ」の評価指標のSDGs指標物語-1

活動1	実験の場の設営②草刈りバスターズ
貢献分野	環境
選定指標	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）
Local SDGs指標の概説	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）は「ゴール15陸の豊かさも守ろう、、」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。 実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）は地域の「農地周辺環境の陸域生態系維持」への貢献度を表す。
SDGs への関連性	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）が増加すると、「管理された農地周辺・里地の増加」から、【ターゲット15.1森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）のために『実験の場の設営②草刈りバスターズ』を行えば、『草刈りイベント等の開催』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『草刈り面積の増加』の影響により『管理された農地周辺・里地の増加』につながる。一方、「プロジェクト推進による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

17

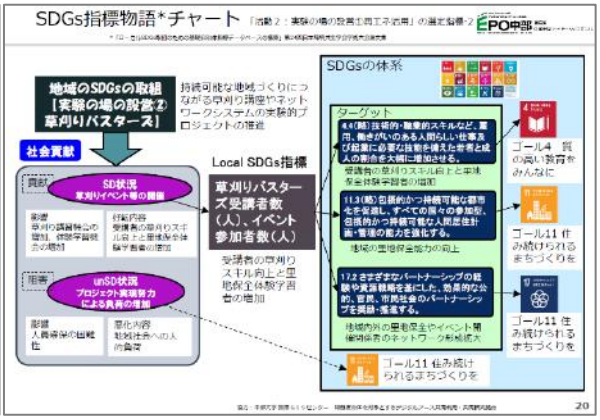


SDGs指標物語の作成結果：活動３実験の場の設営②草刈りバスターズ
草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）

「活動３実験の場の設営②草刈りバスターズ」の評価指標のSDGs指標物語-2

活動1	実験の場の設営②草刈りバスターズ
貢献分野	社会
選定指標	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）
Local SDGs指標の概説	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）は「ゴール4質の高い教育をみんなに、11住み続けられるまちづくりを、17パートナーシップで目標を達成しよう」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。 草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）は地域の「受講者の草刈りスキル向上と里地保全体験学習者の増加」への貢献度を表す。
SDGs への関連性	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）が増加すると、「受講者の草刈りスキル向上と里地保全体験学習者の増加」により、【ターゲット4.4（前略）技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。】の達成に貢献する。また、「地域の里地保全能力の向上」により、【ターゲット11.3（前略）包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。】の達成に貢献する。また、「地域内外の里地保全やイベント開催関係者のネットワーク形成拡大」により、【ターゲット17.2 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	草刈りバスターズ受講者数（人）、イベント参加者数（人）のために『実験の場の設営②草刈りバスターズ』を行えば、『草刈りイベント等の開催』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『草刈り講座機会の増加、体験学習機会の増加』の影響により『受講者の草刈りスキル向上と里地保全体験学習者の増加』につながる。一方、「プロジェクト実現努力による負荷の増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

19



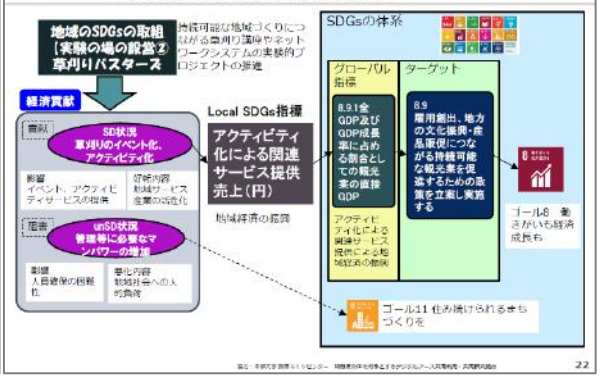
SDGs指標物語の作成結果：活動３実験の場の設営②草刈りバスターズ
実験プロジェクト推進による草刈り面積（平方m）

「活動３実験の場の設営②草刈りバスターズ」の評価指標のSDGs指標物語-3

活動1	実験の場の設営②草刈りバスターズ
貢献分野	経済
選定指標	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）
Local SDGs指標の概説	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）は「ゴール8働きがいも経済成長も、」の達成に寄与する地域活動を反映するLocal SDGs指標として選定した。 アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）は地域の「地域経済の振興」への貢献度を表す。
SDGs への関連性	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）が増加すると、「アクティビティ化による関連サービス提供による地域経済の振興」から、【指標8.9.1全GDP及びGDP成長率に占める割合としての観光業の直接GDP】に影響があり、【ターゲット8.9雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する】の達成に貢献する。
地域の取組との関連性	アクティビティ化による関連サービス提供売上（円）のために『実験の場の設営②草刈りバスターズ』を行えば、『草刈りのイベント化、アクティビティ化』という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、『イベント、アクティビティサービスの提供』の影響により『地域サービス産業の活性化』につながる。一方、「管理等に必要なマンパワーの増加」という持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、「人員確保の困難性」の影響により「地域社会への人的負荷」につながることで、「ゴール11 住み続けられるまちづくりを」に対する阻害要因となり得るため、対策が必要となる。

21

SDGs指標物語*チャート



22

8 関係主体との連携及び協働に関する業務

(1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

ア 定期打合せと日々の業務報告の提出

(ア) 定期打合せ

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月 1 回頻度で実施し、業務の進捗状況、方向性などについて協議を行った。

	実施日	主な打合せ協議事項
第1回	4 月 12 日	1.「令和4年度業務実施計画」案について 2. イベント・会合関係の関係者への連絡・調整について 3. PF 採択団体とのヒアリング・打合せ日時の設定について 4. ESD/EPO 運営委員会について 5. その他 (1)次回打合せ (2)EPO/ESD センター封筒について (3)EPO の office@メールの削除について(※代表アドレス:info@に 2020 年 12 月に変更)
第2回	5 月 9 日	1. ESD/EPO 運営委員会 5/25 について 2. イベント・会合関係の調整、企画検討について 3. PF 事業について 4. 次回打合せについて
第3回	6 月 10 日	1. イベント・会合関係の調整、企画検討について 2. PF 事業について 3. 次回打合せについて
第4回	7 月 19 日	1. イベント・会合関係について 2. 地域循環共生圏関連会合について (1)森里川海NW会合 (2)PS 基盤強化会合 3. PF 事業について 4. その他の報告・確認事項 5. 次回打合せについて
第5回	8 月 22 日	1. イベント・会合関係について 2. 地域循環共生圏関連会合について (1)森里川海NW会合 (2)PS 基盤強化会合 3. PF 事業について 4. その他の報告・確認事項 5. 次回打合せについて
第6回	9 月 14 日	1. イベント・会合関係について 2. 地域循環共生圏関連会合について (1)森里川海NW会合 (2)PS 基盤強化会合 3. PF 事業について 4. その他の報告・確認事項 5. 次回打合せについて
第7回	10 月 14 日	1. イベント・会合関係について 2. 地域循環共生圏関連会合について (1)森里川海NW会合 (2)PS 基盤強化会合 3. PF 事業について 4. 第2四半期報告書原稿について 5. そのほか ・名古屋市の錦 SDGsWEEK への企画参加協力について ・次回打合せについて
第8回	12 月1日	1. イベント・会合関係について 2. PS 基盤強化会合 3. PF 事業について 4. 第2回運営委員会について 5. そのほか ・外部評価委員会:プレゼン資料、自己評価シート(事務所フォーム)の作成 ・次回打合せについて

	実施日	主な打合せ協議事項
第9回	12 月 20 日	1. 今年度業務(全体)についての実施状況の確認 2. イベント・会合関係について 3. PS 基盤強化会合 4. PF 事業について:各団体からの連絡・報告等の状況 5. 第2回運営委員会について 6. 外部評価委員会について 7. そのほかの報告・確認事項 8. 次回打合せについて
第10回	1 月 19 日	1. 今年度業務(全体)についての実施状況の確認 2. イベント・会合関係について 3. PS 基盤強化会合 4. PF 事業について 5. 第2回運営委員会について 6. 外部評価委員会について 7. 次回打合せについて
第11回	2 月 16 日	1. 今年度業務(全体)についての実施状況の確認 2. PS 基盤強化会合について 3. PF 事業について 4. 外部評価委員会 2/28 について 5. 年間報告書(本編・概要版)の作成・納品について 6. 次回打合せについて
第12回	3月 15 日	1. 今年度業務(残り業務)についての実施状況の確認 2. 年間報告書(本編・概要版)について

(イ) 日々の業務報告提出

- 日々の業務についての「月次報告書」を作成し、業務内容等を記入したものを毎月（月初めに)、中部地方環境事務所へ提出した。

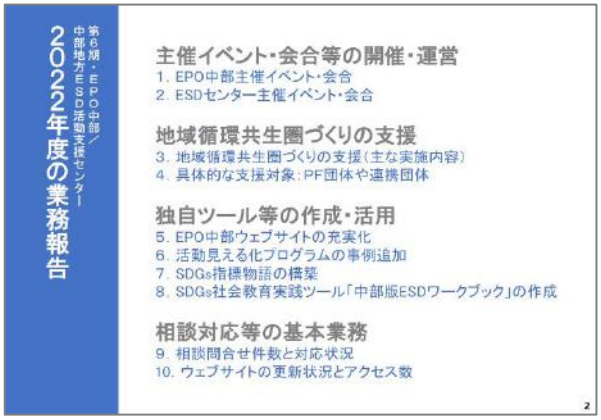
イ 中部地方環境事務所が開催する外部評価委員会への対応等

- 中部地方環境事務所が実施した外部評価委員会に下記の通り対応、出席した。

行事等	実施日／実施場所	EPO 中部による対応
外部評価委員会	2 月 28 日 中部地方 環境事務所	● 2022 年度 EPO 中部業務報告資料、及び自己評価シートを作成・記入。 ● EPO 中部スタッフ 2 名が出席し、上記資料の説明、質疑対応などを行った。

【外部評価委員会に提示した 2022 年度 EPO 中部業務の説明資料】

※2023 年 1 月末現在の実施状況、把握データをもとに作成・提出。



第６期(2021～2023年度)の達成目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs活用が進みつつある中部エリアにおいて

新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGsの実装・実践のための支援と、誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築に取り組みます。

令和４年度の目標と方針

目標　地域循環共生圏づくり支援への総括と、その汎用化・共有化によって地域循環共生圏づくり・ローカルSDGs推進に向けて、地域が能動的、持続的に取り組む方策を提示します。

方　針	参照先；該当する主な実施事務
● 地域循環共生圏づくり等に対するEPO中部の支援を活用可能なプログラム等として整理し、前年度構築の地域SDGs評価メニュー／プログラムと共に、活用可能なコンテンツとして公開します。	独自ツール等の作成・活用 ・P2ウェブサイトの充実化 ・P3b 誘導型えるたプログラムの事例追加 ・P2b SDGs指標地図の構築
● 環境施策×経済・ビジネス・金融（×その他分野）の関係構築において、具体の地域・事業におけるマッチング展開等を目指した取組を企画、実施します。	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化会合 ・P9 尾鷲会合（おわせSEAモデル説明交流会） ・P10 丹南会合（里山里海ワイズユース×地域ビジネス情報交換会）
● 中小規模の自治体等を対象にしたESD実践勉強会の開催と、その実施結果を反映した支援ツールの充成・公表により、小さな地域／主体もSDGs実践に取り組める素地づくりに取り組みます。	・P8b地域循環共生圏フォーラムinSUWA（長野県諏訪市） ・P15ESDダイアログ（福井県鯖江市） ・P16SDGs社会教育研究会in小諸（長野県佐久市小諸市） ・P17SDGs社会教育実践セミナー（福井県大野市） ・P20「中部版ESDワークブック」の作成

3

主催イベント・会合等の開催・運営

4

１．EPO中部主催イベント・会合等

区分	エリア	開催日	設営	参加者	催事名称／テーマ	備考
①地域循環共生圏フォーラム	長野県諏訪市	11月23日	ハイブリッド	会場37名 YouTube 21件	地域循環共生圏フォーラムinSUWA「諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョン」	・諏訪地域の活動団体（一社）諏訪広域観光産業イノベーション協会と共催。 ・「地域ビジョンづくりワークショップ」を実施。
②SDG/地域循環共生圏ワーキング	（中部）	12月15日	オンライン	zoom 17件	ローカルSDGs/地域循環共生圏セミナー「SDGs17ゴールの紐づけの先へ　あなた・地域・社会の変容に向けて」	・自治体職員向けセミナーとして企画。 ・SDGsチェックリストを活用したローカルSDGsの長がこどもたちの自然体験や探究活動のあり方等を考えるWS（WS）を実施。
③協働コーディネーターと連携した実践活動	長野県長野市芋井地区	11月5日	リアル	会場35名	信州ローカルSDGs勉強会 災害に強い地域づくりワークショップ	・協働コーディネーター山室氏との連携企画。
		2月26日	リアル	未開催	こどもの自然体験、野外保育・ESD教育×国立公園の資源活用	・地区の豊かな自然環境、環境学習施設を活かしたこどもたちの自然体験や探究活動のあり方等を考える勉強会を実施予定。
④環境白書を読む会	（中部）	9月13日	オンライン	zoom 71件	なごや環境大学オンラインセミナー 環境白書からSDGs実践へ 2022	・なごや環境大学に協力して共催。 ・EPO中部が司会。
⑤PF事業中間共有会(中部ブロック会合)	（中部）会場：長野県大町市	11月18日19日	ハイブリッド	クローズド 会場22名 zoom1件	地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業 中間共有会（中部ブロック会合）	・PF事業採択団体（中部3団体）による取組の中間報告会として実施。 ・2日目には、開催地・大町市の団体の案内で、活動地の紹介、SHOの木工室の工房等を視察。 ↗ P26参照。

※人：参加人数、件：接続数での把握

5

EPO中部主催イベント・会合等

区分	会合	開催日	設営	参加者	催事名称／テーマ	備考
⑥地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化会合	三重県尾鷲市会合	1月20日	リアル	参加者128名（企業63社）	令和4年度 おわせSEAモデル説明交流会「企業・金融機関等とのパートナーシップによる尾鷲市ローカルSDGs実現に向けて」	PF事業非営利団体支援を目的にした団体と企業・金融機関の交流・マッチングの場として企画。
	福井県丹南地区会合	2月7日	リアル	クローズド 参加者11名	丹南エリアにおける里山里海ワイズユース×地域ビジネス情報交換会	・地域活動団体と金融・経済団体を交えた情報交換会を企画。 ・会場、地域活動者が営業する古民家レストラン。 ・PF団体、地域活動者、日本政策金融公庫、武生商工会議所関係者等が参加。
	東海セミナー	3月6日	オンライン	未開催	地域脱炭素の実現に向けた金融機関・事業者向けセミナー	・東海財務局、中部経産局、中部地方環境事務所、EPO中部主催の脱炭素セミナー。 ・金融機関、企業が登壇し、脱炭素経営と地域づくりをテーマにしたディスカッション等実施。
	信州セミナー	3月14日	オンライン	未開催	※上記・地域脱炭素セミナーの信州開催	
⑦森里川海生態系ネットワーク形成会合	OECM情報交換会	11月8日	オンライン	クローズド zoom 63件	OECMに関する情報交換会	・主に自治体を対象にしたOECM、及び「自然共生サイト（仮）」の情報共有を目的にした会合。 ・他による関連制度等の紹介と意見交換を実施。
	OEGMフォーラム	1月25日	オンライン	zoom 52件 YouTube 205件	生物多様性生活化フォーラムin中部「OECM 各通じた企業の生物多様性保全活動」	・上記の行政向け情報共有会合に対し、参加者一般公募によるフォーラムを開催。 ・試行サイト企業3社による取組紹介等のほか、参加者からの質問を交えたトークセッションを実施。

※人：参加人数、件：接続数での把握

6

①地域循環共生圏フォーラム

- 長野県諏訪市で地元活動団体と共催で、地域循環共生圏フォーラムinSUWAを開催。
- 諏訪地域の「なりたい地域の未来像づくり」ワークショップを実施。
- 当地域では過去に多様な主体が集まって未来像づくりワーク等を行ったことがなく、初めて実施。
- まずは「協働」を体験していただいた。

長野日報2022年11月24日記事（※記事の続きあり）
http://www.nagano-nippo.co.jp/article/300801

7

②SDG/地域循環共生圏ワーキング

- 主に自治体職員を対象にした勉強会として、ローカルSDGs/地域循環共生圏セミナー「SDGs17ゴールの紐づけの先へ　あなた・地域・社会の変容に向けて」を12月15日に開催。
- まだ自治体職員にとってSDGsが我がごと化できていないとの課題感から企画。
- 参加者数が少なかった一方で、実際に参加した人からの評価（参加者アンケート）は非常に高かった。

8

③協働コーディネーターと連携した実践活動：長野市芋井地区

- 長野県長野市で、協働コーディネーター・山室氏が所属する長野県NPOセンターとの連携開催で、信州ローカルSDGs勉強会「災害に強い地域づくり」を11月5日に開催。
- 山室氏は自身が居住する長野市芋井地区集落において、自治協議会を中心とした地域循環共生圏づくりの展開を目指しており、EPOは昨年度からその支援に連携して取り組んでいる。

9

⑥地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化会合１　尾鷲会合

- 三重県尾鷲市で、令和4年度おわせSEAモデル説明交流会「企業・金融機関等とのパートナーシップによる尾鷲市ローカルSDGs実現に向けて」を1月20日に開催。
- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の2019-2020採択団体・おわせSEAモデル協議会との連携企画として実施。
- 協議会関連プロジェクトと企業・金融機関等とのマッチング機会の創出を目的に開催。
- 当日は多数の企業・金融機関や国・県等の関係機関が参加（参加企業等63社、参加者数128名）。

10

⑥地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化会合２　丹南会合

- 福井県丹南地域で、地元の活動団体と経済団体・金融機関が出席した「里山里海ウイズユース×地域ビジネス情報交換会」を2月7日に開催。
- 地域活動団体が経営する農家レストラン「白山さんち」を会場に開催し、「白山さんち」など地域活動者や、地域ビジネスの創業支援を展開する「ななおSDGsスイッチ」（環境省PFI事業）、ソーシャルビジネス支援を展開している日本政策金融公庫武生支店、武生商工会議所など計11名が参加し、取組発表やディスカッションを実施。
- ボランティアベースになりがちな「地域活動」の課題や、持続可能な「地域ビジネス」として展開する方策等について意見・情報交換を行った。

プログラム

11

⑦森里川海生態系ネットワーク形成会合　OECMフォーラム

- 11月8日に中部の自治体を対象にした「OECMに関する情報交換会」（※クローズド会合）をオンライン開催し、県市町村が出席して、OECM融強会を実施。
- その2回目開催の企画として、参加者一般公募によるOECMの概説と事例紹介を行う生物多様性主流化フォーラムin中部「OECMを通じた企業の生物多様性保全活動」を1月25日に開催。
- COP15開幕の（報道がされていた）タイミングで本格的な参加募集広報を展開した結果、全国の企業、行政機関等から多数の参加があった（参加者数等：計268件／zoom62件、YouTubeライブ配信視聴206件）。

12

2．ESDセンター主催イベント・会合等

区分	エリア	開催	開催日	参加者	テーマ・内容	登壇者／関係者等
①ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム	（中部）	ハイブリッド	12月5日	クローズド会場13人、Zoom13件	◆ 中部の地域ESD拠点の活動情報共有と意見交換（クローズド開催）	● ESDの深堀（愛知大国際学部先生/愛知大） ● コーディネーター：内海名古屋市先生（中部大） ● ESD推進ネットワーク、ESD中部、中部ESD活動内容の紹介
②SDGs学生サミット	（中部）	オンライン	2月4日	学生等（zoom78件YouTube視聴40件）	◆ ユースに対するSDGs活動交流を通じたESD版の設置	● SDGs推進実践に取り組む大学生チーム（6大学） ● 参加自治体、NPO等によるSDGs取組とのつながり
③自然資産を活かしたESDダイアログ	福井県勝山市	ハイブリッド	11月26日～27日	会場42人、YouTube11件	◆ 恐竜渓谷ふくい／白山ジオパークESDダイアログ2022～自然資産を教材としたSDGs教育とは（オープン）	● 恐竜渓谷ふくい／白山ジオパークパネルディスカッション ● 第12回日本ジオパーク全国大会白山平泉世界大会成果を受け継ぐ ● 中部エリアのジオパーク関係者等、地域住民関係者 ● コメンテーター：永田恵郎先生（福井大学）
多様な主体の連携促進・交流機会提供：④学び合いの場	（中部）	オンライン	8月25日	zoom80件	◆ 気候危機に立ち向かう地域や市民のありかたを考える（オープン）～一般参加型	● 気候危機の科学とリスク－社会を変えるには（京都大学、国立環境研究所） ● 関西電力会社を見えるものに～市民目線のまちづくり～（関西電力送配電株式会社） ● 東京都立小石川高等学校生（環境大学）
	（中部）	オンライン	9月1日	zoom81件	◆ 気候危機問題からSDGs地域づくり・人づくりを考える（オープン）	● 気候危機とエネルギーからSDGsに関する話題提供（福井県大野市くらし環境部環境・水循環課、坂井市総合政策部まちづくり推進課） ● 東京都立小石川高等学校生（環境大学） ● 参加者意見交換 「地球温暖化防止活動推進センター中部」 「中部地方ESD推進ネットワーク」
⑤実践活動	福井県大野市	ハイブリッド	11月25日	会場30人、zoom21件	◆ 脱炭素のまちづくり・人づくりワークショップ（地元地域/アル参加対象、オンライン中継）	● 脱炭素実践ワークショップ体験（ミステリー） ● 脱炭素のワークショップ体験（ジグソー） ● ディスカッション：体験内容を踏まえて、ワンがに ● ファシリテーター：水上裕子（アルマス・バイオコミュニケーション研究所） ● 総括：佐藤真久先生（東京都市大）
⑥SDGs社会教育研究ワーキング	会場：①富山市②福井市③EPO	リアル	①10月21日 ②9月28日 ③12月20日	クローズド各回7人	◆ 学び合い検討、評価 ◆ ワークブック作成（教育指導） ◆ クローズ開催	● 中部大・古澤先生（ESDとSDGs関係、アルマス・バイオコミュニケーション研究所・水上裕子氏ESD担当者） ● 国際ボランティアバイザー　佐藤真久先生（東京都市大）

13

①ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム

14

②SDGs学生サミット

ユースと自治体によるSDGsオンラインフォーラム
「中部地方SDGs学生サミット」

中部大学中部高等学術研究所デジタルアースルーム（壁面大型スクリーンと各種デジタルデータベースによるGIS活用）をハブとしたオンラインネットワークによるSDGsに向けた地域課題解決のためのディスカッションをオンラインで開催。

○日時・場所　2023年2月4日
・コア参加（学生、自治体）：オンラインミーティングに参加
・一般参加：動画のライブ配信

コア参加

ユース（学生）　SDGs活動グループ学生　7大学37人（予定）
信州大学、富山大学、静岡大学【招待枠】、岐阜大学、金沢星稜大学、愛知教育大学、松本大学

自治体職員　SDGs施策実施中の自治体3人（予定）
福井県鯖江市（2019年選定）
三重県いなべ市（2020年選定）
長野県大町市（2020年選定）

YouTube配信

一般参加者

15

③自然資産を活かした地域・人づくりESDダイアログ<ジオパークESDダイアログ>

ダイアログ参加53人、エクスカーション参加16人

ユネスコジオパークに認定されてから、国立公園、世界遺産、世界農業遺産など自然資産を活用したESDの作り方をディスカッションするダイアログを開催する。地域資源の管理者や関係者、関心のある教育関係者に参加を呼びかけ、自然資産の保護と調整を認識し、ESD活用のあり方について意見交換を実施。

恐竜渓谷ふくい/白山ジオパーク
ESDダイアログ2022
～自然資産を教材としたSDGs教育とは～
恐竜が時間軸を教える
ジオの自然を教材に
恐竜渓谷ふくい/白山ジオパーク
ジオパーク
ジオパーク

⑥SDGs社会教育研究会WG

専門家コアメンバー
- 占部礼太　中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授　中部ESD拠点協議会事務局長
- 水上聡子　EPO中部運営委員　アルマス・バイオコスモス研究所代表
- 堺 勇人　EPO中部運営委員　一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま事務局長
- 原 理史　中部地方ESD活動支援センター　中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員（非常勤）

オブザーバー　　原 愼一郎　環境省中部地方環境事務所　担当官
ゲスト（3回目のみ）　　佐藤貴久　東京都市大学教授
事務局　　清本三郎　中部地方環境パートナーシップオフィス　統括

第1回研究ワーキング（6/21）：気候変動教育をテーマとした全体計画とワークブック改善の方向性
第2回研究ワーキング（9/26）：学び合いの場実施の振り返り、実践活動の計画
第3回研究ワーキング（12/20）：全国フォーラム振り返り、ワークブックへの反映

19

参考）2022年度実施イベント・会合等の開催数と参加者数

区分	2022年度催事実施数・計	催事の種類		開催方法			参加者・出席者数（2月28日時点集計）			※2月28日時点実開催の催事
		参加者公募のイベント	クローズド会合	リアル開催	ハイブリッド開催	完全オンライン開催	計	リアル会場参加	オンライン	
EPO業務／EPO主催	12	9	3	4	2	6	663	222	441	2
ESD業務／ESDセンター主催	9	5	4	3	3	3	272	106	166	0
合計	21	14	7	7	5	9	935	328	607	2

※ESD/EPO運営委員会（全2回／オンライン開催／委員9名出席）は上記カウントに含めていない。

20

参考）業務成果把握のためのヒアリング（行動変容ヒアリング・計6件実施予定）

1	業務	2022年11月23日開催・地域循環共生圏フォーラムinSUWA 「諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョン」
	対象	（登壇者・共催者）一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会　元木氏
	内容・結果	● 参加された皆様からは、とても良かったとご感想をいただき、オンライン視聴の方々からも大変有意義でしたとご連絡をいただいた。 ● 「地域の取組紹介」に登壇した八十二銀行様には、オンライン視聴されていた飯山市役所から連絡があり、お話しされた内容についての問合せをうけたとのことで、即反響があったことに大変驚かれていた。 ● 実は開催前までは、参加をお願いした方などにワークショップには参加したくないなどの反応をいただいていたが、開催後、その方たちからも「ワークショップが面白かった」「ワークショップに参加して良かった」などの好意的なご意見をいただいた。 ● 今回、このような機会を諏訪地域でつくり出せたことに感謝している。参加された皆様の意識に変化が起き、行動に移せるような流れがつくれたのではと考えている。今回のフォーラムを機に諏訪地域として具体的な成果がつくれるよう微力ながら尽力していきたい。
2	業務	2023年1月20日開催・令和4年度 おわせSEAモデル説明交流会 企業・金融機関等とのパートナーシップによる尾鷲市ローカルSDGs実現に向けて
	対象	おわせSEAモデル協議会　事務局（尾鷲市政策調整課内）　渡田氏
	内容・結果	● 今回、説明交流会を尾鷲市で開催する機会をいただいたことに感謝したい。2年前のPF事業による意見交換会の参加者は約80名であったが、今回は更に増加し128名が参加した。また、財務省、国交省のほか、県と市の全ての関係部署からの参加があり、非常に有意義な会合となった。 ● 説明交流会では、おわせSEAモデルによる発電所の遊地活用のみではなく、港湾活用、ゼロカーボンシティに関わる市の取組も紹介した。説明交流会の場ですぐに新しいプロジェクトが生まれるわけではないが、地域の企業と企業が交流することで、新しい企業間のつながりが生まれ、後に市の地域活性化へとつながる事業が今回の交流会を一つのきっかけにして創出されていけばと期待をしている。

21

地域循環共生圏づくりの支援
（環境省事業プラットフォーム（PF）採択団体への支援等）

22

3．地域循環共生圏づくりの支援（主な実施内容）

a）環境省事業（PF事業）の採択団体への支援

①のと共栄信用金庫（石川県七尾市）【PF七尾】※2年目

②合同会社ローカルSDクリエーション（福井県丹南地域）【PF丹南】※1年目

③荒山林業（長野県大町市）【PF大町】※1年目

【採択団体への支援に加えて】
- □ 10・11月頃に中部ブロック3団体が集まり「中間共有会」（取組報告会）をEPOが開催
- □ 過年度採択団体の取組状況の把握（ヒアリング実施）

b）協働コーディネーターとの連携による実践

●山窪氏（長野県NPOセンター事務局長）と連携して長野県内でローカルSDGsの勉強会等

【今後の取組課題】
協働コーディネーターに加えて、EPO中部との連携・協力ネットワークの強化・新構築の必要性

c）その他

- 左a）に落選した「諏訪脱炭素広域イノベーション協会」との連携によるフォーラム等の開催
- <PS基盤強化業務>共生圏パートナーシップ基盤強化業務：**1.** 左a）の②・③団体を対象にした勉強会（計2回）、**2.** 中部のPFと金融・企業との交流の場の設営を検討
- <森里川海業務>森里川海生態系ネットワーク形成会合：今年度からOECMの対象地域等によるネットワーク形成ををテーマにした会合実施
  ※OECM：民間取組等と連携した自然環境保全 🔗

23

4．具体的な支援対象：ＰＦ団体や連携団体

環境省のＰＦ事業関連	①のと共栄信用金庫（石川県七尾市）【PF七尾】	・ PF事業採択1年目の2021年10月に設立した産官学金コンソ「ななおSDGsスイッチ」で地域課題解決ビジネス支援等を展開中。 ・ 今年度は市民と"地域の未来像"づくりを実施。その未来像をもとに、七尾市がR6年度SDGs未来都市に申請予定。
	②合同会社ローカルSDクリエーション（福井県丹南地域）【PF丹南】	・ 協働コーディネーター・三田村氏が中心となって取り組むPF事業。 ・ R3年度のEPO中部主催「里山里海保全活動の収益化」をテーマにしたフォーラム（勉強会）の登壇者・参加者がPF事業のステークホルダーとなっている。 ※ 前年度に「見える化チャート」作成→今年度SDGs実践評価の対象事例。
	③荒山林業（長野県大町市）【PF大町】	・ EPO中部は今回のPF事業採択により初めて接触した団体。 ・ 持続可能な森づくりを目指したプラットフォーム構築を目指している。 ・ エコツアー等の独自プログラム展開を目指して活動中。
協働コーディネーター	長野県NPOセンター、長野市芋井地区住民自治協議会	・ 協働コーディネーター・山窪氏（長野県NPOセンター事務局長）との連携による地域実践業務の2年目事業。 ・ 芋井地区における地域福祉共生圏づくりを目指した啓発・勉強会等を実施。
その他	（一社）諏訪広域脱炭素イノベーション協会	・ R3、R4年度PF事業に応募したが落選。 ・ 地域のビジョンづくりにおける課題／ニーズがあり、その点をEPOが支援する形で、EPO主催フォーラムを開催。
	過年度採択団体 おわせSEAモデル協議会【PF尾鷲】 現役PF団体 ローカルSDクリエーション【PF丹南】	・ PF事業の過年度採択団体（卒業団体）の現状把握ヒアリングを実施（全国横並びで実施中の業務）。 ・ EPO業務の<PS基盤強化事業>として、経済分野の関係構築を目的に、過年度PF採択団体、現役PF団体と企業・金融機関等との交流の場を設営。

24

例）PF団体支援：ななおSDGsスイッチ【PF七尾】の場合

- 2021年度に、のと共栄信用金庫がPF事業の活動団体として採択され、2021年10月に産官学金9団体によるコンソーシアム「ななおSDGsスイッチ」を設立。プラットフォームとして稼働。
- 2022年度も継続採択となった際に、採択団体をのとの頭文字から「ななおSDGsスイッチ」に変更。

ななおSDGs スイッチ！
NANAO SDGs Consortium "Switch"

参画構成9団体
（産）七尾商工会議所、能登商工会、能登信用金庫、能登行政法人中小企業基盤整備機構北陸本部
（官）七尾市
（学）国立大学法人金沢大学
（金）のと共栄信用金庫、株式会社日本政策金融公庫金沢支店、東京海上日動火災保険株式会社
（民）一般社団法人七尾青年会議所

- EPO中部による支援として、PF団体事務局メンバーと定期的に打合せを行い、活動やプロジェクトの実施状況の確認・情報共有と共に、課題の見える化などを行ってきた。
- PF事業での各採択団体による実施必要事項となっている「SH（ステークホルダー）ミーティング」を9月22日に実施。
- ななおSDGsスイッチと七尾市が協力して、SDGs未来都市への申請を目指していることをうけて、SHミーティングでは、EPO中部がSDGs未来都市の事例紹介と、最新の選定結果「総表」のポイント紹介などを行った。
- ななおSDGsスイッチの取組等で、SDGs未来都市の選定における加点ポイントとなり得る事項などを情報共有した。

25

例）ＰＦ事業中間共有会（中部ブロック会合）の開催

※ PF事業の各採択団体が取組状況について中間発表を行う「中間共有会」が、昨年まで全国会合として開催されていたが、今年度からはるEPO主催の地方ブロック単位での開催に変更となった。

- 中部ブロック「中間共有会」は、PF活動団体・荒山林業の所在地である長野県大町市で11月18日に開催。
- PF3団体が11月時点の取組状況を発表したほか、課題や今後の展開についてディスカッションし、運営委員の加藤義人委員、田辺委員から3団体それぞれにアドバイスや情報提供等をいただいた。
- 2日目・11月19日には、荒山林業の活動地（林業地）や、SHの工芸家の工房などを視察するエクスカーションを実施し、現地へ行くことで、各団体共通の課題感などを実感・共有することができた。

地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業 中間共有会（中部ブロック会合）
実施内容（プログラム）

13:30 1. はじめに（5分）
ご挨拶
あらためて「地域循環共生圏」について
13:40 2. 活動団体の取組発表（60分程度）
①PF七尾「ななおSDGsスイッチ」
②PF丹南「合同会社ローカルSDクリエーション」
③PF大町「荒山林業」
14:40 3. 先輩団体による取組紹介と活動団体へのエール（15分）
【PF木市地区スマート・サポーター活動　理事長　清水正志（信州大学キャリア教育・サポートセンター講師）】
15:00 4. 休憩＆交流 フリータイム（20分）
15:20 5. ディスカッション（80分）
16:15 6. 本日の講評・感想など（10分）
◆一般社団法人SDGs ネットワーク事務局長　長谷川雅子氏
◆信州大学工学部教授　加藤義人先生
◆NPO法人まちづくり丸太小屋事務局長　田辺宏治氏
16:25 7. 事務局からの連絡
16:30 8. 閉会

26

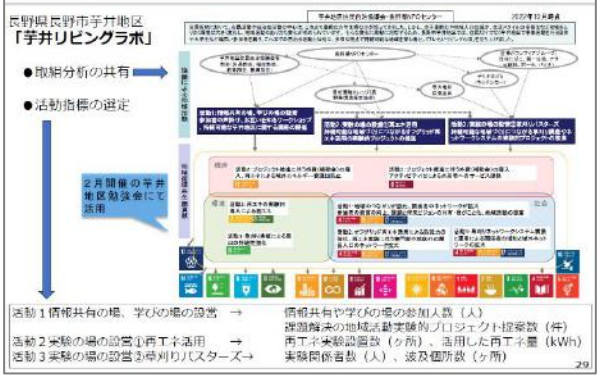
独自ツール等の作成・活用

27

5．EPO中部ウェブサイトの充実化 例）お役立ちツールコーナー

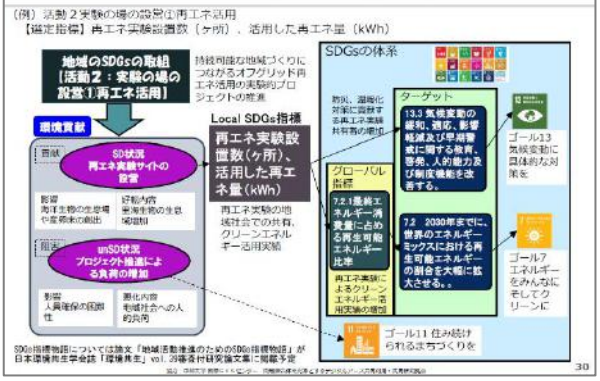
28

6．活動見える化プログラムの事例追加予定：長野市芋井地区の活動



29

7．SDGs指標物語の構築…試行事例：長野市芋井地区の活動



30

8．SDGs社会教育実践ツール「中部版ESDワークブック」の作成

現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック
企業研修／生涯学習／地域づくりSDGs社会教育・学び合いヒント

目次案

1．ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ
2．「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になりたいか
3．実践方法を考える～中部地方の実例から①
4．実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②
5．具体的に実施してみる～中部地方の実例から③
（1）海岸ごみからSDGsを考える
（2）気候変動教育をまちづくりに活かす
6．実践効果をどう考えるか
具体的な測定方法

⑤実践セミナー実績等より⑥研究会WGで検討

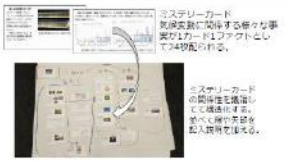
全体をヴァージョンアップ：⑥で検討

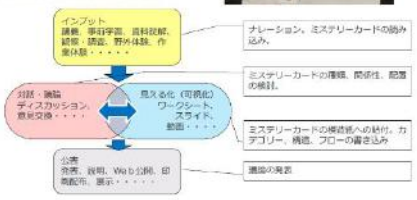
31

ワークブック追加事例：2022年度SDGs社会教育～実践セミナー実績

○ミステリーワークショップ

「ミステリーカード」（２４枚１組）を、グループで議論しながら論理的に関連付けて並べます。
このグループワークを通じて、気候変動によりどんな現象が発生しているかを把握し、気候変動には様々な事柄が複雑に絡み合っていることを学びます。



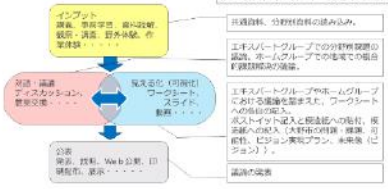


32

ワークブック追加事例：2022年度SDGs社会教育～実践セミナー実績

○課題解決ワークショップ（ジグソー法）

基礎知識を学習後、グループに分かれ、エネルギー事情など３分野の「統計データ集」から現状を分析し、批評します。それを基に地域の将来の理想像を考え、この理想像を実現するために必要な課題解決策をジグソー法により導き出します。



33

過去構築ツール「SDGsチェックリスト」の活用：ミニワークショップ開催

「NISHIKI SDGs WEEKs」に企画参加

- 昨年度企画参加した「NISHIKI SDGs WEEKs」に今年度も参加し、EPOオフィスを会場に、ワークショップ、閲覧コーナーPRを実施。

① SDGsチェックリスト活用ミニワークショップ「スモールゼミ」を実施

- 2022年10月31日に、独自ツール「SDGsチェックリスト」等を活用した1時間のミニワークショップを、会場：EPO中部にて開催。企業2社・計3名が参加。

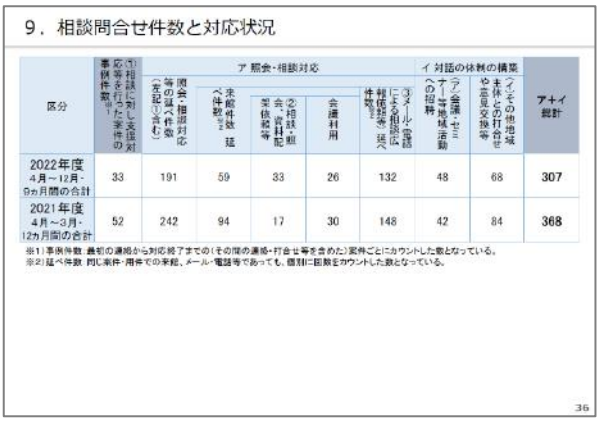
② EPO内に「SDGs資料の特設コーナー」を設置

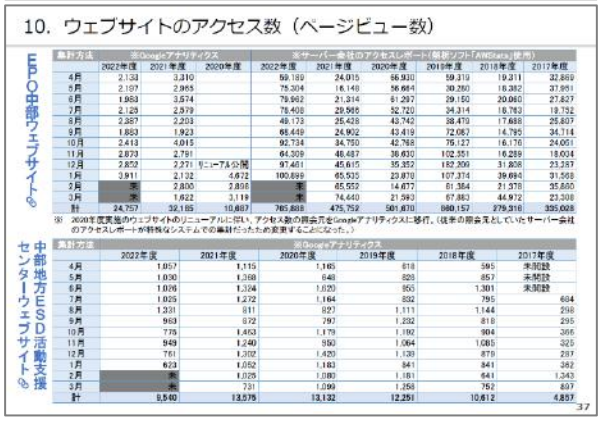
- 「NISHIKI SDGs WEEKs」の参加企画の一つとして、EPO施設内のSDGs資料コーナーをPR。EPOが自由に来館し、配架資料の持ち帰りができる施設であることの広報にもつながっている。

▼▼▼

参加者・来館者がその後、別主催イベントに参加、SNSもフォロー。

34





ウ 環境白書を読む会への企画協力

- 中部地方環境事務所、なごや環境大学及び EPO 中部主催による「環境白書を読む会」を 9 月 13 日にオンライン開催した。
- EPO 中部は、広報展開、登壇者への謝金支払などの支援を行ったほか、当日の司会を務めた。また、後日に、なごや環境大学による開催結果の投稿記事確認等にも協力した。
- 当日のセミナー参加者数は、71 名（zoom 接続数）であった。

【開催案内チラシ（なごや環境大学制作）】

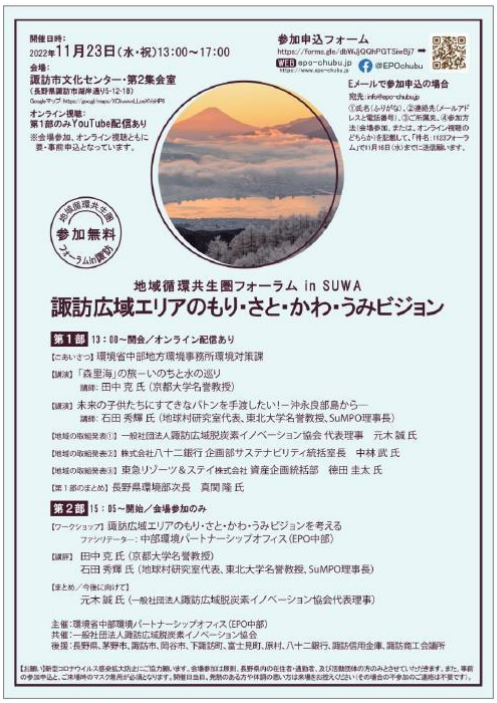
エ 全国ユース環境活動発表大会への参画

- 全国ユース環境活動発表大会実行委員会（環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステイナビリティ高等研究所）が主催する「全国ユース環境活動発表大会」中部大会の審査委員として、EPO 中部から ESD/EPO 運営委員である水上聡子氏（アルマス・バイオコスモス研究所代表）を推薦した。
- 12 月 11 日に開催された中部大会当日は、EPO 中部スタッフもオブザーバー参加した。

オ 記者発表等のメディア対応

- 11 月 23 日開催・地域循環共生圏フォーラム in SUWA「諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョン」では、地元新聞社２社が取材参加し、EPO 中部側担当者が記者からの質問対応等を行った。
- 11 月 25 日開催・地域づくりのための気候変動社会教育実践セミナー「脱炭素のまちづくり・人づくりワークショップ」、11 月 26 日開催・恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク ESD ダイアログ 2022「自然資産を教材とした SDGs 教育とは」においても、地元新聞社の取材参加があり、中部地方 ESD 活動支援センター担当者が取材対応を行った。

①地域循環共生圏フォーラム



環境省ＥＰＯ中部

「地域循環共生圏」目指す

諏訪でフォーラム

諏訪広域脱炭素イノベーション協会共催

環境省の中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）は29日、一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会（諏訪市）との共催事業で、「地域循環共生圏フォーラムin SUWA」を諏訪市文化センターで開いた。京都大学名誉教授の田中克さんらの講演やワークショップを通じて、持続可能な地域の未来像を考えた。（小山眞由美）

持続可能な地域の将来像を考えた「地域循環共生圏フォーラムin SUWA」

地域資源を活用しながら自立・分散型の社会をつくり、支え合う「地域循環共生圏」を目指す試み。「諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョン」を テーマに、オンライン視聴を含めて約150人が参加した。

田中さんは「森里海（もりさとうみ）の旅 いのちと水の巡り」と題し、東日本大震災の被災地などを訪れた自身の体験を説明。東北大震災の被災地などを訪れた自身の体験を

- 長野県諏訪市で開催した地域循環共生圏フォーラムinSUWAで、諏訪地域の「なりたい地域の未来像づくり」ワークショップを実施。
- 参加者数等：会場参加37名、YouTubeライブ配信視聴（ユニーク数）21件。
- 自サイト等への開催報告掲載・投稿：
  https://www.epo-chubu.jp/epo-news/17859.html

長野日報2022年11月24日記事
（※記事の続きあり）
http://www.nagano-np.co.jp/articles/101881

5

SDGs社会教育実践セミナーの開催

●地域づくりの担い手や次世代育成のための、気候危機対策のまちづくりワークショップをローカルSDGsの取組の一環として実践する。
●ローカルSDGsのための福井県版気候変動教育プログラム体験
　ファシリテーター　　水上聡子　アルマス・バイオコスモス研究所 代表
　総括　　佐藤真久　東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授
開催場所：福井県大野市　結とぴあ（多田記念大野有終会館）
開催方法：現地開催、オンライン中継
開催日時：2022年11月25日（金）13:30～16:30

※ワークショップで用いる教材の著作権は、福井県および大野市に属しています。

①24枚のカードを使ったミステリーワークショップ ➡ **福井県版気候変動ミステリーワークショップでは…**

24枚のカードを使って、福井県や全国、世界で起きている現象の謎解きをします。様々な要因が複雑に絡まり合っていることを理解し、システム思考の力を養います。

②ジグソー法による課題解決ワークショップ ➡ **課題解決ワークショップでは…**

福井県や大野市のデータをもとに、ジグソー法を用いて持続可能な県や市の未来像や実現のための方法を考えます。ジグソーパズルのように、様々な分野を組み合わせた未来像を描き、実行のための方法を考えながら、未来予測、批判的思考、統合的問題解決の力を養います。

福井新聞令和4年11月27日朝刊26面

福井新聞

環境教育推進へ知恵

脱炭素社会の実現について考えたワークショップ＝25日、大野市の結とぴあ

脱炭素人材 大野に育成

脱炭素社会実現に向け行動する「脱炭素人材」の育成を目指すワークショップが25日、大野市の結とぴあで開かれた。参加者は、大野が環境に配慮した まちとなるようアイデアを出し合った。

環境教育に取り組む中部地方ESD活動支援センターと、2050年までに脱炭素社会の実現を目指す市中学校の教職員ら約30人が会場で、全国各地の企業や自治体職員ら約50人がオンラインで参加。福井県版気候変動教育プログラム策定に関わったアルマス・バイオコスモス研究所代表の水上聡さん（坂井市）らが講師を務めた。

参加者はグループに分かれ、公共交通、農林水産、エネルギーの3分野で議論。大野が脱炭素社会に近づくために「車の利用を控え公共交通機関の利用を促す」「地産地消を進めフードロスを減らす」「美しい景観を生かすため電柱をこまめに消す」といった意見が出ていた。戦略ゲームを通じ、気候変動によって起こる深刻な事象について学んだ。（塚本剛史）

11

自然資産を活かした地域・人づくりESDダイアログ <ジオパークESDダイアログ>

ダイアログ参加53人、エクスカーション参加16人

ユネスコジオパークに焦点をあてつつ、国立公園、世界遺産、世界農業遺産など自然資産を活用したESDの在り方をディスカッションするダイアログを開催する。地域資源の管理者や関係者、興味のある教育関係者に参加を呼びかけ、自然資産の実情と課題を認識しつつ、ESD活用のありかたについて意見交換することを目的とする。

福井新聞令和4年11月27日朝刊26面

	国立公園	ユネスコ		
		世界自然遺産	エコパーク（生物圏保存地域、生物圏保護区）	ジオパーク
国内数（全世界数）	34（約7,000）	5（218）	10（738）	世界ジオタ（177）日本ジオ46
意義	風景地の保護と利用の増進により国民の保健・休養・教化に資すると共に生物多様性の確保	人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を有する不動産を保護するための国際協力や援助体制の確立	生態系の保全と持続可能な利活用の調和、自然と人間社会の共生	地質遺産を保護するとともに、教育や研究、ツーリズム等に活用し、地域の持続可能な開発に寄与
ゾーニング	特別保護地区 特別地域 普通地域	コアゾーン バッファーゾーン	核心地域 緩衝地域 移行地域	—
管理運営	環境省（協働型管理運営）	国、都道府県	自治体、民間など広範な参画	
保全の担保	自然公園法	国内法令（自然公園法、文化財保護法、条例など）		

それぞれの枠組みの概要　※データは2022年6月現在

6

(2) 全国ネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等から招請のあった会議・イベント等については、全ての会合等に出席・参加した。
- EPO・GEOC 主催会合への参加状況は次表の通りである。(※地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業に関連する会合、及び ESD 業務の関連会合は、各該当章に記載した。)

区分	開催日	場所/方法	実施内容等
全国 EPO 連絡会議	第1回 6 月 14 日	東京	【議題 1】参加者紹介＋令和 4 年度 EPO 基盤業務の情報共有 【議題 2】本省からの情報共有 【議題 3】EPO プロジェクト業務の意見交換 【議題 4】外部連携の情報共有 分科会
	第2回 10 月 11 日 -12 日	熊本県 熊本市	【議題 1】EPO の事業構造・役割変化について 【議題 2】省内外部連携の展開について 【議題 3】中期的な EPO 事業の拡張に向けた基盤強化について 【議題 4】その他追加議題(事前登録制)の対応と積み残し議題の確認 分科会
	第3回 1 月 24 日	東京	【チェックイン】今年度のまとめ 【議題 1】令和 5 年度事業の予定 【議題 2】令和 5 年度外部連携の予定 事務連絡 分科会(EPO 受託者会議)
情報交換会	第1回 12 月 23 日	オンライン	• 話題提供①地球環境局地球温暖化対策課 • 話題提供②IGES サステイナビリティ統合センター • 質疑応答、意見交換
	第2回 3 月 16 日	オンライン	• 話題提供:北海道、近畿、四国、九州地方事務所(各地方事務所より) • 質疑応答:各地方事務所 5 分ずつ • 意見交換
	第3回 3 月 24 日	オンライン	①試行認定地の実態から見えてくる自然共生サイトの活用とは ②自然共生サイトを地域に根付かせていく可能性とは ③自然共生サイトを地域に根付かせていく上で、EPO が果たす役割とは
ERCA 連絡会議	第1回 8 月 4 日	オンライン	(1)全国ユース環境活動発表大会について (2)地球環境基金の2022年度交付決定状況について (3)今後のEPOと地球環境基金の連携について ①2022 年度の事業案について ②2023 年度以降について
	第2回 11 月 16 日	オンライン	【EPO・地球環境基金の相互理解】 ・EPO の基本機能、最近の EPO ネットワーク全国事業(GEOC) ・地球環境基金のビジョン・ミッションの共有、30 周年・中期計画に向けた見通し(地球環境基金) 【テーマ 1】地域の持続可能性を高めるため、地球環境基金はどう変わっていくべきか 【テーマ 2】30 周年に向けて地域とどのように対話(タウンミーティング)していくべきか
セブンイレブン財団との会議	8 月 4 日	オンライン	①参加者自己紹介 ②セブン財団の紹介、EPO との協働について ③GEOC より補足 ④意見交換
パートナーシップ捉え直しタスクフォース	第1回 10 月 5 日	オンライン	・促進法のおさらい ・協働取組の現場で求められる機能 ・協働取組がもたらす成果 ・今後のスケジュール ・第 2 回 EPO 連絡会の頭出し
	第2回 12 月 16 日	東京	・協働取組の現在地について ・社会状況の変化について ・これからの協働取組 ・まとめ・事務連絡

区分	開催日	場所/方法	実施内容等
地域脱炭素ネットワーキングイベント	11 月 28 日	東京	・環境省挨拶 ・イベントのグランドルール説明 ・地方公共団体プレゼンテーション ・地方公共団体と企業のマッチング ・名刺交換等交流会

9 外部資金を活用した事業

ア グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト

- 予算：545,000 円
- 今期、福井、三重、愛知の各団体で、下記のイベントが企画・開催された。
- なお、2022 年 9 月末で本プロジェクトは終了した。

(ア)	福井県	**小原 ECO プロジェクト**	①7 月 30 日、②9 月 4 日にイベントを開催。
(イ)	愛知県	**もりの学舎**	①5 月 14 日、②5 月 21 日、③9 月 10 日にイベントを開催。
(ウ)	三重県	**Joint Plus**	①7 月 16 日、②8 月 27 日にイベントを開催。

(ア) 福井県：小原 ECO プロジェクトのイベント実施報告

①7 月イベント

開催日	令和4年7月30日(土曜日) 9:30-15:00	**活動時間**	計4.25時間
開催場所	福井県勝山市北谷町小原地区		
イベント概要	イベントの概要(ねらい、タイムテーブル)をご記入ください ・自然観察、川遊びなど自然の豊かさ・恵み、命の大切さを感じる。 ・地球温暖化への取組みへの学習の一助を担う。(カーボンニュートラル) 9:30 小原集落集合 受付開始 9:45 プログラム説明、連絡事項、着替え 10:00 プログラム開始(午前の部) 川の生き物調査(川遊び)、魚つかみ 11:45 午前の部終了 13:00 プログラム開始(午後の部) 巻き割り、ドラム缶風呂 14:45 午後の部終了 15:00 小原集落解散		
イベント結果	イベントの内容を子どもたちの様子(エピソード)と合わせてご記入ください (300字程度・文体は「です・ます」調) ・川の上流では生物も多く面白かったです。水がきれい！ ・虫がきらいであまり遊ぶことができなかったです。 ・川の中の生き物を初めて見たものがたくさんあった。大発見でした。 ・川には見たことのない虫がたくさんいた。大きいもの、小さいものいっぱい発見することができました。 ・川に棲んでいる生物にも石の裏にはたくさんの生物がいることを学びました。		
成果	イベントの成果として、数値にできるものがあればご記入ください (調査結果を添付)		
参加者の声	イベント当日に聞いた声、アンケート結果からご記入ください(形式自由・5つ以上) ・コロナ過だからこそ自然が豊かな場所で触れ合うことができてよかった。 ・こんな豊かな自然環境子供たちに伝える機会を少しでも増やしたい。 ・家の周りの生き物調査をしてみたい。		
参加人数	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)	6	10
	子どものご家族または保護者など	4	
	その他の参加者(地域住民、学生など)		
	協働関係者	人数	合計
	実施NPO	1	7
	協力団体		
	東京海上日動 社員	4	
	東京海上日動 代理店社員		
	EPOスタッフ		

	コ・クリエーションデザイン			
	日本NPOセンター		2	
協力団体一覧	イベントの協力者・協力団体について具体的にご記入ください（箇条書き）			
	・小原生産森林組合 ・えちぜん鉄道 ・勝山市			
	東京海上日動「代理店」の協力についてご記入ください（選択式）			
	ボランティア参加	無	人数	名
	一般参加者	無	人数	名
イベント振り返り	以下3つの視点から、よかったこと・今後につながることを中心にご記入ください。 1.次世代へのギフト（子どもたちがどのような気づきが得られたか等） 2.ステークホルダーへのギフト（協力者・協力団体とどんなことができたか等） 3.地域へのギフト（地域にたいしてどんな貢献ができたか等）			
	1　子供達に森からの恵みや豊かさを学んでもらえた。 　貴重な植物や地域環境と人々との関わり、環境負荷についての気づき。 2　協力者の増加により、地域保全の活動がこれまで以上にできた。 3　環境保全、環境学習プログラム数の増加が見込まれる。 　貴重な生物の発見につながり、環境保全の活動に拍車がかかった。			
全体の感想	コロナ過でイベント開催を危惧する中で実施のガイドラインというよりどころがある中で開催できたことを喜びに感じる。なにより参加する子供達笑顔、歓喜が印象に残る。			

②９月イベント

開催日	令和4年9月4日（日曜日）　8:15-11:15	活動時間	計3時間
開催場所	福井県勝山市北谷町小原地区		
イベント概要	イベントの概要(ねらい、タイムテーブル)をご記入ください ・貴重な環境・生態系維持回復することを目標とする。 ・生物の多様性の認識。 8:15　小原地区　林道ゲート前集合　受付開始 8:30　プログラム説明、連絡事項、着替え 9:00　登山開始　（途中ゴミ拾い） 10:30　繁殖地＝作業説明：外来植物除去 11:15　昼食、現地解散、下山開始 ゴミ、外来植物等回収（小原林道ゲート）		
イベント結果	イベントの内容を子どもたちの様子（エピソード）と合わせてご記入ください（300字程度・文体は「です・ます」調） ・高山域での外来種（オオバコ）に初めて気づきました。 ・山岳域でのいろんな環境問題が存在することが発見です。 ・登山するときに外来種子の持ち込みに気を配りたいです。		
成果	イベントの成果として、数値にできるものがあればご記入ください オオバ（外来種）の除去量＝6．8kg（2年前の概ね2/3に減少）		
参加者の声	イベント当日に聞いた声、アンケート結果からご記入ください（形式自由・5つ以上） 山岳域でのトイレ問題の深刻さに気づいた。 足でまといになるかと思いましたが、所々に休憩があり、思ったよりきつく無かった。		
参加人数	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)		4
	子どものご家族または保護者など		
	その他の参加者(地域住民、学生など)	4	
	協働関係者	人数	合計
	実施NPO	2	10
	協力団体	2	
	東京海上日動　社員	5	
	東京海上日動　代理店社員		
	EPOスタッフ	1	
	コ・クリエーションデザイン		
	日本NPOセンター		

協力団体一覧	イベントの協力者・協力団体について具体的にご記入ください（箇条書き）			
	・福井県自然保護センター ・オオバコの会			
	東京海上日動「代理店」の協力についてご記入ください（選択式）			
	ボランティア参加	無	人数	名
	一般参加者	無	人数	名
イベント振り返り	以下3つの視点から、よかったこと・今後につながることを中心にご記入ください。 1.次世代へのギフト（子どもたちがどのような気づきが得られたか等） 2.ステークホルダーへのギフト（協力者・協力団体とどんなことができたか等） 3.地域へのギフト（地域にたいしてどんな貢献ができたか等） 1．日程が悪く子供参加はありませんでした。 2．県外の団体からの協力があり、参加者少ない中でとても力強かった。 3．地理的条件が厳しい場所での環境保全の活動をプログラム化した中で地域住民のみでは思い通りの成果を挙げられないところであるがGG地球元気プログラムを通して参加者を募ることができ、数値的成果も得られた。			
全体の感想	山岳域での多くの環境問題に参加者皆さんに気づいていただく機会となりとてもよかったです。			

（イ） 愛知県：もりの学舎のイベント実施報告

①５月イベント１

開催日	2022年5月14日(土曜日) 10:00~12:00	活動時間	計2時間
開催場所	愛・地球博記念公園内 もりの学舎、親林楽園 ＠愛知県長久手市		
イベント概要	イベントの概要(ねらい、タイムテーブル)をご記入ください ねらい：森の現状を調べることを通して、森の課題を知ってもらう スケジュール 10:00 集合 生きもの調査 11：00 定点カメラ設置 11：30 調査結果まとめ 12：00 解散		
イベント結果	イベントの内容を子どもたちの様子（エピソード）と合わせてご記入ください（300字程度・文体は「です・ます」調） 森づくりをするためには、森やその周辺には、どんな生き物すんでいるのか知っている必要あるので、生き物調査を行いました。 まずは、森のとなりにある草原の生き物を調べます。子どもたちが見つけて捕まえられる生き物ということで昆虫中心に発見して、採集していきました。テントウムシやトンボのなかま、カナヘビなどを採集することができました。その後、林内へ移動し生き物を探しました。林内ではなかなか生き物を見つけることができず、森林内と草原での生き物の違いを知ることができました。子どもたちもたくさん虫を採ることが楽しかったようです。あまり見る事ができない動物たちの様子をみる為、センサーカメラを設置しました。		
成果	イベントの成果として、数値にできるものがあればご記入ください 21種類の生き物を採集した		
参加者の声	イベント当日に聞いた声、アンケート結果からご記入ください（形式自由・5つ以上） ・こんなにいっぱい虫がいるんだな ・知らない虫にであえたから ・名古屋市にはこんなにたくさん緑がないから、名古屋市に木を植えて緑を増やしたい ・家の庭でも生き物を探そうと思う ・いつも通り過ぎてしまうところにもいろいろな生き物がいることに気づいた。虫は苦手できもちわるい…と大人は思ってしまうけれど、しらべてみるとかわいかった		
参加人数	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)	6	14
	子どものご家族または保護者など	8	
	その他の参加者(地域住民、学生など)	0	
	協働関係者	人数	合計
	実施NPO	3	5

	協力団体		0	
	東京海上日動　社員		2	
	東京海上日動　代理店社員		0	
	EPOスタッフ		0	
	コ・クリエーションデザイン		0	
	日本NPOセンター		0	
協力団体一覧	イベントの協力者・協力団体について具体的にご記入ください（箇条書き）			
	愛知県都市整備協会：会場管理			
	東京海上日動「代理店」の協力についてご記入ください（選択式）			
	ボランティア参加	無	人数	名
	一般参加者	無	人数	名
イベント振り返り	以下3つの視点から、よかったこと・今後につながることを中心にご記入ください。 1.次世代へのギフト（子どもたちがどのような気づきが得られたか等） 2.ステークホルダーへのギフト（協力者・協力団体とどんなことができたか等） 3.地域へのギフト（地域にたいしてどんな貢献ができたか等） 1.次世代へのギフト（子どもたちがどのような気づきが得られたか等） 生き物好きな小さな子が増えているので、興味あるところから、森や植物も含んだ多様性へと視野を広げるきっかけになった 2.ステークホルダーへのギフト（協力者・協力団体とどんなことができたか等） 会場の生き物の調査の1つとして、活用してもらう 3.地域へのギフト（地域にたいしてどんな貢献ができたか等） 会場にすむ生き物に興味を持ってもらう事ができたので、希少種などの保全にも興味をもってもらうきっかけとすることできる			
全体の感想	昆虫等のシーズンの少し前であったため、参加者が捕まえやすい生き物が少なかったのが残念でした。ですが、参加者のみなさんにとっては十分な数と種類がいたようでよかったです。 生き物を捕まえるから、守る、保全するという意識へつなげることが今は大切な時代だと思うので、もう少しそういった部分も体験のなかにいれていく必要がある。			

②５月イベント２

開催日	2022年5月21日(土曜日)　10:00-12:00	活動時間	計2時間
開催場所	愛・地球博記念公園内　もりの学舎、親林楽園　@愛知県長久手市		
イベント概要	イベントの概要(ねらい、タイムテーブル)をご記入ください ねらい：森の現状を調べることを通して、森の課題を知ってもらう スケジュール 10:00　集合　森の手入れ　植樹 11:10　定点カメラ回収　映像確認 12:00　終了		
イベント結果	イベントの内容を子どもたちの様子（エピソード）と合わせてご記入ください（300字程度・文体は「です・ます」調） どんぐりだけでなく、どんぐりの木の葉っぱも昆虫や動物にとって、大切な食べ物となっていることを伝えました。そういった森の生き物にとって食べ物になる木が残るようにと、3種類のどんぐりの木を植樹しました。 その後、前回設置した定点カメラを回収し、森の生き物が映っているか確認しました。野鳥やタヌキが映っていて、普段なかなか見られない生き物の姿を見る事できました。 森を育てることが森にすむ生き物に繋がっていることを知ってほしいと思います。		
成果	イベントの成果として、数値にできるものがあればご記入ください 植樹　どんぐり（アベマキ、コナラ、フモトミズナラ）の苗木5本植樹		
参加者の声	イベント当日に聞いた声、アンケート結果からご記入ください（形式自由・5つ以上） 木が育ってるか見に来よう 動物をセンサーカメラでとらえた映像がリアルでとても面白かったと言っています。 とても子供がいきいきと参加していてよかったです。 また野生動物の観察などに参加して色々知っていきたい。 動物観察カメラが面白かった！また行きたい。 今後もイベントがあるようであれば情報展開いただければと思います。 また参加したい。動物の観察は面白い。		

参加人数	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)	4	9
	子どものご家族または保護者など	5	
	その他の参加者(地域住民、学生など)	0	
	協働関係者	人数	合計
	実施NPO	4	7
	協力団体	0	
	東京海上日動　社員	1	
	東京海上日動　代理店社員	0	
	EPOスタッフ	2	
	コ・クリエーションデザイン	0	
	日本NPOセンー	0	

協力団体一覧				
	イベントの協力者・協力団体について具体的にご記入ください（箇条書き）			
	・愛知都市整備協会＝会場管理 ・長久手都市協力会＝自然情報 ・愛知県環境活動推進課＝広報			
	東京海上日動「代理店」の協力についてご記入ください（選択式）			
	ボランティア参加	無	人数	名
	一般参加者	無	人数	名

イベント振り返り	以下3つの視点から、よかったこと・今後につながることを中心にご記入ください。 1.次世代へのギフト（子どもたちがどのような気づきが得られたか等） 2.ステークホルダーへのギフト（協力者・協力団体とどんなことができたか等） 3.地域へのギフト（地域にたいしてどんな貢献ができたか等） 1.次世代へのギフト（子どもたちがどのような気づきが得られたか等） 植樹を行い、森へと育つことが時間がかかることを知る事ができた 2.ステークホルダーへのギフト（協力者・協力団体とどんなことができたか等） 森を維持していくだけでなく、人が手をいれて育てることに対して協力体制ができる 3.地域へのギフト（地域にたいしてどんな貢献ができたか等） 公園内の森だけど、自然に近い森があることを知ってもらうことができた。
全体の感想	参加組数が3組であったため、植樹できた本数が少なかった。森についてなどじっくりと話すことができたので、植樹した樹木にも思い入れを持っていただけたと思う。継続して様子を見に来ていただけるとよいと思います。 定点カメラは、普段見る事ができない生き物の様子を見る事ができるので参加者にとって新鮮であったようだ。森やその生態に興味を持つきっかけとしていい仕掛けだと思われる。

③９月イベント

開催日	2022年9月10日(土曜日)　10:00-12:30	活動時間	計2、5時間
開催場所	愛・地球博記念公園内　もりの学舎及び親林楽園		

イベント概要	イベントの概要(ねらい、タイムテーブル)をご記入ください ねらい：人が関わることで多様性を保全していくことができることを知る 10：00　・開始 ・どんぐりの話 ・フモトミズナラの話 ・フモトミズナラの木を探す ・フモトミズナラのドングリを集める 11：30 【フモトミズナラのポットを作る】 土作りを行う。森で材料を集める 希望者はポットを持ち帰り苗木を育てる 12：30　解散
イベント結果	イベントの内容を子どもたちの様子（エピソード）と合わせてご記入ください（300字程度・文体は「です・ます」調） たくさん生えていたどんぐりの木【フモトミズナラ】が、カシノナガキクイムシという虫の害でたくさん枯れた10年ほど前の話をしました。そんな木が無くならないようにしていきたいので、どんぐりを集めて森に増やしていきたいという話をしました。 葉っぱをヒントに「フモトミズナラ」を探しにでかけました。そしてフモトミズナラのどんぐりを苗木に育てたいということで、どんぐりを集めました。

	どんぐりを植える苗木ポットに使う土や落ち葉も森から集めてきました。ポットを作り、どんぐりを蒔いて苗木が育つようにしました。
成果	イベントの成果として、数値にできるものがあればご記入ください どんぐりの苗木を育てるポット100個
参加者の声	イベント当日に聞いた声、アンケート結果からご記入ください（形式自由・5つ以上） 虫や花をだいじにそだてたい ドングリを増やさないといけないと思った 見た事ないキノコや知らない植物があってたのしかった 大切に育てていきたいと思います。 もらったドングリをちゃんと育てたい

参加人数	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)	6	13
	子どものご家族または保護者など	7	
	その他の参加者(地域住民、学生など)	0	
	協働関係者	人数	合計
	実施NPO	6	8
	協力団体	0	
	東京海上日動　社員	1	
	東京海上日動　代理店社員	0	
	EPOスタッフ	1	
	コ・クリエーションデザイン	0	
	日本NPOセンター	0	

協力団体一覧				
	イベントの協力者・協力団体について具体的にご記入ください（箇条書き）			
	愛知都市整備協会：会場管理、長久手協力会			
	東京海上日動「代理店」の協力についてご記入ください（選択式）			
	ボランティア参加	無	人数	名
	一般参加者	無	人数	名

イベント振り返り	以下3つの視点から、よかったこと・今後につながることを中心にご記入ください。 1.次世代へのギフト（子どもたちがどのような気づきが得られたか等） 2.ステークホルダーへのギフト（協力者・協力団体とどんなことができたか等） 3.地域へのギフト（地域にたいしてどんな貢献ができたか等） 1.次世代へのギフト（子どもたちがどのような気づきが得られたか等） 子どもたちに自然のなかでおきていることを伝える事ができ、森も変化していることを知ってもらえた 2.ステークホルダーへのギフト（協力者・協力団体とどんなことができたか等） フィールドの維持管理をしている団体に苗木などで協力できるようになる 3.地域へのギフト（地域にたいしてどんな貢献ができたか等） 固有の植生があるところなので、保全していくことができる
全体の感想	参加者のみなさんも、どんぐりに非常に興味を持っていることがわかった。ただ住環境にもよると思われるが、自宅で苗木を育てたりすることは誰にでもできることではない。 家庭で無理に行うのではなく、身近な場所でそういった事が体験できる場所が必要なのだと改めて思った。

（ウ） 三重県：Joint Plus のイベント実施報告

①7月イベント

開催日	2022年7月16日（土曜日） 9:00-12:30	活動時間	計3時間30分
開催場所	農泊：JointHouse　三重県多気郡大台町小切畑295番地		
イベント概要	イベントの概要(ねらい、タイムテーブル)をご記入ください （ねらい）河川を通して、宮川がつくる自然について、またその成り立ち・仕組みを理解し、河川環境保全、地域生態系の保全に向けて行動できるようになる。 （タイムテーブル） 受付開始　9:00 ➡ プログラム説明等 ➡ 大熊川へ移動 ➡ 河川体験プログラム ➡ ウッドペインティング ➡ 紙芝居 ➡ 振り返りまとめ ➡ 終了　12:30		
イベント	イベントの内容を子どもたちの様子（エピソード）と合わせてご記入ください（300字程度・文体は「です・ます」調） Joint Plusが運営する民泊Joint Houseを集合・受付場所とし、4名の方に参加頂きました。		

結果	開催にあたり、プログラムの趣旨と、工程を説明しました。その後、河川学習として大熊川に移動し、河川環境について説明しました。その後、民泊Joint Houseにもどり、大台町の木材を使用して、ウッドペインティングを行いました。ペイントにはアクリル絵の具と絵筆を使用しました。また昨年度に本プログラムで制作した紙芝居を実施し、最後に、振り返りまとめとして、参加者から感想と講師から講評を頂き、終了となりました。
成果	イベントの成果として、数値にできるものがあればご記入ください 河川学習：30分 ウッドペインティング：12個 紙芝居：15分
参加者の声	イベント当日に聞いた声、アンケート結果からご記入ください（形式自由・5つ以上） 大台町に水源林があることがわかった。 雨が多いことがわかった。 木に絵を描くのが楽しかった。 紙芝居がおもしろかった。 また参加したいです。

参加人数

一般参加者	人数	合計
子ども(乳幼児から中学生まで)	3	4
子どものご家族または保護者など	1	
その他の参加者(地域住民、学生など)		
協働関係者	**人数**	**合計**
実施NPO	5	8
協力団体		
東京海上日動　社員	1	
東京海上日動　代理店社員		
EPOスタッフ	2	
コ・クリエーションデザイン		
日本NPOセンター		

協力団体一覧

イベントの協力者・協力団体について具体的にご記入ください（箇条書き）

宮川上流漁業協同組合

東京海上日動「代理店」の協力についてご記入ください（選択式）

ボランティア参加	無	人数	名
一般参加者	無	人数	名

イベント振り返り

以下3つの視点から、よかったこと・今後につながることを中心にご記入ください。
1.次世代へのギフト（子どもたちがどのような気づきが得られたか等）
2.ステークホルダーへのギフト（協力者・協力団体とどんなことができたか等）
3.地域へのギフト（地域にたいしてどんな貢献ができたか等）

1. 次世代へのギフト（子どもたちがどのような気づきが得られたか等）
大台町の複雑な地形や温暖多雨な気候などの地域的な特徴により、河川が形成され、森と川の循環から環境が維持されている仕組みを知る事によって、子供たちが、自分自身の特徴や他者との関係を認識し、その特徴を将来の職業、生き方に活かしていくことが大切であることに気づいてもらうことができました。
2. ステークホルダーへのギフト（協力者・協力団体とどんなことができたか等）
協力者である宮川上流漁業協同組合は、今回開催場所となった大熊川を含め、河川環境の維持に努めて頂いており、イベントを通じて、清流形成する水や石、地質など自然のしくみを学ぶことで、河川への関心が高まり、将来的な河川環境の保全、利用の促進につながりました。
3. 地域へのギフト（地域にたいしてどんな貢献ができたか等）
大台町の河川の特徴、自然のしくみを知って頂くことで、自分自身の故郷も含め、環境を保全すること、地域を大切することの重要性を感じていただきました。

全体の感想

当日は雨天でしたが、大台町の特徴である雨の多さと、その雨が清流宮川を形成していることを参加者に感じて頂くことができました。河川で石を拾うことができず、木材を代用してウッドペインティングになりましたが、天然素材を使用することで、自然を感じて取り組んでいただきました。また昨年度制作したツールの紙芝居を活用し、これまでの成果を活かすことができました。

②８月イベント

開催日	2022年8月27日(土曜日) 9:00-12:30	活動時間	計3時間30分
開催場所	農泊：JointHouse　三重県多気郡大台町小切畑295番地		
イベント概要	イベントの概要(ねらい、タイムテーブル)をご記入ください （ねらい）森林を通して、大台の自然について、また動物との関わり・育てる方法を理解し、森林環境保全、地域生態系の保全に向けて行動できるようになる。 （タイムテーブル） 受付開始 9：00 ➡ プログラム説明等 ➡ 総門の森へ移動 ➡ 森林体験プログラム ➡ アロマスプレーづくり ➡ 振り返りまとめ ➡ 終了 12：30		
イベント結果	イベントの内容を子どもたちの様子（エピソード）と合わせてご記入ください（300字程度・文体は「です・ます」調） Joint Plusが運営する民泊Joint Houseを集合・受付場所とし、4名の方に参加頂きました。開催にあたり、プログラムの趣旨と、工程を説明しました。その後、森林学習として総門の森に移動し、森林環境について説明しました。その後、民泊Joint Houseにもどり、大台町の樹木から抽出した精油、芳香蒸留水を使ってアロマスプレーづくりを行いました。最後に、振り返りまとめとして、参加者から感想を頂き、終了となりました。		
成果	イベントの成果として、数値にできるものがあればご記入ください 森林学習：1時間15分 大台町の樹木の精油：30種類 大台町の樹木の芳香蒸留水：30種類 アロマスプレー：5本		
参加者の声	イベント当日に聞いた声、アンケート結果からご記入ください（形式自由・5つ以上） 木の実を見つけることができてよかった。 森づくりのために大台町で苗木を育てることが必要だとわかった。 木によって枝や葉の香りが違うことがわかった。 アロマスプレーが難しかった。 良い香りのアロマスプレーをつくることができてよかった。		
参加人数	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)	3	4
	子どものご家族または保護者など	1	
	その他の参加者(地域住民、学生など)		
	協働関係者	人数	合計
	実施NPO	5	8
	協力団体		
	東京海上日動　社員	1	
	東京海上日動　代理店社員		
	EPOスタッフ	2	
	コ・クリエーションデザイン		
	日本NPOセンター		
協力団体一覧	イベントの協力者・協力団体について具体的にご記入ください（箇条書き）		
	宮川森林組合		
	東京海上日動「代理店」の協力についてご記入ください（選択式）		
	ボランティア参加	無	人数　名
	一般参加者	無	人数　名
イベント振り返り	以下3つの視点から、よかったこと・今後につながることを中心にご記入ください。 1.次世代へのギフト（子どもたちがどのような気づきが得られたか等） 2.ステークホルダーへのギフト（協力者・協力団体とどんなことができたか等） 3.地域へのギフト（地域にたいしてどんな貢献ができたか等） 1. 次世代へのギフト（子どもたちがどのような気づきが得られたか等） 大台町の複雑な地形や温暖多雨な気候などの地域的な特徴により、森林が形成され、多様な樹木、また樹木同志の組合せによって環境が維持されている仕組みを知る事によって、子供たちおよび親が、普段当たり前にあることのしくみやつながりに気づいてもらうことができました。 2. ステークホルダーへのギフト（協力者・協力団体とどんなことができたか等） 協力者である宮川森林組合は、今回開催場所となった総門山を含め、森林環境の維持に努めて頂いており、イベントを通じて、豊かな森林資源を体感することで、森林への関心が高まり、森林環境の保全、利用の促進につながりました。		

	3. 地域へのギフト（地域にたいしてどんな貢献ができたか等） 大台町の森林の特徴、自然のしくみを知って頂くことで、環境を保全すること、自分たちが生まれた地域を誇りに思うことの重要性を感じていただきました。
全体の感想	去年のプログラムと同じ参加者も含まれていましたが、去年はできなかったトチノキの実探しができ、種が森づくりに重要であることを実感して頂けたと思います。アロマスプレーづくりにおいても、山で観察したクロモジのオイルを使うことで、樹木の多様性、種類ごとの特徴について五感を通じて学ぶことができました。

イ 地球環境基金

- 予算：300,000 円

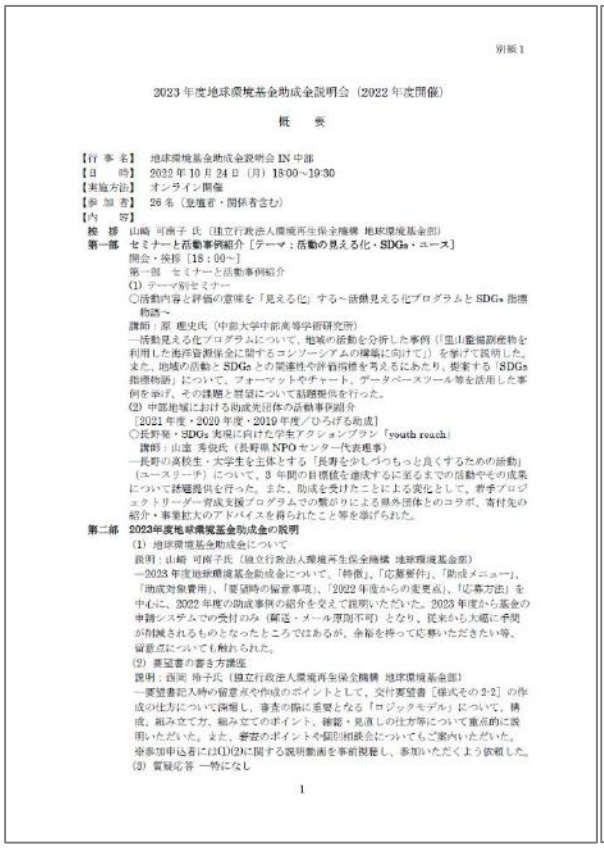
（ア） 地球環境基金 EPO 連絡会への出席

- 第 1 回全国 EPO 連絡会（6 月 14 日開催）において、環境再生保全機構及び全国の地方 EPO を交えた今年度の業務についての協議・確認を行う会合が併催され、EPO 中部も出席した。
- 8 月 4 日に環境再生保全機構・EPO 連絡会議が開催され、今後の連携展開についての協議を行った。
- 11 月 16 日にも環境再生保全機構・EPO による戦略会議がオンライン開催され、地球環境基金及び機構への EPO による協力のあり方についての意見交換を行った。

（イ） 地球環境基金の次年度募集に関わる説明会等の開催

- 来期（2023 年度）募集の地球環境基金の中部説明会を、主催：環境再生保全機構、協力：EPO 中部により 10 月 24 日に開催し、後日、以下の実施報告書を作成して機構側へ提出した。

①提出した地球環境基金説明会の実施報告書



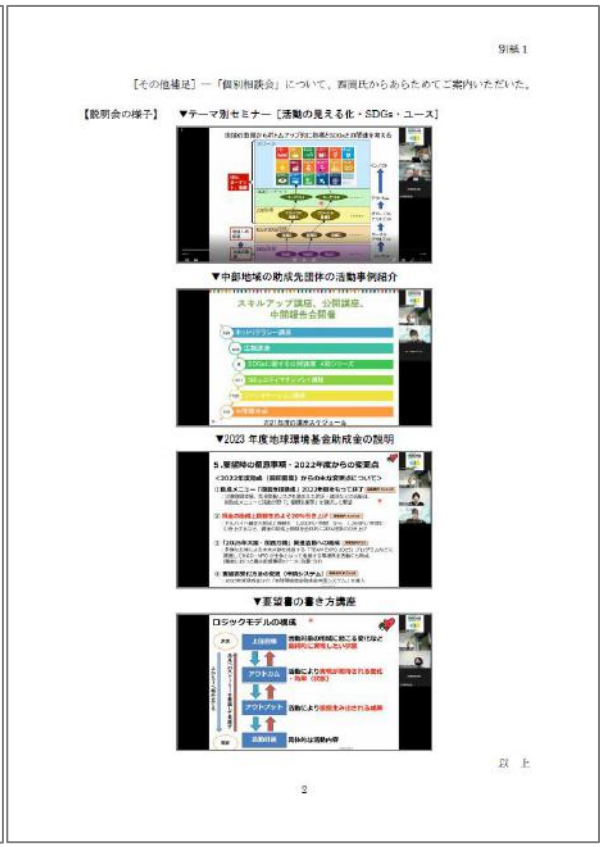
別紙 1

2023 年度地球環境基金助成金説明会（2022 年度開催）

概　要

【行 事 名】　地球環境基金助成金説明会 IN 中部
【日　　時】　2022 年 10 月 24 日（月）18:00～19:30
【実施方法】　オンライン開催
【参 加 者】　26 名（登壇者・関係者含む）
【内　　容】
挨　拶　山崎 可南子 氏（独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部）
第一部　セミナーと活動事例紹介［テーマ：活動の見える化・SDGs・ユース］
開会・挨拶［18：00～］
第一部　セミナーと活動事例紹介
(1) テーマ別セミナー
○活動内容と評価の意味を「見える化」する～活動見える化プログラムと SDGs 指標物語～
講師：原 理史氏（中部大学中部高等学術研究所）
―活動見える化プログラムについて、地域の活動を分析した事例（「里山整備副産物を利用した地産資源保全に関するコンソーシアムの構築に向けて」）を挙げて説明した。また、地域の活動と SDGs との関連性や評価指標を考えるにあたり、提案する「SDGs 指標物語」について、フォーマットやチャート、データベースツール等を活用した事例を挙げ、その課題と展望について話題提供を行った。
(2) 中部地域における助成先団体の活動事例紹介
［2021 年度・2020 年度・2019 年度／ひろげる助成］
○長野発・SDGs 実現に向けた学生アクションプラン「youth reach」
講師：山富 秀俊氏（長野県 NPO センター代表理事）
―長野の高校生・大学生を主体とする「長寿を少しずつもっと良くするための活動」（ユースリーチ）について、3 年間の目標値を達成するに至るまでの活動やその成果について話題提供を行った。また、助成を受けたことによる変化として、若手プロジェクトリーダー育成支援プログラムでの繋がりによる県外団体とのコラボ、寄付先の紹介・事業拡大のアドバイスを得られたこと等を挙げられた。
第二部　2023年度地球環境基金助成金の説明
(1) 地球環境基金助成金について
説明：山崎 可南子氏（独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部）
―2023 年度地球環境基金助成金について、「特徴」、「応募要件」、「助成メニュー」、「助成対象費用」、「要望時の留意事項」、「2022 年度からの変更点」、「応募方法」を中心に、2022 年度の助成事例の紹介を交えて説明いただいた。2023 年度から基金の申請システムでの受付のみ（郵送・メール原則不可）となり、従来から大幅に手間が削減されるものとなったところではあるが、余裕を持って応募いただきたい等、留意点についても触れられた。
(2) 要望書の書き方講座
説明：西岡 裕子氏（独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部）
―要望書記入時の留意点や作成のポイントとして、交付要望書［様式その 2-2］の作成の仕方について説明し、審査の際に重要となる「ロジックモデル」について、構成、組み立て方、組み立てのポイント、確認・見直しの仕方等について重点的に説明いただいた。また、審査のポイントや個別相談会についてもご案内いただいた。
※参加申込者には(1)(2)に関する説明動画を事前視聴し、参加いただくよう依頼した。
(3) 質疑応答 一特になし

1



別紙 1

［その他補足］―「個別相談会」について、西岡氏からあらためてご案内いただいた。

【説明会の様子】　▼テーマ別セミナー［活動の見える化・SDGs・ユース］

▼中部地域の助成先団体の活動事例紹介

▼2023 年度地球環境基金助成金の説明

▼要望書の書き方講座

以　上

2

②地球環境基金説明会の開催案内チラシ

2023年度

地球環境基金助成金説明会 IN 中部

オンライン開催
zoom
中部地域以外の方もご参加いただけます。

2022
10/24
月曜日
18:00～19:30

プログラム

第一部　18:00～
セミナーと活動事例紹介

① テーマ別セミナー
▶活動内容と評価の意味を「見える化」する
～活動見える化プログラムとSDGs指標物語～
講師：原理史氏（中部大学中部高等学術研究所）

② 中部地域における助成先団体の活動事例紹介
［2021年度・2020年度・2019年度／ひろげる助成］
▶長野発・SDGs実現に向けた学生アクションプラン「youth reach」
講師：山室秀俊氏（長野県NPOセンター代表理事）

第二部　18:50～
地球環境基金助成金要望の募集について

① 地球環境基金助成金について
② 要望書の書き方講座
③ 質疑応答…申込時に受け付けた質問にお答えします。

申込締切 10月20日（木）

地球環境基金Webページ
https://www.erca.go.jp/jfge/
から動画を事前視聴のうえご参加ください。

地球環境基金は…

民間団体（NGO・NPO）による環境保全活動を幅広く支援（資金の援助等）を行うことを目的に、独立行政法人環境再生保全機構によって運営されている基金です。来期・2023年度の助成金交付先の募集を開始するにあたり、全国8地域・テーマで説明会を開催します。説明会では、テーマ別セミナーや各地域における助成先団体の活動事例を紹介するほか、要望書記入についての留意点や作成のポイントを説明し、事前に受け付けた質問等に地球環境基金の担当者が回答します。全国の説明会の日程やテーマは、webページからご確認ください。

個別相談会（別日程）

地球環境基金の担当者が オンライン でご相談を承ります（1団体15分以内）。

実施日程　10月31日(月)、11月1日(火)・2日(水)・4日(金)・7日(月)

実施時間　午前の部▶10：00～12：00
午後の部▶14：00～16：00
夜間の部▶18：00～20：00

申込方法　地球環境基金のwebページからお申し込みいただけます。
こちら▶

申込締切　各開催日の2営業日前まで

個別相談会の問合せ

独立行政法人環境再生保全機構
地球環境基金部
TEL：044-520-9505
E-mail：kikin_youbou@erca.go.jp

助成金説明会の申込み＆問合せ

参加申込フォーム
【助成金説明会】

説明会の参加申込フォームからお申し込みください。
開催日前日までにZOOMの参加URLをお送りします。

環境省 中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）
TEL：052-218-8605 ⚠ 電話による申込は受け付けておりません。

主催：独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部
協力：環境省 中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）

地球環境基金

ウ 愛知県コーディネート業務

- 年間予算：902,000 円　（※当初予算／精算変更あり）
- 環境学習に関する愛知県内の学校・企業等からの相談、照会依頼に対し、相談業務６件、コーディネート業務 10 件を実施した。（受託仕様書では相談業務 10 件、コーディネート業務 10 件の実施が予定されていたため、業務費が減額変更となった。）

No.	受付日	依頼先区分	分野	依頼内容	相談業務	コーディネート業務		
							実施日	講師等
1	4月1日	民間	生態系・生物多様性、地球温暖化、エネルギー	ガスエネルギー館で行う環境学習講座の講師の紹介	－	①	5月22日	村瀬政彦氏（地球温暖化防止活動推進員）
2	4月11日	行政	地球温暖化・エネルギー・自然への愛着	緑のカーテン講座の講師の派遣	－	②	6月2日	堀田英夫氏(地球温暖化防止活動推進員）
3	4月25日	小学校	生態系・生物多様性、水	ビオトープや水に関する環境学習の講師の紹介	－	③	11月24日	長谷川明子氏（ビオトープ・ネットワーク中部会長）
4	5月23日	小学校	水、自然への愛着	小学校内のビオトープを活用した授業の講師の紹介	－	④	6月27日	長谷川明子氏（ビオトープ・ネットワーク中部会長）
5	5月24日	行政	自然への愛着、生態系・生物多様性、	天白川での水質調査及び水生生物調査の講師の紹介	①	－	－	－
6	5月26日	行政	地球温暖化、エネルギー、ごみ・資源循環・3R	クイズで学ぶ環境講座の講師の紹介	－	⑤	8月3日	村瀬政彦氏（地球温暖化防止活動推進員）
7	5月31日	民間	カーボンニュートラル関連	環境月間の講演会の講師の紹介	②	－	－	－
8	6月6日	行政	地球温暖化、消費生活。・衣食住、ごみ・資源循環、3R、化学物質	実験を伴う講座の講師の紹介	④	－	新型コロナ感染拡大のため中止	村瀬政彦氏（地球温暖化防止活動推進員）
9	6月16日	行政	重曹など自然にやさしいものを使用したそうじ方法、水、消費生活・衣食住	消費生活講座（ﾅﾁｭﾗﾙｸﾘｰﾆﾝｸﾞ、生活排水について）の講師の紹介	－	⑥	10月5日	児玉剛則氏（名古屋産業大学大学院 非常勤講師）
10	7月6日	行政	ZEB	ZEBに関する研修の講師の紹介	③	－	－	－
11	9月15日	高校	エネルギー、生態系・生物多様性、化学物質	環境問題に関わる授業の講師の紹介	－	⑦	11月7日	原理史氏（中部大学中部高等学術研究所）
12	9月29日	行政	地球温暖化、体験学習（実験など）	実験を伴う講座の講師の紹介	－	⑧	11月6日	村瀬政彦氏（地球温暖化防止活動推進員）
13	9月29日	行政	環境について楽しく学べるワークショップ	環境フェスティバルへの出展者の紹介	⑤	－	－	－
14	10月4日	高校	自然への愛着、大気・大気汚染、土・土壌、SDGs	講座の講師、学習施設、企画内容等の紹介	－	⑨	令和5年度に実施予定	原理史氏（中部大学中部高等学術研究所）
15	11月14日	民間	地球温暖化、自然への愛着、エネルギー	環境学習講座・工作教室の講師の紹介	⑥	－	－	－
16	11月22日	行政	不法投棄問題	環境講座（不法投棄問題）の講師の紹介	－	⑩	3月5日	児玉剛則氏（名古屋産業大学大学院 非常勤講師）
合　計					6	10		

１０　今後に向けて

ア 基本業務

（ア） EPO 施設の利用・相談対応について

①現状・課題の整理

- EPO 施設の来館者数はコロナ禍もあり減少傾向にある。
- 主催イベント等に参加するまで EPO のことを知らなかったという人も多く、EPO の認知度向上を意識した広報展開やイベント開催等が必要とされている。
- 相談案件数自体は増えていないが、業務で連携・協力した地域側の主体等（登壇者含む）との打合せや、地域主体側から招聘された自治体・企業等主催イベントへの登壇、委員会出席等の延べ回数は増加しており、これらが業務上の連携・協力など別の展開へとつながったケースもみられる。

②今後の展開

- EPO 施設の利用促進と、EPO／ESD 業務における活用可能なネットワークづくりを目指し、EPO の認知度・利用度の向上に地道に取り組んでいく必要がある。
- 具体的には、EPO 施設をイベント会場にしたミニワークショップの開催や、地域主体が主催するイベントへの出展・企画参加などの機会においての EPO／ESD センターの宣伝、SNS 等を活用したイベント・事業等の実施内容・実施状況等の発信など、戦略的ＰＲを意識した広報展開が効果的と考える。
- 地域側主体との打合せや招聘がきっかけとして、別業務での連携・協力、相談・照会等への対応などにつながった事例もあることから、今後も積極的に地域側と接触を図り、地域側からの招聘にも応じていく必要がある。

（イ） ウェブサイト・ＳＮＳ等による情報発信について

①現状・課題の整理

- EPO 中部ウェブサイトはリニューアルから２年が過ぎるため、掲載コンテンツ・情報の中には適時性のないものも公開された状態となっている。
- SNS 活用では、環境省事業（PF 事業）の採択団体と EPO が共通して使用する SNS で、相互フォローや投稿記事のシェアなどで、リーチ数がお互いに増加した記事／ページもあり、支援対象団体とのネット広報支援において SNS が有用となっている。
- EPO 中部ウェブサイトでは、２年前のサイトのリニューアル以降、EPO が連携・支援等した地域の実践事例等を、独自構築した「活動見える化プログラム」のチャート図を用いて公開している。

②今後の展開

- EPO 中部ウェブサイトについては、掲載済みコンテンツの確認・更新等の見直しが必要であり、適時に更新する体制を整える必要がある。
- 主催イベントなどの実施業務・活動の発信では、ウェブサイトや SNS での発信を前提に、特に質の良い（目を引く）画像撮影がカギとなるため、スタッフによる撮影での意識、撮影スキルの獲得等が重要となる。
- SNS 活用では、PF 事業採択団体とのシェア投稿や、EPO と採択団体による「グループページ」立ち上げなどで SNS を効果的に活用する必要がある。また、次々と新しい情報共有

サービスがローンチされているため、新しいオンライン・サービスやその活用方法等についても常にアンテナを張り巡らせておく意識が必要とされる。

- EPO 中部ウェブサイトで公開している「活動見える化プログラム」チャート図を用いた地域の実践事例（EPO が支援・関連した事例）では、今後も引き続き公開を行うことにより、統一フォーマット（チャート図）による事例蓄積につながるものと考える。また、統一フォーマットの活用により、後々、蓄積した事例の分析も可能との提言を ESD/EPO 運営委員からいただいている。

イ EPO 業務

（ア） 主催イベントについて

①現状・課題の整理

- 「地域循環共生圏フォーラム in 諏訪」などの特定地域を対象にしたイベント・会合の開催では、リアル開催による参加者同士のディスカッション（ワークショップ等）を中心にしたプログラムが好評であった。
- また、「地域循環共生圏フォーラム in 諏訪」については、ワークショップの結果（「なりたい地域の未来像」ワークショップにおいて作成したグループ発表シート）を地域側で活用いただけるよう、後日に活動団体側へ提供した。
- 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業の尾鷲会合では、地域側の希望・意向を取り入れた企画内容で、地域側の多大な協力により、多くの企業・金融機関等の参加を得て開催することができた。その一方で、参加者数が想定よりも多くなったことで、運営にあたり地域側へ負担をかけてしまう部分も多々あった。
- 森里川海生態系ネットワーク形成会合は、今年度から OECM をテーマに開催する会合と位置づけられたが、OECM の概念への認知、理解が一般に普及していないことから、OECM の概説、事例紹介等を行うフォーラムを開催した。COP15 閉幕のタイミングで、OECM 等の新しい概念解説と関連事例紹介を行うことを前面に出し、参加募集を行ったところ、EPO「中部」主催ながらも、オンライン開催の利点が活きる形となって、中部に限らず全国から多数の企業・自治体・NPO 等々からの参加を得られた。

②今後の展開

- 対象エリアが限定される地域的イベントでは、できるだけリアル開催（またはオンライン併用開催）での実施を、地域／参加者側は期待し、望んでいるものと考えられる。
- 一方で、森里川海生態系ネットワーク会合の OECM フォーラムではオンライン開催により、参加者数（定員）に留意等する必要がなく、全国から多数の参加者を得られたことから、イベントの趣旨・目的によっては、オンライン方式での開催が望ましい場合もある。
- そのため、新型コロナ感染症の情況等を鑑みつつ、企画意図や開催趣旨に応じてオンラインとリアル開催を使い分け、適切に、また柔軟に対応、選択することが求められている。
- オンライン・ワークショップについては、参加者側が傍聴姿勢に終始し、積極的な参加がみられなかったケースもあり、ワーキングを重視する場合はリアル開催で実施する、或いはオンライン上でのワーキングも、参加が促進される工夫・仕掛けが必要とされている。
- 尾鷲会合のように、地域側主体と連携・協力したイベントでは、地域側の負担が大きくなることもあり得るため、地域側がそのイベントに求めていることや目指そうとしている事項などを、EPO はしっかりと把握し、また把握できる関係を構築した上で共催・連携等する必要がある。
- オンライン開催となった森里川海生態系ネットワーク形成会合は、今年度は全国から多数

の参加が得られたOECMの一般概論をテーマに設定したが、今後はEPO中部として、中部エリアにおける森里川海のワイズユースによる地域づくりで、どのように OECM／自然共生サイトを活用展開等できるか、地域と一緒に考える場づくりが必要と考える。

（イ） 地域循環共生圏づくりへの支援について

①現状・課題の整理

- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業（PF 事業）では、採択団体と適宜打合せを行い、電話・メールでも連絡を取り合うなどして、団体及びその関係者の取組状況等について情報把握・情報交換を細やかに行ってきた。団体ごとに（或いは継続団体と新規採択団体等の熟度によっては）EPOに対する認識がそれぞれに異なり、EPOが接触する頻度や支援内容等に差異が生じていたことは否めない。
- 過年度採択団体への支援においては、おわせ SEA モデル協議会との連携・協力による企業・金融機関との説明交流会（地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業の尾鷲会合）を実施したが、そのほかの過年度採択団体では、PF 小布施（北信スマートテロワール）との接触があったのみとなっている。

②今後の展開

- 今後もPF事業の採択団体等とは細やかに連絡を取り合い、情報共有を行うことで、EPOが団体側の壁打ち相手となり、地域／団体の課題の見える化、情報・状況の整理等を行っていく必要がある。
- 現採択団体、過年度採択団体に関わらず、EPO 主催のイベント等で採択団体に登壇・取組発表等を行っていただく機会をつくることは、団体の活動ＰＲや新しい交流・関係の構築につながっており、PF事業業務以外のEPO主催行事においても、採択団体との連携、巻き込みを図っていくことが団体への支援につながるものと考えられる。

（ウ） 独自ツールの構築・活用について

①現状・課題の整理

- 今期構築中の「SDGs 指標物語」では、地域の活動と SDGs 指標の関わりについての研究を進めているが、可視化した地域のSDGs指標のESDへの活用方法、地域の活動内容に反映できる具体的な評価手法の構築が課題である。
- また、活動見える化プログラム拡張版を用いた指標設定とSDGs指標物語による関連性の位置づけを試行的に今年度は２事例で行ったが、その指標を活用した評価の実践までには至っていない。

②今後の展開

- 「SDGs 指標物語」については専門家の助言も得て改善するとともに、他の事例での実証を進めていくことが必要となる。
- また指標を設定した事例において、活動主体とも意見交換しつつ評価の在り方を検討していくことが求められる。

ウ ESD業務について

①現状・課題の整理

- ESD 推進ネットワーク地域フォーラムでは、初の試みとして地域 ESD 拠点の交流の場を設

定し、情報共有と具体的な連携促進が見られた。

- 学生サミットでは招待を含め 7 大学 3 自治体が参加し、ブレイクアウトルームも用いたディスカッションなど、短時間ではあるが充実した交流議論を行った。ただしディスカッションの時間が足りなかったとの指摘もあった。
- ESD ダイアログの実施においては、中部地方の 4 つのジオパークの参加のもと、地元勝山市の取組発表を当事者の子どもたちが行うなど、2 日にわたる交流を行い、連携を深めることができた。
- 学び合いプロジェクトでは気候変動教育を分野テーマとして取り上げ、理論的枠組みや地域づくり事例のオンラインセミナーとワークショップを用いた実践セミナーなど充実した内容となった。
- 学校セクター、市民セクター、ビジネスセクターなど多様な主体へのアプローチを進める中で、面的に効率的な支援につながる方策を検討する必要がある。特に教育現場の専門家へのヒアリングでは、学校現場では多忙のため教員自体の ESD の認識の広がりに大きな課題があるとされており、学校教育現場の ESD へのアプローチの動向も踏まえた、中間支援としてのありかたの検討が必要と考えられる。

②今後の展開

- ESD 推進ネットワーク地域フォーラムへの地域 ESD 拠点の参加を積極的に推進するとともに、新たな連携を創造・支援していく方策を検討する必要がある。
- 大学生の SDGs 取組の発表の場は貴重との評価もあり、継続して開催するニーズは高いと考えられるが、より深い議論ができる場が設定できるような工夫が必要と考えられる。
- 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークで開催した ESD ダイアログは、昨年度の立山黒部ジオパークに引き続きジオパークをフィールドとしたが、これらを含めた自然資産全体を念頭に置いたネットワーク形成が今後重要と考えられる。
- 「SDGs 社会教育研究ワーキング」で議論を進めている ESD の社会実装を「現場から学ぶ！SDGs 人材育成ワークブック」にまとめるにあたり、気候変動教育など具体的な実践事例も踏まえ、多様な関係者が理解しやすい内容に構築することが重要と考えている。
- 多忙な教員の ESD の認識の拡大のための方策として、教育委員会の委員へのアプローチが考えられる。各自治体レベルで教育委員会事務局だけではなく、教育長や委員に対する今日的な ESD の重要性についてのセミナーを小規模なものから開催することも一つの案として考えられる。

エ イベント参加者アンケート結果より

- EPO 業務、ESD 業務の全てのイベントにおいて参加者アンケートを実施している。
- 特にオンライン参加者のアンケート回答協力数が少ないことから、集計結果を参考値として整理した。
- 回答を得られた参加者アンケートの集計結果をみると、全体的にどのイベントに対する評価も高く、役立つ情報・事例があったか否かの設問でも「あった」の回答が比較的多い。

		●今回の催事はいかがでしたか（5段階評価）					
		5／5段階	4／5段階	3／5段階	2／5段階	1／5段階	無回答
EPO業務	221123諏訪フォーラム(n=17)	12	5	0	0	0	0
	221215地域循環共生圏セミナー(n=7)	3	3	1	0	0	0
	230125OECMフォーラム(n=43)	22	14	4	2	1	0
ESD業務	220825学びあい①(n=23)	16	4	2	0	0	1
	220901学びあい②(n=16)	6	8	2	0	0	0
	221125実践セミナー(n=14)	6	7	1	0	0	0
	221126ESDダイアログ(n=22)	16	6	0	0	0	0
	230204SDGs学生サミット(n=1)	1	0	0	0	0	0
EPO業務・計(n=67)		37	22	5	2	1	0
ESD業務・計(n=76)		45	25	5	0	0	1
全体(n=143)		82	47	10	2	1	1

		●今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか			
		あった	なかった	どちらともいえない	無回答
EPO業務	221123諏訪フォーラム(n=17)	14	0	3	0
	221215地域循環共生圏セミナー(n=7)	6	0	1	0
	230125OECMフォーラム(n=43)	35	2	6	0
ESD業務	220825学びあい①(n=23)	21	0	2	0
	220901学びあい②(n=16)	14	1	1	0
	221125実践セミナー(n=14)	11	0	3	0
	221126ESDダイアログ(n=22)	19	0	2	1
	230204SDGs学生サミット(n=1)	1	0	0	0
EPO業務・計(n=67)		55	2	10	0
ESD業務・計(n=76)		66	1	8	1
全体(n=143)		121	3	18	1

【具体的に役立つ情報・事例の内容とは】 ※原文のまま掲載。

221123諏訪フォーラム	「縮む」という考え方
	・つながること　・目に見えた価値のこと
	・森里海の大きなスケールの考え方　・沖永良部島の具体的な事例
	・田中先生の「森・里・海」　・石田先生の取組み
	環境に関心をもつ人がこんない多いのにおどろいた
	環境の大切さが良く理解できた
	縮減への取り組み
	森から海にの流れが私たちの暮らしに参考になった、これからの森づくり、水の流れを考えて自分の生活のあり方を考える良い情報になった。

	諏訪湖の氷の話しが、わかりやすく感じた。
	石田先生のこれから必要なのは「縮減」縮む豊かさというフレーズ
	地域の合併について沢山の人が考えていることがわかった
	田中先生の「水」や地球に対する熱量、石田先生の”減縮”という考え方は色んな取組の源になるのではないかなと思いました
	徳田氏、地域内別荘地での取組
221215 地域循環共生圏セミナー	SDGsとの関係性文章化シート
	SDGsは目標と考えていいたが、ツールであるという考え方はとても参考になった、パートナーシップで達成するためのツールという視点を広げていけるとよいと思いました。
	佐藤先生の変える⇔変わるの連動性はその通りだと思いました。個人変容と社会変容、協働するために行動する人を地域で作っていくというのは、SDGsまちづくりに大切なことだと再認識しました。社会課題解決中MAP、熟読します！ また、原先生の見える化は現在行っているSDGsまちづくりのアクションで活用させていただきたいと思います。このようなツールはとても分かりやすく、理解しやすいと思います。名古屋大学の農学部の山崎先生も建築に関して近しいものを作っていらっしゃったので、コラボするともっと面白くなるのではないかと感じました。
230125 OECMフォーラム	1，企業による生物多様性保全 30by30をみんなで進めていくための　有志連合 2，「世界目標と企業の生物多様性保全」渡辺綱男氏 3，「希少生物が生息・生育するシャトー・メルシャンの椀子<まりこ>ヴィンヤード（長野県上田市）」
	30by30の進捗と今後の展望
	OECM，自然共生サイトなど、企業が参加できる取組について、とても参考になりました。事例として発表いただいた3社の事例とても参考になり、今後の改善に向けたご意見なども心強く感じました。
	OECMが何かという理解が深まった
	OECMと自然共生サイトについて
	OECMの意義は元より、企業の具体的な取組や現状の課題が明確になった。
	OECMの申請にあたっての考え方。申請にあたっての地権者への承諾。社内への認知活動の重要さ。
	OECMの認定基準に関する最新情報
	ソニーの新入社員研修などの事例
	各登壇者様の発表はいずれもこれからどのように取り組むかを具体化する上で参考になりました。（こうかんがえればいい、こうすればいい　など）特にソニー様の課題と期待の部分は当方での取り組みにも通じ、参考になりました。
	環境省の具体的な取り組み状況および企業の活動事例
	環境省の小林様のOECM説明、キリン小此木様、ノトハハソ大野様の事例　大変参考になりました
	環境省側の考え方と、各企業の具体的な事例とのズレが面白く、参考になりました。
	企業が積極的に多様性のほごに取り組んでいること
	企業のOECMに対する考え方が参考になりました。
	企業の参加目的など考え方、具体的な取り組み、実際に取り組まれての課題
	企業の取り組み
	企業の取組が、はじめから生物多用性保全のための活動を始めたのではなく、後から分かったということが多いことが興味深かった。
	企業者側の取組意図が理解できました。
	基準など現段階までの最新情報を知ることができた
	昆明・モントリオール枠組の目標やキリンHDなどの事例
	自然共生サイト
	自然共生サイトに関する情報
	自然共生サイトの説明
	自然共生サイトの目指す姿などのトークセッション
	自然共生サイト認定に取り組む企業の、自然共生サイトに対する考え方、とらえ方を知ることができた。
	自然共生と資源循環型の地域づくりとして、奥山から里地・里山・里川のエリアの保全・利活用にかかわる活動そのものが、OECMや自然共生サイトとして結び付けられる可能性をお聞きできました。
	実際に申請を行った企業様の声が大変参考になった。
	大野さん、キリンさん
	第1歩は、OECM及び30by30目標についてしっかりと学習する必要があると感じた。
	能登での取組はモデルとして勉強になりましたし、ソニー様・キリン様の取組も先進的で勉強になりました。
220825 学び合い①	（木原講師）心理学的な視点からの5Sについては、今後の参考になります。
	「卒炭素」の考え方
	「脱炭素化」はしぶしぶ努力して達成できる目標ではない⇒「大転換」が必要
	オーストリアの活動・事例、市民参加のまちづくり（コンサルではなく）
	たくさんのキーワード（言葉）をいただきました。これからの活動に反映させていきたいと思います。
	気候危機とコロナ危機に共通する背景

	気候変動でなく、すでに気候危機の段階に来ていることを 積極的に発信するべきであることに賛同します。
	気候変動について伝えて、社会を変えていく仕事がしたいと思っているので、そのための再生可能エネルギーの活用に関する物理的な方法や成功例を利用する心理的な方法を知れてよかったです。
	江守先生の「大転換」の考え、過去の事例紹介が役に立った
	江守先生の大転換、木原先生の認知的不協和と社会変革という言葉が、とても印象に残りました。
	豪雨災害による、日本の被害額の大きさを知り、地球温暖化が、日本でも大きな影響をもたらし、格差によって地球温暖化の影響を受ける度合いにも違いがみられる点。
	質問への回答で「分からない」というのは、避けること。
	常識（当たり前）を変えていく本気のムーブメントを起こす
	心理的気候パラドックスなど新しい視点が参考になりました。
	卒炭素という地球温暖化に対する明るい考え方。
	大改革や自治体での成功事例が、自分の地域でも話題にしたらもっとコミュニケーション強化につながり、脱炭素に向けて進むのではないかと思いました。そんな話も子供たちにできるといいと感じました。
	脱炭素により、さらに豊かさが生まれるという共通認識が重要ということを学びました。
	脱炭素に対する市民の意識改革（無理やり的な我慢、努力は日本人のイメージ）
	脱炭素の考え方に無理を感じていた思考の転換。オーストラリアの事例で環境問題と福祉の捉え方。江守先生の民衆運動と3.5%もしくは数%の運動が転機になる事。卒煙はタバコ世代真っ只中を見た私には思わず強烈に納得です。
	町の事例
220901 学び合い②	「世界気候エネルギー首長誓約」の自治体が増加していること。欧州の各自治体がカーボンニュートラルに向け、地域の自然状況を生かした取り組みを具体的に行っていること。を学びました。日本でももっと首長誓約自治体が増加して大胆な社会変革が起きるよう必要な時期にきていることも学びました。
	ドイツのカーシェアリングの事例
	バイオエネルギーについて、お話が聞けたこと。
	プロシューマー ／ 緩和と適応
	まちづくりに関する住民を巻き込んだワークショップ事例
	まちづくり手法が参考になりました。
	気候変動に立ち向かいさまざまな取組を行なっている国内外での持続可能なまちづくり
	気候変動社会教育に取り組み姿勢が大事であると痛感した
	住民参加の取組み方に多くの情報と事例が参考になりました。
	杉山先生のお話の中で、具体的な事例が多くあったので参考に出来るものがあると思います
	杉山先生のグローバルな事例などに興味を持てた。
	杉山先生の欧州の事例
	世界の各都市や福井県の市町村の取り組みを知れたこと。
	大関地区まちづくりワークショップなど
221125 実践セミナー	ESDを学校で取り組むアイデアを見つけることができました。
	グループに分かれてワークショップをすること 自分ごととして考えること 一人では想像できない要因が人と話すことでつながり合えること
	ヒントやカードをもとに問題へのアプローチを考える活動
	ミステリーは、気候変動に引き起こっている現象や必要な適応策について考えるいいプログラムだと感じた
	ワークショップ資料は参考になります。
	環境を考える方法、意見交流の方法
	気候変動に関すること
	小学校でも使えそうなメニューがあり、とても参考になった。
	地域の課題と未来のビジョン
221126 ESDダイアログ	SDGsについて理解を深める事が出来
	ジオと学びの接続のイメージを得られた
	各地の情報を端的にご発表いただき地域を知ることができました。ジオパークの実例報告で自然資源を学習資源として活用されていることです。
	行政の中で活躍されている専門家の存在がいかに重要か再認識しました。専門性に基づいたESD・SDGs教育へのアプローチがとても参考になった。
	今までジオサイトの案内のみで終わっていたが活動にESD・SDGsを導入かかわるべきを知って、ジオをもっと活用していきたい。ジオの紹介も工夫して変わってきていると感じました。
	今後の展開するにあたり、地域力を高め、教育だけでなく、その成果を持続可能なまちづくりに繋げていく事例
	子どもの発表はどれ位練習をして時間をどれくらいかけたのか気にするほど2つの学校ともすばらしい発表でした。小学校だけではなく、中・高と深く追求していける教育活動をつなげていってほしいです。
	持続可能のためには子どもたちへの活動参加は必須だと改めて思った。活動を広げていく交流やネットワークの利用。

	自然災害を利用した環境教育。
	自然素材・自然遺産を教材化していくといくこと。コーディネート機能・ネットワークの大切さ。
	勝山におけるジオパーク学習の実践例、今年ならではの取り組み。2校の取り組み発表。
	地域と学校のつながりについて。コーディネーターのやくわりの重要性について。地域資源の活用方法。
	地域にあった方法で学校と地域をつなげる横構造で学び合いながら進めていくこと。
	地域活動を行っている方々とともに取組みを深めたい
	発表の方法や音声の大切さ。小学生の取り組み方。
	平泉寺小、村岡小の学習実践。
	平泉小学校の事例発表
230204 学生サミット	頑張っている学生の姿

- 今後の活動への積極性が喚起されたか否かの設問でも、ほとんどが肯定的な回答となっている。

		●SDGs・ESD等に今後も積極的に取り組む必要があると感じさせる内容でしたか				
		もっと協働に積極的に取り組んでいきたいと感じられる内容だった	これまでの取組方を続けていけば充分だと思える内容だった	協働に取り組む必要性・重要性をあまり感じられない内容だった	よくわからない	無回答
EPO業務	221123諏訪フォーラム(n=17)	10	5	0	2	0
	221215地域循環共生圏セミナー(n=7)	7	0	0	0	0
	230125OECMフォーラム(n=43)	30	6	1	6	0
ESD業務	220825学びあい①(n=23)	20	3	0	0	0
	220901学びあい②(n=16)	14	1	0	1	0
	221125実践セミナー(n=14)	9	4	0	0	1
	221126ESDダイアログ(n=22)	18	3	0	1	0
	230204SDGs学生サミット(n=1)	1	0	0	0	0
EPO業務・計(n=67)		47	11	1	8	0
ESD業務・計(n=76)		62	11	0	2	1
全体(n=143)		109	22	1	10	1

【今後参加してみたいイベント】 ※原文のまま掲載。

221123 諏訪フォーラム	カーボンニュートラル
	環境について
	具体的な脱炭素の実例
	諏訪湖の再生をテーマにしてほしい
	生物多様性について
	脱炭素の新社会
221215 地域循環共生圏セミナー	SDGsのワーキング
	SDGsの活動での失敗事例を聞きたいです。 SDGsウォッシュは叩かれがちですが、一生懸命取り組んだけれど勉強不足でUnSDになったという事例のほうが多いと思うので(そう思いたい)、失敗から学ぶことは多い気がします。
	見える化のグラフ等は、SDGs未来都市の自治体を対象にアンケートをもとに評価してアンケートに参加した自治体に返信するなどでアクションを起こせば、さらに取組が活性化すると思います。大変な作業だとは思いますが、メールでのやり取りで可能だと思いました。
	同様な内容で良いので、今後これから取組む人のためにも繰返しの実施をお願いいたします。
230125 OECMフォーラム	(1)COP15で採択されたT6 外来種の目標について、世界レベル、国レベル、地域レベルごとに、今後の方向性をお聞かせください。また各国ごとや界と国との温度差などにも触れてもらえると幸いです。 (2)企業側からは、TNFDへの対応方法、TCFDとの絡め方あたりが一番気になるところではないでしょうか。
	・生物多様性と獣害問題との関り
	OECM、自然共生サイト活動に向けた企業実例

	TNFD
	TNFDに関して
	TNFDに関連したセミナー
	ネイチャー・ポジティブ
	国内、国債の事例紹介
	自然共生エリアとして価値あるものづくり、ことづくりにするために、支援いただけるネットワークからの協力が図れるような連携づくりのプログラム
	自然共生サイト間が協働することでエリア全体の生物多様性保全・活用の質・量を高める方法を考えるワークショップ
	自然共生サイト全体の取組意図について
	生物多様性とビジネス
	生物多様性を実現するための協働について
	専門家によるセミナーやOECM申請の簡素化の動き　世界へ発信するOECMの具体的な仕組みのイメージなど
	認知活動のとして社内教育のやり方を参考に教えてほしい。特にCNと環境保全の繋がり。
	様々な事例、都市部の事例、公園管理地の事例、自治体所有の土地を活用した取り組み等の事例が知りたい。インセンティブについても、今後知りたい。
220825 学び合い①	SDGsを子どもたち（小学生）に理解してもらえるように伝える方法。
	温室効果ガス排出量削減に向けた緩和策の取り組み
	家庭での廃棄物や食ロス対策など
	気候危機やIPCC6次報告書の日本語版解説
	今回は自分のモチベーションとは少し違うかなと思いつつ、zoomでの学びやすさで申し込みさせていただきました。想像以上の成果を得ました。このような体験をすると興味のあるテーマより講演者の考え方やモチベーションが日本の課題に具体的にアプローチする人の講演をお聴きしてみたいです。 ・日本の持続可能な納税と学校教育、家庭教育について ・社会保障と納税と住民の関係性 ・社会貢献と高齢者の協同労働と地域課題解決
	次回のSGDsとの関係、楽しみにしています。
	心理学と気候変動の関わりが面白かったです。この内容をもう少し深めたいと思いました。
	世界の環境への政策や、日本との意識の違い、心理的な要素など、とても興味深いと感じたので、詳しく知りたいと思いました。
	脱プラスチックについて アパレル産業の環境汚染について 経済と環境問題についてより詳しく
	木原先生の市民目線の話しをもう少し聞きたいと思いました。
220901 学び合い②	コロナ禍で対面のセミナー参加が厳しいのでネットでの参加を希望します。
	ゼロカーボンアクション30
	やはり、心理学とエコ活動について、気になります。前回のズームから、NDLリサーチで書籍を検索してみたのですか、なかなか見つけられませんでした。
	地域脱炭素ロードマップ
221125 実践セミナー	また地域の課題と未来のビジョンを具体的に考えるセミナーに参加したい。
	基本的な問題への対処方法を学んで広めていける内容を期待しております。
	様々なSDGsに関連する講習会
221126 ESDダイアログ	観光についてはどのように利用できるか、大人への学習についての具体例など、社会教育の視点でどうなのか
	気候変動に関係するもの
	考えがつかないおまかせします。
	日常活動の事例発表。
230204 学生サミット	活動している学生に起こったトランスフォーム

【末尾・自由記入欄の感想など】 ※原文のまま掲載。

221123 諏訪フォーラム	①資料配布は事前にメールでいただきたい（ペーパーレスの時代です）カラーでみたいです！！②取組に対してせっかく説明して頂いたのに質問が出来なかった③パネルディスカッションをして欲しかった
	6市町村の壁をこえた情報の発信が必要に思えた
	このような機会が、さらに盛んになればよいと、思います。
	それぞれの取組に対する皆さんの熱量を感じられてよかったです。本日はありがとうございました。
	たいへん参考になりました。EPOの取組についても理解が深まりました。
	実際まずはどこから取り組むべきか、具体的にもっと知りたいと思いました！楽しかったです、充実した時間でした。

	住民一人ひとりの意識を高めることが脱炭素社会には重要だと思いますので、専門的な話ではなくわかりやすい内容で一般の方に出ていただけるとよいと思います。
	著名な方の公演も素晴らしかったのですが、特に地域の活動紹介は環境問題をとても身近に感じることが出来、参加してよかったと思いました。
221215 地域循環共生圏セミナー	資料もわかりやすく、楽しかったです。ご登壇された先生方、ありがとうございました。
	自分がこれから学ぼうとしているので、勉強になりました。
	大変有意義な内容でした。
	予想に反して参加者が少なかったです。傍観しようと気楽に参加してしまい、準備が悪くてすみませんでした。
230125 OECMフォーラム	【長期目標】自然と共生する世界に向け全体の活動内容がよくわかりました。
	OECMの枠組みとしての優れた点や企業の方々からの環境への取り組みに対するインセンティブ等、勉強になりました。
	SDGsやカーボンゼロのように社会認知度を上げるには、ネーミングは大事ではないでしょうか？ 「生物多様性」というフレーズは既に認知度はあるので、これを前面に出したネーミングの方が認知拡大や各企業の取組の説明のしやすさにつながるのかなと思いました。 「自然共生」では何をやっているのか曖昧で具体的な中身が伝わりづらいけれど、「生物多様性サイト」みたいなものであれば生物保全をやっていることが一言で説明がつくと思います。
	アライアンス参加企業は問い合わせれば申請書類フォーマットを入手できるというのはありがたい。ノセハハソ様のお話にあった、生業をつづけることが生物多様性保全につながる、そういう社会が実現できればよいなと改めて感じた。
	ありがとうございました
	ありがとうございました。
	企業側の立場で考えた場合、企業活動面でのより明確なインセンティブが働かないと生態系サービスを直接的に利用している企業体での主体的活動の広がりは難しいのではと感じた。オールジャパンで取り組むべきテーマと感じたので是非環境省様でそのような仕組みづくりを行って、よりすそ野を広げる取り組みにしてほしい。
	貴重なご講演をありがとうございました。世界情勢など端的に説明いただき分かりやすかったです。 今回T6については、深堀されませんでしたが、仮に、あるエリアにおいて、外来種駆除を完全実施することができたとすれば、そういったエリアは今後、公式に評価されていくのでしょうか(OECMの認定みたいに・・・解釈が違ったらすみません)
	共生サイトへの登録に際し、大ルリシジミなど希少種とその場所を掲載することは、捕獲盗掘等を誘発する懸念がありますが、登録に際してもこのあたりの配慮はどのようなものがあるのでしょうか。
	現在の活動の背中を押してくれる内容でした。ただ、マンパワーが厳しい中、申請時の事務量より、日々の管理や5年後の点検など具体的な業務ボリュームが気になりました。何事もはじめることは大切ですが、続けるのも大切であり、大変かと思います。実際の現場を管理いただく方の継続の負荷を懸念しています。
	講師の先生の話はどなたのお話しも大変勉強になりました。ありがとうございます。
	今回の取り組みに対して国としての本気度が薄かったのが残念だった
	今日は、他の用件と重なり、最後の記念撮影しか参加できませんでした。とても残念です。ビデオの見逃し配信を希望します。URLをお送り下さい。
	最初の導入の小林さん、渡辺さんの説明がわかりやすく、円滑にパネリストの皆さんの主旨を理解する上で、役立ちました。資料を基に、ポイントを復習し学びたいと思います。
	他社の事例を聞けるのは非常に貴重な機会になりました
	大変参考になりました。ありがとうございました。
	地方環境事務所単位で積極的に自然共生サイトを広げようとするアクションを起こしていることは素晴らしいと感じました。中部に限らず、他の地方環境事務所でも同じようにアクションを起こしてほしいです。また30by30アライアンスの地方単位の組織が出来ることで、各自然共生サイトの管理・経営を担う人々が相互に助け合うだけでなく、生物多様性に貢献するスモールビジネスを展開出来るような小さな市場が形成されれば、さらに自然共生サイトの価値が高まるのではないかと感じました。
	日々の活動(働く)が、経済的なものに直に繋がる中小企業においては、それなりにこの課題を解釈し実施に移す必要はあると思われるが、本日の発表者のお話に有ったように大変難しい活動目的であると感じた。
	非常に参考になりました。是非申請して欲しいと思う地域が多数ありますので、推進して参りたいと思いますが、申請のための分かりやすい情報ソースなどが欲しいところです。
	勉強になりました。有難う御座いました。
	有意義であった。
	有意義な時間になりました。
220825 学び合い①	とても分かりやすく、ためになるお話が多く、あっという間の時間でした。江守先生や木原先生のそれぞれの立場でのお話が興味深く聞けました。ありがとうございました。
	環境についてあまり知識がありませんでしたが、日本では脱炭素ということに対してマイナスイメージの方が大きいということに納得するとともに世界との違いに衝撃を受けました。確かに自分自身でも、生活を我慢するというイメージであったので、脱炭素化した方が良い世界ということを考えるだけでも、環境問題に対する意識が変わると思いました。本日は、貴重なお話をありがとうございました。
	気候変動や地球温暖化について新しい見解を得ることができ、すごく興味深かった。専門家の方の話を聞く機会を無料で得れることは非常にありがたいと思った。

	現在の状況を再認識しました
	講師・スタッフの方々大変お世話になりました。ありがとうございました。
	今回の講演を通して気候変動対策に向けた考え方が大きくかわりました！
	社会が変わることが本当にあるのだろうかという悲観的な思いがどこかにありました。でも、先生方が希望があると言われたので、改めて啓発活動を頑張っていこうと思えました。ありがとうございました。
	心理面での、影響について、今正に自分が陥っている、エコの矛盾点が重なり、本当にそのとおりだなと思いました。社会変革…自分もそのあたりまで見えつつあるのですが、その先にある未来が、なかなか、現実的に見えません。昨年息子が4年で温暖化とゴミについて学びました。子ども達に聞かれても、そこを背負わせるのではなく、諦めないで模索する姿を子ども達に見せたいと思っています。また、ヒントをいただけたらと思います。今日はありがとうございました。
	素晴らしい内容でした。携帯で受けたヤフーメールは文字化けしていたのでauアドレス記入させて頂きました。
	大変有意義でした。ありがとうございました。
	日本は昭和46年水質環境基準を定めて施策として下水道を進め、ようやく50年で水質環境が守られきた。温室効果ガス排出量削減についても施策として進めなければならない時代に入っていると思います。
	本当にたくさんのキーワードをいただきました。再確認、なるほど、と感じたことが多かったです。両先生方ありがとうございました。
220901 学び合い②	ありがとうございました。
	一個人とすると、地域にかかわって、ワークショップなようなものに参加したことがなく、また、自治体でもそのような機会もなく、町長や環境課、地域課の人に聞いてほしい内容である。もったいない。
	我が国は2050年ゼロカーボンを目指すことから具体的な脱炭素社会の構築を行う必要時期が来ていると思います。水質汚濁については、昭和46年より水質環境基準が設けられたことにより下水道整備が本格的に事業推進され、約50年かけて環境基準の達成が図られました。このことから、2050年カーボンニュートラルにおいても水質環境基準と同様な温暖化効果ガス環境基準を設けて国策として取り組むことが必要な時代が来ているのではないかと考えています。
	今回は科学的な見方より、身近な取り組みを学べて両方を学べる本セミナーはよく構築されていると思った。
	質問に丁寧にお答えくださりありがとうございました。杉山先生のハード面とソフト面のご解答、同じ考えです。自分はただの一市民です。息子が、外でサッカーをしています。楽しみで、日常です。いつまでも外で元気に走り回ってほしい、ガンなどのリスクなんてとんでもないと思います。自分のできる限りのエコをやり、周りにも勧めますが、エコの取り組みは大変です。日々の負担に心が折れそうになりますが、、目の前には、元気に外に出ていく息子がいます。エコには、矛盾も多く、やはり、制度やシステムの大きな後押しが必要と痛感しております。子ども達に胸をはって教えるためにも、もっと学びたいと思っています。またよろしくおねがいします。
	杉山先生の資料などを読み返し、さらに自分の知識を増やしたい。
	前回と2回参加させていただきました。講師・スタッフの方々大変お世話になりました。ありがとうございました。
	地域住民を巻き込んで脱炭素社会を構築していくポイントはその地域特色に応じてできることから取組むことである。
	目線（事例）が外国に向いていたので、自分事としてとらえるのがすこし難しく感じました。
221125 実践セミナー	グループで取り組む楽しさを実感することができました。一人よりも複数で考えることで、一人では考えられない結果に結びついていくので、とても良かったです。
	異業種の方との意見交換ができて、新鮮だった
	今回は職場の都合で参加できなかったが、ぜひ、参加したいと思った。
	別の職場の方と協力して課題解決に向かうのは楽しかった。みんなで一緒に地域を作っていくことの大切さを実感した。
	本日は講師・スタッフの方々大変お世話になりました。ありがとうございました。
221126 ESDダイアログ	ジオ・エコを考えるきっかけになりました
	ジオパーク全国大会に参加できなかったので今日参加させてもらって良かった。他の地域の方の活動取組意見等を知る事が出来た事。大変参考になります。
	パネルディスカッションのとらえ方はなかなかむずかしいですね。自然から教育へのつながりは分かりますが、きっかけ・・。
	よい企画なのに出席者が少なかった。勝山市民にジオをもっと理解する政策していかないと下火になってしまう。
	学習指導をする際、どんなSDGsの観点から授業を構成するとよいかを考えるきっかけができた。
	今後の活動に大変参考になりました。
	子供たちの発表がすばらしかった。総合の事業でじっくりと取り組めている成果だなと感じた。体験活動の充実と広がりが発達段階にそって育くんでいけるとよい。
	子供達の発表に感動しました。
	勝山市がESDの拠点として更に教育活動を充実し、発信されることを期待しています。
	小学校の児童の発表がとても元気よく、自分たちの活動にほこりを持ってされている様子がよかったです。
	小学生のESD活動の継続がとてもすばらしいと思った。
230204 学生サミット	また視聴します。

《参考》回答者の属性の集計結果

		●年齢							
		10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明
EPO業務	221123諏訪フォーラム(n=17)	0	0	4	2	4	3	4	0
	221215地域循環共生圏セミナー(n=7)	0	1	1	1	1	2	1	0
	230125OECMフォーラム(n=43)	0	1	7	7	19	5	4	0
ESD業務	220825学びあい①(n=23)	2	2	0	3	3	5	8	0
	220901学びあい②(n=16)	1	0	0	2	2	4	6	1
	221125実践セミナー(n=14)	0	0	1	6	5	1	1	0
	221126ESDダイアログ(n=22)	0	0	1	3	4	7	7	0
	230204SDGs学生サミット(n=1)	0	0	0	0	0	1	0	0
EPO業務・計(n=67)		0	2	12	10	24	10	9	0
ESD業務・計(n=76)		3	2	2	14	14	18	22	1
全体(n=143)		3	4	14	24	38	28	31	1

		●所属先						
		NPO・NGO・任意団体	企業・事業者	行政機関	学校・教育関係	学生	その他	不明
EPO業務	221123諏訪フォーラム(n=17)	2	7	5	0	0	3	0
	221215地域循環共生圏セミナー(n=7)	2	2	2	0	1	0	0
	230125OECMフォーラム(n=43)	3	22	7	3	1	7	0
ESD業務	220825学びあい①(n=23)	7	3	3	0	3	7	0
	220901学びあい②(n=16)	6	1	2	1	1	5	0
	221125実践セミナー(n=14)	0	1	7	6	0	0	0
	221126ESDダイアログ(n=22)	3	0	5	3	0	10	1
	230204SDGs学生サミット(n=1)	1	0	0	0	0	0	0
EPO業務・計(n=67)		7	31	14	3	2	10	0
ESD業務・計(n=76)		17	5	17	10	4	22	1
全体(n=143)		24	36	31	13	6	32	1

		●活動分野のSDGs								
		1. 貧困をなくそう	2. 飢餓をゼロに	3. すべての人に健康と福祉を	4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	6. 安全な水とトイレを世界中に	7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基礎をつくろう
EPO業務	221123諏訪フォーラム(n=17)	2	1	3	4	2	3	12	5	3
	221215地域循環共生圏セミナー(n=7)	2	3	4	5	4	3	4	3	6
	230125OECMフォーラム(n=43)	4	5	10	18	8	12	21	10	8
ESD業務	220825学びあい①(n=23)	4	4	4	5	3	4	13	3	4
	220901学びあい②(n=16)	2	2	4	7	1	5	10	3	4
	221125実践セミナー(n=14)	1	2	6	7	5	2	5	4	2
	221126ESDダイアログ(n=22)	3	2	7	9	2	3	2	3	2
	230204SDGs学生サミット(n=1)	0	0	0	1	0	0	0	0	0
EPO業務・計(n=67)		8	9	17	27	14	18	37	18	17
ESD業務・計(n=76)		10	10	21	29	11	14	30	13	12
全体(n=143)		18	19	38	56	25	32	67	31	29

		10. 人や国の不平等をなくそう	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任、つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさも守ろう	16. 平和を公正をすべての人に	17. パートナーシップで目標を達成しよう	無回答
EPO業務	221123諏訪フォーラム(n=17)	1	12	8	8	6	8	2	6	1
	221215地域循環共生圏セミナー(n=7)	3	6	6	4	3	4	3	5	1
	230125OECMフォーラム(n=43)	7	19	19	32	24	33	5	20	5
ESD業務	220825学びあい①(n=23)	4	11	9	15	8	8	4	11	3
	220901学びあい②(n=16)	2	11	7	13	6	8	3	9	0
	221125実践セミナー(n=14)	5	9	3	6	1	2	4	6	0
	221126ESDダイアログ(n=22)	4	10	6	4	4	9	4	6	7
	230204SDGs学生サミット(n=1)	0	0	0	0	0	0	0	1	0
EPO業務・計(n=67)		11	37	33	44	33	45	10	31	7
ESD業務・計(n=76)		15	41	25	38	19	27	15	33	10
全体(n=143)		26	78	58	82	52	72	25	64	17

令和４（2022）年度

中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年間報告書

2023 年３月

発行：環境省中部地方環境事務所

〒460-0001 名古屋市中区三の丸 2-5-2
TEL：052-955-2134／FAX：052-951-8889
URL：http://chubu.env.go.jp

作成：中部環境パートナーシップオフィス
（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）

〒460-0003 名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル４階
TEL：052-218-8605／FAX：052-218-8606
URL：http://www.epo-chubu.jp

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料［Ａランク］のみを用いて作製しています。